―― 目　　次 ――

（２月２５日）

告　　示 …… 1
応 招 議 員 …… 1
議 事 日 程 …… 4
本日の会議に付した事件 …… 4
出 席 議 員 …… 5
欠 席 議 員 …… 5
議会事務局職員出席者 …… 5
説明のために出席した者 …… 5
開会、開議宣告 …… 6
　会議録署名議員の指名 …… 6
　会期の決定 …… 6
　議長の諸般報告 …… 7
　市長の行政報告 …… 7
　産業建設常任委員会の閉会中の所管事務調査報告 …… 9
　長崎県病院企業団議会議員の報告 …… １０
　長崎県後期高齢者医療広域連合議会議員の報告 …… １２
　議案第３号 …… １４
　議案第４号 …… ２３
　議案第５号 …… ２３
　市長の施政方針説明 …… ２６
　議案第６号 …… ３１
散 会 …… ３５

（２月２６日）

議 事 日 程 …… ３７
本日の会議に付した事件 …… ３８
出 席 議 員 …… ３９
欠 席 議 員 …… ３９
議会事務局職員出席者 …… ３９

説明のために出席した者 …… ４０
開議宣告 …… ４０
議案第７号 …… ４０
議案第８号 …… ４０
議案第９号 …… ４１
議案第１０号 …… ４１
議案第１１号 …… ４６
議案第１２号 …… ４８
議案第１３号 …… ４８
議案第１４号 …… ５０
議案第１５号 …… ５０
議案第１６号 …… ５０
議案第１７号 …… ５０
議案第１８号 …… ５０
議案第１９号 …… ５０
議案第２０号 …… ５０
議案第２１号 …… ５０
議案第２２号 …… ５０
議案第２３号 …… ５０
議案第２４号 …… ５０
議案第２５号 …… ５９
議案第２６号 …… ６２
議案第２７号 …… ６３
議案第２８号 …… ６３
議案第２９号 …… ６３
議案第３０号 …… ６５
議案第３１号 …… ７９
諮問第１号 …… ８１
散　会 …… ８２

（３月１０日）

議　事　日　程 …… ８３

本日の会議に付した事件 …… ８３
出　席　議　員 …… ８３
欠　席　議　員 …… ８３
議会事務局職員出席者 …… ８３
説明のために出席した者 …… ８４
開議宣告 …… ８４
　会派代表質問 …… ８４
　　新政会　　４番　春田　新一君 …… ８５
　　新政会　　１４番　初村　久藏君 …… ９８
　市政一般質問 …… １０１
　　１番　坂本　充弘君 …… １０１
　　２番　伊原　　徹君 …… １１１
　　５番　小島　徳重君 …… １２０
散　会 …… １３３

（３月１１日）

議　事　日　程 …… １３５
本日の会議に付した事件 …… １３５
出　席　議　員 …… １３５
欠　席　議　員 …… １３５
議会事務局職員出席者 …… １３５
説明のために出席した者 …… １３５
開議宣告 …… １３６
　市政一般質問 …… １３７
　　１２番　小宮　教義君 …… １３７
　　１７番　作元　義文君 …… １４７
　　３番　長郷　泰二君 …… １５８
　　１５番　大浦　孝司君 …… １７１
散　会 …… １８０

（３月１６日）

議　事　日　程 …… １８１

本日の会議に付した事件 …… １８１
出　席　議　員 …… １８２
欠　席　議　員 …… １８２
議会事務局職員出席者 …… １８２
説明のために出席した者 …… １８２
開議宣告 …… １８３
　議案第６号 …… １８３
　議案第３号 …… １８５
　議案第７号 …… １８５
　議案第８号 …… １８５
　議案第９号 …… １８５
　議案第１０号 …… １８５
　議案第１１号 …… １８５
　議案第１２号 …… １８５
　議案第１３号 …… １８５
　議案第２５号 …… １８５
　議案第３０号 …… １８５
　議案第３１号 …… １８５
　議案第３２号 …… ２０１
　発委第１号 …… ２０５
閉　会 …… ２０８
署　名 …… ２０９

対馬市告示第14号

令和３年第１回対馬市議会定例会を次のとおり招集する

令和３年２月12日

対馬市長　比田勝尚喜

１　期　日　　令和３年２月25日（木）

２　場　所　　対馬市議会議場

○開会日に応招した議員

坂本　充弘君	伊原　　徹君
長郷　泰二君	春田　新一君
小島　徳重君	吉見　優子君
渕上　　清君	黒田　昭雄君
小田　昭人君	山本　輝昭君
波田　政和君	小宮　教義君
齋藤　久光君	初村　久藏君
大浦　孝司君	大部　初幸君
作元　義文君	上野洋次郎君
小川　廣康君	

○２月26日に応招した議員

坂本　充弘君	伊原　　徹君
長郷　泰二君	春田　新一君
小島　徳重君	吉見　優子君
渕上　　清君	黒田　昭雄君
小田　昭人君	山本　輝昭君
波田　政和君	小宮　教義君
齋藤　久光君	初村　久藏君
大浦　孝司君	大部　初幸君
作元　義文君	上野洋次郎君
小川　廣康君	

○３月10日に応招した議員

坂本　充弘君	伊原　　徹君
長郷　泰二君	春田　新一君
小島　徳重君	吉見　優子君
黒田　昭雄君	小田　昭人君
山本　輝昭君	波田　政和君
小宮　教義君	齋藤　久光君
初村　久藏君	大浦　孝司君
大部　初幸君	作元　義文君
上野洋次郎君	小川　廣康君

○３月11日に応招した議員

坂本　充弘君	伊原　　徹君
長郷　泰二君	春田　新一君
小島　徳重君	吉見　優子君
渕上　　清君	黒田　昭雄君
小田　昭人君	山本　輝昭君
波田　政和君	小宮　教義君
齋藤　久光君	初村　久藏君
大浦　孝司君	大部　初幸君
作元　義文君	上野洋次郎君
小川　廣康君	

○３月16日に応招した議員

坂本　充弘君	伊原　　徹君
長郷　泰二君	春田　新一君
小島　徳重君	吉見　優子君
渕上　　清君	黒田　昭雄君
小田　昭人君	山本　輝昭君
波田　政和君	小宮　教義君
齋藤　久光君	初村　久藏君
大浦　孝司君	大部　初幸君
作元　義文君	上野洋次郎君

小川　廣康君

○３月10日に応招しなかった議員

渕上　　清君

令和３年　第１回　対　馬　市　議　会　定　例　会　会　議　録（第１日）

令和３年２月25日（木曜日）

議事日程（第１号）

令和３年２月25日　午前10時00分開会

日程第１　会議録署名議員の指名

日程第２　会期の決定

日程第３　議長の諸般報告

日程第４　市長の行政報告

日程第５　産業建設常任委員会の閉会中の所管事務調査報告

日程第６　長崎県病院企業団議会議員の報告

日程第７　長崎県後期高齢者医療広域連合議会議員の報告

日程第８　議案第３号　令和２年度対馬市一般会計補正予算（第１５号）

日程第９　議案第４号　令和２年度対馬市診療所特別会計補正予算（第４号）

日程第10　議案第５号　令和２年度対馬市国民健康保険特別会計補正予算（第４号）

日程第11　市長の施政方針説明

日程第12　議案第６号　令和３年度対馬市一般会計予算

本日の会議に付した事件

日程第１　会議録署名議員の指名

日程第２　会期の決定

日程第３　議長の諸般報告

日程第４　市長の行政報告

日程第５　産業建設常任委員会の閉会中の所管事務調査報告

日程第６　長崎県病院企業団議会議員の報告

日程第７　長崎県後期高齢者医療広域連合議会議員の報告

日程第８　議案第３号　令和２年度対馬市一般会計補正予算（第１５号）

日程第９　議案第４号　令和２年度対馬市診療所特別会計補正予算（第４号）

日程第10　議案第５号　令和２年度対馬市国民健康保険特別会計補正予算（第４号）

日程第11　市長の施政方針説明

日程第12　議案第６号　令和３年度対馬市一般会計予算

出席議員（19名）

１番　坂本　充弘君	２番　伊原　　徹君
３番　長郷　泰二君	４番　春田　新一君
５番　小島　徳重君	６番　吉見　優子君
７番　渕上　　清君	８番　黒田　昭雄君
９番　小田　昭人君	10番　山本　輝昭君
11番　波田　政和君	12番　小宮　教義君
13番　齋藤　久光君	14番　初村　久藏君
15番　大浦　孝司君	16番　大部　初幸君
17番　作元　義文君	18番　上野洋次郎君
19番　小川　廣康君	

欠席議員（なし）

欠　　員（なし）

事務局出席職員職氏名

局長	阿比留伊勢男君	次長	國分　幸和君
課長補佐	梅野　浩二君	課長補佐	柚谷　智之君

説明のため出席した者の職氏名

市長	比田勝尚喜君
副市長	俵　　輝孝君
教育長	永留　和博君
総務部長	有江　正光君
総務課長（選挙管理委員会事務局書記長）	桐谷　和孝君
しまづくり推進部長	武末　祥人君
観光交流商工部長	二宮　照幸君
市民生活部長	乙成　一也君

福祉保険部長 …… 古里　正人君
健康づくり推進部長 …… 松井　惠夫君
農林水産部長 …… 佐々木雅仁君
建設部長 …… 伊賀　敏治君
水道局長 …… 立花　大功君
教育部長 …… 阿比留裕史君
中対馬振興部長 …… 波田　安徳君
上対馬振興部長 …… 森山　忠昭君
美津島行政サービスセンター所長 …… 瀧川　昌浩君
峰行政サービスセンター所長 …… 扇　　明宏君
上県行政サービスセンター所長 …… 原田　勝彦君
消防長 …… 主藤　庄司君
会計管理者 …… 阿比留　裕君
監査委員事務局長 …… 御手洗逸男君
農業委員会事務局長 …… 庄司　智文君

午前10時00分開会

○議長（小川　廣康君）　おはようございます。ただいまから令和３年第１回対馬市議会定例会を開会いたします。

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、議場の換気のため、出入口を開放して会議を運営することといたします。

定足数に達しておりますので、これから本日の会議を開きます。

―――――――――・―――・―――――――――

日程第１．会議録署名議員の指名

○議長（小川　廣康君）　日程第１、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、会議規則第８８条の規定によって、齋藤久光君及び初村久藏君を指名いたします。

―――――――――・―――・―――――――――

日程第２．会期の決定

○議長（小川　廣康君）　日程第２、会期の決定を議題とします。

お諮りします。本定例会の会期は、配付しております会期日程案のとおり、本日から３月１６日までの２０日とすることに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　異議なしと認めます。会期は、本日から３月１６日までの２０日間に決定をいたしました。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第３．議長の諸般報告

○議長（小川　廣康君）　日程第３、議長の諸般報告を行います。

令和２年第４回定例会終了後以降の議長の行動等は、配付しております庶務報告書のとおりであります。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第４．市長の行政報告

○議長（小川　廣康君）　日程第４、市長の行政報告を行います。

市長から行政報告の申出があっておりますので、これを許します。市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　おはようございます。本日、ここに、令和３年第１回対馬市議会定例会を招集いたしましたところ、議員の皆様には、御健勝にて御出席賜り、衷心より御礼申し上げます。

初めに、新型コロナウイルス感染症の収束に向けた「切り札」として期待されておりますワクチン接種についてでございます。

ワクチン接種は、国の指示の下、都道府県の協力により市町村において実施することとなっております。

本市では、希望する市民皆様に迅速かつ適切に接種ができるよう、２月１日付で、いきいき健康課に職員を増員し、関係機関との協議・調整など、鋭意準備を進めており、また、市民皆様からのお問合せ等に対応するコールセンターを開設しております。

国におきましては、医療従事者等への先行・優先接種が今月１７日から開始されておりますが、大量のワクチンは徐々に供給されることとなりますので、一定の接種順位を決めて行われます。

高齢者向け優先接種は、４月１日以降になる見込みであり、今後、市民の皆様へは広報つしま、地区回覧及びホームページ等でお知らせし、加えて、ワクチン接種券をお送りする際に詳しく御案内いたします。

それでは、１２月定例会以降、本日までの主な事項につきまして御報告を申し上げます。

初めに、しまづくり推進部関係でございます。

昨年９月の台風第９号及び第１０号は、本市に接近し、多大の被害をもたらしたところでございますが、復旧に向けた災害支援寄附金を募りましたところ、全国各地の方々から１７６件、３９９万５，０００円の御寄附を頂いております。

御寄附を頂いた方々に改めてお礼申し上げますとともに、頂いた寄附につきましては、台風災害における災害廃棄物処理経費などの一部に活用させていただきたいと思います。

次に、ＳＤＧｓ推進等に向けた企業との連携協定についてであります。

本市におけるまちづくりやＳＤＧｓの推進を図っていく上では、変遷する社会環境等に対応するため、企業における知見やノウハウ等の活用、連携が必要不可欠でございます。

このたび、企業３社との連携協定を締結いたしましたので、御報告いたします。

去る１月２５日に、九州電力株式会社福岡支店様と「持続可能なしまづくり（ＳＤＧｓ）に関する包括連携協定」を、今月１６日には、ＫＤＤＩ株式会社様との「ＳＤＧｓ推進に関する包括連携協定」を、昨日２４日には、オフィス向け用品などの通信販売を行うアスクル株式会社様と「ＳＤＧｓ連携協定」を締結いたしました。

今後は、ＳＤＧｓ推進に向けた取組はもとより、対馬市のしまづくりに向けて、企業と連携した取組を進めてまいります。

また、九州電力送配電株式会社対馬配電事業所様とは、１月１５日に「災害復旧に関する協定」も締結しております。

次に、対馬市洋上風力発電ゾーニング導入可能性検討協議会についてでございます。

令和元年度から、長崎県と共同で取組を進めておりました、洋上風力発電ゾーニング導入可能性検討事業につきましては、去る１月２６日に開催いたしました第４回対馬市洋上風力発電ゾーニング導入可能性検討協議会において候補エリアを、上県町の西方沖２か所、約４３平方キロメートルの海域に決定し、２月８日に開催されました長崎県の協議会において承認されております。

今後は、長崎県が実施するパブリックコメント等の手続を経たうえで、環境省への報告を行い、洋上風力発電事業を推進してまいります。

以上が、行政報告でございます。

本定例会において、御審議願います案件でございますが、令和２年度一般会計等補正予算案件３件、令和３年度一般会計等補正予算案件８件、条例の一部改正１１件、第２次対馬市総合計画（後期計画）１件、辺地に係る整備計画１件、あらたに生じた土地の確認及び字の区域の変更２件、港湾区域内公有水面の埋立てについて１件、損害賠償の額の決定１件、権利の放棄１件、人権擁護委員候補者の推薦に係る諮問１件、合わせて３０件の議案について御審議をお願いするものでございます。

内容につきましては、提案の際、担当部長から説明を行いますので、慎重に御審議の上、適正なる御決定を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

なお、コロナ禍において売上げが減少した事業者を対象とする給付金事業のため、本会期中に、

令和３年度一般会計補正予算（第１号）を追加議案として上程する予定としております。併せて御審議くださいますようお願いいたします。

以上、開会に当たっての挨拶といたします。よろしくお願いいたします。

○議長（小川　廣康君）　以上で、行政報告を終わります。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第５．産業建設常任委員会の閉会中の所管事務調査報告

○議長（小川　廣康君）　日程第５、産業建設常任委員会の閉会中の所管事務調査報告を行います。

産業建設常任委員長、長郷泰二君。

○議員（３番　長郷　泰二君）　おはようございます。

令和２年第１回対馬市議会定例会において、会議規則第１０５条第１項の規定により、閉会中の所管事務調査の承認を得ておりました本委員会の調査の内容とその概要を、同規則第１１０条の規定により報告いたします。

本委員会は、令和２年１２月１８日午後３時から、対馬博物館において、観光交流商工部から「博物館建設事業の現状と今後について」説明を受け、その後移動し、厳原港国内ターミナルビルにおいて、建設部から「厳原港国内ターミナルの現状と今後について」説明を受けました。

まず、「博物館建設事業の現状と今後について」でありますが、総事業費３９億７，５００万円、建築面積３，１７２平方メートルの事業であります。平常展示室、特別展示室、収蔵庫、事務室などの博物館ゾーンは既に完成し、現在はギャラリー、ミュージアムショップ、講座室などの交流ゾーンの建設が行われており、令和４年春の開館が予定されております。博物館ゾーンは、展示物に配慮した空調、照明等が施され、その展示内容に期待が持たれるところであります。

当日は、既に展示されている「増田山遺跡出土の銅矛のレプリカ」を拝見し、歴史の重みを感じることができました。また、長崎県対馬歴史研究センターの所長にもお越しいただき、同センターが取り組まれております宗家古文書の修復作業についても、作業状況を視察しながら説明を頂くことができました。

本市が誇る数々の歴史的資料を多くの方に見ていただきたく、改めて本市の歴史的な位置づけを全世界にアピールできる日を楽しみにしたいと思います。

一方、博物館の管理は細部にまで気を遣う事柄が多く、その維持管理には多額の経費を要することが予想されます。開館後は、博物館を経営する感覚で常設展示、特別展示、施設のメンテナンス、設備の維持管理には十分なる検討をなされ、市の財政を圧迫することがないよう配慮されることを要望いたします。

次に、「厳原港国内ターミナルの現状と今後について」でありますが、令和２年１２月１０日に供用開始された国内ターミナルビルは、総事業費１７億７，８００万円、延べ床面積１，９１１平

方メートル、ガラス張りの建築物で、エントランスホール、待合ロビー、展望デッキ、吹き抜け等も十分なスペースが確保され、厳原港が一望でき、快適な待合時間を過ごすことができるものと考えます。

また、厳原港は、住民参加による地域振興の取組が継続的に行われる施設として、平成３０年８月４日に「みなとオアシス対馬厳原」に登録されました。地域住民、観光客、クルーズ客船等の交流及び休息、地域の観光及び交通に関する情報提供など、地域の活性化に資する「みなと」を核としたまちづくりを促進する役割も担っており、今後の活用の在り方に期待するものであります。

今後検討していただく事項として、次のことを申し添えます。

１、 厳原港には、国内ターミナルビル、今後完成する国際ターミナルビル、厳原合同庁舎、民間事業者のフェリー乗り場等、多くの建築物があり、大型車両も通行します。今後、関係機関と連携され、利用者の視点に立った道路標識及び案内板、建物の標記を再検討されるようお願いいたします。

２、みなとオアシスの意義を十分に検討され、ターミナルビルを中心に市民の方が利活用できる環境整備をお願いいたします。

３、対馬市港湾ターミナルビル条例には、指定管理者に管理を行わせることができる規定がありますが、令和２年第４回定例会では、その意思がない旨の答弁がありました。ターミナルビルの管理体制を早急に明確化されることを望みます。

最後に、平成３０年３月改正の「対馬市木材利用行動計画」では、市が整備する新築・増築または改築する公共建築物等における、地元産木材の利用促進に向けた取組目標が記載されていますが、両施設において、本市の木材の利用が皆無であったことが残念でなりません。今後に向けて十分なる検討をなされることを切望いたします。

以上で、産業建設常任委員会の閉会中の所管事務調査報告といたします。

○議長（小川　廣康君）　報告が終わりました。

これから委員長報告に対する質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　これで質疑を終わります。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第６．長崎県病院企業団議会議員の報告

○議長（小川　廣康君）　日程第６、長崎県病院企業団議会議員の報告を行います。

９番、小田昭人君。

○議員（９番　小田　昭人君）　長崎県病院企業団議会議員の活動及び審議内容について、次のと

おり報告します。

令和２年１２月２５日午後１時３０分から、長崎県農協会館で開催されました第２回長崎県病院企業団議会定例会について、次のとおり報告します。

なお、対馬市議会からは、山本輝昭議員は欠席で、私、１名の出席であります。

今定例会の議案審議は、事件議案１件、予算議案１件、認定議案１件であります。

事件議案第５号「令和２年度長崎県病院企業団事業会計資本金の額の減少について」は、会計方針の変更に伴い、平成２６年度から令和元年度までに資本金として計上していた、建設改良に充てた企業債の元金償還への繰入金について、収益化するために資本金の額を減少させ、長期前受金等に振替を行おうとするものです。

次に、予算議案第６号「令和２年度長崎県病院企業団病院事業会計補正予算（第３号）」は、新型コロナウイルス感染症対策及び建設改良に充てた企業債の元金償還金への繰入金の収益化等に伴う、必要な予算の補正を行おうとするものです。

次に、認定議案第１号「令和元年度長崎県病院企業団病院事業会計決算」の認定について報告します。

病院企業団全体でありますが、収益合計は２８７億４，９０４万２，０００円、費用合計は２９１億９，１６３万９，０００円で、４億４，２５７万９，０００円の純損失となっております。

前年度と比較しますと、医業損益で、収益が１３億２，３３５万３，０００円の増、費用は４億３，０７８万６，０００円の増となり、医業損益は８億９，２５８万５，０００円改善しています。

また、医業外損益で、収益が１億５，１２８万８，０００円の減、費用が１億２，１８４万９，０００円の増となり、医業外損益が２億７，３１６万６，０００円悪化しています。

また、当年度の延べ入院患者数は４１万４，０６６人で、前年度に比べ２万９８８人（５．３％）の増、延べ外来患者数は７０万８，８５２人で、前年度に比べ３，４４７人（０．５％）の増となっています。病床稼働率は７７％で、前年度に比べ３．７ポイントの増となっております。

なお、対馬の２病院でありますが、対馬病院は、総収益５５億５，６５９万５，０００円、総費用６０億１，１１４万８，０００円で、当年度純損益は４億５，４５５万３，０００円の純損失となり、特別利益、特別損失を除く経常収支は、３億９，４１７万６，０００円の赤字となっております。

上対馬病院は、総収益９億６，０７６万１，０００円、総費用１０億１，９６３万５，０００円で、当年度純損益は５，８８７万５，０００円の純損失となり、特別利益、特別損失を除く経常収支は、４，４８９万９，０００円の赤字となっております。

経営状況でありますが、対馬病院は病床数２７５床で、令和元年度の延べ入院患者数は７万８，５８６人で、前年度に比べ４，９９３人の増、延べ外来者数は１６万２，６６１人で、前年度

に比べ延べ６，０３７人の減となっています。病床利用率は７８．１％となっています。

上対馬病院は病床数６０床で、令和元年度の延べ入院患者数は１万２，８０２人で、前年度に比べ１，８０３人の減、延べ外来者数は２万８，７１２人で、前年度に比べ２４６人の増となっています。病床稼働率は５８．３％となっています。

以上、事件議案１件、予算議案１件、認定議案１件について慎重に審議した結果、賛成多数により原案のとおり可決されました。

なお、議案外の報告事項として、１、令和元年度長崎県病院企業団病院事業会計予算繰越計算書の報告について、２、入札結果報告について、３、新型コロナウイルス感染症対策について、４、令和２年度上半期経営状況について、５、第３次中期経営計画について、６、構成団体負担金の見直しについて、７、郷診郷創の取組状況についての報告がありましたが、詳細については説明を省略させていただきます。

以上、長崎県病院企業団議会議員の報告といたします。

○議長（小川　廣康君）　報告が終わりました。

これから報告に対する質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第７．長崎県後期高齢者医療広域連合議会議員の報告

○議長（小川　廣康君）　日程第７、長崎県後期高齢者医療広域連合議会議員の報告を行います。

１４番、初村久藏君。

○議員（１４番　初村　久藏君）　長崎県後期高齢者医療広域連合議会議員の報告をいたします。

令和３年２月１２日、長崎県市町村会館において、令和３年第１回長崎県後期高齢者医療広域連合議会定例会が招集されましたので、議案の審議内容について次のとおり報告いたします。

議案審議に入る前に、議長及び副議長の選挙が議題となり、いずれも指名推選により、議長に長崎市の井上重久議員、副議長に新上五島町の坪井泰助議員が選任されました。

今回は、予算議案４件、権利の放棄議案１件、専決処分の報告及び承認１件が上程され、慎重審議の結果、いずれも賛成多数により原案のとおり可決されました。

議案審議の内容について報告します。

議案第１号、令和２年度長崎県後期高齢者医療広域連合一般会計補正予算（第１号）は、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ８６１万２，０００円を追加し、歳入歳出の総額を歳入歳出それぞれ２億４，４６１万４，０００円とするものであります。

令和元年度決算剰余金を受け入れるとともに、派遣職員人件費負担金と財政調整基金積立金に

ついて補正を必要とするものです。

議案第２号、令和２年度長崎県後期高齢者医療広域連合後期高齢者医療特別会計補正予算（第１号）は、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ２０億８，２９２万３，０００円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ２，２４７億７，８４４万３，０００円とするものであります。

令和元年度決算剰余金を受け入れ、償還金等を整理する必要があること、特別高額医療費共同事業拠出金に不足が見込まれること等について補正を必要とするものであります。

議案第３号、令和３年度長崎県後期高齢者医療広域連合一般会計予算は、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ２億２，８９７万３，０００円と定めるものであります。

歳入の主なものは、市町負担金、歳出の主なものは、総務費の一般管理費であります。

議案第４号、令和３年度長崎県後期高齢者医療広域連合後期高齢者医療特別会計予算は、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ２，２６５億１６３万５，０００円と定めるものであります。

歳入の主なものは、国庫支出金、市町支出金及び支払基金交付金、歳出の主なものは、保険給付費であります。

議案第５号、権利の放棄については、平成２６年７月２９日に実施された保険医療機関に対する九州厚生局個別指導により、誤請求が確認された平成２５年度診療報酬返還金４万８，７４５円について、債務者の自己破産申出により免責許可決定が確定し、自主納付の見込みもないことから債権回収不能と判断し、当該金銭債権を放棄しようとするものです。

報告第１号、専決処分の報告及び承認を求めることについては、高齢者の医療の確保に関する法律施行令の改正に伴い、令和３年度以降の保険料の均等割額軽減判定に係る基準を見直す必要があるほか、所要の整備をするため、長崎県後期高齢者医療広域連合後期高齢者医療に関する条例の一部を改正する条例について、専決処分したので、報告し承認を求めるものであります。

最後に、任期満了となる議会運営委員について、議長指名により新たに８名の議員が選任されました。

さらに追加議案として、同意議案第１号、監査委員の選任につき議会の同意を求めることについてが議題とされ、広域連合議員のうちから選任した監査委員の退職により、その後任として東彼杵町の吉永秀俊議員が選任されました。

以上で、長崎県後期高齢者医療広域連合議会議員の報告といたします。

○議長（小川　廣康君）　報告が終わりました。

これから報告に対する質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第８．議案第３号

○議長（小川　廣康君）　日程第８、議案第３号、令和２年度対馬市一般会計補正予算（第１５号）を議題とします。

提案理由の説明を求めます。総務部長、有江正光君。

○総務部長（有江　正光君）　ただいま議題となりました議案第３号、令和２年度対馬市一般会計補正予算（第１５号）について、その提案理由と内容を御説明申し上げます。

今回の補正は、国の第３次補正に伴う漁港整備事業や市道改良事業などの追加と、各種事業の実績などによります調整が主なものでございます。

予算書の３ページをお願いします。

令和２年度対馬市一般会計補正予算（第１５号）は、次に定めるところによることを規定し、第１条第１項、歳入歳出予算の補正は、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ１，０４４万５，０００円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ３６３億９，０７７万７，０００円とするものでございます。

第２項歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、４ページから６ページにかけての「第１表歳入歳出予算補正」によるとするものでございます。

第２条、継続費の補正は、継続費の変更を８ページ、９ページの「第２表継続費補正」によるものとし、厳原港国内ターミナル建設事業の完了に伴う事業費の総額及び年割額を変更するものでございます。

第３条、繰越明許費の補正は、繰越明許費の追加を８ページから１３ページにかけての「第３表繰越明許費補正」によるものとし、繰越明許費に７３件、２８億４，８０３万７，０００円を追加するものでございます。

なお、繰越明許費につきましては、別途繰越理由一覧表をタブレットに掲載しておりますので、後ほど御参照ください。

第４条、地方債の補正は、地方債の追加及び変更を１２ページから１３ページの「第４表地方債補正」によるものとし、地方債の限度額を３９億５，１００万円とするものでございます。

次に、歳入歳出補正予算の内容について、その主なものを御説明します。

１８ページをお願いいたします。

まず、歳入ですが、１１款、地方交付税は、普通交付税を５１９万２，０００円追加しております。

１４款使用料及び手数料は、国際ターミナルの使用料４，４８４万１，０００円の減額が主なも

のでございます。

１５款国庫支出金１項国庫負担金では、それぞれ事業の実績見込みなどにより１目民生費国庫負担金は７２３万４，０００円を減額。

２０ページに移ります。

４目災害復旧費国庫負担金は２，１６０万円を減額しております。

２項国庫補助金は、国の補正予算に伴う漁港整備事業補助金、道路橋りょう整備に係る社会資本整備総合交付金や、学校施設環境改善交付金の追加及び事業の実績などによる増減により１億２３９万９，０００円の増額となっております。

２２ページをお願いいたします。

１６款県支出金１項県負担金でございますが、保険基盤安定負担金や施設型給付費負担金の追加などにより３７５万９，０００円の増額となっております。

２項県補助金は、国の補正予算に伴う漁港整備事業補助金の追加及び事業実績見込みによる増減などにより、９，４４４万円の減額となっております。

２４ページをお願いいたします。

１８款寄附金でございますが、ふるさと納税寄附金の追加が主なものでございます。

２６ページをお願いいたします。

１９款繰入金は、財源調整によります財政調整基金繰入金１億７，０００万円の減、がんばれ国境の島対馬ふるさと応援基金繰入金６，６７５万５，０００円の減が主なものでございます。

２１款諸収入５項雑入は、退職手当旧負担金制度差額調整金の追加と、長崎県病院企業団返還金の計上が主なものでございます。

２２款市債は、国の補正に伴う漁港整備事業、道路橋りょう、トンネル整備事業、教育施設改修事業に係る市債の追加や、事業実績見込みによる増減及び減収補てん債の計上により、１億１，４００万円の増額となっております。

続きまして、歳出について御説明いたします。

なお、歳出につきましては、国の補正予算に係る事業につきまして、別途参照資料をタブレットに掲載しておりますので、後ほど御参照ください。

３０ページをお願いいたします。

２款総務費１項総務管理費は、創業等支援事業補助金１，９９０万１，０００円の減、離島航路・航空路緊急支援負担金１，９００万円の計上、地方バス路線維持費補助金１，０９８万８，０００円の増のほか、事業実施見込みによる増減により１，３８３万５，０００円の減額となっております。

３２ページをお願いいたします。

３項戸籍住民基本台帳費は、個人番号カード事務負担金７００万円の減額でございます。

３款民生費１項社会福祉費でございますが、１目社会福祉総務費は、自立支援給付費などの扶助費７，７２０万５，０００円の追加。

３４ページをお願いいたします。

５目老人福祉費は、後期高齢者医療広域連合負担金１，２０６万２，０００円の追加が主なものでございます。

２項児童福祉費は、子ども夢づくり基金積立金１億円の追加や、児童手当等の扶助費の減額などを合わせまして５，３９４万円の増額となっております。

３４ページをお願いします。

４款衛生費１項保健衛生費は、県病院企業団負担金７００万５，０００円の追加。

診療所特別会計繰出金６１７万１，０００円の減額が主なものでございます。

３６ページをお願いいたします。

２項清掃費は、海岸漂着物等地域対策推進業務委託料５，２１６万５，０００円の減額が主なものでございます。

６款農林水産業費１項農業費は、３目農業振興費の鳥獣対策総合支援業務委託料２００万円の減、農業次世代人材投資資金３１５万４，０００円の減が主なものでございます。

２項林業費は、森林環境譲与税活用事業補助金５１０万円の減、離島輸送コスト助成事業補助金５２８万５，０００円の追加、有害鳥獣捕獲支援事業補助金６７０万円の減。

３８ページをお願いいたします。

森林環境譲与税活用基金積立金５１０万１，０００円の追加が主なものでございます。

３項水産業費でございますが、２目水産業振興費は、活魚・鮮魚等輸送コスト助成事業補助金など、各補助金の実績見込みにより７，３８４万６，０００円を減額し、４目漁港建設費は、国の補正に伴う事業費の追加などによりまして１億１，６７５万７，０００円の増額となっております。

７款商工費は、４０ページをお願いします。

対馬市中小企業制度融資資金貸付金５，０００万円の減、観光施設整備工事５，９３２万２，０００円の減額が主なものでございます。

８款土木費２項道路橋りょう費は、国の補正に伴う事業費の追加などによりまして、１億４，３９６万８，０００円の増額となっております。

４２ページをお願いいたします。

３項河川費は、急傾斜地崩壊対策事業負担金５００万円の追加のほか、事業費の組替えでございます。４項港湾費は、国際ターミナル使用料徴収委託料などの減額や厳原港国内ターミナル建設事業費の減額が主なものでございます。５項都市計画費は、まちづくり交付金事業の減額が主

なものでございます。

４４ページをお願いいたします。

９款消防費は、操法大会中止に伴う対馬市分会補助金の減や消防団拠点施設建設事業費の減額が主なものでございます。

１０款教育費１項教育総務費は、離島留学生ホームステイ補助金６０４万円の減、教育施設整備基金積立金１億4，０００円の追加が主なものでございます。

４６ページをお願いいたします。

２項小学校費、３項中学校費は、国の補正に伴う学校トイレ洋式化事業費の追加などによりまして、それぞれ増額となっております。

４８ページをお願いします。

１１款災害復旧費は、１項農林水産施設災害復旧費から５０ページの４項その他の災害復旧費まで、事業実績見込みなどによる減額が主なものでございます。

５０ページをお願いいたします。

１２款公債費は、利率見直しによる元金１２０万2，０００円の追加と借入利率の決定などによる利子の減額でございます。

なお、５２ページから５５ページにかけまして、補正予算給与費明細書を添えてございますので、御参照方よろしくお願いします。

以上、簡単ではございますが、提案理由の説明を終わります。御審議の上、御決定賜りますようお願いいたします。

○議長（小川　廣康君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。３番、長郷泰二君。

○議員（３番　長郷　泰二君）　確認をします。３１ページをお願いします。

歳出の中で、企画費の負担金の離島航路・航空路緊急支援負担金1，９００万円計上されておりますが、これはこれでよろしいんですが、近年コロナの影響と九州郵船の船のドック入り等で航路ダイヤがかなり乱れております。見ますと、3月、ジェットフォイルが１便しか対馬から福岡に行かない。これはドックの関係があろうかと思いますが、その時間が何と、午後3時出発、着くのが午後6時。航路対策協議会がもうあろうかと思いますが、こういった時間については、九州郵船ないしその関係協議会との調整はどのようになされているのか。負担金を出す以上、あまりにもこの過酷なジェットフォイルダイヤじゃないかと感じておりますが、説明をお願いいたします。

○議長（小川　廣康君）　しまづくり推進部長、武末祥人君。

○しまづくり推進部長（武末　祥人君）　長郷議員の質問に対してお答えいたします。

ジェットフォイルの１便についてですが、今の１便体制はドックではなくてコロナの影響で、経営状況が悪いということで１便体制で運航いたしております。その１便についても、壱岐のほうと調整がありますので、当然うちのほうとしてもいろいろ申入れはしますけども、その調整の中での時間となっております。

以上でございます。

○議長（小川　廣康君）　３番、長郷泰二君。

○議員（３番　長郷　泰二君）　その説明ちょっと理解しづらいですね。

市民の方の状況を考えると、それだけで片づけられるのはとても寂しい気がいたします。

３時ですよ。フェリーで行っても、福岡の通院が多いんですが、なかなかそのフェリーでも通院できない、ましてジェットフォイルのその時間帯だと、わずかな時間といえども行けない。こういった状況が今続くわけですね。確かに乗客数が少ない、そこら辺でいろいろ運航される会社も大変だとは思いますが、離島航路がこういう状況で、はい、そうですかと簡単に引き下がったとは思いませんが、もう少し具体的な対応、要求をどのようにしてきたのか、せめてそのくらいの説明は欲しいんですが、いかがでしょうか。

○議長（小川　廣康君）　しまづくり推進部長、武末祥人君。

○しまづくり推進部長（武末　祥人君）　どのような申入れをされたかという御質問ですが、確かに時間帯につきましては、私たちも見させていただいたときに、これじゃ厳しいなということでお願いしますけども、民間企業でございまして、経営、それを第一に考えてされていることと思います。壱岐市との調整、そういった面もありまして、なかなか対馬はこれというふうな言えるような状況ではありませんでしたので、提案されたので仕方ないですねといった状況でございます。

以上となります。

○議長（小川　廣康君）　３番、長郷泰二君。

○議員（３番　長郷　泰二君）　まあ、当然としてはそういう形になろうかと推測はしますが、あまりにも情けない。

負担金出してるので、その率はどう算定されているか知る由はありませんが、同じ航路大変でしょうから、負担金をもって運営してくださいというような性質もあろうかと思うんですよね。民間企業がやられるから、行政としてはそれ以上口出せないというようなことでは、いかがなものかと考えます。もし仮に、今短期間の予定ですが、これが長期化するということになると、果たして負担金を今までどおり、はい、そうですかと支出すべきかどうかという疑問が起こりますが、市長、見解をお願いいたします。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　今、部長のほうからの説明をいたしましたとおり、社長自ら市のほうにおいでになって、時間帯変更のお願いに参られました。その際に、このジェットフォイルの輸送賃金等の集計表を持ってこられましたけども、特に１月の２１日から１月の２５日までは、あの約２００人ちょっと乗るジェットフォイルでございますけども、お客さんが９名しか乗ってないというようなことで、大変ちょっと運航するに当たって、非常に運送する会社としても大変であると。その上で、確かに今、議員おっしゃられるように、市民の皆様が３時にこちらを出港ということになると、福岡に着くのが大変遅くなりますので、不便を講じることになるということで、私たちもこのことにつきましては苦慮しておりますけども、このことが一日も早く改善できることを祈りながら待ちたいと思っております。

幸いに、今、観光商工部関係のほうからの報告が上がっておりますけども、今この３月からは、かなりの観光客等の予約が入ってきている状況であるというような報告も受けておりますので、ここら辺も含めて一日も早くこの時間帯の改善ができるように、再度また九州郵船等には働きかけをしてまいりたいというふうに思います。

以上です。

○議長（小川　廣康君）　ほかにありませんか。１５番、大浦孝司君。

○議員（１５番　大浦　孝司君）　４１ページ、道路改良でありますが、ちょっと市長のほうに確認をいたしたいと思います。

一番下の西津屋線の道路改良工事、まあ追加ということで（「大浦議員さんちょっと質問途中ですが、これあのおたくの産建に付託をする案件ですが、委員会で審査できないですか」と呼ぶ者あり）私、市長の確認を取ろうと思って、そういうことなんですが。（「はい、どうぞ」と呼ぶ者あり）そのことは存じております。（「はい」と呼ぶ者あり）

この路線については、今年度４月ごろからトンネルから先の継続工事を中断し、鉄柱も全部撤収して、将来的にこれを継続して工事をするかという問題が不安視されておりました。それで私、担当のほうに今後の展望を聞きに参ったんですが、その時点で尾浦以降の浅藻のトンネルの大きな工事が今後予測される中で、非常に財政の圧迫も、市の内部ではそういうふうな見解をしておると。それで、この路線の施工方針を見直すんだというふうなことは、担当レベルからお聞きしました。その後、いろいろ一般質問等も私確認取ったわけですが、最終的には、集落の代表のお願い等が市にあって、基本どおりその先の２車線の確保はやっていく方向として、私もお話を聞いたところですが、最終的なことを市長に今日は聞いてみようと思っておりました。

以上であります。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　議員おっしゃられるように、地域の方々が直接要望にも参られて、私も

いろいろと状況を確認したところであります。その際、私たちといたしましては、道路の線形を若干変更をしながら、一部区間については７メートルの幅員を取るとかなり山を切り込まなくてはならないというような状況でありましたので、ここら辺の変更を一部区間５メートルでは駄目でしょうかというような話もいたしましたけども、地域としては、７メートルでどうしてもお願いをしたいというようなことでありましたので、一部線形の変更はいたしますけども、山切りのほう若干少なくすると同時に、線形を扱って、今の７メーターの計画で継続をしていくということで進んでおります。

以上です。（「終わります」と呼ぶ者あり）

○議長（小川　廣康君）　できましたら、所管以外のものにとどめていただきたいと思いますが、１２番、小宮教義君。

○議員（１２番　小宮　教義君）　３番議員の関連で九州郵船の話ですけども、参考資料の１ページには、先ほどの補助関係のお金があるんですが、九州郵船に県が１億５，１１０万円、そして市が１，５００万円と、トータルで１億６，６１０万円というすごいお金を税金で九州郵船に払うわけですけども、その件について３点からお尋ねしたいと思います。

このような補助金について、九州郵船のほうからどのような形での要望があったのかということですね。

それと、九州郵船は、皆さん御存じのように、もう１００年以上続く非常に優秀な企業です。多分このような企業ですから、内部留保金といいますか、金利剰余金、今までもうけてお金を積んどると思うんですが、かなりの金額を積んでいると思うんですけども、この利益剰余金がどのくらいあるのかということですね。

それと、これは県と対馬しかないんですけれども、隣の壱岐にはこの負担はないのか、同じ航路ですから。

という点ともう一点、先ほどの優秀な企業ですから、役員が何人ほどおられるのか、それを先にお尋ねいたします。

○議長（小川　廣康君）　しまづくり推進部長、武末祥人君。

○しまづくり推進部長（武末　祥人君）　小宮議員の質問にお答えいたします。

まず、最初の九州郵船から申入れがあったのかということでございますが、この支援につきましては、県の補助がありますように、県のほうから航路事業者に対する支援を行いたいと。九州郵船だけじゃなくて、九州商船、五島のも含めたですね。そういう申入れがございました。それに各市も同調してもらえないだろうかという申入れがあって、その中で壱岐、五島、対馬の３市で協調して支援をしていこうということで行っております。

次の内部留保金でございますが、繰越利益剰余金のことでよろしいんでしょうか。昨年末の決

算２０２０年３月決算での剰余金は公表されておりますが、この場での対馬市からの報告は差し控えさせていただければと思っております。

次の壱岐に負担金はないのかということですが、先ほど申しましたように、３市で協調して支援をしていくということで、同じ額ということで協調しております。

次に、役員は何人いるのかという問いですが、代表取締役社長１名、取締役４名、監査役１名でございます。

以上でございます。

○議長（小川　廣康君）　１２番、小宮教義君。

○議員（１２番　小宮　教義君）　九州郵船からは直接の要望はなかったわけですよね。県からの要望ということですよね。直接なかったということですよね。

それと、壱岐も同じように負担をするということなんですね、対馬だけじゃなくて、同じような金額で負担をするということですね。はい、分かりました。

それとこの利益剰余金ですけども、このような会社ですから、当然国からも補助金頂いてますよ。ということは、何らかの形で公表するように会社法というのがありまして、その法律の中で必ず公表しなさいというようになっております。そして、九州郵船は、どのような形で公表するかと言うと、官報に載せます。この官報に載っとる令和２年３月３１日の決算書ですよ。それによると、この利益剰余金、今までためたお金、もうけたお金、これが１５億７，０００万円もあるんですよ。１５億７，０００万円。これだけの内部留保あるんだから、この１億６，０００万円は払う必要ないんじゃないですかね。これだけの内部留保あるんだから。

それと、役員が約６名ですか、監査まで入れて。そして、このように税金を相手に渡すんだから、やはり相手もある程度の痛みを伴わなければいけないと思いますよ。この役員、給料のカットはあったのか。当然ボーナスなんて１００％カットだと思うけども、どのような体制になっておるのか、この役員について。職員は生活がありますから、役員のこの給与体制、これはどのようになっておるのか、またお尋ねします。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　そのことについて、私のほうからちょっとお答えをさせていただければと思いますが、先ほど部長も申し上げましたように、九州郵船の財務関係は、おっしゃられるように、貸借対照表として公表はされております。議員のおっしゃるとおりでございます。

そういう中で今回、県と協調しながら助成をするわけでございますけども、まずは九州郵船としても確かに内部留保は幾らかあります。しかしながら、こういうふうな急激なお客さんの減少によりまして、会社としてもかなりのダメージを受けているというようなことで、県を中心として助成を行う。そしてまた、対馬市と壱岐市は県の１０分の１ということで助成を行おうと。五

島についても一緒でございます。やはり五島のほうは、今度は九州商船でございますけども、九州商船のほうで県の負担分の１０分の１を支払うというようなことで、このことは壱岐、対馬、五島の３市の首長で協議をいたしまして、何とかここは島民の足を担う重要な輸送機関であるというようなことから、そのような対応をさせていただこうということで決定をいたしております。

それと、九州郵船の役員の報酬とか給与等の引下げはどうなのかということでございますが、このことにつきましては、令和２年度は賞与の支給率を引き下げているということでありまして、役員報酬については、令和３年度から引き下げるというようなことを聞いております。

以上でございます。

○議長（小川　廣康君）　１２番、小宮教義君。

○議員（１２番　小宮　教義君）　九州郵船から直接市のほうに御相談があれば別としても、相談もないのに、向こうの要望もないのに、私は払う必要ないと思いますけどね。それと、先ほど役員の報酬については、３年度は減給とかそういうような形でやるということですよね。役員については、やはりこの３年度のボーナスは１００％カット、それと給与については４０％カット、そのくらいの勢いでやってもらわないかんと思います、お金払うんだから。そういう要望を市長のほうから九州郵船のほうに強く言っていただきたい。

以上です。

○議長（小川　廣康君）　ほかにありませんか。１７番、作元義文君。

○議員（１７番　作元　義文君）　１点だけ市長に確認をしたいと思うんですが、国境離島活性化推進特別委員会の関係でお尋ねをしたいんですがね。今までだったらジェットフォイルの更新という話を我々委員会でもずっとやってきておりますけれども、運航の時間帯については先ほど質問がありました。これからジェットフォイルも３０年以上たってくる更新について、九州郵船の社長のほうから市長に対して何か話がありましたか。その１点だけちょっと確認をしたいと。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　正式なことじゃなくて、今このような状況であるというようなことでの話でございますけども、要は確かにＪＲ九州高速船のほうのジェットフォイルのほうが売りにも出ているような状況であると。そしてまた、九州郵船のほうとしては、今２隻体制でありますけども、ドック等のときの体制のためにはやはり、理想的には３隻体制が望ましいというようなことを考えているというようなことで、どうにかしてジェットフォイルを購入したいというお話までは聞いております。

そういうことでもありまして、先ほどの小宮議員の御質問の中でも、お答えし忘れておりましたけれども、要はやはり九州郵船といたしましても、今後はジェットフォイルの新船購入に対する、そういった内部留保も必要になってくるのではないかというようなことも、併せて理解をし

ていただきたいというふうに思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○議長（小川　廣康君）　１７番、作元義文君。

○議員（１７番　作元　義文君）　大体事情は分かるんですけども、我々の委員会としても、このコロナの中で、お客さんが非常に少ない状況の中で無理なことも言われませんのでね。まあこう、じっと我慢して見ているような状況ですけども、市としてもやはりこれからも、我々委員会もそうですけども、ジェットフォイルの更新はやはり避けて通れない道だというふうに判断しておりますから、川崎重工の建造の面も含めてぜひそういった話をまた市長としても、機会があればそういう話をしてください。よろしくお願いします。

○議長（小川　廣康君）　ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

本件は配付しております議案審査付託表のとおり、各常任委員会に付託をいたします。

暫時休憩します。再開を、ちょっと短いですけど、１１時２５分からといたします。

午前11時12分休憩

午前11時24分再開

○議長（小川　廣康君）　再開します。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第９．議案第４号

日程第１０．議案第５号

○議長（小川　廣康君）　日程第９、議案第４号、令和２年度対馬市診療所特別会計補正予算（第４号）及び日程第１０、議案第５号、令和２年度対馬市国民健康保険特別会計補正予算（第４号）の２件を一括議題とします。

提案理由の説明を求めます。健康づくり推進部長、松井惠夫君。

○健康づくり推進部長（松井　惠夫君）　ただいま一括議題となりました議案のうち、議案第４号、令和２年度対馬市診療所特別会計補正予算（第４号）につきまして、その提案理由を御説明いたします。

今回の補正予算は、長崎県へき地医療対策費補助金の追加、令和元年度診療実績による県補助金精算返還金が主なものでございます。

予算書の３ページをお願いいたします。

令和２年度対馬市診療所特別会計補正予算（第４号）は、次に定めるところによることを規定し、第１条第１項、歳入歳出予算の補正は、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ２０７万

９，０００円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ４億６，１５７万１，０００円とするものでございます。第２項、歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、４ページから５ページにかけての「第１表歳入歳出予算補正」によるとするものでございます。

次に、歳入歳出補正予算の内容につきまして御説明申し上げます。

まず、歳入でございますが、予算書は８ページをお願いいたします。

３款県支出金は、へき地医療対策費補助金を８２５万円追加、４款繰入金１項他会計繰入金は、一般会計からの繰入金を６１７万１，０００円減額しております。

次に、歳出について御説明させていただきます。

１款総務費１項施設管理費１目一般管理費１３節委託料は、実績見込みにより清掃、管理及び医療機器保守点検料を５３万７，０００円減額、２３節償還金、利子及び割引料は、令和元年度診療実績に伴う長崎県へき地医療対策費補助金返還金２６１万６，０００円でございます。

以上で、提案理由の説明を終わります。よろしく御審議の上、御決定賜りますようお願い申し上げます。

○議長（小川　廣康君）　福祉保険部長、古里正人君。

○福祉保険部長（古里　正人君）　ただいま一括議題となりました議案第５号につきましては、福祉保険部所管の議案でございますので、その提案理由と内容につきまして御説明申し上げます。

議案第５号、令和２年度対馬市国民健康保険特別会計補正予算（第４号）でございますが、今回の補正予算の主なものは、新型コロナウイルス感染症の影響による減免措置による歳入の増減、歳出においては、保険給付費の増額でございます。

補正予算書の３ページを御覧願います。

令和２年度対馬市国民健康保険特別会計補正予算（第４号）は、次に定めるところによることを規定し、歳入歳出予算の補正は、第１条第１項で、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ５，７９７万円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ４６億５，３９５万７，０００円とするものでございます。第２項で、歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、４ページから５ページにかけての「第１表歳入歳出予算補正」によるとするものでございます。

次に、歳入歳出補正予算の内訳につきまして御説明申し上げます。

まず、歳入の主なものでございますが、８ページから９ページを御覧願います。

国民健康保険税減免申請見込み減により、１款国民健康保険税１目一般被保険者国民健康保険税は２億１，８６８万８，０００円を追加、３款国庫支出金４目災害等臨時特例補助金は、国民健康保険税の減免額の１０分の６に相当する１億２，９１５万４，０００円を減額、４款県支出金特

別調整交付金は、国民健康保険税減免額の１０分の４に相当する８，５０６万７，０００円を、過年度還付金２，９０２万３，０００円をそれぞれ減額いたしました。また、普通保険給付費等交付金の決定により８，５９３万円の追加を行っております。

６款繰入金は、保険基盤安定化事業の交付決定による増額、１０ページから１１ページを御覧願います。財政安定化支援事業の決定による減額でございます。

８款諸収入は、一般被保険者第三者納付金を計上いたしております。

次に、歳出について主なものを御説明申し上げます。

１２ページから１３ページを御覧願います。

１款総務費２項徴税費は、令和元年度国民健康保険税減免に係る過年度還付金などの減額でございます。

２款保険給付費１項療養諸費及び２項高額療養費は、見込額の増加による追加でございます。

３款国民健康保険事業費納付金は、各項それぞれ財源内訳の変更でございます。

１４ページから１５ページをお願いいたします。

６款基金積立金は、財政調整基金の利子の追加による増額でございます。

以上、簡単ではございますが、議案第５号の提案理由の説明とさせていただきます。御審議の上、御決定賜りますようよろしくお願い申し上げます。

○議長（小川　廣康君）　説明が終わりました。

これから２件に対する一括質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

お諮りします。ただいま一括議題としております２件については、委員会への付託を省略したいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　異議なしと認めます。２件につきましては委員会への付託を省略することに決定しました。

これから各案ごとに討論、採決を行います。

まず、議案第４号、令和２年度対馬市診療所特別会計補正予算（第４号）について討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　討論なしと認め、採決します。

本件は原案のとおり決定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　異議なしと認めます。本件は原案のとおり可決されました。

次に、議案第５号、令和２年度対馬市国民健康保険特別会計補正予算（第４号）について討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　討論なしと認め、採決します。

本件は原案のとおり決定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　異議なしと認めます。本件は原案のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第１１．市長の施政方針説明

○議長（小川　廣康君）　日程第１１、市長の施政方針説明を行います。

市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　令和３年度一般会計及び特別会計予算の御審議をお願いするに当たりまして、予算編成方針とその概要を御説明申し上げます。

昨年は、人類にとりまして、未知の感染症との闘いの１年でありました。経済のグローバル化と相まった高速移動の進展により、パンデミックを引き起こし、日本の端の対馬においても、観光・飲食産業を中心に甚大なる経済的打撃を受け、日常の市民生活、そして教育現場においても様々な制約を強いられました。

本年度中に、希望する全ての国民へのワクチン接種が完了するのか、まだまだ不透明な状況にあります。ウィズコロナ時代がスタートしたその中にあって、島の経済の再生と安心・安全な日々の暮らしを取り戻さなければなりません。

ウイルスの出現には、急激な生態系の変化が少なからず影響を及ぼしているという見解もあります。ＳＤＧｓという世界的な潮流の中において、本市が抱える重要課題である海ごみをターゲットに、循環経済を生み出すことを目標に掲げ、昨年の７月にＳＤＧｓ未来都市の選定を受けたところでございます。

持続可能なしまづくり実現のために、無駄をなくし、資源を生かし、そのパートナーとして様々な分野の民間企業との連携を強化し、その卓越した技術やノウハウを提供いただきながら、ＳＤＧｓ関連施策の積極的な取組を進めます。

また、近年の気候変動の影響により、気象災害は激甚化・頻発化し、本市においても毎年のように大きな災害が発生しています。加えて、高度成長期以降に集中的に整備されたインフラの老朽化が深刻で、本市も例外ではなく、今後、適切な対応が必要となります。

このことから、政府においては、「防災・減災・国土強靭化のための５か年加速化対策」の方

針が示されたところであり、国の財政支援を活用しながら、効果的な財源投入を行い、計画的な整備に取り組んでまいります。

さらに、市民の思いも詰め込まれた対馬市総合計画後期計画のスタート年度となります。着実にスピード感を持って市民の夢や希望を実現するため邁進してまいります。

国の令和３年度予算（案）は、令和２年度第３次補正予算と合わせ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けている国民の命と生活を守るため、感染拡大防止に万全を期すとともに、将来を切り開くため、中長期的な課題を見据えて着実に対応を進めていく予算とされ、感染症危機管理体制や保健所体制の整備等とともに、予期せぬ状況変化の備えとして、５兆円の新型コロナウイルス感染症対策予備費が措置されているほか、デジタル社会・グリーン社会の実現や、全世代型社会保障の構築などにも対応するものとされております。

また、地方財政については、国税及び地方税の落ち込みに対し、地方の一般財源総額を適切に確保し、地方に最大限配慮することとされております。

新型コロナウイルス感染症につきましては、いまだ先の見えない状況ではありますが、本市の令和３年度予算編成に当たりましては、政府予算の基本的な考え方や地方財政収支見通しの概要等を考慮しつつ、対馬市独自の施策を限られた財源の中で、可能な限り計上したところであります。

その結果、令和３年度の予算規模は、一般会計と６つの特別会計を合わせて、総額４０２億６，０３１万４，０００円であります。

また、地方公営企業法の適用を受けます水道事業会計は、収益的収入１１億２，６６０万５，０００円、収益的支出９億８，３１２万８，０００円、資本的収入３億８９０万７，０００円、資本的支出６億７，０４７万２，０００円としております。

一般会計につきましては、令和２年度予算と比較いたしまして、プラス０．８％の３０７億８，８００万円としております。

なお、令和２年度予算につきましては、市長選挙の関係から当初予算を骨格予算として編成しておりますので、選挙後に議決いただきました６月補正予算後の予算のうち、新型コロナウイルス感染症対策事業費として計上した部分を控除した額を、令和３年度当初予算との比較対象としております。これ以降の説明におきましても、前年度との比較につきましては同様とさせていただきます。

歳入予算の主な内容といたしまして、市税は、新型コロナウイルス感染症の影響や固定資産の評価替え等により、対前年度比マイナス５．４％を見込んでおります。

地方交付税につきましては、地方財政計画における総額が対前年度比８，５０３億円、５．１％のプラスとなっておりますが、その配分や算定方法等が未確定であることを考慮して、対前年度

比プラス０．７％での計上としております。

また、財政調整基金、減債基金、合併振興基金などから約２２億６，０００万円を繰り入れるほか、財源補塡のある辺地対策事業債、過疎対策事業債、臨時財政対策債などを主に、約３３億１，０００万円の市債を計上し、予算を編成いたしました。

次に、歳出予算について、性質別にその概要を御説明いたします。

人件費では、職員数の減により職員給与費が減少しておりますが、令和３年度は市議会議員選挙、県知事選挙、衆議院議員総選挙が予定されておりますので、そういった増要因と合わせまして、対前年度比マイナス０．３％となる約４７億８，０００万円を計上しております。

物件費では、新型コロナウイルスワクチン接種に係る経費のほか、令和３年度執行予定の３つの選挙、観光客誘客のための事業や脱炭素化ビジネス促進事業の増、小学校におけるタブレット端末導入拡大による通信運搬費の増等により、対前年度比プラス８．８％となる約５７億６，０００万円を計上しております。

維持補修費では、市民の要望に対し機動的に対応できるよう、市道、農林道、河川などの補修工事費等約２億２，０００万円を計上しております。

扶助費では、障害者自立支援事業費や生活保護費の増等により、対前年度比プラス２．４％となる約３５億８，０００万円を計上しております。

補助費等では、県と共同で実施します離島への旅行商品造成事業等の負担金の増や森林環境譲与税活用事業補助金、離島漁業再生支援交付金の増等により、対前年度比プラス６．１％の約５０億２，０００万円を計上しております。

公債費では、元利償還金合計約４７億１，０００万円を計上しております。

普通建設事業費では、市道及び漁港・漁場整備など約４６億８，０００万円を計上しております。建設事業費の増加は、公債費の増加に連動するため、財政の健全性保持を念頭に置いて、産業基盤対策、生活基盤対策事業等を重点的に推進しているところであります。

また、近年多発する大規模な自然災害の復旧などに即時対応できるよう、予備費として６，０００万円を計上しております。

次に、令和３年度の主な取組について、第２次対馬市総合計画に掲げる将来像に向けた「４つの挑戦」ごとに御説明いたします。

１つ目の挑戦は、「若者を中心に対馬がにぎわっている」、「未来を創る子どもたちに対馬愛が育まれている」、「大人たちが対馬に誇りを持っている」という将来像「みんなが主役になる希望の島」を目指しての「ひとづくり」でございます。

若者が移住・定住したくなる島づくりを目指すため、移住者に対する引っ越し経費、住宅家賃や奨学金の返還支援のほか、島内での婚活支援、結婚新生活支援、リモートワーク推進のための

環境整備支援、島おこし協働隊制度の継続と展開、交流イベントや地域の祭りの継続支援などに係る事業を実施します。

対馬らしい働き方や生きがい創出のため、コミュニティ活動や地域づくりへの支援、障がい者の社会参画支援、老人クラブ活動への支援、シルバー人材センター運営支援などに係る事業を実施します。

安心して子どもを育てることができ、対馬を愛する心豊かな子どもを育み、親子が豊かな経験ができる子育て環境をつくるため、安心出産支援、不妊・不育治療費助成、子育て世代包括支援センターの設置、ひとり親家庭への支援、ファミリーサポートセンターの設置、島っこ留学・離島留学生の受入れ、放課後子ども教室、島内３高校の魅力化支援、地域の特徴を生かした総合的学習、学校給食への地元産の食材提供の拡大、子ども夢づくり基金による小中学生の活動支援、教育支援センターの運営などに係る事業実施のほか、新たな認定こども園の整備を進めます。

ＳＤＧｓの推進を担う島づくり人材を育成し、対馬が直面する課題解決に向けた取組を推進するとともに、交流人口拡大を目指し、域学連携の取組成果をベースに、対馬グローカル大学や対馬学フォーラムの開催、対馬ＳＤＧｓ実践塾の開催、対馬ＳＤＧｓ研究奨励などに係る事業実施のほか、大学及び企業との自動運転などの共同研究を進めます。

対馬の歴史や伝統文化を保全し、市民が対馬の魅力に誇りを持ち、様々な行事や交流等の生涯学習の機会を増やすため、博物館等での展示会、公民館講座、対馬の歴史・文化・伝統の伝承に関する取組への支援などに係る事業実施のほか、昨年１１月に公式アカウントを開設しましたＬＩＮＥ等のＳＮＳや本年４月からリニューアル予定の対馬市ホームページを活用して、行政情報提供の充実に努めます。

２つ目の挑戦は、「一次産業が持続可能な形で続けられる」、「観光産業等で地域経済が活性化している」、「新産業が作られ、雇用も多く確保できている」という将来像「地域経済が潤い続ける島」を目指しての「なりわいづくり」でございます。

持続可能な農林業の推進のため、耕作放棄地の有効活用の推進、経営の安定や規模拡大のための支援、農産物や木材の輸送コスト助成、対州そばや原木しいたけ生産者への支援、高性能林業機械導入支援、農林業の担い手確保対策、有害鳥獣対策、森林環境譲与税の活用、林道整備などに係る事業を実施します。

持続可能な水産業の推進のため、離島漁業再生支援交付金事業、燃油高騰対策や鮮魚・活魚等の輸送コスト助成による漁業者の経営改善支援、漁業後継者育成支援、食害魚等の有効活用のための調査研究、漁港・漁場整備などに係る事業を実施します。

持続可能な観光業の推進のため、「福岡事務所」及び「よりあい処つしま」等を活用した積極的な国境のしま対馬の発信、自然・文化・歴史等の地域資源を活用した体験メニューや旅行商品

の開発、インバウンド誘致に係る事業実施のほか、神話の里、三宇田浜園地、鰐浦園地等のリニューアル、金田城のＡＲ・ＶＲ復元や史跡入り口付近へのトイレ設置などを実施いたします。

持続可能な流通体制の構築、新たな産業の創出や持続可能な企業経営のため、特産品の開発支援、ふるさと納税返礼品の取扱品目の拡大、地域商社を中心とした対馬産品の加工商品開発や販売促進の支援、島外で開催される物産展等のＰＲイベントへの参加助成、各種イベントと連動した対馬産品のＰＲ、創業・事業拡大への支援、企業誘致、廃校を活用した新規事業に対する支援、商工業者の生産性向上設備の導入等に対する支援などに係る事業を実施します。

３つ目の挑戦は、「地域主導の活動が進められている」、「福祉・医療体制が維持され、安心して暮らせる」、「暮らしのライフラインが維持されている」という将来像「支え合いで自立した島」を目指しての「つながりづくり」でございます。

国境の島である対馬において、人のつながりによって得られる文化・自然・歴史・地域の豊かさを追求した、対馬らしい持続可能な島づくりを目指して、国内外の多様な主体が交流・連携する仕組みや機会をつくるため、国境マラソン大会、国境サイクリング大会、日韓市民ビーチクリーンアップ、朝鮮通信使ゆかりのまち全国交流大会等のイベント実施や小中学生を対象とした市内でのホームステイ等による多文化体験事業などを実施します。

高齢化が進む中で、全ての市民が生き生きと健康に、住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりを目指すため、各種検診の実施や啓発のための情報発信、地域の組織・団体による健康づくり活動や講習会の各種支援や高齢者の買い物支援、各種相談体制の充実などに係る事業を実施します。

生活インフラの維持と安全・安心なまちづくり、島内外の交通システムの利便性向上のため、道路・トンネル・橋りょうの定期的な点検、長寿命化や改良整備、消防団施設の更新、地域主体の防災・災害対策、路線バス維持の支援、コミュニティバスの運営支援、スクールバスの一般混乗の拡大、航空路・航路の路線維持などに係る事業を実施します。

４つ目の挑戦は、「豊かな自然環境が回復している」、「環境に負荷をかけない暮らしをしている」、「地域の資源をうまく活用している」という将来像「自然と暮らしが共存する島」を目指しての「ふるさとづくり」でございます。

里地里山の多様な生物との共生、海洋環境の保護により、豊かな自然の恵みを持続可能な形で享受できる地域づくりのため、国内希少野生動植物種であるツシマヤマネコ、ツシマウラボシシジミの保護対策、特定外来種ツマアカスズメバチ駆除対策、森林再生活動、生物多様性保全や環境配慮型の農業への取組支援、磯焼け対策などに係る事業を実施します。

ごみの削減とリサイクル推進のため、漂流・漂着ごみの発生抑制対策、発泡スチロール等の漂着ごみのペレット化による処分費の抑制やその利活用の検討、生ごみの分別と回収率向上対策、

合併浄化槽の設置推進などに係る事業を実施します。

気候変動対策に貢献する環境負荷の低いエネルギーの地産地消を目指して、木質バイオマスの島内利用の推進、洋上風力発電の導入に向けた調査・実証実験に係る事業を実施します。

対馬を代表する歴史文化遺産を保存し、その価値を後世に継承していくため、対馬藩関連遺産群保存活用計画の策定、越高遺跡、お船江跡などの保存整備、宗家文庫史料等の保存・研究、対馬の盆踊り保存活動への支援、対州馬の保存活用などに係る事業を実施します。

以上が、第２次対馬市総合計画に掲げる将来像への「４つの挑戦～対馬づくり～」に基づく各種事業でございます。

終わりに、対馬は、大陸に一番近い島であり、自然や文化にも大陸の影響を大きく残す宝の島であります。一昨年からの韓国人観光客の激減に加え、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大と、非常に厳しい状況ではありますが、身近にある島の宝をフルに活用して、第２次対馬市総合計画に掲げる「みんなで目指そう！自立と循環の宝の島　対馬」の実現に向け、市民協働のまちづくりに取り組んでまいります。

引き続き、市政に対します市民の皆様並びに議員各位の大いなる御支援と御協力を賜りますよう心からお願い申し上げ、施政方針といたします。

○議長（小川　廣康君）　以上で、市長の施政方針説明を終わります。

暫時休憩します。再開を１時ちょうどからといたします。

午後０時01分休憩

午後０時58分再開

○議長（小川　廣康君）　再開します。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第１２．議案第６号

○議長（小川　廣康君）　日程第１２、議案第６号、令和３年度対馬市一般会計予算を議題とします。

提案理由の説明を求めます。総務部長、有江正光君。

○総務部長（有江　正光君）　ただいま議題となりました議案第６号、令和３年度対馬市一般会計予算について、その提案理由と内容を御説明申し上げます。

予算の説明に先立ち、予算書と併せて別途配付しております当初予算資料を御覧ください。

一般会計をはじめ対馬市の各会計、当初予算の概要を記載しております。

３ページの当初予算総括表に、対馬市各会計の令和３年度当初予算額、前年度の当初予算額及び６月補正予算後の予算額を記載しております。前年度当初予算は、骨格予算として編成されて

おりますので、当初予算額及び６月補正後予算額との比較並びに増減率を記載しております。４ページに一般会計の歳入内訳比較表、５ページに歳出目的別内訳比較表、６ページに歳出性質別内訳比較表を掲載しておりますが、こちらでは６月補正後予算から、新型コロナウイルス関連部分を除いた額を令和３年度との比較対象としております。また、７から８ページに主な新規事業などをそれぞれ記載しております。御参照くださるようお願いいたします。

それでは、当初予算書３ページをお願いします。

令和３年度対馬市の一般会計予算は、次に定めるところによることを規定し、第１条第１項で、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ３０７億８，８００万円と定め、第２項で、歳入歳出予算の款項の区分及び当該区分ごとの金額を、４ページから８ページにかけての「第１表歳入歳出予算」によると定めております。

第２条で、地方自治法第２３０条第１項の規定により、起こすことができる地方債の起債の目的、限度額、起債の方法、利率及び償還の方法は、同じく１０ページから１１ページの「第２表地方債」によると定めております。

第３条で、地方自治法第２３５条の３第２項の規定による一時借入金の借入れの限度額を８０億円とし、第４条で、地方自治法第２２０条第２項ただし書の規定により、歳出予算の各項の経費の金額を流用することができる場合を定めております。

４ページをお願いいたします。

第１表歳入歳出予算についてでございますが、歳入及び歳出の款項の区分の金額については、４ページから８ページの第１表歳入歳出予算のとおりでございます。

１０ページをお願いいたします。

第２表地方債には、公共事業等債から水道事業債までそれぞれの限度額を定め、限度額合計を３３億７２０万円といたしております。

それでは、１２ページから記載しております歳入歳出予算事項別明細書により、主なものについて御説明いたします。

本年度の当初予算総額は３０７億８，８００万円で、対前年度比１９億３，４００万円の増でございます。

まず、歳入でございますが、１款市税は２７億４，３７７万１，０００円、前年度比較１億５，７６１万４，０００円の減で、その主な要因は、新型コロナウイルス感染の影響による所得の減少や固定資産税の評価替えによるものでございます。

２款地方譲与税から１０款地方特例交付金及び１２款交通安全対策特別交付金は、令和２年度の交付実績見込みや令和３年度地方財政計画などを基に計上いたしております。

１１款地方交付税は、地方財政計画におきましては５．１％の増でございますが、配分方法な

どが不確定であることを考慮し、対前年度比２．６％の増となる１３０億９，４３９万５，０００円を計上しております。内訳につきましては、普通交付税を対前年度３億３，０６４万７，０００円増の１２０億９，４３９万５，０００円、特別交付税は前年度と同額の１０億円をそれぞれ計上しております。

１３款分担金及び負担金は、養護老人ホーム入所負担金、保育所入所負担金など、９，３４９万５，０００円を計上しております。

１４款使用料及び手数料は、各種公共施設の使用料、戸籍及び塵芥収集手数料など、３億５，４８１万円を計上しております。

１５款国庫支出金は、４１億８，６１８万２，０００円の計上で、自立支援費負担金、生活保護費負担金、新型コロナウイルス接種対策費負担金、特定有人国境離島地域社会維持推進交付金、地方創生推進交付金、社会資本整備総合交付金などでございます。

１６款県支出金は、３２億５，５１６万８，０００円の計上で、保険基盤安定負担金、自立支援費負担金、特定有人国境離島地域社会維持推進交付金、地籍調査事業補助金、漁港整備事業補助金、離島漁業再生支援交付金などでございます。

１７款財産収入は、６，６３９万８，０００円の計上で、土地、建物の貸付収入などでございます。寄附金は２億５，０５０万円の計上で、ふるさと納税寄附金などでございます。

１９款繰入金は、２２億６，０９２万２，０００円の計上で、主なものとしては、財政調整基金、減債基金、振興基金、がんばれ国境の島対馬ふるさと応援基金、合併振興基金などからの繰入れでございます。

２２款市債は、漁港整備、市道改良、博物館建設などの事業に充当するため、公共事業等債、合併特例事業債、辺地対策事業債、過疎対策事業債など、３３億７２０万円を計上しております。

次に、歳出でございますが、１４ページをお願いします。

１款議会費は、議会活動費など１億８，８２６万２，０００円の計上で、前年度と比較し４０万９，０００円の減となっております。

２款総務費は、３７億２，７２３万円の計上で、前年度と比較し２億４，３６４万１，０００円の増となっております。増の主なものは、市議会議員選挙費、県知事選挙費、衆議院議員総選挙費、浮体式洋上風力発電による地域の脱炭素化ビジネス促進事業費、２１世紀まちづくり推進総合支援事業費などでございます。

３款民生費は、６８億２，２３９万８，０００円の計上で、前年度と比較しまして１億６，０２７万２，０００円の増となっております。増の主なものは、自立支援事業費、認定こども園整備事業費、生活保護費などでございます。

４款衛生費は、４２億２，０７０万２，０００円の計上で、昨年度と比較しまして２億

７，９９１万３，０００円の増となっております。増の主なものは、新型コロナウイルスワクチン接種を含む予防接種事業費、塵芥処理費、海岸漂着物地域対策推進事業費、し尿処理費などでございます。

６款農林水産業費は、３５億２，７９４万６，０００円の計上で、前年度と比較しまして５億３，９９３万６，０００円の増となっております。増の主なものは、産地水産強化支援事業費、漁場・漁港整備事業費、森林環境譲与税活用事業費、持続可能な新水産業創造事業費、離島漁業再生支援交付金事業費、燃油高騰対策事業費などでございます。

７款商工費は、１０億７，４６８万３，０００円の計上で、昨年度と比較しまして４億２万６，０００円の増となっております。増の主なものは、滞在型観光促進支援事業費、地域社会維持推進交付金事業費、歴史資産活用事業費、三宇田浜園地リニューアル事業費、鰐浦園地整備事業費、湯多里ランドつしまプール施設の管理運営費などでございます。

８款土木費は、２０億４７８万９，０００円の計上で、前年度と比較しまして２億２，４０３万円の減となっております。減の主なものは、内山川改修事業費、厳原港国内ターミナル建設事業費などでございます。

９款消防費は、１１億４，３８７万７，０００円の計上で、前年度と比較しまして８，３９８万円の増となっております。増の主なものは、消防署支署建設事業費、耐震性貯水槽建設事業費などでございます。

１０款教育費は、３０億５，３３３万５，０００円の計上で、前年度と比較しまして１億３，５５７万８，０００円の増となっております。増の主なものは、博物館建設事業費、学校給食共同調理場整備事業費、小学校ＩＣＴ機器に係る通信運搬費などでございます。

１１款災害復旧費は、２億３，３４０万円の計上で、前年度と比較しまして２億３，２６７万４，０００円の増となっております。増の主なものは、市道目保呂ダム支線の災害復旧費でございます。

１２款公債費は、４７億１，２３２万１，０００円の計上で、前年度と比較しまして、６，７９４万９，０００円の増となっております。

１３款諸支出金は、旅客定期航路事業特別会計繰出金として１，９０５万７，０００円を計上し、１４款予備費は、６，０００万円を計上しております。

なお、１８４ページから１９１ページにかけまして特別職及び一般職の給与費明細書を、また１９２から１９３ページに継続費に関する調書を、１９４ページから１９９ページにかけまして債務負担行為に関する調書を、２００ページから２０１ページに地方債に関する調書を掲げておりますので、御参照方お願いいたします。

以上、簡単ではございますが、令和３年度対馬市一般会計予算の説明を終わります。御審議の

上、御決定賜りますようお願い申し上げます。

○議長（小川　廣康君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑ありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（小川　廣康君）　質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

お諮りします。本件は、議長を除く全議員を委員とする予算審査特別委員会を設置し、これに付託して審査をすることにしたいと思いますが、御異議ございませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（小川　廣康君）　異議なしと認めます。本件は、議長を除く全議員を委員とする予算審査特別委員会を設置し、これに付託して審査することに決定をいたしました。

正副委員長互選のため、予算審査特別委員会を議員控室に招集いたします。

暫時休憩します。

午後１時15分休憩

午後１時27分再開

○議長（小川　廣康君）　再開します。

報告します。予算審査特別委員会の委員長に大部初幸君、副委員長に作元義文君が決定されました。

なお、委員会の審査報告は３月１６日に行います。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

○議長（小川　廣康君）　以上で、本日の議事日程は全て終了しました。明日は定刻から本会議を開き、議案説明等を行います。

本日は、これで散会とします。お疲れさまでした。

午後１時28分散会

令和３年　第１回　対　馬　市　議　会　定　例　会　会　議　録（第２日）

令和３年２月26日（金曜日）

議事日程（第２号）

令和３年２月26日　午前10時00分開議

日程第１　議案第７号　令和３年度対馬市診療所特別会計予算

日程第２　議案第８号　令和３年度対馬市国民健康保険特別会計予算

日程第３　議案第９号　令和３年度対馬市後期高齢者医療特別会計予算

日程第４　議案第10号　令和３年度対馬市介護保険特別会計予算

日程第５　議案第11号　令和３年度対馬市旅客定期航路事業特別会計予算

日程第６　議案第12号　令和３年度対馬市集落排水処理施設特別会計予算

日程第７　議案第13号　令和３年度対馬市水道事業会計予算

日程第８　議案第14号　対馬市部設置条例の一部を改正する条例

日程第９　議案第15号　対馬市会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例

日程第10　議案第16号　対馬市分担金徴収条例の一部を改正する条例

日程第11　議案第17号　対馬市教職員住宅管理及び使用料条例の一部を改正する条例

日程第12　議案第18号　対馬市体育施設条例の一部を改正する条例

日程第13　議案第19号　対馬市へき地保育所条例の一部を改正する条例

日程第14　議案第20号　対馬市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例

日程第15　議案第21号　対馬市介護保険条例の一部を改正する条例

日程第16　議案第22号　対馬市指定居宅介護支援事業者の指定に関し必要な事項並びに指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例

日程第17　議案第23号　対馬市市道の構造の技術的基準等を定める条例の一部を改正する条例

日程第18　議案第24号　対馬市道路占用料徴収条例の一部を改正する条例

日程第19　議案第25号　第２次対馬市総合計画（後期計画）について

日程第20　議案第26号　辺地に係る公共的施設の総合的な整備計画について

日程第21　議案第27号　あらたに生じた土地の確認及び字の区域の変更について（横浦地区）

日程第22　議案第28号　あらたに生じた土地の確認及び字の区域の変更について（横浦地区）

日程第23　議案第29号　港湾区域内公有水面の埋立てについて（比田勝港湾）

日程第24　議案第30号　損害賠償の額の決定について

日程第25　議案第31号　権利の放棄について

日程第26　諮問第１号　人権擁護委員候補者の推薦について

本日の会議に付した事件

日程第１　議案第７号　令和３年度対馬市診療所特別会計予算

日程第２　議案第８号　令和３年度対馬市国民健康保険特別会計予算

日程第３　議案第９号　令和３年度対馬市後期高齢者医療特別会計予算

日程第４　議案第10号　令和３年度対馬市介護保険特別会計予算

日程第５　議案第11号　令和３年度対馬市旅客定期航路事業特別会計予算

日程第６　議案第12号　令和３年度対馬市集落排水処理施設特別会計予算

日程第７　議案第13号　令和３年度対馬市水道事業会計予算

日程第８　議案第14号　対馬市部設置条例の一部を改正する条例

日程第９　議案第15号　対馬市会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例

日程第10　議案第16号　対馬市分担金徴収条例の一部を改正する条例

日程第11　議案第17号　対馬市教職員住宅管理及び使用料条例の一部を改正する条例

日程第12　議案第18号　対馬市体育施設条例の一部を改正する条例

日程第13　議案第19号　対馬市へき地保育所条例の一部を改正する条例

日程第14　議案第20号　対馬市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例

日程第15　議案第21号　対馬市介護保険条例の一部を改正する条例

日程第16　議案第22号　対馬市指定居宅介護支援事業者の指定に関し必要な事項並びに指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例

日程第17　議案第23号　対馬市市道の構造の技術的基準等を定める条例の一部を改

正する条例

日程第18　議案第24号　対馬市道路占用料徴収条例の一部を改正する条例

日程第19　議案第25号　第２次対馬市総合計画（後期計画）について

日程第20　議案第26号　辺地に係る公共的施設の総合的な整備計画について

日程第21　議案第27号　あらたに生じた土地の確認及び字の区域の変更について（横浦地区）

日程第22　議案第28号　あらたに生じた土地の確認及び字の区域の変更について（横浦地区）

日程第23　議案第29号　港湾区域内公有水面の埋立てについて（比田勝港湾）

日程第24　議案第30号　損害賠償の額の決定について

日程第25　議案第31号　権利の放棄について

日程第26　諮問第１号　人権擁護委員候補者の推薦について

出席議員（19名）

１番　坂本　充弘君	２番　伊原　　徹君
３番　長郷　泰二君	４番　春田　新一君
５番　小島　徳重君	６番　吉見　優子君
７番　渕上　　清君	８番　黒田　昭雄君
９番　小田　昭人君	10番　山本　輝昭君
11番　波田　政和君	12番　小宮　教義君
13番　齋藤　久光君	14番　初村　久藏君
15番　大浦　孝司君	16番　大部　初幸君
17番　作元　義文君	18番　上野洋次郎君
19番　小川　廣康君	

欠席議員（なし）

欠　　員（なし）

事務局出席職員職氏名

局長	阿比留伊勢男君	次長	國分　幸和君
課長補佐	梅野　浩二君	課長補佐	柚谷　智之君

説明のため出席した者の職氏名

市長	比田勝尚喜君
副市長	俵　　輝孝君
教育長	永留　和博君
総務部長	有江　正光君
総務課長（選挙管理委員会事務局書記長）	桐谷　和孝君
しまづくり推進部長	武末　祥人君
観光交流商工部長	二宮　照幸君
市民生活部長	乙成　一也君
福祉保険部長	古里　正人君
健康づくり推進部長	松井　惠夫君
農林水産部長	佐々木雅仁君
建設部長	伊賀　敏治君
水道局長	立花　大功君
教育部長	阿比留裕史君
中対馬振興部長	波田　安徳君
上対馬振興部長	森山　忠昭君
美津島行政サービスセンター所長	瀧川　昌浩君
峰行政サービスセンター所長	扇　　明宏君
上県行政サービスセンター所長	原田　勝彦君
消防長	主藤　庄司君
会計管理者	阿比留　裕君
監査委員事務局長	御手洗逸男君
農業委員会事務局長	庄司　智文君

午前10時00分開議

○議長（小川　廣康君）　おはようございます。

配付しております議事日程第２号により本日の会議を開きます。

日程第１．議案第７号

日程第２．議案第８号

日程第３．議案第９号

日程第４．議案第１０号

○議長（小川　廣康君）　日程第１、議案第７号、令和３年度対馬市診療所特別会計予算から日程第４、議案第１０号、令和３年度対馬市介護保険特別会計予算までの４件を一括議題とします。

提案理由の説明を求めます。健康づくり推進部長、松井惠夫君。

○健康づくり推進部長（松井　惠夫君）　ただいま一括議題となりました議案第７号、令和３年度対馬市診療所特別会計予算につきまして、その提案理由と内容を御説明いたします。

予算書は３ページをお願いいたします。

令和３年度対馬市診療所特別会計予算は、次に定めるところによることを規定し、第１条第１項で、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ４億５，７３１万９，０００円と定め、第２項で、歳入歳出予算の款項の区分及び当該区分ごとの金額を４ページから５ページにかけての「第１表歳入歳出予算」によると定めております。

それでは、６ページからの歳入歳出予算事項別明細書により主な予算につきまして御説明いたします。

本年度の予算の状況は、合計欄に記載のとおり４億５，７３１万９，０００円で、対前年度比６７４万３，０００円、１．５％の増でございます。これは令和２年４月から直営となりました佐賀診療所の診療収入、医薬材料費の増額が主な要因でございます。

８ページから９ページをお願いいたします。

まず、歳入でございます。

１款診療収入１項外来収入は、直営診療所の診療収入を対前年度比０．９％増の２億２，８５４万円としております。

２款使用料及び手数料１項手数料は、診断書等手数料の収入見込額を２１６万円としております。

３款県支出金１項県補助金へき地医療対策費補助金は、実績等を基に１，５００万円を計上しております。

４款繰入金１項１目一般会計繰入金は、対前年度比３．６％、６０１万６，０００円減の１億６，２６６万４，０００円を計上しております。

１０ページから１１ページをお願いいたします。

６款諸収入１項雑入は、予防接種、特定健診等収入を対前年比３０．４％増の４，８４５万５，０００円を計上しております。

次に、歳出について御説明いたします。

１２ページから１３ページをお願いいたします。

１款総務費１項１目一般管理費に、３億３，６６４万５，０００円を計上しております。主なものといたしましては、１節報酬に、医師及び看護師等会計年度任用職員報酬として１億６，２４０万６，０００円を、１０節需用費は、各診療所の光熱水費６９３万１，０００円、修繕料３２８万２，０００円など１，３０３万２，０００円を、１１節役務費は、通信運搬費１７３万１，０００円、生化学検査手数料７４５万８，０００円など１，１６７万８，０００円を、１２節委託料は、診療所への医師等派遣委託料、施設の保守・点検委託料など２，８８１万７，０００円を、１３節使用料及び賃借料に、診療所医事システム、派遣医師送迎タクシー借り上げ料など８１３万５，０００円を、１８節負担金、補助及び交付金は、公設民営診療所運営等補助金など１，１３２万５，０００円を計上しております。

２款医業費１項医業費は、直営診療所の医療用器具リース料、医薬材料費など１億２，０６７万４，０００円を計上しております。

なお、１６ページから２０ページにかけまして、給与費明細書を掲げておりますので、御参照願います。

以上で、提案理由の説明を終わります。よろしく御審議の上、御決定賜りますようお願い申し上げます。

○議長（小川　廣康君）　福祉保険部長、古里正人君。

○福祉保険部長（古里　正人君）　ただいま一括議題となりました議案第８号から議案第１０号までにつきましては、福祉保険部所管の議案でございますので、その提案理由と内容につきまして御説明申し上げます。

まず、議案第８号、令和３年度対馬市国民健康保険特別会計予算でございますが、予算書の３ページを御覧願います。

令和３年度対馬市国民健康保険特別会計予算は、次に定めるところによることを規定し、第１条第１項で、歳入歳出予算の総額は、歳入歳出それぞれ４５億１，９００万円とするものでございます。第２項で、歳入歳出予算の款項の区分及び当該区分ごとの金額は、４ページから５ページにかけての「第１表歳入歳出予算」によるとするものでございます。

第２条で、地方自治法第２３５条の３第２項の規定による一時借入金の借入れの最高額を、５億３，０００万円と定めるものでございます。

次に、歳入歳出予算の主な内容につきまして御説明申し上げます。

まず、歳入でございますが、８ページから９ページを御覧願います。

１款１項国民健康保険税は、１目一般被保険者分と２目退職被保険者等分を合わせまして８億７１万８，０００円を計上いたしております。

４款県支出金２項県補助金は、１目保険給付費等交付金として３２億８，２４７万２，０００円

を計上いたしました。

１０ページから１１ページをお願いいたします。

６款繰入金は、１項他会計繰入金として１目一般会計繰入金で、１節保険基盤安定繰入金、２節職員給与費等繰入金、３節出産育児一時金等繰入金、４節財政安定化支援事業繰入金を合わせまして３億５，８９６万５，０００円を、２項基金繰入金は、１目財政調整基金繰入金として７，２１８万１，０００円を計上いたしております。

続きまして、歳出につきまして御説明申し上げます。

１４ページから１５ページを御覧願います。

１款総務費１項総務管理費は、主なものといたしまして、１目一般管理費で、１１節役務費の通信運搬費、システム手数料及び１２節委託料のシステム改修業務、３目医療費適正化特別対策事業は、月額会計年度任用職員の人件費などを合わせて、１項総務管理費に２，７７０万７，０００円を計上いたしております。

１６ページから１７ページをお願いいたします。

２項徴税費は、１８節負担金、補助及び交付金の納税組合交付金などで１，８０７万６，０００円を計上いたしております。

２款保険給付費１項療養諸費は、１目一般被保険者療養給付費など、合わせて２７億５，２０８万１，０００円を計上いたしました。

１８ページから１９ページをお願いいたします。

２項高額療養費は、４億５，０２９万１，０００円の計上でございます。

４項１目の出産育児一時金は、５０名分２，１００万円を計上いたしております。

５項１目葬祭費は、１件当たり２万円で７０件を見込み、１４０万円を計上いたしております。

２０ページから２１ページをお願いいたします。

３款国民健康保険事業費納付金は、医療給付費分、後期高齢者支援金等分及び介護納付金分合わせまして、１１億７，４４４万４，０００円を計上いたしております。

次に、２３ページまで併せて御覧願います。

５款保健事業費１項特定健康診査等事業費は特定健康診査受診率向上のための会計年度任用職員の人件費及び特定健康診査の委託料、また負担金補助及び交付金として、人間ドックを受診されたときの助成として２万円を上限として、１００名分２００万円を計上いたしております。

２４ページから２７ページに、給与費明細書を添付いたしておりますので、御参照願います。

続きまして、議案第９号、令和３年度対馬市後期高齢者医療特別会計予算につきまして御説明申し上げます。

３ページを御覧願います。

令和３年度対馬市後期高齢者医療特別会計予算は、次に定めるところによることを規定し、第１条第１項で歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ３億９，８１３万４，０００円とするものでございます。第２項で、歳入歳出予算の款項の区分及び当該区分ごとの金額は、４ページから５ページにかけての「第１表歳入歳出予算」によるとするものでございます。

次に、歳入歳出予算の主な内容につきまして御説明申し上げます。

８ページから９ページを御覧願います。

まず、歳入でございますが、１款１項後期高齢者医療保険料は、特別徴収保険料と普通徴収保険料を合わせて２億４，０３２万８，０００円を計上いたしております。

５款繰入金１項一般会計繰入金は、１目事務費繰入金及び２目保険基盤安定繰入金を合わせまして１億５，７３０万１，０００円を計上いたしております。

次に、歳出につきまして御説明申し上げます。

１２ページから１３ページを御覧願います。

１款総務費１項総務管理費１目一般管理費は、２，９２３万２，０００円を計上いたしております。主なものは、職員の人件費のほか、１８節の広域連合事務費負担金１，５２９万円でございます。

２款後期高齢者医療広域連合給付金は、保険基盤安定負担金及び保険料納付金として３億６，８３０万１，０００円を計上いたしております。

１６ページから２０ページに給与費明細書を添付いたしておりますので、御参照願います。

続きまして、議案第１０号、令和３年度対馬市介護保険特別会計予算につきまして、御説明を申し上げます。

３ページを御覧願います。

令和３年度対馬市介護保険特別会計予算は、次に定めるところによることを規定し、第１条第１項で、歳入歳出予算の総額は、歳入歳出それぞれ４０億３，２８６万６，０００円とするものでございます。第２項で、歳入歳出予算の款項の区分及び当該区分ごとの金額は、４ページから５ページにかけての「第１表歳入歳出予算」によるとするものでございます。

第２条で、地方自治法第２２０条第２項ただし書の規定により、歳出予算の各項の経費の金額を流用することができる場合として、保険給付費の各項に計上した予算額に過不足を生じた場合における同一款内でのこれらの経費の各項の間の流用といたしております。

次に、歳入歳出予算の主な内容につきまして御説明申し上げます。

まず、歳入でございますが、８ページから９ページを御覧願います。

１款保険料１項介護保険料は、第１号被保険者に係る特別徴収保険料及び普通徴収保険料等６億３，０５２万９，０００円を計上いたしました。

３款国庫支出金１項国庫負担金は、介護給付費に６億３，６１７万６，０００円を、２項国庫補助金は、調整交付金及び地域支援事業交付金として３億８，５５０万３，０００円をそれぞれ計上いたしております。

４款１項支払基金交付金は、第２号被保険者に係る保険料で、支払基金からの介護給付費交付金及び地域支援事業支援交付金と合わせまして１０億２，０５５万７，０００円を計上いたしております。

１０ページから１１ページをお願いいたします。

５款県支出金１項県負担金は、１目介護給付費負担金５億４，００８万１，０００円、２項県補助金は、４目介護予防事業及び５目包括的支援事業などに係る地域支援事業交付金として４，４００万円を計上いたしました。

７款繰入金１項他会計繰入金は、一般会計からの繰入金として、職員給与費等繰入金のほか、４節の低所得者保険料軽減負担繰入金など合わせまして６億７，３７６万３，０００円を、２項基金繰入金は、介護給付費準備基金繰入金として６，９７８万２，０００円を計上いたしております。

１２ページから１３ページをお願いいたします。

９款諸収入２項サービス事業収入は、介護予防支援事業収入として、介護予防サービス計画費のほか、包括的・継続的ケアマネジメント支援事業費など３，２４０万円を計上いたしております。

次に、歳出につきまして御説明申し上げます。

１４ページから１５ページを御覧願います。

１款総務費１項総務管理費１目一般管理費は、職員給与費などの人件費、一般事務費など５，８６５万円を計上いたしております。３項介護認定審査会費は、委員報酬、１６ページから１７ページを御覧願います。医師の意見書作成委託料など２，２４８万円を計上いたしております。２目認定調査等費は、会計年度任用職員の人件費、認定調査費委託料など１，４３７万８，０００円を計上いたしております。５項１目計画策定委員会費は、委員会開催のための委員報酬などを計上いたしました。

２款保険給付費１項介護サービス等諸費は、主に居宅介護サービス給付費負担金など合わせまして３２億２，７２７万６，０００円を計上いたしております。

１８ページから１９ページをお願いいたします。

２項１目介護予防サービス給付費は、９，０６６万４，０００円を計上いたしております。３項その他諸費は、１目審査支払手数料として３３０万９，０００円、４項高額介護サービス等費は８，２０７万３，０００円、５項高額医療合算介護サービス費は１，０４４万１，０００円、６項特定入所者介護サービス等費は２億５１万８，０００円をそれぞれ計上いたしております。

２０ページから２１ページをお願いいたします。

８款地域支援事業費１項介護予防・生活支援サービス事業費は、介護予防・生活支援サービス事業負担金など１億５，２８０万円を計上いたしております。２項一般介護予防事業費は、介護予防教室の経費やケーブルテレビを利用した健康体操の放送委託料、介護予防団体の助成金など１，０８８万1，０００円を計上いたしました。

２２ページから２３ページをお願いいたします。

３項１目包括的・継続的ケアマネジメント支援事業費は、地域包括支援センター３か所の職員及び月額会計年度任用職員の人件費のほか、１２節委託料の生活支援コーディネーター事業委託料、１８節対馬市社会福祉協議会出向職員４名分の給料など、派遣職員給与等負担金、認知症ケア向上研修助成金など、合わせて１億3，５９２万9，０００円を計上いたしております。

２４ページから２５ページをお願いいたします。

２目任意事業費は、「認知症高齢者家族の集い」講師謝礼、権利擁護のための成年後見人制度報酬助成金など合わせて４７８万5，０００円を計上いたしております。

４項その他諸費は、１目審査支払手数料２目介護予防サービス計画策定委託料合わせて１，２８９万8，０００円を計上いたしております。

２６ページから３２ページに、給与費明細書を添付いたしておりますので、御参照願います。

以上、簡単ではございますが、議案第８号から議案第１０号までの提案理由の説明とさせていただきます。御審議の上、御決定賜りますようよろしくお願い申し上げます。

○議長（小川　廣康君）　説明が終わりました。

これから４件に対する一括質疑を行います。

質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　質疑なしと認め、質疑を終わります。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第５．議案第１１号

○議長（小川　廣康君）　日程第５、議案第１１号、令和３年度対馬市旅客定期航路事業特別会計予算を議題とします。

提案理由の説明を求めます。中対馬振興部長、波田安徳君。

○中対馬振興部長（波田　安徳君）　ただいま議題となりました議案第１１号、令和３年度対馬市旅客定期航路事業特別会計予算について、提案理由と内容について御説明申し上げます。

予算書の３ページをお願いいたします。

令和３年度対馬市の旅客定期航路事業特別会計予算は、次に定めるところによることを規定し、

第１条第１項、歳入歳出の総額は、歳入歳出それぞれ４，０９７万９，０００円とするものでございます。第２項、歳入歳出予算の款項の区分及び当該区分ごとの金額は、４ページから５ページの「第１表歳入歳出予算」によるとするものでございます。

まず、歳入について御説明申し上げます。

８ページから９ページをお願いいたします。

１款事業収入１項事業収入の２３８万３，０００円は、旅客運賃及び貨物運賃を計上しております。

２款国庫支出金１項国庫補助金の１，５５５万１，０００円は、赤字航路事業に対する国の補助金でございます。

３款県支出金１項県補助金の３８８万７，０００円は、赤字航路事業に対する県補助金でございます。

４款繰入金１項他会計繰入金の１，９０５万７，０００円は、一般会計からの繰入金でございます。

５款財産収入１項財産運用収入は、基金利子１，０００円。

６款繰越金１項繰越金は、前年度繰越金１０万円を計上しております。

次に、歳出について御説明申し上げます。

１０ページから１３ページをお願いいたします。

１款総務費１項総務管理費の２，４２９万１，０００円は、職員、船員等の人件費、旅費及び日本旅客船協会等の負担金を計上しております。

２款施設費１項施設費の１，０４７万１，０００円は、渡海船運航に必要な燃料費、修繕料及び渡海船利用者陸上交通運行委託料が主なものでございます。そのほかに、旅客傷害保険料、船舶保険料等を計上しております。

３款公債費１項公債費の６１１万７，０００円は、長板浦待合所建設及び渡海船建造に係る交通事業債の償還金元金及び利子でございます。

また、４款１項に予備費を１０万円計上しております。

１４ページから１５ページに給与費明細書、１９ページには地方債の前々年度末における現在高並びに前年度末及び当該年度末における現在高の見込みに関する調書を添付しておりますので、御参照願います。

以上、簡単ではございますが、説明を終わります。御審議の上、御決定賜りますようよろしくお願いいたします。

○議長（小川　廣康君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　質疑なしと認め、質疑を終わります。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第６．議案第１２号

日程第７．議案第１３号

○議長（小川　廣康君）　日程第６、議案第１２号、令和３年度対馬市集落排水処理施設特別会計予算及び日程第７、議案第１３号、令和３年度対馬市水道事業会計予算の２件を一括議題とします。

提案理由の説明を求めます。水道局長、立花大功君。

○水道局長（立花　大功君）　ただいま一括議題となりました議案第１２号、令和３年度対馬市集落排水処理施設特別会計予算及び議案第１３号、令和３年度対馬市水道事業会計予算につきましては、水道局所管の議案でございますので、続けて提案理由とその内容を御説明申し上げます。

まず、議案第１２号、令和３年度対馬市集落排水処理施設特別会計予算について御説明申し上げます。

予算書３ページをお願いいたします。

令和３年度対馬市集落排水処理施設特別会計予算は、次に定めることによることを規定し、第１条第１項で歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ２，４０１万６，０００円とするものでございます。第２項で歳入歳出予算の款項の区分及び当該区分ごとの金額は、４ページから５ページの「第１表歳入歳出予算」によるとするものでございます。

予算の概要の歳入について御説明いたします。

８ページから９ページをお願いいたします。

１款使用料及び手数料１項使用料２６９万４，０００円は、下水道使用料。

３款繰入金１項他会計繰入金２，１２５万１，０００円は、一般会計からの繰入金。

４款繰越金１項繰越金１，０００円は、前年度繰越金。

５款諸収入１項雑入７万円は、下水道加入金でございます。

次に、歳出について御説明いたします。

１０ページから１１ページをお願いいたします。

１款下水道事業費１項下水道管理費１目一般管理費１５万２，０００円は、主に下水道使用料金の徴収業務委託料でございます。２目施設管理費８２９万３，０００円は、集落排水処理施設の維持管理に係る費用でございます。

２款公債費１項公債費１，５５７万１，０００円は、地方債償還金の元金及び利子を計上しております。

１２ページに、地方債に関わる調書を添付しておりますので、御参照ください。

続きまして、議案第１３号、令和３年度対馬市水道事業会計予算について御説明申し上げます。

予算書の３ページをお願いいたします。

第１条で、令和３年度対馬市水道事業会計予算は、次に定めるところによることを規定し、第２条で、業務の予定量は、給水戸数を１万５，３３０戸、年間総配水量を４１６万８，０４０立方メートル、１日平均給水量を１万１，４１９立方メートルとするものでございます。

主要な建設改良事業は３億７，３３６万７，０００円で、その内訳は、施設整備事業等で１億４，５３０万円、簡易水道基幹改良事業といたしまして、中央地区と三根地区の２つの簡易水道事業で２億２，８０６万７，０００円を予定しております。

第３条で、収益的収入の予定額を第１款水道事業収益１１億２，６６０万５，０００円、収益的支出の予定額を第１款水道事業費用９億８，３１２万８，０００円と定めるものでございます。

第４条で、資本的収入予定額を第１款資本的収入３億８９０万７，０００円、資本的支出の予定額を第１款資本的支出６億７，０４７万２，０００円と定めるものでございます。

なお、資本的収入額が資本的支出額に対し、不足する額３億６，１５６万５，０００円は、当年度分消費税資本的収支調整額２，６３０万６，０００円、当年度分損益勘定留保資金２億９６３万３，０００円、減債積立金４，４９６万６，０００円、建設改良積立金８，０６６万円で補塡するものでございます。

４ページをお願いいたします。

第５条で、企業債の目的、限度額、起債の方法、利率及び償還の方法について定め、第６条で、一時借入金の限度額を５億円と定め、第７条で、予定支出の各項の経費の金額の流用について定め、第８条で、議会の議決を経なければ流用することができない経費を定め、第９条で、一般会計からの負担金の額を定め、第１０条で、たな卸資産の購入限度額を８００万円と定めるものでございます。

以上、地方公営企業法第２４条第２項の規定により、提案するものでございます。

５ページから予算に関する説明書、２５ページから附属資料を添付しておりますので、御参照ください。

以上で、議案第１２号、令和３年度対馬市集落排水処理施設特別会計予算及び議案第１３号、令和３年度対馬市水道事業会計予算の提案理由の説明を終わります。御審議の上、御決定賜りますようよろしくお願い申し上げます。

○議長（小川　廣康君）　説明が終わりました。

これから２件に対する一括質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　質疑なしと認め、質疑を終わります。

議案第７号から議案第１３号までの７件は、配付しております議案審査付託表のとおり所管の常任委員会に付託をいたします。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第８．議案第１４号

日程第９．議案第１５号

日程第１０．議案第１６号

日程第１１．議案第１７号

日程第１２．議案第１８号

日程第１３．議案第１９号

日程第１４．議案第２０号

日程第１５．議案第２１号

日程第１６．議案第２２号

日程第１７．議案第２３号

日程第１８．議案第２４号

○議長（小川　廣康君）　日程第８、議案第１４号、対馬市部設置条例の一部を改正する条例から、日程第１８、議案第２４号、対馬市道路占用料徴収条例の一部を改正する条例までの１１件を一括議題とします。

提案理由の説明を求めます。総務部長、有江正光君。

○総務部長（有江　正光君）　ただいま一括議題となりました議案のうち、総務部所管分について、その提案理由と内容を御説明申し上げます。

議案第１４号、対馬市部設置条例の一部を改正する条例についてでございますが、このたびの部設置条例の一部改正は、その配下にある課体制の見直しに伴うもので、その主な内容について先に御説明をいたします。

国は、本年９月のデジタル庁発足を決め、デジタル社会の形成に関する施策を迅速かつ重点的に推進することから、本市におきましても情報政策電子自治体を推進するため、総務部総務課内にＩＣＴ推進室を新設いたします。

また、本市は、昨年７月にＳＤＧｓ未来都市の選定を受けたことから、組織内の関連事業を加速化し統括するために、しまづくり推進部内にＳＤＧｓ推進室を新設します。

また、農林水産部内に自然共生課を新設し、希少野生生物の保護及び啓発、有害鳥獣の駆除及び利活用を一体感を持って取組を進めます。その一方では、現在、国内におきましても順次、新型コロナワクチンの接種が開始されることから、主管する部署の組織見直しについては先送りを

いたしております。

以上が概要でございます。

それでは新旧対照表２ページを御覧ください。

第２条に定める部の分掌事務について、観光交流商工部の自然環境保護に関することを農林水産部へ移管し、農林水産部の農林水産業に関することのうち、農道、林道、漁港及び漁場に関することを建設部へ移管いたします。

なお、附則で、施行日を令和３年４月１日としております。

次に、議案第１５号、対馬市会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例についてでございます。

新旧対照表４ページを御覧ください。

現行では、会計年度任用職員のうち月額で報酬を定める報酬職員が、自家用車で通勤する場合にのみ通勤に係る費用弁償を支給することと規定し、その通勤距離の上限を３５キロメートルと規定をしております。バスなどの交通機関を利用して通勤する場合、３５キロメートルを超えて長距離通勤する場合においても、給料職員と同様に費用弁償の支給ができるよう改正するものでございます。

ＪＥＴプログラム参加者として区分をしております外国語指導助手、国際交流員につきましても、通勤に係る費用弁償を支給できるよう併せて改正いたします。

さらに、現在、業務委託としております介護認定調査員を令和３年度から会計年度任用職員として任用することから、別表第１の行政職給料表に適用される職種に追加するよう改正をいたします。

なお、附則で、施行日を令和３年４月１日としております。

以上で、提案理由の説明を終わります。よろしく御審議の上、御決定賜りますようお願い申し上げます。

○議長（小川　廣康君）　農林水産部長、佐々木雅仁君。

○農林水産部長（佐々木雅仁君）　ただいま一括議題となりました議案第１６号、対馬市分担金徴収条例の一部を改正する条例について、提案理由とその内容について御説明申し上げます。

新旧対照表の７ページ、８ページを御参照ください。

今回の改正は、別表のうち漁港施設整備事業の事業種別について、国の補助事業の名称変更及び新規事業の追加等により、分担金対象事業の判断において事務遂行上不明瞭であるため、事業種別を係留施設整備事業、施設用地整備事業、急傾斜地整備事業の３事業に統一し改正するものであります。

なお、附則で、施行日を公布の日からとしております。

以上、簡単でございますが、説明を終わります。御審議の上、御決定賜りますようよろしくお願い申し上げます。

○議長（小川　廣康君）　教育部長、阿比留裕史君。

○教育部長（阿比留裕史君）　一括上程となりました議案のうち、第１７号、第１８号は教育委員会所管の議案でございますので、その提案理由を御説明申し上げます。

まず、議案第１７号、対馬市教職員住宅管理及び使用料条例の一部を改正する条例について御説明いたします。

新旧対照表は９ページから１３ページでございます。

今回の改正は、厳原町内山にあります旧内山分校の教職員住宅の解体及び旧佐護小中学校教職員住宅を学校の用途廃止と合わせ、教育財産から普通財産へ移管したことにより、条例から削除しようとするものでございます。

対象となります教職員住宅は、新旧対照表で御説明しますと、９ページの別表中、現行の欄の番号１の項の２戸と１２ページ、６９項の３戸及び７４、７５項の１戸ずつ、７７、７８項の２戸ずつを削り、合わせましてこの番号の繰上げの改正を行うものでございます。

この改正により、教職員住宅は条例上、１０２棟１７２戸となります。

今後におきましても、普通財産へ移管できる空き教員住宅につきましては、市長部局と連携し活用を図ってまいりたいと考えております。

御理解いただきますようお願いいたします。

なお、附則で、施行期日を公布の日からとしております。

次に、議案第１８号、対馬市体育施設の一部を改正する条例について御説明します。

議案書の１３ページ、新旧対照表は１４ページを御参照ください。

今回の改正は、学校の統廃合により廃校となります豊玉町小綱小学校の体育館につきまして、関係地区の皆様から社会体育施設として活用したいとの要望がございましたので、対馬市体育施設条例の一部を改正するものでございます。

別表第１中、名称及び位置として対馬市塩浦体育館の項の次に、対馬市綱島体育館、対馬市豊玉町小綱２２番地を加えるものでございます。

この改正を行うことにより、地域住民の皆様の健康増進及び地域コミュニティーの活性化に寄与できるものと考え、所要の改正を行うものでございます。

なお、附則で、施行期日を令和３年７月１日としております。

以上で、提案理由の説明を終わらせていただきます。御審議の上、決定賜りますようよろしくお願いいたします。

○議長（小川　廣康君）　福祉保険部長、古里正人君。

○福祉保険部長（古里　正人君）　ただいま一括議題となりました議案第１９号から議案第２２号までにつきましては、福祉保険部所管の議案でございますので、その提案理由と内容につきまして、御説明申し上げます。

まず、議案第１９号、対馬市へき地保育所条例の一部を改正する条例につきまして御説明申し上げます。

新旧対照表の１５ページを御覧願います。

この条例は、令和２年４月１日より休園いたしておりました乙宮へき地保育所の廃止に関しまして同条例の一部を改正するものでございます。

同保育所につきましては、令和元年度の入所児童数が６名で、うち３名が卒園となり、新たな入所児童も見込めないため、令和２年度以降、集団において個々のこどもの特性を育むという基本的な保育方針にそぐわないなど、健全な保育環境が確保されないと判断し、当該保護者、関係区長、関係民生委員及び保育士との一致した見解の下、令和２年４月より休園といたしておりました。

その後、令和３年度以降の取扱いに関し、再度、関係者と協議を行い、児童数が増える見込みが立たないなど、施設を運営することが困難である旨の御理解を頂きましたので、令和３年３月３１日をもって廃止とさせていただくものでございます。

なお、附則において、施行日を令和３年４月１日からといたしております。

続きまして、議案第２０号、対馬市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例につきましては、新旧対照表の１６ページから２１ページを御覧願います。

この条例は、対馬市において特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業を運営する上での基準を定めた条例でございますが、今回の改正は、その基準の一部を改正する内閣府令の公布に基づき、所要の改正を行うものでございます。

その内容でございますが、まず題名中、「特定地域型保育事業」の次に、「並びに特定子ども・子育て支援施設等」を加え、第４章、第５章とし、第３章の次に、「第４章　特定子ども・子育て支援施設等の運営に関する基準」を加えるものでございます。

この特定子ども・子育て支援施設とは、認可外保育施設、預かり保育事業、子育て援助活動支援事業などを行う施設でございます。改正内容につきましては、子育て支援などの提供に係る記録、利用料などの受領及び領収書などの交付など、特定子ども・子育て支援施設などの運営に関する基準を、第５３条の趣旨から第６１条の記録の整備まで新たに加えております。

なお、附則において、公布の日から施行し、令和２年１０月１日から適用することといたしております。

次に、議案第２１号、対馬市介護保険条例の一部を改正する条例につきまして、新旧対照表は２２ページを御覧願います。

この条例は、第８期介護保険事業計画の策定により、令和３年度から令和５年度までの向こう３か年の介護保険料につきまして、保険料の基準額を月額６，３００円から６，４００円に、年額で７万５，６００円から７万６，８００円に引き上げるものでございます。

保険料の算定に用いる所得段階区分は、対馬市では１０区分とし、介護保険料を所得に応じた保険料とし、その変更する額は新旧対照表の２２ページから２４ページのとおりでございます。

引上げに当たっての主な要因は、保険給付費の見込みの増加によるものでございます。

なお、附則において、令和３年４月１日から施行し、経過措置として、令和２年度以前の保険料については、従前の例によることといたしております。

最後に、議案第２２号、対馬市指定居宅介護支援事業者の指定に関し必要な事項並びに指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例につきまして、御説明申し上げます。

新旧対照表の２６ページを御覧願います。

この条例は、平成３１年度介護保険報酬改定の際に、基準省令の改正により、居宅介護支援事業所の管理者の要件が、主任介護支援専門員に変更されましたが、管理者が主任介護支援専門員でない事業所が依然として４割程度存在する状況を踏まえ、主任介護支援専門員の確保が著しく困難であるなど、やむを得ない理由がある場合に限り、介護支援専門員を管理者とすることができることとするただし書を加えるものでございます。

なお、附則において、施行日を令和３年４月１日からといたしております。

以上簡単ではございますが、議案第１９号から議案第２２号までの提案の理由の説明とさせていただきます。御審議の上、御決定賜りますようよろしくお願い申し上げます。

○議長（小川　廣康君）　建設部長、伊賀敏治君。

○建設部長（伊賀　敏治君）　ただいま一括議題となりました議案のうち、議案第２３号及び議案第２４号の提案理由とその内容について御説明申し上げます。

まず初めに、議案第２３号、対馬市市道の構造の技術的基準等を定める条例の一部を改正する条例について御説明いたします。

議案書の２７ページをお願いいたします。

新旧対照表は２７ページを御参照ください。

本議案の内容でございますが、令和２年１１月２５日に施行されました道路法の一部を改正する法律におきまして、自動運転を補助する市道の道路空間への整備として自動運行補助施設が新たに追記されたことから、本条例３１条の交通安全施設に「自動運行補助施設」を追記するもの

でございます。

なお、附則といたしまして、施行日を令和３年４月１日としております。

次に、議案第２４号、対馬市道路占用料徴収条例の一部を改正する条例について御説明いたします。

議案書の２９ページから３３ページをお願いいたします。

本議案の改正内容でございますが、本条例第２条に規定しております占用料の額につきましては、道路法施行令第１９条で規定する別表を準用して定めております。

今回、先ほど御説明いたしました自動運行補助施設が新たに追記されたことに加え、平成３０年度の固定資産税評価替えの評価替え等を踏まえた道路法の改正が、令和２年４月１日に行われたことから、対馬市道路占用料の額を別表のとおり改正するものでございます。

個々の占用料の改正内容につきましては、新旧対照表の２８ページから３４ページを御参照ください。

なお、附則といたしまして、施行日を令和３年４月１日としております。

以上、簡単ではございますが、説明を終わります。御審議の上、御決定賜りますようよろしくお願い申し上げます。

○議長（小川　廣康君）　説明が終わりました。

暫時休憩をいたします。再開を１１時１５分からといたします。

午前10時56分休憩

午前11時13分再開

○議長（小川　廣康君）　再開します。

休憩前に説明がありました。これからその１１件について質疑を行います。

まず、議案第１４号及び議案第１５号の総務部関係条例の２件について質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　次に、議案第１６号の農林水産部関係条例について質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　次に、議案第１７号及び議案第１８号の教育委員会関係条例の２件について質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　次に、議案第１９号から議案第２２号までの福祉保険部関係条例の４件について質疑はありませんか。５番、小島徳重君。

○議員（５番　小島　徳重君）　１点だけ確認とお願いをしたいと思います。

議案第２０号についてです。対照表で生の条文で部長から説明いただいたんですけど、生の条文、目を通しただけではなかなか分かりにくいところもあるわけですけども、何か整理した、要約したような資料が作れるなら出していただきたいなと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（小川　廣康君）　福祉保険部長、古里正人君。

○福祉保険部長（古里　正人君）　今、手持ちの資料がございませんので、今度の委員会までに作成して、お手元にお届けさせていただきたいと思っております。

○議長（小川　廣康君）　５番、小島徳重君。

○議員（５番　小島　徳重君）　今、部長のほうから委員会までに出していただくということですから、ぜひお願いしたいと思います。と、申しますのは、記録の保存とか、それから施設から小学校への記録の送付とか、子供の発達に関わること等、重要な要素がこの中には含まれていると思いますので、ぜひ施設関係の周知と、そしてまた私たちにもその辺りを分かりやすく、分かるような資料を出していただくことをお願いをして終わります。

○議長（小川　廣康君）　ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　次に、議案第２３号及び議案第２４号の建設部関係条例の２件について質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

お諮りします。ただいま一括議題としております１１件は、委員会への付託を省略したいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　異議なしと認めます。１１件は委員会への付託を省略することに決定いたしました。

これから１１件について、各案ごとに討論、採決を行います。

まず、議案第１４号、対馬市部設置条例の一部を改正する条例について討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　討論なしと認め、採決します。

本件は原案のとおり決定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　異議なしと認めます。本件は原案のとおり可決されました。

次に、議案第１５号、対馬市会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　討論なしと認め、採決します。

本件は原案のとおり決定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　異議なしと認めます。本件は原案のとおり可決されました。

次に、議案第１６号、対馬市分担金徴収条例の一部を改正する条例について討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　討論なしと認め、採決します。

本件は原案のとおり決定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　異議なしと認めます。本件は原案のとおり可決されました。

次に、議案第１７号、対馬市教職員住宅管理及び使用料条例の一部を改正する条例について討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　討論なしと認め、採決します。

本件は原案のとおり決定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　異議なしと認めます。本件は原案のとおり可決されました。

次に、議案第１８号、対馬市体育施設条例の一部を改正する条例について討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　討論なしと認め、採決します。

本件は原案のとおり決定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　異議なしと認めます。本件は原案のとおり可決されました。

次に、議案第１９号、対馬市へき地保育所条例の一部を改正する条例について討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　討論なしと認め、採決します。

本件は原案のとおり決定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　異議なしと認めます。本件は原案のとおり可決されました。

次に、議案第２０号、対馬市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　討論なしと認め、採決します。

本件は原案のとおり決定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　異議なしと認めます。本件は原案のとおり可決されました。

次に、議案第２１号、対馬市介護保険条例の一部を改正する条例について討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　討論なしと認め、採決します。

本件は原案のとおり決定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　異議なしと認めます。本件は原案のとおり可決されました。

次に、議案第２２号、対馬市指定居宅介護支援事業者の指定に関し必要な事項並びに指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　討論なしと認め、採決します。

本件は原案のとおり決定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　異議なしと認めます。本件は原案のとおり可決されました。

次に、議案第２３号、対馬市市道の構造の技術的基準等を定める条例の一部を改正する条例について討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　討論なしと認め、採決します。

本件は原案のとおり決定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　異議なしと認めます。本件は原案のとおり可決されました。

次に、議案第２４号、対馬市道路占用料徴収条例の一部を改正する条例について討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　討論なしと認め、採決します。

本件は原案のとおり決定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　異議なしと認めます。本件は原案のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第１９．議案第２５号

○議長（小川　廣康君）　日程第１９、議案第２５号、第２次対馬市総合計画（後期計画）についてを議題といたします。

提案理由の説明を求めます。しまづくり推進部長、武末祥人君。

○しまづくり推進部長（武末　祥人君）　ただいま議題となりました議案第２５号、第２次対馬市総合計画（後期計画）につきまして、その提案理由と内容を御説明いたします。

議案書３５ページをお願いいたします。

本件は、対馬市市民基本条例第１５条第１項の規定により、議会の議決を求めるものでございます。本後期計画は、前期５年間の進捗等について、市役所各担当課による自己評価や市民へのヒアリング、総合計画等審議会による評価を行うとともに、社会の動向等を踏まえた上で見直しを行いました。そのため、計画の中で記載しております対馬市の概要など基本的な事項につきましては、タブレットへの掲載を省略しておりますので、タブレットのページと計画書のページにずれが生じております。説明に当たりましては、ページ下の計画書ページにより説明をいたしますので、よろしくお願いいたします。

それでは、計画の主な見直しについて御説明いたします。

別冊資料の３ページをお願いいたします。

今回提案しております後期計画において、第１章、序論から参考情報まで基本的な構成につきましては変更しておりません。

次のページ、７ページをお願いします。

計画の位置づけなどについてでございますが、今回新たな計画であるＳＤＧｓ未来都市計画を加えるなど、一部内容を修正しております。

１９ページをお願いいたします。

前期における施策について、審議会における評価と見直しの方向性を記載しております。評価は、ＡからＥまでの５段階で評価いたしました。評価が高い施策は、継続、拡充または終了を基本に、評価項目が適切でない施策や評価が低い施策は、目標数値の見直し等を基本に行っております。

次の２０ページをお願いいたします。

後期計画につきまして、継続する施策と改善強化する施策に区分いたしました。また、多くの

課題は様々な分野にまたがることが多いため、新たに分野横断的に優先して取り組むべく４つのテーマを設定し、分野ごとの部局を超えた連携施策に取り組むこととしております。新たな課題、施策につきましては、世界が取り組む持続可能な開発目標であるＳＤＧｓや、未来社会のコンセプトであるＳｏｃｉｅｔｙ５．０、市民総活躍、リモートワーク、働き方改革などの視点を反映させております。

次のページ、２１ページをお願いいたします。

本市の将来人口の見通しとして、社人研による人口推計と、昨年度策定しました長期人口ビジョンによる人口推計を記載しております。本計画におきましても、２０２５年の目標人口を総合戦略と同じ３万人としております。

次のページをお願いいたします。

対馬のあるべき姿として、ひとづくりにおける将来像は「若者でにぎわう希望の島」としておりましたが、若者だけでなく、こどもや大人も主役となる島づくりを目指すため、「みんなが主役になる希望の島」に見直しを行っております。

２３から２４ページをお願いいたします。

ビジョンの実現に向けた施策の全体像を記載しております。４つの挑戦において、優先的に取り組むべき課題と、その解決に向けた２４の具体的な施策を記載しております。また、施策がＳＤＧｓ１６９のターゲットと合致するものにつきましては、１７のゴールを右に記載しております。

３１ページから３８ページは、挑戦１のひとづくりについて記載しております。

３４ページをお願いいたします。

対馬らしい働き方、生きがいの創出でございますが、女性が活躍する場づくりとして男女共同参画の推進を掲げ、市が委嘱する委員の女性割合を数値目標として追加いたしました。

挑戦２のなりわいづくりですが、３９ページから４６ページに記載をしております。

４４ページをお願いいたします。

持続可能な流通体制の構築でございますが、島内の農林水産物取扱飲食店数の目標項目を対馬産ブランド魚の島内取扱店舗数に見直しをしております。

挑戦３のつながりづくりにつきましては、４７から５４ページに記載をしております。

５２ページをお願いいたします。

福祉の充実と地域包括ケアシステムの構築でございますが、目標に、平成３２年度までに対馬版地域包括ケアシステム本格稼働がございましたが、買い物支援を行っている地域の数に変更し、数値目標を設定いたしました。

挑戦４のふるさとづくりにつきましては、５５ページから６２ページに記載をしております。

５８ページをお願いいたします。

海洋資源の保護と豊かな里海づくりでございますが、目標項目のうち、資源管理のルール構築を藻場の保全、再生に取り組む集落組織数に見直しをしております。

次のページ、５９ページをお願いいたします。

ごみの削減とリサイクルの推進についてでございますが、日韓清掃事業の開催の事業見直しや、生ごみの分別協力世帯数の見直しを行いました。

次のページ、６０ページをお願いいたします。

再生可能エネルギーの推進につきましては、導入に向けた実証事業の件数を目標数値として新たに設定をしております。

６４ページをお願いいたします。

本市が直面する多くの課題は、有害鳥獣対策など様々な分野に関連しており、横断的な取組が必要となっております。後期計画では、それらの中から最優先に取り組む４つのテーマを記載しております。

１番目のテーマとして、ひとづくりでは、多様な主体が連携して、対馬人材を確保し育成するための仕組みを構築するとしております。

２番目のテーマ、なりわいづくりでは、地産地消の仕組みを構築するとしております。

つながりづくりでは、高齢化が進む中で、最適な交通手段を確保するための連携について。

ふるさとづくりでは、自然と暮らしが共存する有害鳥獣対策の連携について記載しております。

なお、６５ページから６８ページには、挑戦１から４までの各分野において関連する事業や数値目標など、詳細について再掲をいたしております。

７１ページには、この計画の実施主体と進行管理の方法について記載しており、最後の７２ページには、進捗の評価やその時期について記載しております。

また、後期計画では、新たに生活する中での満足度を評価するアンケートを実施することとしております。

以上、概略ではございますが、議案第２５号、第２次対馬市総合計画（後期計画）の説明を終わらせていただきます。御審議の上、御決定賜りますようよろしくお願いいたします。

○議長（小川　廣康君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

本件は配付しております議案審査付託表のとおり、所管の総務文教常任委員会に付託いたします。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第２０．議案第２６号

○議長（小川　廣康君）　日程第２０、議案第２６号、辺地に係る公共的施設の総合的な整備計画についてを議題といたします。

提案理由の説明を求めます。しまづくり推進部長、武末祥人君。

○しまづくり推進部長（武末　祥人君）　ただいま議題となりました議案第２６号、辺地に係る公共的施設の総合的な整備計画についてにつきまして、その提案理由と内容を御説明いたします。

議案書３７ページをお願いいたします。

本件は、辺地に係る公共的施設の総合整備のための財政上の特別措置等に関する法律第３条第１項の規定により、議会の議決を求めるものでございます。

３８ページ、総合整備計画書（案）をごらんください。

今回提案しております美津島町の黒瀬辺地でございますが、新規の計画でございます。現在運行中の鶏鳴小学校及び雞知中学校のスクールバスは、平成９年３月に購入したもので既に２３年を経過し、老朽化による故障が頻繁に発生するなど、運行に支障を来しております。よって、スクールバスを更新し、児童生徒の安全な通学環境を整え、地域間の教育環境格差の是正を図る計画でございます。

以上で、議案第２６号の提案理由の説明を終わります。御審議の上、御決定賜りますようよろしくお願いいたします。

○議長（小川　廣康君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

お諮りします。本件は委員会への付託を省略したいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　異議なしと認めます。本件は委員会への付託を省略することに決定いたしました。

これから討論、採決を行います。

議案第２６号、辺地に係る公共的施設の総合的な整備計画について討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　討論なしと認め、採決します。

本件は原案のとおり決定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　異議なしと認めます。本件は原案のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第２１．議案第２７号

日程第２２．議案第２８号

日程第２３．議案第２９号

○議長（小川　廣康君）　日程第２１、議案第２７号、あらたに生じた土地の確認及び字の区域の変更について（横浦地区）から日程第２３、議案第２９号、港湾区域内公有水面の埋立てについて（比田勝港湾）までの３件を一括議題とします。

提案理由の説明を求めます。農林水産部長、佐々木雅仁君。

○農林水産部長（佐々木雅仁君）　ただいま一括議題となりました議案第２７号及び議案第２８号は、農林水産部所管の議案でございますので、続けて提案理由とその内容について御説明申し上げます。また、両議案は件名が同じで、同地区内に対象工区が２工区ございますので、一括して御説明させていただきます。

議案書の３９ページをお願いいたします。

議案第２７号、あらたに生じた土地の確認及び字の区域の変更について（横浦地区）でございますが、本議案は、地方自治法第９条の５第１項の規定により新たに生じた土地を確認し、同法第２６０条第１項の規定により字の区域を変更するため、議会の議決をお願いするものでございます。

本件は、旧豊玉町が事業主体で施工しました塩浜漁港整備事業に伴い、漁港施設用地として公有水面の埋立てを行ったもので、この土地が新たに生じた土地であることを確認するとともに、この区域を豊玉町横浦字見世浦に編入しようとするものでございます。

土地の位置につきましては、４１ページの位置図にＡ工区として示している部分でございます。また、４２ページと４３ページの字図及び求積平面図に着色表示している部分で、豊玉町横浦字見世浦８６の9、８６の１１、９８の１３、９８の１４、９８の２９、９８の４８、９８の５５、９８の５８、９８の６０から９８の６３まで、及び５３６の１１地先並びに８８及び８９の５に隣接する道路地先で、面積が１，９９２．３８平方メートルの土地でございます。

次に、議案第２８号でございますが、４７ページの位置図にＢ工区として着色している部分でございます。また、４８ページと４９ページの字図及び求積平面図に着色表示している部分で、豊玉町横浦字見世浦８９の１、８９の５、８９の７、９８の１３、９８の１９、９８の２９、９８の４８、９８の５７、９９の２、１０２の４、１０３の２、１０６の２、１１０の２１、１１０の２４、５３６の５及び５３６の１１地先並びに８８及び８９の５に隣接する道路地先で、面積が１，８８６．７６平方メートルの土地でございます。

以上、簡単ではございますが、議案第２７号及び議案第２８号の説明を終わります。御審議の上、御決定賜りますようよろしくお願い申し上げます。

○議長（小川　廣康君）　上対馬振興部長、森山忠昭君。

○上対馬振興部長（森山　忠昭君）　ただいま一括議題となりました議案第２９号、港湾区域内公有水面埋立てにつきまして、比田勝港湾の提案理由とその内容について御説明いたします。

議案書５１ページをお願いいたします。

本件は、長崎県が事業主体で整備を進めております比田勝港地方創生改修工事に伴う公有水面埋立免許の出願に係る意見について、異議のない旨、長崎県知事に答申するため、公有水面埋立法第３条第４項の規定により、議会の議決をお願いするものでございます。

埋立ての必要性については、議案書５４ページの埋立必要理由書のとおり、比田勝港は、対馬島の北の玄関口として、博多港からの国内定期航路や韓国人観光客の定期航路の発着所となっている一方、港内には上対馬町漁協本所が所在し、本市の基幹産業である漁業での水揚げ、出荷、流通の基地としての機能も有しており、現在まで順次整備されてきました。

しかしながら、本港の係留施設は、地元漁船の水揚げ場所や漁業機材などの積荷などに利用され、イカ、ヨコワ釣漁の最漁期になると、外来漁船の係留場所に大変支障を来しております。このことから、係留施設としての物揚場マイナス３．０メーターを整備し、外来漁船の安全確保や出漁作業の効率化を図る必要があり、埋立申請を出願するものであります。

埋立面積は、５６ページから５７ページの一般平面図及び求積平面図に着色している部分で、１，９１７．９１平方メートルでございます。

以上、簡単ではございますが、説明を終わります。御審議の上、御決定賜りますようよろしくお願いいたします。

○議長（小川　廣康君）　説明が終わりました。

これから３件に対する一括質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

お諮りします。ただいま一括議題としております３件は、委員会への付託を省略したいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　異議なしと認めます。３件は委員会への付託を省略することに決定をいたしました。

これから３件について一括して討論、採決を行います。

議案第２７号及び議案第２８号、あらたに生じた土地の確認及び字の区域の変更について（横

浦地区）及び議案第２９号、港湾区域内公有水面の埋立てについて（比田勝港湾）の３件について討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　討論なしと認め、採決します。

３件は原案のとおり決定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　異議なしと認めます。３件は原案のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第２４．議案第３０号

○議長（小川　廣康君）　日程第２４、議案第３０号、損害賠償の額の決定についてを議題とします。

提案理由の説明を求めます。上対馬振興部長、森山忠昭君。

○上対馬振興部長（森山　忠昭君）　ただいま議題となりました議案第３０号、損害賠償の額の決定について、提案理由とその内容につきまして御説明いたします。

議案書の５９ページをお願いいたします。

本案は、令和２年９月７日の早朝に接近しました台風第１０号の暴風によって、小鹿漁村センターの屋根全体が被害者の所有する住宅に飛散し、甚大な損害を与えたため、その損害を賠償するものであり、地方自治法第９６条第１項第１３号の規定により、議会の議決をお願いするものでございます。

まず初めに、屋根飛散の要因及び市が賠償する根拠につきまして御説明いたします。

小鹿地区内の台風１０号による被災状況は、瓦の一部が飛散した建物が数件見受けられましたが、屋根全体が吹き上がり飛散した建物は、小鹿漁村センター１棟だけでした。なぜ屋根が飛散したのかその要因を解明するため、令和３年１月、専門家一級建築士に調査業務を委託しました。調査の結果、木造勾配屋根増設時において、建築基準法上の手続を経た形跡を確認できず、本来必要である建築基準法上の手続違反があったと考えられます。

次に、今回被災した直接の原因は、屋根ふき材が軽量であるにもかかわらず、軒桁とたるきの固定方法がくぎのみであり、台風１０号の暴風による風圧力に対する十分な耐力を有してなかったことが要因であると考えられます。との見解を受けていることから、市の行政財産である小鹿漁村センターの設置、管理について瑕疵があり、当該建物が通常有すべき安全性が欠けていたため、強風に耐えられる強度がなかったと判断せざるを得ません。したがいまして、国家賠償法第２条に基づいて損害賠償義務を負うものであります。

次に、被害者住宅の被害状況調査と損害賠償額の算定については、正当な被害額を客観的に算

定する必要があるため、補償業務管理ができる補償コンサルタントに調査業務を委託しました。調査結果、被害状況としては、屋根、ひさし、建具の破損、柱の傾斜や隙間、天井雨漏り、内壁、基礎の亀裂等、受忍の範囲を超える損傷が確認されました。

損害賠償額は、総額３，７６４万５，７６０円です。内訳は、建物損害額で約３，２９１万円、建物の再築及び補修期間に発生する必要な経費の補償として約４７４万円です。建物損害額の内容は、再築費用、補修費用、解体費用、工作物費用となり、このうち再築費用には再築補償率６３．９％を乗じて算定しております。

補償額の内容は、動産移転料、仮住居補償金、営業休止補償金、移転雑費となります。また、保険金の二重受け取りについては、市に瑕疵があり市が査定した賠償額全額を被害者に支払った場合、被害者方の保険会社は損害額については支払わないことになりますと確認しておりますので、二重受け取りはありません。

以上、簡単ではございますが、提案理由の説明とさせていただきます。御審議の上、御決定賜りますようよろしくお願い申し上げます。

○議長（小川　廣康君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。１２番、小宮教義君。

○議員（１２番　小宮　教義君）　この案件は、たしか第３回議会、昨年の１２月ですか、提案されて取下げという結論を得ておったわけですが、何とまたこれが再び出てきてびっくりしております。この昨年９月の台風９号、１０号、これはまだ市民にも記憶にずっと残っておるすごい台風でした。特にこの１０号、今まで経験したことがないような台風だったということで、皆さん、島民びっくりしておったわけです。そして、このような台風が来るっていうことで、特に厳原なんかは伝統的にそうでしょうけども、皆さんがホテルに避難したりとか、もうすごくびっくりした台風です。まだ皆さんの記憶にも新しいと思いますが。そして、その受けた、いろいろな、台風１０号、９号はすごく大きい台風でしたから、民家の建物とか屋根とかなんかが破損して飛んで、あちこちで大変な被害が出ておりました。

これは、一般的には自然災害ですから、自分が入っている保険で直す以外、方法ないわけです。でも、この案件はそれを国家賠償法で払うんだと、これは誰が見ても非常にびっくりするわけですが、この被害者も保険に入っておるわけですから、一般の人同様そこですべきじゃないかと思います。

そして、国家賠償法ということであれば、市に瑕疵があるということです。そうなると、市民の税金、血税で前回と一緒のような金額３，７６４万５，７６０円、これを市民の税金で払うんですよ。こういうことがなかなか納得いかないんで、何点か質問させていただきます。

まず、大きく分けて２項目。第１項目は、被害の経緯について。２番目が、全員協議会の資料

に基づいて質疑をさせていただきます。よくメモってください。

第１項目は、被害の経緯について、これは５点。この小鹿漁民センターは、建設したのが昭和５６年、そしてこの問題の屋根の工事をしたのが平成１６年、もう既に１６年を経過しております。

では、この５点ですが、まず１点目、９月３日の台風９号の大きさ、最大瞬間風速は幾らであったのか。その被害状況はどのくらいだったのか。

２点目が、同様に、９月７日台風１０号、大きい台風です。これの最大瞬間風速は幾らだったのか。これの被害状況については資料を頂いていますので、報告は要りません。最大瞬間風速だけで結構です。

３点目、工事後１６年たつわけですが、この間に改修工事なるものをしたことがあるか、ないか。

４点目、同様に、この近辺から建物について何かおかしいんだと、屋根ががたがたしよるとか、そういうふうなクレームはなかったのかという点です。

５点目、今回の台風１０号について、気象庁は、先ほど申し上げましたように、今までに経験したことがないような台風だと、そういう発表をしたわけですが、市長はこの台風をどのような台風と認識をされていますか、という点です。

それと、大きい項目の２番目、全員協議会の資料について、これから質問を５点、しっかりメモってください。５点です。

まず、１点ですが、国家賠償法第２条には、設置管理に瑕疵があったために他人に損害を生じたときは、国または公共団体、公共団体というのは、当てはめるとこれは対馬市ですけども、公共団体はこれを賠償する責任があると明記をされておりますが、この瑕疵は誰が判断するのか。この瑕疵は誰が判断するのかということです。

そして、２点目です。これは１つの例でございますけれども、瑕疵についての定義でございます。これは、昭和４５年の高知落石訴訟の判断では、次のように定義づけられております。瑕疵とは、通常有するべき安全性を欠いていること。つまり、普通の状態で何もなければ、瑕疵はないんだというふうなことでございます。これは、今後の法定の基本になっておりますので。市長が考えられるこの瑕疵の定義、瑕疵がこれなんだと、瑕疵の定義をどのように考えておられるのかということです。

それと３番目です。先ほど説明があったように、この全員協議会の資料の６ページに、先ほどございました屋根の軒先部分がくぎだけで接合されており飛んだんだという話です。これは、専門家の意見を聞いて判断をしたということですよね、３点目ですけど。じゃあ、この専門家の見解書、これについておりますが、この中に専門家が瑕疵だという文面は一つもない、専門家はこ

れが瑕疵だとうたっておれば、その検討は必要かもしれないが、瑕疵という文字が全くない。これが瑕疵と言えるのかということです。

そして、４点目ですけども、市が、仮に瑕疵があったときには、これは市町村全国で総合の保険に入っております。賠償責任補償に入っているわけです、瑕疵であれば。そうなると保険の会社が払う、当たり前です、保険に入っとるんだから。高いお金を出して毎年毎年更新しておるようでございます。瑕疵であれば、この保険者に払ってもらわなきゃいけない、なぜ保険者が払おうとしないのかという点です。しっかりメモってください。

５点目ですけども、今まで今回で２回目の説明聞くわけですが、言葉とかこういう写真ではなかなか状況が把握できない。確かにくぎが外れたというのも、どうして外れたのか理解しがたい。

日本はいい国で、建物を建てるときには建築基準法というのがあります。これに、通常耐え得るだけの耐力を有しなければならないとあるわけです。特に、対馬については、基準風速これがほかのところより高いですけども、基準風速は３４メーターの風速が設定をしてあるわけです。その数値から現状の施工を数値的に導き出すのは、それはごく簡単、そのような明快にできるデータの作成ができなかったのか。法的な建物基準はどうなっておるのかということです。

先にそれを聞いて、また質問いたします。

○議長（小川　廣康君）　上対馬振興部長、森山忠昭君。

○上対馬振興部長（森山　忠昭君）　小宮議員の大きな第１点目の質問にお答えいたします。

まず、台風９号の最大瞬間風速、最大風速ですか、幾らだったのかということで、９号は最大風速２４．９メーター、最大瞬間風速４４．８メーターを鰐浦の観測所で記録しております。

２点目の被害状況は、小鹿地区に出向きまして、瓦が数枚飛散していた状況は確認しております。ただ、屋根につきましては、上ることができませんでしたので、下からの目視でしており、どういう状態だったのかは、はっきりとわかりません。

次に、台風１０号の最大瞬間風速でございますが、台風１０号は最大瞬間風速４８．９メーターを記録しております。

３番目の、平成１６年に屋根を増設し１６年経過しているが、その間の工事があったかということですが、その間は改修工事等はあってないと聞いております。

４番目の、設置後の１６年間に地域の方から、屋根で不具合等の情報がなかったかということですが、それにつきましても、今のところ私のほうにもそういった情報はありませんし、前任者の方に聞きましても、そういった情報はなかったと確認はしております。

５番目が。（「これは市長の見解です」と呼ぶ者あり）そうですね、すみません。

以上です。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　この台風９号をどのように認識しているかと。

○議員（１２番　小宮　教義君）　台風１０号です。

○市長（比田勝尚喜君）　１０号ですか、まあ９号も１０号も含めてで結構でございますけども、確かに台風９号が対馬に来て、約１週間後ぐらいだったと思います、１０号が対馬に襲来したのは。本来は、まだまだ大きな台風が襲来するものということで、市民の皆様もその対策等をされていたかと思いますが、途中で台風９号の関係で海水温が若干下がったというようなことから、当初気象庁が予測をしていた風速よりも若干下がった状態で、対馬のほうに襲来したのではないかというふうに、私自身今思っております。

そしてまた、その被害状況につきましては、やはり皆さんが大変大きな台風が来るというようなことで、いろいろと対策準備をされていたというようなことから、台風９号みたいには被害が発生しなかったということで、このことについては大変よかったなというように思っております。

それから、この台風９号、１０号による先ほどの被害が出ました小鹿地区については、先ほど担当部長のほうからも説明がありましたように、地域の瓦が数枚は飛散したということは、確認をされていたということでありますけども、この屋根自体が飛んだ施設としましては、この小鹿の漁村センターだけであったというようなことで、確認をしているところでございます。

以上です。

○議員（１２番　小宮　教義君）　全協の分の１から５までの答弁を。

○議長（小川　廣康君）　ちょっと待ってください。答弁を求めます。上対馬振興部長、森山忠昭君。

○上対馬振興部長（森山　忠昭君）　全協の分の瑕疵は誰が判断するのかということでございますが、瑕疵につきましては屋根が飛んだということで、屋根の構造、そういったものが……、失礼いたしました。

○議員（１２番　小宮　教義君）　瑕疵は誰が判断をしたかということです。

○上対馬振興部長（森山　忠昭君）　物的状況等で屋根のコロニアルが飛んでいたもんですから、その状況とそれから小鹿地区内の状況は、漁村センターだけが大きな被害を被っておりますので、その小鹿漁村センターの屋根が飛んで相手に被害を与えたということが、その瑕疵になってくるというふうに判断しております。

○議員（１２番　小宮　教義君）　じゃあ瑕疵は誰が判断したんですか、市で独自に判断したんですか。

○上対馬振興部長（森山　忠昭君）　専門家の意見も聞きながら、判断をしております。

○議員（１２番　小宮　教義君）　市が判断したんですね。

○上対馬振興部長（森山　忠昭君）　はい、市が判断しております。

瑕疵の定義で、議員さんがおっしゃられますように「通常有すべき安全性が欠いていた」というのが瑕疵に当たるかと思いますけど、今回の場合は、台風９号によりまして瓦の飛散があっております。そのときに職員がちゃんと確認しておれば、その９号で屋根がどのような状況になっていたのか、それの確認ができておれば、そしてそれに対する対策を講じておれば、このような大きな被害も受けてなかったのではないかと考えております。

○議員（１２番　小宮　教義君）　では、あれあの。

○議長（小川　廣康君）　ちょっとすいません。挙手して質問していただけますか。

○議員（１２番　小宮　教義君）　３回しかできんのなら言ってください。

○上対馬振興部長（森山　忠昭君）　それと、くぎだけ飛んだ。これが瑕疵と言えるのかということでございますが、確かに一級建築士さんの見解書には瑕疵という言葉は入っておりませんが、９ページに「軒桁とたるきの固定方法がくぎのみであり、台風１０号の暴風による風圧力に対する十分な耐力を有してなかったことが要因であると考えられます」という言葉があります。

この、くぎだけじゃなくて、固定金具等を一緒に設置して施工しておれば、十分な耐力が得られたということで、くぎだけの施工ではこういうことが起こり得るという見解でございます。

４点目の総合保険、なぜ支払いができないのかということでございますが、市といたしましても何度も保険会社と交渉をしております。ただ、保険会社が言うには、議員さんがおっしゃられるように、一方的に自然災害だとその判断で保険は出ませんという回答を頂いております。他人に危害を及ぼす危険性がある状態とは言えないと。

ただ、私たちからしますと、この屋根の部分につきましては、管理上の至らないところも出てくるかと思います。台風９号から１０号にかけて、屋根がどのような状態になっていたか、その確認もしてなかったものですから、もしかすると、その９号のときに屋根が少し動いていたのか、そういうことも考えられます。ただ、それを申し上げても、保険会社のほうは、通常の台風で保険は出ないという一方的なことで回答を受けております。

○議員（１２番　小宮　教義君）　５点目を。

○上対馬振興部長（森山　忠昭君）　基準が３４メーターというのは、私たちも一級建築士さんにお聞きしております。ただ、今回の台風は最大風速が２９メーターでした。それで飛んだということは、何かしら、この屋根に欠陥があったのではないかというふうに考えております。ただ、当時施工したときには、建築基準法の確認申請を行っておりませんので、その構造が果たしてよかったのか、そういうのは計算はしておりませんので、よく分かりません。

以上でございます。

○議員（１２番　小宮　教義君）　議長。

○議長（小川　廣康君）　小宮議員、ちょっとすいません。時間が経過しましたけど、これ総務の

ほうに慎重に審査してもらうために付託を考えておりますが、まだ時間がかかりますか。

○議員（１２番　小宮　教義君）　かかります。

○議長（小川　廣康君）　かかれば、休憩を挟みたいと。

○議員（１２番　小宮　教義君）　あと１０分ぐらいで終わるでしょう。

○議長（小川　廣康君）　はい、どうぞ。

○議員（１２番　小宮　教義君）　いいですか、休憩なしで。

○議長（小川　廣康君）　１２番、小宮教義君。

○議員（１２番　小宮　教義君）　まず、第１点目、第２点目、最大瞬間風速が９は４４．８、そして１０号が４８．９と非常に値が近い台風です。そして、台風９号が来たときに見に行ったんだけども、周りの瓦飛んどったよと。しかし、本来のこの漁村センターの屋根はどうもなかったわけですよね。この台風９号、瞬間風速４４．８メートルのときには周りの建物の瓦は飛んだけども、どうもなかったということです。

そして台風１０号は瞬間風速４８．９メーターです。これは非常に分かりにくいから数字にすると４４．８メーターちゅうのは、重さにすると約１００キロあります。そして４８．９ちゅうのは１２０キロあります。第９号のときに、どうもなかったんだと、でも少しか変わらんのに、次のときは屋根が飛んだんです。というのは、何か別の要因があってその屋根が飛んだんです。地形を見てみますと、あの辺の地形は複雑です。家の前に山があってその返りのいろんな複雑な要因で、９号はもっと強い風が発生して屋根が飛んだと考えられます。

いいですか、過去に台風がたくさん来ております。この資料をお渡ししてましたけど、今までに平成１６年の後に台風は１５回来ています。そして、先ほどの基準風速３４メーター、最大とは若干違うかもしれませんけれども、今まで大きい台風が６回、平成１７年には最大瞬間風速３６．１メーター、そして１８年に３５．４、そして一番大きいのが、平成２８年７月に３９．２メーターという最大瞬間風速で５回来ております。それでも、今まではどうもなかったんだから、こんな大きいのが来てもです。だから、これは特別な力が働いて、大きい荷重が発生したと考えるのが普通だと思いますけど、どうでしょうか。それと、工事後は改修工事もなかったんだと。そして、屋根の異常もこの間には何も周りからなかったんだということは、それは間違いないですね。過去においてですね。

この全員協議会の資料からの分ですけれども、この第１番目の損害賠償の責任は誰にあるのか、この瑕疵は誰が判断したかと言うと、市が判断をしたちゅうことです。そういう能力があるんですか、専門家でもないのに。この弁護士のこの資料から言うと、弁護士は専門家のほうに話をして聞いてくださいと。専門家は先ほど言われたように、この９ページには、台風１０号の暴風による風圧力です。だから、すごい力が働いて屋根が飛んだ、その原因を見解書で上げとるだけで

あって、瑕疵については一言も上がってないんです。そういう状態の中で、どうして市が瑕疵の判断ができるんですか。これは暴風による風圧力による調査です。これは瑕疵じゃあないんです。飛んだ要因を探るための報告書です。それを市が瑕疵と認めたんです。その辺をもう一回お願いします。（「はい」と呼ぶ者あり）待ってください。３回しかできませんから。

それと５番目ですけども、この言葉とか写真じゃ分からないんだから、建物の基準というのは既に決まっておるんだから、それを数値的にできないかと、できないということなんでしょうけども。事前に私がその分のやつを資料渡していたと思います。その前にすいません。この瑕疵の、すいません、前後して申し訳ない。

先ほどの瑕疵については、昭和４５年の判例どおり「瑕疵とは通常有すべき安全性を欠いている」とこれを瑕疵として判断していいんですね。今までの法律でうたった分ですから、それが瑕疵ですよね。分かりました。それで、資料に戻りますけども、この資料で数値的にあの屋根が何で飛んだのかというよりも、建物の安全性を欠いているのか、欠いてないのかです。だから、建物の安全性、今まで基準風速が３４メーターだと、それが吹いたときに、建物が安全であれば瑕疵にはならないです。安全であるんだから、なければ瑕疵になります。

この資料１を見ていただきたいと思うんですが、風というのはこのような形で流れます。屋根を吹き上げるやつと下から上がるやつです。これが基準なんです。そしてこの基準に基づいて計算をするんですけれども、ただ、今回は建物も何もないんです。なかなか分からない。

それで、その建物の形状を私なりに調べてみたんですが、この資料の６、ここに以前の建物の屋根が写っています。この屋根からすると、軒の出というのは４５センチからよう出ても６０センチぐらいなんです、この写真からするとですね。それと同様に８ページに破散した分の写真があります。これから判断しても、軒の出はやっぱり最大５０センチです。まず、これを基準に計算をしていくんですが、そうすると、この資料の３の２、これがもっともだと思いますんで、これを計算すると、くぎ１本の保有力が０．６８キロニュートンなんです。そして、これに係る風力を計算すると０．４６２キロニュートンなんです。

ということは、くぎ１本で基準風速は満たしておるんです。ということは、建物には瑕疵がないんです。これが逆であれば、瑕疵があるかもしれない。この屋根の長さについては、航空写真もありますんで、それからも出しております。これはページ７にも数値を入れてますけども、最大でこれだけ。計算してみると、このようにくぎ１本の保有力でもつんだと。通常の安全性は確保されているんです。だから瑕疵じゃないんです。それが１つとですね。

○議長（小川　廣康君）　ちょっとすいません、発言の途中ですけど、ちょっとお座りください。小宮議員にお願いしたいんですが、会議規則第５５条の第３項で質疑に当たっては、自己の意見を述べることができない。質疑にとどめなさいということでございます。

今のそのやり取りを聞いておりますと、そういう部分がちょっと入っているようにございますが、一般質問の通告もされております。そして、またこれ委員会に付託を予定しておりますが、討論等で、自分の意見等を述べていただくわけにはいかないでしょうか。

○議員（１２番　小宮　教義君）　いいですか。

○議長（小川　廣康君）　１２番、小宮教義君。

○議員（１２番　小宮　教義君）　確かに付託されておるんですけども、これを機会に皆さんがどういうものの状態であって、安全性がどう確保されておるのかちゅうことは、皆さんに分かってもらったほうが審議もしやすいじゃないですか、委員会のほうも。

○議長（小川　廣康君）　だから、一応会議規則、質疑にとどめていただければと思います。

○議員（１２番　小宮　教義君）　はい、分かりました。

○議長（小川　廣康君）　意見は述べることを遠慮していただきたい。

○議員（１２番　小宮　教義君）　さっきのその風力の関係とさっきの部分、ちょっとお願いします。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　小宮議員が、建築一級を取得されてある専門家であるということは、私自身も認識しております。そういう中での、この風力計算をしていただいているということであります。それで、ただ、ここの場合が対馬での設計風速は最大風速、まあ１０分間の平均風速になろうかと思いますけども、これが３４メーターということでありますけども、ただ、この台風１０号のときに、実際にこの小鹿地区ではどんだけの風が吹いたということが、この付近には風力計とかそういうのがありませんでしたので、実際、この地域での風速は分かりかねます。

ただし、先ほどから瑕疵の関係でいろいろと質問も頂いているところでございますけども、確かに事実は屋根は飛んだということで、何らかのこの設計の力以上がここに作用をした関係で、この屋根が飛んだということは推測されます。そういう中で、民法の７１７条に工作物の責任という条項がございますけども、私たちもいろいろと調べているうちに、例えば大きな地震とか台風等で、そこら付近の屋根が大方が飛んだというような自然災害であれば、それは不可抗力でその所有者のほうの責任は免れるという条項が書いてあります。

そういうことで、私たちも実は、ほかには全くそのような事故がない中で、この小鹿の漁村センターの屋根だけが飛んだということは、市としてこれを黙っておくわけにはいけないということで、まして市民の方が泣き寝入りさせるようなことにあっては、私はならないというふうに判断しております。

そこで、私といたしましても議員の皆様の御判断を仰ぐべく、このようなことで、今回、損害賠償の議案を提出をさせていただいたということでありますので、御理解をお願いしたいという

ふうに思っております。

それと、その先ほどのくぎ１本のところですけども、部長のほうも答弁いたしましたように、ここでは木造の場合は、たるきと軒桁を専用の固定金具などを用いて、固定する方法が一般的であるということも、ここに記載されておりますし、これが今回がくぎのみで飛散したということで、それが十分な耐力を有してなかったというふうに判断されることが、要因ではなかったかということが記載されております。そういうことで、対馬市のほうといたしましては、これは何らかのここに瑕疵があったというふうな判断であります。

以上です。よろしくお願いします。

○議長（小川　廣康君）　上対馬振興部長、森山忠昭君。

○上対馬振興部長（森山　忠昭君）　先ほど、市長のほうからも答えていただきましたが、瑕疵につきましては……。

○議員（１２番　小宮　教義君）　いいですよ。いい。

○上対馬振興部長（森山　忠昭君）　いいですか、すみません。

○議長（小川　廣康君）　１２番、小宮教義君。

○議員（１２番　小宮　教義君）　今、市長いろいろと話していただきましたが、想定外の風が吹いたということですかね。基準法では満たされとるんだけれども、想定外の風が吹いたんだから飛んだということですかね。想定外の風が吹くということは、この、それでも保険がなぜ適用できないかということなんですけど、ここに総合保険の手引があります。この１０８ページ、渡していると思いますが、想定外だから自然災害なんです。想定内であれば、先ほどのくぎ１本の耐力で十分もつんです。

市長が言われるように、あの地域は複雑なんです。それで、想定外の力が働いたから飛んだんです、市長の言われるとおりです。それでなぜその保険会社がしないかというと、この１０８ページにありますが、台風による被害、被保険者が管理する建物などが破散し第三者に被害を与えた場合、基本的には不可抗力であり賠償責任は発生しないと。自然現象のタイプの事故ではそのような危険を予測はできないんだと、それ当たり前です。

国家賠償法についても書いてあり、国家賠償法という営造物の設置・管理の瑕疵とは、先ほど言った安全が欠いているだけであるんだと。しかしながら、違う場合もあるんだと。例えば、屋根瓦が以前から割れておったりとか、外れる状態で放置すると非常に危ない場合、これはこの保険の対象になりますよということなんです。だから、市長が言われるように、想定外の風が吹くんです。複雑な要因が絡まるんです。基準法は満たしておるんだから、これは瑕疵には当たらないんです。

それと、市長はこの現地にすぐ行かれたようになっています。記録によると２時３０分に市長

は現地に行っとられます。視察をし、まずお詫びをしています。申し訳なかったんだということで。その後、相手方の意向に沿った対応を指示したということです。相手方の意向、これはあなたのことは何でも聞きますよという意向に沿った対応を指示し、そして今後の対応として、市長からの指示に従い、意向に沿った対応を行っていきますというふうな内容の報告書があります。この中で意向に沿ったというのは、どのような話をされたんですか。私は、市長だから何でもできるんだという話をされたんじゃないんですか。さきの瑕疵の問題で、この建築基準法的に安全であれば、瑕疵はないと私は理解してるんだけど、その辺も含めて。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　確かに、この台風１０号で小鹿漁村センターの屋根が飛散して、隣の住宅を壊したという一報が入りましたので、私は、本当に慌ててすぐ現地を訪れました。その中でちょうど私が現地についた頃は、もうかなり片づけはされていましたけど、ただただ、まだまだ本当に生々しい現場でありました。そういう中で、一生懸命に後片づけをされている被害者の関係者の皆様、この方たちに本当に申し訳がないということで頭が下がる思いでありました。

そこで、何といっても加害者ですから、その漁村センターは対馬市の財産でありますので、こちらが加害者でありますので、ここについては、何らかの対策等は行いますというような、お話はさせていただいたという記憶がございます。

以上でございます。

○議員（１２番　小宮　教義君）　建築基準法でこれが満たされておれば、瑕疵があるのかないのかということ、大事なポイントです。

○市長（比田勝尚喜君）　建築基準法で満たされていた場合でも、後々老朽化をして管理が不足していた場合は、瑕疵があるというような判断もできるケースがあると、私は考えております。

○議長（小川　廣康君）　もう最後です。もう終わります。いいですかね。

○議員（１２番　小宮　教義君）　最後にします。

○議長（小川　廣康君）　まだ指名してないんですけど、もう３回済みましたので。

あとは、一般質問の通告もその関連でしてありますし、そしてもし納得できなければ、委員長報告に対する討論等でも、自分の意見をおっしゃっていただければなと思っております。

○議員（１２番　小宮　教義君）　できれば、委員会で詳しく説明もできますんで。招集かけていただければ、事細かく説明します。

○議長（小川　廣康君）　これで質疑を（「あります」と呼ぶ者あり）あります。じゃあ休憩後にしましょうかね、そしたら。ちょっと待ってください。まだ指名していません。ちょっと切りがございませんので、この案件は、続行しますか。

○議員（１２番　小宮　教義君）　休憩、まだようけあるから。

○議長（小川　廣康君）　休憩しましょう。切りがないですけど。（「休憩しましょう」と呼ぶ者あり）

一応、先ほど言いましたように、総務文教常任委員会に付託しております。ですから、また委員長報告に対するいろんな質疑ができると思いますが、まだあるようでございますので、ここで途中ですが、暫時休憩をします。再開を１時３０分からといたします。

午後０時36分休憩

午後１時27分再開

○議長（小川　廣康君）　再開します。

休憩前に引き続き議案第３０号、損害賠償の額の決定についてを議題とし、質疑を続行したいと思いますが、その前に私のほうからひとつお願いをしておきたいと思います。

小宮議員の質問中に申し上げましたけど、会議規則等５５条第３項によっては、質疑に当たっては自己の意見を述べることができないと規定をされております。そういうことで、今後におきましては、会議規則にのっとり意見等がある場合は、一般質問あるいは、採決の前に行われます討論等において対応していただきますように、議事進行に御協力をお願いをしておきたいと思います。

質疑を続行します。５番、小島徳重君。

○議員（５番　小島　徳重君）　はい、議長の指導のとおり、指示のとおり、質疑をさせていただきます。

午前中のことと関連、もちろんあるわけですけど、この事案については、１２月の定例会、それから１月２５日の全員協議会でもいろいろ議論があったところなんですけども、専門的そしてまた法解釈上のことが伴うことなので、やはり誰もがよく分かるように、説明とかあるいは資料とかを提示いただきたいという、そういう視点でちょっと確認をしたいと思います。

まず１点目は、これは建築基準法上といいますか、建物のいわゆる技能的というか技術的なことに関連していることは、小宮議員が専門的な立場から詳しく言われたんですけども、このことについては資料が、いわゆる見解書という形で、１者、１名の方、いわゆる一級建築士の方の見解が出ているわけですけども、こういう微妙な事案といいますか、大変難しい事案だと思うんで、これについては複数の意見を求めるような考えは、市としては当初からなかったかどうかということですね、そのことをまず１点確認をしたいと。

それから、２点目は、いわゆるこの前これは全協のときにお尋ねをしたんですけども、いわゆる市町村の総合補償の保険の件で私お尋ねしたんですけども、市長名で尋ねたことに対して、損保会社が福岡支店のサービス課の課長代理の、いわゆる課長名の押印は私印だったんですよね、

私印だった。それで、このことについては、やはり公的な組織としての、いわゆる議論された上で回答されたのかどうかの確認をしてくださいということをお願いしとったんですが、そのことについての確認は再度されたのかどうか、ということですね。

それから、そのことと併せて、最初申し上げましたように、かなり専門的そしてまた法解釈上の難しい場面がありますので、市長は、この前の全員協議会の折に、こういう事案、今後も予想されることがあるということで、市としても、こういうような災害等に対しての市の責任の在り方等については、いわゆる調査の委員会なり、あるいは検討委員会みたいなとか審査の委員会とかいう、そういう組織を立ち上げて、審査したり検討したりして、いわゆる市の責任の在り方を検討したほうがいいなというような所感を述べられました。

今回の事案についても、これだけこの前の全協でもかなり時間がかかりましたし、今日もまた質疑があったんですけど、そういうことですから、この事案についても今も再提案がされたんですけども、それで総務文教委員会に付託されるんですけども、そういうような、この事案からそういう考え方を取り入れて、そして慎重を期して、市の責任の在り方とか、それから被害を受けたと言われる方への明確な補償の在り方を検討する気持ちはないのかどうか、その３点をお尋ねをしたいと思います。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　私のほうからお答えさせていただきたいと思います。

まず、１点目のこの見解書に関して、複数以上の意見が必要ではないかということでございますけども、確かにそのとおりだというふうに思いますけども、ただ、今回の場合は、被害に遭われましてから、その住んである方がもう家も扱われなくて、大変困ってあるんですね。そういうことでありまして、市といたしましても、できる限り早い段階に議会の同意を経て、このような損害賠償をしたいというような思いがありまして、今回はちょっとまず１者だけ取らしていただいたというのが実情であります。

それとまた、２点目の損保のほうの印鑑といいますか、文書の関係はまた全協の後、振興部のほうにも指示をいたしまして、今、その協議を連絡は取っているということでありますので、これはまた後で、部長のほうから答弁させていただきたいと思います。

それと３点目の、今、この気候変動等が激しくて、このような台風等がだんだん大きくなって、被害等が発生するおそれが多くなると予測されるというようなことで、今後は、このようなまず庁内の損害賠償委員会のほうに専門的な方も入っていただいて、そのような検討委員会を立ち上げたいという思いで、今も指示をいたしまして、検討を今後、重ねていこうということにしているところであります。

以上です。

○議長（小川　廣康君）　上対馬振興部長、森山忠昭君。

○上対馬振興部長（森山　忠昭君）　小島議員の２点目の損保会社のほうにつきまして、正式な回答書を頂けないかということで、今現在、市長名をもちまして、福岡支店のほうに文書を出しております。早急に公式な文書をもって回答書を出していただくように依頼をしております。

以上でございます。

○議長（小川　廣康君）　５番、小島徳重君。

○議員（５番　小島　徳重君）　まず１点目のところについても当然やっぱり私ね、こういう事案ですから複数の意見を求めておけば、こういうふうなことについても、すんなり判断が私どもがしやすかったんじゃないかという感想を持っています。

それから２点目の、やっぱり損保会社とのやり取り、これは今、流れとしては、市には、瑕疵があったんだという市の立場ですからね。そうなると後は損保会社とのやり取りになりますので、早急に資料はそろえていただいて、あれから１月２５日から、１か月ですよ。だから、当然ここに資料そろえて、本会議に出すべきだったと思いますけどもね、その辺りは、十分心していただきたいなというふうに思います。

それから、市長、その判断を被害を受けている方が困窮してあるといいますか、生活上、不便を被ってあるしということで気持ちは分かるんですけど、やっぱり、そのことと行政の判断ということの兼ね合いは、これから先、やっぱり十分考えなきゃいけないんじゃないかなということで考えています。

一応、私は、この前の全員協議会の場は、市民の方は分かっていないですから。その辺りのことで、全員協議会の資料が全部生きているものと知って、今日も質疑がありましたけども、したんですが、その辺りも資料の提示、最初にやっぱり全員協議会のときの資料は、そのまま生きていますよとか、付け加えをしますよとかいうことを最初にやっぱり話していただきたいと。１回目の１２月議会のときの資料もそのまま生きているのか、その辺りもやっぱり明確にしていただきたいなというふうに要望して、私は終わります。

以上です。

○議長（小川　廣康君）　ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

本件は配付しております議案審査付託表のとおり、所管の総務文教常任委員会に付託をいたします。（「異議あり」と呼ぶ者あり）

１１番、波田政和君。付託に対しての意見ですか。

○議員（１１番　波田　政和君）　議長から許可が頂けるなら、議事進行について発言したいので

すが、許可いただけますか。

○議長（小川　廣康君）　はい、どうぞ。１１番、波田政和君。

○議員（１１番　波田　政和君）　早速、ありがとうございます。先ほどから、総務に付託をするという話が何回か出ておりますが、先ほどから分かりやすく説明もあっていると思うんですが、私なりに非常にこれは重大な問題だと認識しております。そこで、常任委員会だけの審査で、案件を進めるには無責任過ぎると私は考えますが、議会の主催者である議長のまず見解を答えてください。それでいいか悪いか。

○議長（小川　廣康君）　付託することに――それでは今、波田議員のほうから所管の委員会に付託する案件につきまして、異議がありましたので、皆様方にお諮りをしたいと思いますが、それと続きでよろしいでしょうか。（「はい」と呼ぶ者あり）

皆様にお諮りしたいと思います。

○議員（１１番　波田　政和君）　いや、私は議長の見解を尋ねただけですよ。

○議長（小川　廣康君）　私はやはり、その所管の委員会で粛々と真剣に審査をして最終日に結論を出したいという気持ちはございますけどね。

ですから、委員会付託に対する異議が今、波田議員のほうから唱えれましたので、この件について、委員会付託をすることについて同意を得たいと思いますが、よろしいでしょうか。ですから、今、異議が出ましたので、私は、所管の委員会で慎重に審査していただき、最終日に委員長報告によって皆様方の判断を仰ぎたいという考えでございます。それに対する今、波田議員のほうから、全体で委員会付託に対する異議が出ましたので、ここで皆様方の意向を仰ぎたいと思います。よろしいですか。

○議員（１１番　波田　政和君）　私がお願いしたいのは、重要案件と捉えるならば、やっぱり資料も少ない中で、後世にいろんな形で残したくないから、もう少し、議長として、専門家の委員会でも立ち上げて、これをやるべきであると答えてほしかったんですが、今は、議長は委員会で調査されるのが、自分はそう思うておるということでございますので、それはそれとして皆さんにお諮りしてくれと言ったわけではございませんから、だから、議長がそうしますと言えば、口述どおりなんでしょうから、それはそれでいいんですよ。それを確かめただけでございますから。よろしいですか。

○議長（小川　廣康君）　はい、分かりました。それでは、先ほど言いましたように、この案件につきましては、所管の総務文教常任委員会に付託したいと思います。よろしいですね。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第２５．議案第３１号

○議長（小川　廣康君）　日程第２５、議案第３１号、権利の放棄についてを議題といたします。

提案理由の説明を求めます。中対馬振興部長、波田安徳君。

○中対馬振興部長（波田　安徳君）　ただいま議題となりました議案第３１号、権利の放棄について、提案理由とその内容について御説明申し上げます。

議案書の６１ページから６２ページをお願いいたします。

本議案は、地方自治法第９６条第１項第１０号の規定により、債権の請求権利を放棄することについて、議会の議決をお願いするものでございます。

内容について御説明いたします。

放棄する権利の内容は、合併前の峰町農林漁業振興資金貸付基金条例に基づき、平成７年３月３日に貸し付けた基金の未返還額の請求権でございます。この基金は、峰町が奨励する作物を栽培する経営者に対し、貸付けを行い、経済的自立を助長し、生活の安定に資することを目的として設置されたものでございます。権利を放棄する金額でございますが、貸付金残高２５万円と利息及び延滞金でございます。

次に、放棄する権利の相手方でございますが、債務者が平成１２年に亡くなられておりますので、峰町在住の相続人３名と愛知県在住の１名及び峰町在住の連帯保証人２名でございます。

放棄の理由といたしましては、改正前の民法１６７条第１項の規定により、消滅時効の１０年間が経過していることが主な理由でございます。平成２０年７月時点で債務者宅を訪問した際の生活状況から、債権回収は困難と判断し、定期的に訪問し、債務者の生活状況を確認しながら、生活状況の改善を期待し、債権回収に努めてまいりましたが、改善が見られなかったため、時効が完成したものでございます。時効完成後も１度自宅を訪問し、生活状況の改善が見られないこと、改善の期待が持てないことを再確認しております。

また、債務者と連帯保証人に承諾を得て、過去１０年間の所得調査を実施いたしましたが、両者とも低所得のため、日々の生活で精いっぱいであり、支払能力がないと判断いたしております。

以上、簡単ではございますが、説明を終わります。御審議の上、御決定賜りますようよろしくお願いいたします。

○議長（小川　廣康君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

本件は配付しております議案審査付託表のとおり、所管の産業建設常任委員会に付託をいたします。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第２６．諮問第１号

○議長（小川　廣康君）　日程第２６、諮問第１号、人権擁護委員候補者の推薦についてを議題とします。

提案理由の説明を求めます。市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　ただいま議題となりました諮問第１号の人権擁護委員候補者の推薦について、その提案理由を御説明いたします。

今回、御提案いたします委員につきましては、現委員であります平山年春氏の任期が、本年６月３０日をもって満了となりますので、後任として平山順寿氏を委員に推薦いたしたく、人権擁護委員法第６条第３項の規定により議会の御意見をお願いするものであります。

平山順寿氏は、美津島町にお住まいで、僧侶として職務に就く傍ら、平成１０年より身近な話し相手として、悩みに寄り添う電話相談のボランティア活動を続けるなど、人権に関する問題解消等に熱意をお持ちです。

令和元年１２月からは、民生委員、児童委員として地域福祉の向上に御活躍いただいており、広く社会の実情に精通され、人格、見識ともに申し分なく、人権擁護委員としてふさわしい人材でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○議長（小川　廣康君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

お諮りします。本件は委員会への付託を省略したいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　異議なしと認めます。本件は委員会への付託を省略することに決定いたしました。

これから討論、採決を行います。

諮問第１号、人権擁護委員候補者の推薦について討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　討論なしと認め、採決します。

本件は平山順寿氏を適任とすることに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　はい、異議なしと認めます。本件は平山順寿氏を適任とすることに決定をいたしました。

○議長（小川　廣康君）　以上で、本日の議事日程は全て終了しました。

本日はこれで散会とします。お疲れさまでした。

午後１時50分散会

令和３年　第１回　対　馬　市　議　会　定　例　会　会　議　録（第14日）

令和３年３月10日（水曜日）

議事日程（第３号）

令和３年３月10日　午前10時00分開議

日程第１　会派代表質問

日程第２　市政一般質問

本日の会議に付した事件

日程第１　会派代表質問

日程第２　市政一般質問

出席議員（18名）

１番　坂本　充弘君	２番　伊原　　徹君
３番　長郷　泰二君	４番　春田　新一君
５番　小島　徳重君	６番　吉見　優子君
８番　黒田　昭雄君	９番　小田　昭人君
10番　山本　輝昭君	11番　波田　政和君
12番　小宮　教義君	13番　齋藤　久光君
14番　初村　久藏君	15番　大浦　孝司君
16番　大部　初幸君	17番　作元　義文君
18番　上野洋次郎君	19番　小川　廣康君

欠席議員（１名）

７番　渕上　　清君

欠　　員（なし）

事務局出席職員職氏名

局長	阿比留伊勢男君	次長	國分　幸和君
課長補佐	梅野　浩二君	課長補佐	柚谷　智之君

説明のため出席した者の職氏名

市長	比田勝尚喜君
副市長	俵　　輝孝君
教育長	永留　和博君
総務部長	有江　正光君
総務課長（選挙管理委員会事務局書記長）	桐谷　和孝君
しまづくり推進部長	武末　祥人君
観光交流商工部長	二宮　照幸君
市民生活部長	乙成　一也君
福祉保険部長	古里　正人君
健康づくり推進部長	松井　惠夫君
農林水産部長	佐々木雅仁君
建設部長	伊賀　敏治君
水道局長	立花　大功君
教育部長	阿比留裕史君
中対馬振興部長	波田　安徳君
上対馬振興部長	森山　忠昭君
美津島行政サービスセンター所長	瀧川　昌浩君
峰行政サービスセンター所長	扇　　明宏君
上県行政サービスセンター所長	原田　勝彦君
消防長	主藤　庄司君
会計管理者	阿比留　裕君
監査委員事務局長	御手洗逸男君
農業委員会事務局長	庄司　智文君

午前10時00分開議

○議長（小川　廣康君）　おはようございます。

報告します。渕上清君から欠席の届出があっております。

ただいまから議事日程第３号により、本日の会議を開きます。

日程第１．会派代表質問

○議長（小川　廣康君）　日程第１、会派代表質問を行います。

この際、申し上げます。

発言時間については、申合せにより、時間内に終わるように御協力をお願いいたします。

また、関連質問につきましては、通告者と同会派の議員とし、本質問の内容と関係のあるもので、本質問者の持ち時間内としておりますので、そのように御了承願います。

本日の登壇は、１会派を予定しております。

それでは、通告により、順次発言を許します。新政会、４番、春田新一君。

○議員（４番　春田　新一君）　皆さん、おはようございます。

新政会の春田新一でございます。

本日は、会派代表質問をさせていただきます。

まず初めに、新型コロナウイルスの感染拡大が収束の兆しの見えないまま、新しい年を迎え、市民の皆様方には生活様式の変わった新年となりました。

また、今年に入って、長崎県でも緊急事態宣言も発令され、本市においても感染防止対策の観点から、新年の行事も中止あるいは延期になるなど、経済活動は低迷し大きなダメージを受けています。

本市では、１９例目の感染者が現在まで確認をされ、感染防止対策で長い長いトンネルを抜け出せないまま、春を迎えようとしております。市民の皆様の協力の下、一日も早い収束を願うばかりであります。

また、新型コロナウイルス感染が収束の後には、全ての市民が生き生きと健康で、住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりに今以上にスピード感を持って進めていただきたい。市長にお願いをしておきます。

さて、４年前の市議会議員一般選挙において、市民皆様方の負託により議会へ送っていただき、議員として活動させていただいておりますことに、この場をかりまして感謝申し上げます。

私たちの任期も本年５月末をもって終わりとなります。今日まで養ってきた思いが形になるよう、本日は会派代表質問を比田勝市長、永留教育長にぶつけてみたいというふうに思っております。

それでは、さきに通告をしておりました２項目について質問に入ります。

１項目めの第２次対馬市総合計画では４点通告をしております。

４点目につきましては、初村議員が関連質問をいたしますので、よろしくお願いをしておきます。

それでは、１項目め、第２次対馬市総合計画について。

このことにつきましては、前期計画の５年間が終了し、今年度から後期計画の５年間が始まり

ます。前期計画での基本的な考え方は継続をして新たな課題について見直し、後期計画が進められるというふうに思います。

計画の中で優先的に取り組んでいただきたい３点について私のほうからお伺いをいたします。

その１点目ですが、対馬人材の確保と仕組みづくりについてお尋ねをいたします。

皆さんも御存じのように、本市では人口減少や少子高齢化が進み、１次産業や地域づくり、子育て、見守り、健康づくり、清掃活動、環境保全活動など島づくりを担う人材が不足をしているというふうに思います。宝の島対馬での豊かな暮らしを維持するため、郷土愛の強い人材を確保しなければなりません。このことが最優先課題だというふうに考えます。この育成するための取組についてお伺いをいたします。

次に、２点目です。

地産・地消の推進について伺います。

島内にひと・もの・金が循環することで、様々な相乗り効果が発揮され、自立と循環の宝の島になるというふうに考えます。

対馬産品が島外の商品よりも価格が高い場合が多く、対馬産品の購入、消費が進んでない現状であると考えます。島内のものは島内で消費できるよう、地産・地消の仕組みをつくっていただきたい。

このことにつきましては、何回となく同僚議員の質問もあっております。課題に取り組み、先の見える事業構築を進めていただきたい。市長の見解をお尋ねいたします。

次に、３点目です。

島内の移動手段の確保について伺います。

広い対馬において、車を持たない市民や観光客の移動手段の確保は、本市において最重要課題の１つであるというふうに思います。

今後において、高齢化が進むことで、自家用車での移動が困難になる人が増えていくというふうに考えます。地域に応じた最適な交通手段の取組が重要になってくる、まあ、インフラ整備を含め、移動手段の確保をどのように構築をされていこうと考えてあるのかお伺いをいたします。

次に、２項目めでございます。

対馬の郷土芸能文化と保存の継承についてということで、教育長にお尋ねをいたします。

郷土芸能、対馬盆踊り地域の伝統を守り続けるための人材確保と手厚い支援策についてお伺いをいたします。

国境の島、対馬では、地理的な特性や古くからの大陸文化の影響を受けた対馬独自の文化が各地域ごとに固有の慣習や風習として生活に根差し、今日まで受け継がれています。

しかしながら、高齢化の進行や若者の島外流出による人口減少が進み、今後、郷土芸能の継承

が危ぶまれる実情だというふうに思います。

継承する人材不足を解消するための施策として、市内の各学校において、こどもたちへの郷土学習に取り組み、郷土の歴史を知り、学び、郷土愛を育み、伝統行事を担う後継者を育てなければならないと思います。

また、新聞等で報道されています対馬の盆踊が国の重要無形民俗文化財に新たに指定されました。

長い間、盆踊りを継承しておられます対馬盆踊保存連合会の皆さんをはじめ、地域の皆さんの長年の努力と絆があったことだというふうに思っております。

対馬市教育委員会としても、認識を新たにして、継承の一環として盆踊りのリーフレット作成や学校、公的施設への配付に取り組み、今後の後継者育成に努めていただきたいと考えますが、教育長の見解をお伺いいたします。

以上、２項目４点について私のほうから答弁を頂きます。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　おはようございます。

新政会、春田議員の質問にお答えいたします。

初めに、第１次産業の担い手確保についてでございますけども、新規就労者募集の取組として、対馬市内における農林水産業合同企業面談会及び新規参入者説明会を開催いたしました。

また、年間を通して、都市部における移住相談会、企業相談会への出席、参加企業への助成など新規就労者の確保に取り組むとともに、新規就業者には、就労継続のために各種の支援を実施してまいりました。

新規就業者の直近５年間の平均は、農業は５．６人、林業は８人、水産業は７．８人という結果にとどまっております。これらを踏まえまして、農業におきましては引き続き、農業次世代人材投資事業や長崎森林づくり担い手対策事業などの補助制度を活用しつつ、農地と空き家と農業機械等を一体的にあっせんする就農パッケージ方式を進め、新規就農者数の拡大を図ってまいります。

林業におきましては、豊富な森林資源を活用しやすい施業を促進し、地域経済が潤うことにより林業の後継者確保に努めてまいります。

水産業におきましては、漁業就業実践研修による経営者育成は一定の成果が表れているものの、大型のイカ釣り漁業や定置網、まき網などへの従事を目的とした従業者育成研修は、十分な成果には至っておらず、安定した雇用の確保が課題となっております。このため、継続して研修制度の周知に努めながら、外国人による特定技能制度を活用した人材確保も視野に入れた取組を展開してまいります。併せて、操業安全、低コスト、高付加価値等の魅力ある、もうかる漁業の確立

のため、漁港漁場整備事業等による就労環境の改善、様々な資源管理等について官民連携した取組強化に努めてまいります。

また、第１次産業の担い手として、島外からの移住を希望する方には、まずは農林漁家民泊を体験していいただき、直接生産者からの農林水産業の現状と魅力を知っていただくことで、担い手確保を図ってまいります。

今後も、関係機関と協力して様々なツールを活用しながら対馬の魅力を発信し、島外からの移住促進を図ってまいります。

地域づくり人材確保のこれまでの取組については、市民活動団体の育成支援や、域学連携推進事業による島おこし実践塾などを開催し、人材の育成・確保に取り組んできたところであります。

さらに本年度から、地域づくりを併せたコミュニティ支援を行うため、新たに島おこし協働隊員を３名雇用し、対馬北部・中部・南部にそれぞれ１名を配置したところであります。

また、同じく本年度からしまづくりＳＤＧｓを担える実践型人材の育成を図るため、域学連携で培ったネットワークを活用し、市民に対して分野ごとの教育機会や学び直しの機会を提供するため、対馬グローカル大学を開講しております。地域づくり人材の育成確保については、長期的かつ幅広い取組が必要であり、今後も市民や市民活動団体、ボランティア団体等の意見を聞きながら取組を進めてまいります。

次に、地産・地消の推進についてでございますが、農林産品については平成１６年頃から島内において直売所が増え始め、令和元年度の売上額は約４億円に上がっております。

また、学校給食においては、地場産品地産地消推進事業の活用により、子供たちへの対馬産の農林水産物を提供しております。今後は、給食用野菜の生産団体立ち上げ支援を進めてまいります。また、農協直売所では、ＳＮＳを用いた情報発信を開始している状況であり、今後の直売所の発展を支援してまいります。

なお、野菜、果樹の生産規模拡大を目指す農家の農地借入れ支援、機械導入支援や栽培指導を行うとともに島内流通の構築を図り、地産地消の推進に努めてまいります。

水産物における地産地消については、日本有数の水産資源を有し、多種多様な魚種が水揚げされているにもかかわらず、島内流通及び消費が停滞しております。特に、アマダイ、アカムツ、アナゴ、マグロ等については、市内の小売店や飲食店へ流通することが非常に少なく、地元でありながらその価値が認識されにくい状況となっていることから、まずは対馬の魅力ある水産物について地元の方々に消費を促しながら、その良さを再認識していただく機会を増やすとともに、漁業者の収益につながるよう流通システムの構築に向けて取り組んでまいります。

その取組といたしまして、新型コロナの収束後に、農林水産物の生産者に御協力いただき、対馬の農林水産物を市民の皆様が求めやすい価格で幅広く購入していただくためのイベントを島内

２か所で計画してまいります。また、島外の皆様にも水産物のＰＲを活性化することで、需要喚起を促し、対馬の大きな魅力である食をアピールしながら、自然・歴史とともに対馬観光の魅力につながるよう、横断的な連携を推進してまいります。

３点目の島内での移動手段の確保策についてでございますが、平成２７年に本市の公共交通体系を維持、改善するためのマスタープランとして対馬市地域公共交通網形成計画を、平成２８年に具体的な路線や運行等の詳細を定めた地域公共交通再編実施計画を策定し、効率的にバス路線を運行するため、スクールバスへの混乗、乗合タクシーへの切換え、地域の協力によりますコミュニティーバスの導入など地域公共交通の維持改善に努めてまいりました。民営の市営路線バスは３３路線でございますが、そのうち黒字路線はわずかに２路線だけであり、赤字路線については、市からの補助金などで損失額を補塡している状況にあります。

今後、利用者が減少し、赤字が大きくなった路線については、路線の廃止や乗合タクシーへの切替えなど見直しをする必要も出てまいります。

また、高齢者の免許証返納の増加等で公共交通のニーズも高まっておりますが、通院や買い物支援等、地域によりそのニーズも多様化しており、きめ細かな検討が必要であります。そのためには、公共交通維持の面からだけではなく、公共交通以外による移動支援等の面からも検討を進めるとともに、現在、実証事業を進めておりますが、自動運転機能を有した新たな交通システムの確立も目指してまいります。

私のほうからは、以上でございます。

○議長（小川　廣康君）　教育長、永留和博君。

○教育長（永留　和博君）　おはようございます。

新政会、春田議員の質問にお答えします。

郷土芸能の保存・継承についてでございますが、今年１月、国の文化審議会によって、対馬盆踊保存連合会が継承している「対馬の盆踊」を重要無形民俗文化財に指定するよう、文部科学大臣に答申されました。

対馬の盆踊は、江戸時代から盛んに行われ、明治期末でも島内８０余りの地域で踊られていたと言われています。しかし、時代の流れに伴う生活様式の変化や若者の島外流出、継承者の高齢化などからその数は減少の一途をたどり、現在では５つの地区でお盆の時期に踊られているだけです。

今後は、対馬盆踊保存連合会とも連携を取りながら、対馬の盆踊を絶やすことなく、途絶えた地域の盆踊りの復活についても働きかけていきたいと考えております。

また、平成３年度から毎年開催されておりました対馬島郷土芸能発表大会も、令和元年度の第２９回大会をもちまして中断しています。やはりこちらも、後継者不足による出場者や団体数の

減少などが影響しているようです。

議員御指摘のとおり、地域の伝統を守り続けていくためには、まずは人材の確保が必要不可欠です。対馬に残る貴重な伝統行事など、無形の文化財を次の世代に引き継いでいくための継承者の育成はまさに喫緊の課題であります。

第２次対馬市総合計画に上げられている４つの挑戦の中にも、「人づくり」、「ふるさとづくり」への挑戦が含まれております。

教育委員会としましては、学校でのふるさと学習の充実など、地域を愛する心豊かなこどもを育む教育を基本とした人づくりを、また対馬固有の文化財の保存、活用及び地域の特性を生かした生涯学習の推進によるふるさとづくりを積極的に進めてまいります。

とはいえ、伝統文化の継承は行政の力だけで出来るものではありません。何よりも、市民皆様の御理解と御協力あってのものだと考えます。市民一人一人が対馬の伝統文化の価値を理解していただき、それぞれの立場、それぞれの方法で御協力いただきたい、対馬市全体で守っていきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（小川　廣康君）　４番、春田新一君。

○議員（４番　春田　新一君）　答弁ありがとうございました。

それでは、順を追って整理をしていきたいというふうに思います。

まず１点目の、対馬の人材の確保とその仕組みづくりについてということで質問いたしました。

市長のほうから答弁は頂きましたが、やはり、地元でのこの１次産業、農林水産業が衰退をしていく状況をそのまま、まっ、見過ごしていくんじゃなくて、取組を強化していくということも答弁の中から分かったわけですが、なかなかその細かい仕組みづくりを行っていくようなところまで行ってないんじゃないかなあというふうに思います。

それがなぜそうなるのか、やはりその専門職、まあ、役所においても専門職の方が、やはり各漁業者の下に足を運んでいろいろな話を聞いたり協議をしたり、そういうことをすることで先に進むんじゃないかなというふうに思うんですが、市長の答弁は、今後も継承していくために努力をしていくんだという答弁の表れだったというふうに思いますが、やはりそこを少しこう変えていかなければ、なかなか実際に、本当に行政と市民と職に合ったところがまだまだこうはっきり見えてこないんじゃないかなと。ただ単に対馬では第１次産業は漁業、農業ですよということはよく皆さん分かりますが、その具体的なことをきちんとしていかなければ、漁業者の方、農業者の方も全然分かってないんじゃないかなというようなところまであっていろいろな批判が出てくるわけですから、そこら辺を実際に今後どのように取り組んでいかれるのか、市長のほうにお伺いをするんですが。いわゆる、私、ほか何名かの議員さんもいらっしゃいますが、やはり専門職

が必要じゃないか、ここまで人口も減少し、いろいろな予算を組む中で、やはり専門職がおってこそいろいろな、漁業者あるいは農業者の方の経営につながっていくんじゃないかというような話も出ております。そういうことも踏まえて、今後、市長のその施策について細かい仕組みづくりをこうするんだということを、あればお聞かせ願いたいと思います。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　第１次産業等について、専門職が必要ではないかというような御質問であったかと思います。

このことにつきましては、これまでも数度同じような質問等が出てきております。

ただ、その中でもこちらのほうといたしましては、大変このことは重要なことなんですけども、まず１点目といたしまして、市のほうで水産、そして林業、農業といったような専門職を抱えていくことは、今この職員の削減が大きく求められている中で、なかなか厳しいものがあるということが１点でございます。

そこで、今、県のほうにはそれぞれ水産・林業・農業等の専門職の方がいらっしゃいます。そういうことで、対馬振興局のほうとも連携を密にしながら、これらの対馬の第１次産業の活性化を目指してまいりたいというふうに考えております。

御理解をお願いしたいと思います。

○議長（小川　廣康君）　４番、春田新一君。

○議員（４番　春田　新一君）　難しいことはよく分かるんですが、やはり県のほうも女護島にですか、ありましたですよね。今もう振興局のほうに一緒に入っておられます。漁業者の方にとっては、女護島にあったときの所長さん、あるいはその担当の方といろいろ交えて話をしながら流通の問題、漁獲の問題、それからブランドの問題、そういうのもいろいろ勉強して、やっと地についてきたかなというようなところではありますが、なかなか、また特に追い打ちをかけるように、コロナでこのブランド品が売れないというような、今、状況であります。これは致し方ないかなというふうに思いますが、これが、コロナウイスルスが終息した後に、そういうようなところをやっぱりこう持っていかないと所得につながっていかないのではないかなというふうに思います。

やはり県のほうからでも、派遣が、水産業について、農業について、私は、できるというふうに思いますので、そこら辺も今後、県と協議をしながらやっていく必要もあるんじゃないかなというふうに思いますので、その辺にも市長取組を強化していただきたいなというふうに思っております。

それから、建設業につきましては、人材確保、後継者がいないということで、若者が育ってこないというような状況の中で企業説明会あるいはいろいろな現場見学会、努力をされて地元養成

をしていこうと、いう表れだろうというふうに思っております。

そういうことで、まずまず、建設業については、若者も見受けられるようにあります。そのような状況で、やはり一体となって第１次産業あるいは公共事業、こういうものを一体としてやっていかないと市の財政にも厳しいものが出てくる、また皆さんの所得も安定をしてこない、いうようなところですから、その辺の分析をされながら１つになってそういうことがやっていかれるように、別々にやっていくんじゃなくて一緒にやっていく、そうすることで地産地消にもなってくる、つながってくる、そういうことも今からは視野に入れてやっていかなければいけないのではないかなというふうに思っております。

また、農業につきましては私１回質問に取り上げましたが、その事業組合ですね、事業組合も設立をされて繁盛期には人材派遣もできるような、そういうところが今、五島市でやられております、こういうことにも少し行政側も力を加えてやっていかれれば、また新しい雇用が見いだせるのではないかなというふうに思いますので、よろしくお願いをします。

私は、前回、前々回ですかね、この特定地域づくり事業組合というのは質問いたしました。市長の答弁は、五島市には五島市が取り入れましたがというような話でしたが、対馬ではまだまだその取組がなされてない、今後どういうふうにしていこうと思ってあるのか、少しお聞かせをいただきたいというふうに思います。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　特定地域づくり事業協同組合につきましては、この令和２年度のほうは、各事業団体のほうに１回説明はいたしております。しかしながら、なかなか今、自らやろうというような団体がございませんでしたけれども、それではなかなかこの雇用が発展しないというようなことで、この令和３年度につきましては、ぜひともこの特定地域づくり事業組合を立ち上げてまいりたいということで、これ強く、かつまた再度、事業者団体等にも働きかけを行ってまいりたいというふうに計画しているところでございます。

○議長（小川　廣康君）　４番、春田新一君。

○議員（４番　春田　新一君）　よく分かりました。

そういうふうにして、そこもやはり、先ほど言いましたように、農業の専門職がいらっしゃれば、その方が足を運んで動いていって、農業者の皆さん方との意見交換あるいは事業に関する説明、そういうのがきちんとできて皆さんが分かっていかれるんじゃないかなというふうに思いますので、今市長が言われましたように、そこに力を入れて今後やっていただきたいというふうに思っております。

そして、地産地消もこの総合計画の中の全体で、やはり人材確保というのは大事なことだろうというふうに思っております。

また、対馬市ではどこもそうなんですが、人口減少が非常に進んでおります。２０２５年には２万５，０００人になろうというような推計も出されておりますが、これを２万８，０００で止めるんだというような施策も打ち出されております。そういうことにも力を入れられてやっていただきたいなというふうに思っております。

以上、１点目はそれで終わります。

次は、２点目でございます。

このことにつきましては、先ほども申し上げましたように、同僚議員からも質問は何回となくされております。

非常に難しいのが、私の聞く範囲では、やはり今のこの地産地消で、漁業者の方は、ブランド品はほとんど向こうに出荷されるわけですが、農業のほうは、地元の地でつくってそれを学校給食で使っていただく、いうようなことが少し進んでいるのかなというふうには思っておりますが、なかなかこの給食に使う分だけの材料がそろわないというような状況にあるんじゃないかなというふうに思っております。これも、やはり農業者の方々と一緒になって協議をしながら、いろんな方面で、お互いに力を合わせてやっていく必要があるのではないかなというふうに感じているところであります。

やはり、例えば大根、玉ねぎ、白菜といったものを１農業者がつくるんじゃなくて、いろいろな方面でつくって併せてそれを地産地消として給食に使ってもらう、またスーパーに卸してそれを買っていただく、そういうものが地産地消の取組になってくるわけですから、そこら辺もやはり生産者と給食センターの担当の方と話をしながら、どういうものがどういう季節にどれだけとれるのか、そして安定した供給ができるのか、そこら辺も調べる必要があるというふうに思います。

私が知ってる範囲では、賀佐のゴボウですね、賀佐ゴボウ、これ対馬でも有名なゴボウですが、やはり給食センターで使っていただいておるということで、私も現場も見せていただき、給食センターにも伺ったわけですが、なかなか材料がそろわない、それと太さもそろわないということで、まあ、給食センターには機械がありますので、機械に通らない、機械からまあ、曲がったものは通らないというような、そういうような条件があって、なかなかスムーズにいっていないようなところもありますので、そこら辺の解消も協議をしながらしていけば何とかなっていくんじゃないかなというふうに思います。

作る人、買う人、食べる人、そこらへんが上手くいっていないので地産地消が進んでいないというのが今の現状じゃないのかなと思いますので、そこら辺を皆さん一緒になって取り組んでいけば、これは、地産地消は推進されるんじゃないかなというふうに思いますので、そこら辺も、教育委員会もそうですが、行政側も一つになってやっていかなければいけないというふうに思っ

ております。

先ほど、市長のほうから農業団体の担い手のほうで答弁がございました。これもそういうふうなところにもっていけば、その協同組合が設立されるようになれば、そこでいろいろな取組ができて推進がしていかれるのじゃないかなというふうに思いますので、そこら辺にも頭に置かれて、今後進めていただきたいなというふうに思っております。

それでは、２点目もそれで終わります。

３点目に行きます。

島内の移動手段の確保についてということで、答弁を頂きました。

この対馬は特に広い島でありますので、車を持たない市民やあるいは自主返納された高齢者の方、買い物、病院、大変な思いだろうというふうに拝察をするわけですが、やはり、先ほど答弁にございましたが、地域から乗合タクシーあるいはバス、そういうものを出されるような仕組みづくり、そしてまた、今の志多留でできておりますが、やはりまだまだこの対馬の中で、地域的には何か所か必要なところが今、現在出てきてるんじゃないかなというふうに思います。そこら辺も地域と一体となってやっていく、まあこれも、先ほど言いましたように、地域に足を運んでそれで地域の話をいろいろ聞きながら、まあ、地域の方も話に乗らない方もいらっしゃいます。そこをうまい具合話を持っていって進めていかなければ、これは、なかなかその地域でバスを動かすということは、なかなか、進まないでしょうから、志多留の実証実験の折を考えながら、また、困った地域での乗合バスというものも今後、増やしていかなければいけないというふうになります。

それと、私、いろいろな地域で話を聞きますと、福祉タクシーの推進が少ないような気がするんですね。やはり、そこにも行政が関わりを持って福祉タクシーの許可が取れるような、何か仕組みは、まあ、いろいろ難しいそうであります。運輸省あるいは自動車学校、そういうところできちんとした講習を受けなければいけないといったような状況、あるいはまた車の改造、そういうのがありますので、そこら辺の行政としてできる範囲の、助成といいますか、協力といいますか、そういうものができるかできないかを少し市長にお尋ねをいたします。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　福祉タクシーの件につきましては、私もまだまだ勉強が足りないというような状況で、満足な答弁ができないということで、もし分かるなら、担当部長のほうが分かる範囲で答えさせていただきます。

○議長（小川　廣康君）　福祉保険部長、古里正人君。

○福祉保険部長（古里　正人君）　春田議員の御質問にお答えさせていただきます。

申し訳ございません、私も福祉タクシーにつきましては、個人で営業されている状況でござい

まして、市が認可する等というのがございませんので、詳細のことについては把握しておりません。申し訳ございません。ちょっとその辺については勉強させていただきたいと思っております。

○議長（小川　廣康君）　４番、春田新一君。

○議員（４番　春田　新一君）　個人事業の問題になってきますので、行政はあまり関わっていないというような今の状況ですが、やはり乗合タクシーとかその福祉タクシーが今から普及してくるんですから、やはり、それは、分かりませんじゃなくて、少し協力をしながら皆さんといろんな、国土交通省あたりに話を聞かれたり、説明ができるようにしておかなければいけないんじゃないかなというふうに思っております。

私も勉強不足で、そこら辺分かりませんので、また国土交通省とかそういうところの資料を取り寄せながら、自分も勉強したいなというふうに思っております。

各地域に行かれますとその話が多いんですね。やはり、まあ、そうだな、高齢化が進むことによってそういう苦情がいっぱい出るんだなというようなことも頭の中にいっぱい詰まるわけですが、なかなかこれを回答することもできない、私たちも手を取ってやっていくこともできないわけですら、なかなか先に進まないんですが、福祉タクシーについても今現在、１集落から私が講習に行って取ってこうというような今、話までは出ていますが、なかなかこれがまあ、自己負担ということになってきますので、大変御苦労されるんですが、その辺も今、市長も担当部長も申し上げられましたように、まだまだちょっとそこらへんを把握してないということですので、みんな一緒になってそういうことを進めていかなければ、この対馬で高齢者になってどうして生きていくのか、どうしたら買い物に行けるのか、そういうこともより安堵にならないわけですから、やはりそこも一緒になって取組を進めていかなければいけないというふうに思っているところでございます。

それから、本線の公共交通について。

公共交通も今、先ほど、この第２次総合計画の中にも入っておりますが、なかなか、便数は出てても客がいない、採算が取れない、まあ、そうだろうというふうに思います。人口がこれだけ減少して高齢化率が高くなっているんですから、なかなか県道、市道のバス停まで行くのも困難な人も結構おられるんじゃないかなというふうに思います。そういうことで、乗合タクシーとか、この地域でつくる乗合バス、そういうものが今から普及をしてくるんじゃないかなというふうに思うし、また免許自主返納も、そういうことが優遇していかなければ自主返納も進まないわけでありますので、これも一体となって取組みをしていかなければいけません。なかなか難しい問題になってきますが、そこら辺もよく理解をされて地域に入られて、地域の意見を聞きながら、今後進めていただきたいというふうに思っております。

特に病院、買い物。まあ病院はある程度公共交通バスの時間で間に合うようなところはありま

すが、買い物ですね。買い物が自由にできない、家に閉じこもりになってしまう、地域包括もそうなんですが、やはりそこが進まない。買い物客をスーパーまで送っていけば、これは違反になる。料金はもらわなくても違反になる。また、乗せてもらった人は、料金の代わりに何かしようという、これも違反になる。というようなことで、なかなかうまい具合にいかないわけですよね。だから、やっぱり福祉タクシーとか、そういうタクシーに力を入れていかないと、高齢者の方は大変苦労されるんじゃないかなというふうに思っておりますので、そこら辺もよろしくお願いをしておきます。

３点目終わります。

次に、２項目めの郷土芸能、対馬盆踊について教育長のほうから答弁がございました。

それで、教育長の言われるとおり、このことについても指定をされたということで、対馬で初めてのことであります。民俗芸能、これは、先ほど私も言いましたように、地域の絆があってここまで来たものと思っております。

今から後継者不足と若者の島外流出で、なかなかこれも、継続していくのを、継承していくのが難しいというところも出てきます。これを今から、もう、指定を受けたときからやはり、もう、また始まったんだということでやっていかなければ先には進まない。絆を巻き替える、私の言葉では絆を巻き替えるというような意味で、交代をする時期が来てるわけですから、今やっていかないと、せっかく指定をされたわけですから、対馬の魅力ある盆踊り、４地区ですよね、４地区、まあ、ほかの地区もありますけど、保存に入ってあるのは４地区ということで、今指定をされました。

これも、今後、ユネスコのほうに世界遺産登録ということで今後なっていくんじゃないかなというふうに私は思っております。

２０２１年の３月末、今月の末ですね、事務局に提案書を提出、それから２０２２年の１０月評価機関に勧告と、２０２２年の１１月に政府間委員会において、審議、決定ということになって今進んでおります。

こういうこともなっていくわけですから、やはり今しっかりとしたもの、根づいたものをしっかり守っていかなければ、対馬も危ぶまれるということになりますので、教育委員会としては、対馬の子供たちにこれを伝承芸能を教えていくんだ、学校の教材としてやっていくんだということもよく分かりますが、今以上に、どうしたら子供たちが継承していかれるようになるのか、そこら辺の今やってこられた課題について教育長、課題とは、今からはこうしますというような、何か、意気込みがありましたらお願いします。

○議長（小川　廣康君）　教育長、永留和博君。

○教育長（永留　和博君）　学校の中でどうしていくか、子供たちにどう継承していくかというの

は大変難しい問題だと思っています。

学校の教職員にそういうものを指導できる者はおりませんので、どうしても、地域の方の御指導を受けるであるとか、御協力を頂きながらやっていかなければいけない。そういう学校も現在２校ほど、地域の盆踊りを学校の総合的な学習の中で取り組んでおります。こういうものが継続されるように、また、そういう、地域の方で指導くださる方がいらっしゃれば、そういう郷土芸能についても継続していけるような働きかけをしていきたいなというふうには考えております。

○議長（小川　廣康君）　４番、春田新一君。

○議員（４番　春田　新一君）　これは、まずまず学校の中では少し難しい、生涯学習において、また放課後子供教室においてそういうものができればというなという教育長の御意見でございます。

やはり、その、継承されている保存会の方々の協力がなければできないわけですから、そこら辺も今後やっぱり、この、指定をされたことも踏まえて協議をしながら、今後こういうふうに変えていこうというような気持ちを持ってやっていただければというふうに思います。よろしくお願いをしときます。

それと、冒頭に申し上げましたが、このことについて教育委員会も認識を新たにして、盆踊りのリーフレット作成やら、学校、公的施設への配付ができるように取組をしていただきたい。そうすることでこの盆踊りの意義、意味というものが分かってきます。地域に根差した意味というものが分かってきますので、これを知ることによって、やはり地元の子供たちが少し熱意を持ってくるというようなところになってくるだろうというふうに思いますから、まあ、明日、あさってどうこうという問題じゃありませんが、やはりこれはずっと長い目で見てやっていかなければ根づいてきませんので、そこら辺は教育委員会として、文化財課として、継承されている方々と協議をしながら、そしてまた、手厚い支援策をしながらやっていかなければ、せっかく認定され、ユネスコにまで登録ができるわけですから、そこら辺も今後、大きな課題だというふうに思っておりますのでよろしく取組をお願いしておきます。

それと、市長に、必要に応じては市長ということで通告をしておりましたので、市長のほうに１点だけお尋ねいたします。

１回質問をいたしましたが、対馬島郷土芸能発表大会ということで、２９回で今終わっております。なかなか、これも人材不足、高齢化が進んでなかなか先に進まないということで２９回で一旦止まってるわけですが、これをこの盆踊りの認定に伴い、今後どのようにこの大会をしていったらいいのか、また市の支援策として何かあるのか、そこら辺を１点だけお尋ねいたします。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　確かに、この郷土芸能保存会の大会は２９回で、今現在終わっておりま

す。

ただ、私といたしましても、この大会をぜひ今後また再び行ってほしいということで、この芸能大会の事務局のほうにも会長さんのほうにも、お願いもしております。

そういうところで、今、議員おっしゃられるように、この盆踊りのほうが、申請が今されているというようなことでありますので、市といたしましても、できる限りの協力は惜しまないつもりでおります。今後とも、もしこの盆踊保存会のほう、そしてまた郷土芸能保存会のほうが合同でのそういった大会が開催できれば幸いかなというふうに考えております。

以上です。

○議長（小川　廣康君）　４番、春田新一君。

○議員（４番　春田　新一君）　どうもありがとうございます。

この盆踊りも郷土芸能発表大会の折には、出展をされて踊っておられました。

そういうことで、教育委員会文化財課だけでなくて、行政のほうも、こうなって観光の拠点になってくるわけですから、そこら辺にも力を入れて横、縦のつながりを持って進めていただきたいというふうに思います。

私のほう、時間になりましたので、あと初村議員のほうにバトンを渡します。

ありがとうございました。

○議長（小川　廣康君）　関連質問に入ります。

新政会、１４番、初村久藏君。

すいません、登壇してお願いします。

○議員（１４番　初村　久藏君）　登壇するの。

○議長（小川　廣康君）　はい、一般質問席がないですので、登壇してお願いいたします。最初の分だけ。

○議員（１４番　初村　久藏君）　新政会の初村久藏です。

同僚の春田議員の関連質問をいたしたいと思います。

第２次対馬市総合計画について、春田議員のほうから大きな３点ほど質問がありました。

私は、４点目の自然と暮らしが共存する対馬ふるさとづくりについて質問をしてみたいと思います。

豊かな自然環境を取り戻すための有害鳥獣対策について。

イノシシ、鹿、森林、農地への被害が深刻であり、生態系への影響が甚大であります。駆除活動について、今後の仕組みづくりについてお伺いをいたします。

以上です。また議席より申したいと思います。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　初村議員の質問にお答えいたします。

時間があまり、残り１０分となっておりますので、ちょっと内容を少し割愛をさせて説明をさせていただきます。

対馬市では、有害鳥獣による被害対策を進めるため、被害の防護対策、捕獲事業、資源活用をこの３点を主要施策として実施をしております。

防護対策につきましては、過去４年間で実施したワイヤーメッシュの設置延長は約３５キロメートルであります。その結果、農業被害額は平成２８年度から徐々に減少しているところであります。しかしながら、森林内では、鹿の生息数については、令和２年１月、長崎県が実施した鹿生息数調査では４万１，０００頭との報告を受けております。

捕獲事業につきましては、捕獲頭数は毎年増えており、鹿の捕獲は令和元年度では過去最高の８，２３６頭の実績になりました。また、イノシシは、５，３６７頭で、前年度と比較しますと約２倍となっております。今年度１月末現在は、さらにその約１．８倍の捕獲実績となります。今後も捕獲を進め、生息数の減少に努めてまいります。

また、地域ぐるみで被害対策として進めている地区捕獲隊の結成でございますけども、現在１３地区となっております。それとまた、地区捕獲隊は、農林家などの地区内の捕獲作業、餌の管理や見回りを行って、ハンターと協力しながら地区内の駆除に従事する協定を結ぶものであります。

また、この第２次対馬市総合計画後期計画の中に定めた有害鳥獣対策でございますけども、その中でも捕獲事業につきましても、捕獲従事者の増加を図るため、今年度は新型コロナウイルス感染症対策事業の活用によりまして、通年の５倍近い５０名が新たに捕獲従事者に加わりました。既存の従事者１９３名と合わせますと２４３名となっております。

今後も、捕獲従事者を増やすとともに、技術研修、ハンター育成に取り組み、山間部の一斉捕獲事業の拡大に努めてまいります。

健全な森林を管理していくためには、鹿の適正な生息頭数と言われる３，５００頭まで減少させる集中的な捕獲を進めることが肝要であり、環境省や長崎県など関係機関と連携した捕獲強化を今後、粘り強く進めてまいりたいというふうに考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（小川　廣康君）　１４番、初村久藏君。

○議員（１４番　初村　久藏君）　ありがとうございました。

別の視点でちょっと、捕獲関係はいろいろと今、市のほうも研究をして頑張っておられるようにありますので、それを省きまして、一応イノシシ、鹿ですね、鹿の獣肉加工と販路について、

そして皮革製品の加工品の対馬市の今、現状はどういうものかちょっと分かってあれば教えてください。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　担当部長のほうからお答えさせていただきます。

○議長（小川　廣康君）　農林水産部長、佐々木雅仁君。

○農林水産部長（佐々木雅仁君）　初村議員の加工品の状況ということでございましょうか。

加工品につきましては、今、対馬市ではいとなみ協議会を通してジビエ肉については、学校給食のほうに提供をしております。

ジビエ肉については、元年度の実績としまして、約５００キロを学校給食に提供しております。あと、鹿、あの皮については、これもいとなみ協議会を通じて販売をしておりまして、今のところ対馬の業者さん、ｄａｉｄａｉさんというとこですけども、そこのほうに販売をして。そこから島外等に販売をしてもらっているところでございます。

以上でございます。

○議長（小川　廣康君）　１４番、初村久藏君。

○議員（１４番　初村　久藏君）　やっぱり、肉、革製品の販路についても市も最初に立ち上げたわけですけど、やっぱり加工される人たちにある程度の補助金やってもいいんじゃなかろうかと思いますけれども、そこのとこも今から研究してもらい対馬製品が出回るような方向をしてもらいたいと思います。

それと、イノシシ、鹿の対馬島内の共存共営についてですけど、今鹿が対馬の適正頭数は３，５００頭と市長のほうから言われましたけど、今現在どのくらい生息しているのか、分かれば、簡単でいいですけど、イノシシ、鹿の対馬島内の生体数ですよ。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　まず、イノシシについては、明確な頭数というのは推定できる手法がまだ確立されていないということであります。

鹿のほうは、ある程度、その、ふんの数とか、そういうことで確立されておりまして、先ほど申しましたように令和２年１月長崎県が実施した生息調査では、対馬島内に約４万１，０００頭の生息がいるだろうと推定をされているところでございます。

○議長（小川　廣康君）　１４番、初村久藏君。

○議員（１４番　初村　久藏君）　ありがとうございました。

４万１，０００頭といえば、年間、鹿で昨年８，０００頭ぐらい捕ってあるんですけど、なかなか追いつかんと思います。やはり、あれは１産１頭ですか、鹿は。１頭ですね。４万１，０００頭のうちメスが３万、半分にしても毎年２万頭おるとすればやっぱり、毎年２万頭ずつ生まれたら

ですね、８，０００頭じゃ、とてもじゃない追いつかんと思います。もっと力を入れてぜひこの全部を捕るということは難しいですけど、やっぱりある程度減らしてもらうように市としても今後、いろいろ研究していろんな施策もできておりますが、ひとつ頑張ってもらいたいと思います。

何かあれば……。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　ありがとうございます。

私たちも、今、議員心配されてありますように、この３月まで令和２年度は、今約９，５００頭の捕獲見込みだということを聞いております。そういう中で、私いつも、関係者の方と話をするときには、今後、人的な捕獲だけではなかなか難しいんじゃないかということで、今後またいろいろ関係機関との御協力を頂きながら、科学的な捕獲……

○議長（小川　廣康君）　時間が参りましたのでまとめてください。

○市長（比田勝尚喜君）　すみません。そういったところも目指してまいりたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（小川　廣康君）　これで、新政会の会派代表質問は、終わりました。

以上で、本日予定しておりました会派代表質問は、終わります。

暫時休憩します。再開を１１時２０分からといたします。

午前11時07分休憩

午前11時20分再開

○議長（小川　廣康君）　再開します。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第２．市政一般質問

○議長（小川　廣康君）　日程第２、市政一般質問を行います。

本日の登壇は３人を予定しております。

それでは、届出順に発言を許しますが、あらかじめ申し上げます。午前の部が若干時間がずれ込むことが予想されますので、御了承お願いしたいと思います。

１番、坂本充弘君。

○議員（１番　坂本　充弘君）　皆さん、おはようございます。１番議員、新政会の坂本充弘でございます。

今定例会においては最初の質問者となりました。よろしくお願いいたします。

私は、４年前の平成２９年対馬市議会議員一般選挙におきまして、市民皆様の多数の御支援を

頂き、初めての当選をさせていただきました。任期はこの５月までとなっておりますが、この間、皆様の御指導を頂き、ここまで何とかこなしてこられたことに対し、深く感謝を申し上げます。誠にありがとうございました。

質問に入ります前に、明日１１日は東日本大震災から１０年となります。被災地では復旧がかなり進んできてはおりますが、完全復旧にもう少し時間がかかりそうなところ、まだ避難生活をされている方もあるようです。

現在はコロナ禍ではありますが、被災された皆様の一日も早い復興を祈るばかりです。

それでは、通告に従い、質問に入らせていただきます。

１項目めは、漁業振興対策について４点ほどお伺いをさせていただきます。

２項目めは、投棄ごみ対策の強化についてでございます。

以上の２項目についてお尋ねをいたします。

１項目めの漁業振興対策についてでございますが、御承知のとおり、対馬の漁業は衰退の一途をたどっていると言っても過言ではありません。中には、一本釣り漁業やはえ縄漁業で高級魚、ブランド魚などを漁獲される漁民の方もおられますが、ごく一部であります。

そして、クロマグロの漁獲規制が始まった後から、追い打ちをかけるかのようにスルメイカの歴史的大不漁は今も続いています。さらに、昨今のコロナ禍による漁獲安、流通のストップ、抱えている養殖魚への維持費、漁民のますますの高齢化、不漁魚種においては後継者がなく、廃業を待つばかりか、経営維持ができないのではないかと心配されています。

そのような中において、国、県、対馬市においても、経営を維持できるよう、漁業用燃油をはじめ、あらゆる補助金、助成金を投じていただいているところであり、漁民は大変助けていただいております。全部が全部将来に続くものではないにしても、第１次生産者の漁民は何とかしのぐことができている状態です。今後においても、現行補助金の維持と、希望の光となるような新規助成・補助金制度を設立していただきたいと思います。

昨年度の漁業協同組合における決算で、事業利益を計上できた漁協は１２漁協のうち２漁協しかありませんでした。全国９４２の沿岸漁協においても、７割が事業赤字であります。漁業者の高齢化に加え、水揚げ減少、漁協経営難となり、職員の確保が困難な状態となっています。漁民を助ける制度ができても、それを補佐する漁協が危機的状態になりつつあります。

昨年末に漁業法改正が施行され、水産施策の改革について対応準備が急がれるところでありますが、沿岸漁業の振興・育成をしていく必要のある漁協も厳しい状況であります。正組合員の数も平成２６年は１，８０２人、令和元年末には１，４５５人と減少しております。

このような状況下で、１点目として、今後の総合的な漁業振興対策についてお尋ねをいたします。また、その中で現在上地区の２漁協で合併協議が進められていると伺っております。合併の

支援策についても見解をお伺いいたします。

２点目として、ＳＤＧｓでは「１４．海の豊かさを守ろう～海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する～」とありますが、国も国際会議の場においてクロマグロの漁獲枠拡大について提案を出しているとは聞いておりますが、なかなか漁獲枠拡大についてのニュースは入ってきておりません。クロマグロの漁獲規制は現在どのような状況であるのか、今後、県や国に対してどのような取組・要望を考えてあるのかお伺いいたします。

３点目として、今後は、国が進める資源管理の強化において、データの蓄積は非常に重要なところとなります。長崎県で漁獲される種類は約２５０種ぐらいと思いますが、国は将来、資源管理対象魚種を２００種に増やすと考えられています。漁業者人口も年々減少し、漁協職員も減少している中、既にクロマグロの漁獲規制においても浜は混乱し、ＩＱ配分、国・県への報告・枠の調整に多忙を極め、忙殺される中、これ以上の資源管理魚種が増加されたときの対応を可能にする仕組みはありません。

合併を目標に協議が進められている漁協もあり、この漁獲データ入力システムを導入する予定と伺っております。そのシステムで蓄積したデータを、依頼に応じて対馬市等に報告をします。対馬市からのデータ依頼も事務量としてかなりのものだと聞いております。

そこで、対馬市と各漁協との間で情報の共有化のデータ連携システムの構築ができないかということであります。この連携システムができれば漁協職員、市の職員においても業務の効率化が図られるのではないかと考えます。

全島システムの統合がかなえば、業務の効率化、将来の合併への備え、全体廉価への交渉などのメリットのほか、広域浜プランの計画、成果・分析につなげる水揚げ・コスト・税務申告など、関連活用の可能性が大きくあります。対馬全島の漁協へ１回１回提出の依頼をしなくて済みますし、漁協のほうで入力しておけば、水揚げデータを把握することも可能となります。ぜひ、漁協・対馬市が連携できるシステムの構築に向けて前向きな検討をすべきではないかと考えます。よろしくお願いいたします。

４点目は、償却資産（固定資産税）の申告について確認ということで、個人事業者あてに償却資産の明細が送付されてきております。

個人が対馬市からの封書を持参し漁協に訪ねてきた際に、確定申告で償却資産の明細をつけて報告しているので出さなくていいですよということで、対応してきた経緯があります。それで、個人の申告がなくても新しい資産を取得したときには、償却資産の明細にも増加されているということでした。

そういうことで、後々確認してみたところ、既に以前廃棄している資産でも償却資産の明細に載っていたということであります。

増加しているときにも確定申告で出している。減少しているときでも確定申告で、そのときは載せていないということなんですが、これも、先ほど言いました３点目のデータ連携システムができれば、償却資産の確認もできると思いますし、封書の送付も省略の可能性があると思われますが、いかがでしょうか。

２項目めの、投棄ごみ対策の強化についてでございます。

この件につきましては、２年前の一般質問でも挙げさせていただきました。韓国人観光客がいなくなっても、一向になくならないような気がいたします。

どの町にもボランティア活動で清掃していただいている方がおられます。本当に、心から感謝を申し上げたいと思います。

その方が言われたことなんですけれども、「拾っても拾ってもすぐに増えてくるんですよ。本当に残念です」と言われます。

投棄ごみ対策の強化について、もう少し強い周知運動でもする必要があると思いますが、どのように対処していくのか、改めてお伺いいたします。

以上でございます。よろしくお願いいたします。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　坂本議員の質問にお答えいたします。

初めに漁業振興対策及び漁協合併についてでございますけども、対馬市における水産業の現状としまして、海水温の上昇や食害による藻場の衰退、漁獲資源量の減少、クロマグロの漁獲規制等の複合的な要因に加えて、新型コロナウイルス感染症の長期化により、深刻な状況が継続しているところであります。

その中、漁業振興対策、漁協合併について、答弁のほうで詳細な説明をしてほしいということが伝わってきております。少々時間を頂きます。

このような厳しい漁業情勢の中、総合的な漁業振興対策として、藻場回復対策や、その一因とされる食害対策を継続的に実施しながら、漁業生産の基盤となる漁業後継者の育成、安全で魅力ある漁村づくりのための漁港、漁場整備に努めております。

加えまして、環境ＤＮＡ調査での魚類分布、密度の推計や、人工衛星画像の導入による海水温の変化等、先端技術の導入にも取り組んでいるところでございます。

現在、直面しておりますコロナ禍における支援策として、漁獲金額の減少に伴う緊急支援助成金にはじまり、経営継続のための漁協手数料の支援、出荷停滞魚種の学校給食への提供、多くの雇用を抱えるクロマグロ養殖及び真珠養殖事業者への支援等、地元要望に迅速に対応すべく様々な施策を講じております。

しかし、抜本的な解決策には至っておらず、市内１２漁協においても資源の減少やコロナ禍の

影響を継続して受けており、手数料の減少による経営悪化や職員の確保などに苦慮されていると聞き及んでおります。

漁業協同組合の目的として、水産業協同組合法第４条に、その行う事業によってその組合員のために直接の奉仕をすることとされており、水産業の振興を図る上で健全な漁協経営の継続は必須であると思われます。

このため、平成３０年度より長崎県漁協合併推進室を中心として、対馬におきましても一部で合併に向けた協議が進行しております。中でも、各漁協が所有する荷さばき施設、製氷施設、冷凍・冷蔵施設等の老朽化や能力低下等により、更新時期を迎える施設が多数あり、施設の改修・更新には近隣漁協と連携した機能の集約・効率化が前提であります。

これらの補助事業計画の際には、地元要望に迅速に対応すべく、スムーズで効率的な事業実施となるよう体制の強化に努めてまいります。

また、漁協合併に対する支援策として、長崎県においては、地域を担う漁協機能強化支援事業を活用して、中小企業診断士や税理士等による漁協財務改善支援、漁協合併計画策定支援があり、対馬市においても、合併推進につながる支援策を幅広く検討してまいります。

次に、クロマグロ漁獲規制についてでございますけども、クロマグロの資源管理には、国際委員会である中西部太平洋まぐろ類委員会において、日本を含む２４か国、そしてＥＵ、台湾により協議されており、２０１４年に現行措置の概要が採択されて現在まで継続されております。

その中で日本における漁獲上限は、３０キロ未満の小型魚については、２００２年から２００４年の平均水準８，０１５トンから半減の４，００７トン、３０キロ以上の大型魚は、２００２年から２００４年の平均水準から増加させない４，８８２トンとされております。

また、国内の配分方針は、小型魚は、平成２２年から平成２４年の平均値、大型魚が平成２７年から平成３０年のうち、海区別、及び採捕の種類別の最大値となっております。

長崎県内においては、県南、県北、五島、壱岐、対馬の５海区に分類されており、現在の第６管理期間における対馬海区への配分量は、繰越配分及び追加配分を含めると、小型、大型合わせて４９３トンで、前期より１１０トン程度増加しており、全国の約１０％、県内の約４６％を占めております。

その増加要因として、国際会議において採択された漁獲上限の未利用分に係る繰越率が、現状の５％から１７％へ増加したこと、大型魚の漁獲上限について台湾から日本へ３００トンの移譲が可能となったことが挙げられます。

しかし、対馬海区は承認隻数が９３６隻と多く、小型魚の当初配分時点で１隻当たり３７６キログラムの割当てにとどまっており、依然、厳しい状況であります。

また、水産庁において、来期も今期と同様の数量にすることが承認されており、配分増が期待

できないことから、漁協間の連携調整を図りながら、対馬海区全体で消化率の向上に努めることが重要であると考えております。

対馬市としても皆様の意見を聞きながら、必要に応じて対策を検討してまいります。

次に、資源管理についてでございますが、現在、ＴＡＣ制度の導入により、特定水産資源８魚種について漁獲数量が制限されており、加えて令和２年１２月施行の改正漁業法により８魚種については、令和３年１月分より、全て漁獲報告の対象となっております。このため、漁業者や漁協職員の皆様には、漁獲管理や報告業務で多忙を極めることが想定されることから、水産庁において、事務負担を軽減しつつ迅速に収集・蓄積するシステムを構築し、生産現場へ導入することが検討されております。

各種データをシステム上で一元的に集約することで、資源管理やＴＡＣの管理、漁獲情報の確認等、用途に応じて複数の目的に利用が可能となることから、システムの早期導入に向けて、漁協組合長と連携を図りながら国に要望してまいります。

次に、償却資産の申告におけるデータ連携についてでございますけども、地方税法第３８３条で、「毎年１月１日現在で所有している償却資産について、個人、法人を問わず１月３１日までに申告しなければならない」となっております。

この制度周知も併せ、未申告者を防ぐ観点から、申告勧奨を行っているところでございます。

議員御指摘は、漁協や商工会など償却資産をデータで管理し、確定申告を行っている事業所とデータ連携を行えば、通知は不要となり郵送料の節約や申請者の負担軽減になるのではないかとのことでございますが、確定申告で取り扱う減価償却資産と、市税で申告いただく償却資産は、対象資産が異なる場合もあるため、国、市で、それぞれ申告していただく必要があります。

また、データ連携につきましては、市で運用している電算システムがマイナンバーなどの個人情報を取り扱っているため、セキュリティの関係上、官公庁以外との連携はできないようになっております。

このようなことから、申告については、地方税共同機構が運営するｅＬＴＡＸによる電子申告を利用していただきたいと思っております。

現在、電子申告により企業や税理士事務所などから約１００件の償却資産の申告を受け付けており、確定申告業務を請け負う事業所においても、この電子申告を御利用いただくことで、申告者の負担軽減と適正課税に大きくつながるものと考えられます。

今後も、未申告を防ぐ観点から、償却資産の申告勧奨は必要と考えております。

申告書類の送付につきましては、電子申告された方は送付者から除くなど、事務の簡素化や効率的な方法を検討してまいります。

次に、投棄ごみの対策強化についてでございますけども、近年では日韓の国際問題や新型コロ

ナ感染防止対策の影響により、来島される観光客は激減しておりますが、排出されるごみの量はあまり変化がなく、不法投棄ごみについても同様で、家電等の投棄や家庭ごみのポイ捨てなど島内のあちこちで見受けられ、こちらの発生源は悲しいことに我々島民であると言わざるを得ません。

このような中、ボランティアによる清掃活動を、毎年、多くの市民の皆様に行っていただいておりますが、この対馬を思ってくださるそのお気持ちと行動力に対しまして、深く感謝を申し上げる次第であります。

市といたしましても、パトロール員２名を雇用し、日々不法投棄の調査を行いながら道路敷などのごみ回収などを行っておりますが、一向になくならないのが現状でございます。

不法投棄ごみは廃棄物処理法によりますと「投棄者の責任において処理しなければならない。投棄者が不明の場合は、土地所有者によって処理しなければならない。」とうたわれておりますが、現状では投棄者を判明することは非常に難しく、法の定めに従えば土地所有者の大きな負担を強いることとなっています。

また、道路沿いから捨てられたごみは、雨、風によって谷に集まり、それが川に流れ込み、いずれは海へと流れ、海岸に漂着し、または海底へ蓄積しマイクロプラスチックの温床となり、海洋動植物などへ多大な悪影響を及ぼすことへとつながることになります。

今日、世界では、地球温暖化防止のため様々な取組が始まっておりますが、ごみ問題は重要なテーマとなっております。

本市においては、海岸漂着物の対策をはじめ、様々な具体的な対策を講じ、地域に密着したＳＤＧｓ活動を推進していかなければならないと思っております。

このような現状を鑑みる中で、現在、各地区において実施されております地区内の大清掃と同様に、日々我々が使用している国道、県道、市道などの道路周辺のごみ拾いについても、市民皆様の御協力を頂くことはできないかなど思案しているところでございます。

不法投棄をなくすには、我々一人一人が環境に対する自覚を持ち、自分のごみは自分で適正に処理する、地域においては、みんなで環境の美化に努め多くの目で監視を行うなど、市民全てが協力し合うことが大切だというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（小川　廣康君）　１番、坂本充弘君。

○議員（１番　坂本　充弘君）　御答弁ありがとうございます。

まず、最初の振興対策でございますけれども、将来、漁協の合併が出てくるようなことになろうかとは思っております。現在、先ほど言いましたように、２漁協の間で計画が進められているようでございます。市長からの答弁もありましたけれども、約、私が在籍しておりました漁協の、

３０年ぐらい前になるんですけれども、そのときは大きな合併の、補助ですかね、そういうのがあっていたんですけれども、今回、上のほうで計画している漁協に対して、大きな合併に対しての、そういう補助金という、そういう構想というのは、今のところ考えてないんでしょうか。そこを、ちょっとお尋ねしたいと思います。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　現在のところですね、具体的なそういう合併の補助金とか、そこら辺はまだ見えておりません。

また、これは県の合併推進室のほうと今後いろいろと協議を重ねながら、漁協の合併を推進してまいりたいというふうに考えているところでございます。

○議長（小川　廣康君）　１番、坂本充弘君。

○議員（１番　坂本　充弘君）　この、今、市長のほうから補助の関係につきましても、いろいろな、漁協に対しての補助金を頂いているところであります。本当にもう種類が多くて分からないぐらいに、私、書き出してみましたけれども、数が多い補助金があっております。できるだけこれを維持しながら、また新しい体系のものが構築できないか、また協議をしていただきたいと思います。

ここはもう十分にありますので、この振興対策についてはこれで終わりたいと思います。

２点目のクロマグロでございますけれども、市長のほうからも答弁がありましたけれども、台湾のほうからも以前、増加の分について、日本のほうに対してありましたけれども、それが今年はもう、中止というか、多分なくなってきているという情報ももらったんですけれども。不足で水揚げがなかった分についての増加額というのは、そのときはあってなかったんでしょうか、分かりませんでしょうか。

明細は部長のほうでもよろしいんですけれども、よろしくお願いします。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　担当部長のほうからお答えさせます。

○議長（小川　廣康君）　農林水産部長、佐々木雅仁君。

○農林水産部長（佐々木雅仁君）　坂本議員の質問にお答えいたします。

クロマグロの時期の関係ですかね。時期というか、今第６期間ですけども、第７期間に対してどうかということでございましょうか。

その件については、先ほど市長が答弁で申しましたとおり、第６期間と状況はあまり変わらないということで、ただ、繰越しについては今の時点ではどうなるかというのは、私のほうではちょっと把握はしておりません。

以上でございます。

○議長（小川　廣康君）　１番、坂本充弘君。

○議員（１番　坂本　充弘君）　分かりました。

この件についても、クロマグロのことについては、国の、やっぱり国際会議で決められていくことになりますので、市長におかれても大変だとは思いますが、県のほうに陳情に行く際にも、まあ、県のほうにも陳情していただきまして、県のほうから、また国にも長崎県の分を上げていただきますように、少しでも効力があるように御尽力を賜りたいと思っております。

その点につきましては、よろしくお願いいたします。

３点目の、合併の協議を進めている漁協においても、漁獲データを入力するシステム、これをすると物すごく漁協のほうで能率的な事務作業ができるということを聞いております。

情報の共有化の連携ができれば、市の職員と漁協職員、業務の効率化が物すごく図られます。

新しく合併予定の漁協におきましても、今、この電算データシステムを新漁協で導入されると思いますので、ほとんどの、もうこの全島の漁協がこのデータシステムを採用するようになりますので、今後、市のほうと漁協がスムーズなそういう連携システムができれば、漁協の職員も何とか補助事業の事務とか、この水揚げの報告に関する事務とか、そういう事務関係も、かなりの能率化が図られていくように思われます。

この連携システムを、できるだけ、今後できるように、ぜひ検討に着手していただきたいと思いますが、もう少しそこを、ちょっと市長のほうから御答弁いただければと思いますが、よろしくお願いします。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　現在、このシステムの早期導入に向けては、水産庁のほうともいろいろと何か協議があっているそうでございますし、今後は漁協の組合長会のほうとも連携を図りながら、国にも要望を重ねていくということで聞いております。

○議長（小川　廣康君）　１番、坂本充弘君。

○議員（１番　坂本　充弘君）　よろしくお願いいたします。

今、漁協の職員も、この数年間の間に１人ないし２人、２人ないし――徐々に職員数も減ってきております。これはやっぱり水揚げの関係も大きく作用して、漁協経営の中からやっぱりそういうような状態になっていっていると思います。

これで、ますます漁協の事務の事務量がオーバーになってきている状況にありますので、その点、今後、大いに研究課題として進めていってもらえたらなあと思っております。

それから、４点目でございますけれども、これは市長の答弁のほうで大体分かりましたので、ここは了解したいと思います。

今まで、私も漁協に在籍していたときに、こういう報告ですね、これを省略していた面がござ

いました。市長の答弁で、そこは了解、国と市の申告のことで、はっきりその資産関係は報告しなければならないということでありましたので、今後、これは、中止ではなく、そのまま継続になっていくかとは思います。その点は了解しましたので、ここはもう省きたいと思います。ありがとうございました。

最後のですね、投棄ごみの対策の件でございますけれども、ここにちょっと写真を二、三枚準備をしてきましたけれども。ちょっと小さいもので申し訳ございません。

このように、ここは、ボランティアの方に連れていっていただいて、樫滝の、もうちょっと先のほうになる国道沿いの横なんですけれども、このように、ガードレールから何メートルか下のところに物すごい空き缶やペットボトルが投棄されております。いつ頃からこんなに投棄され始めたのか分かりませんけれども、本当にやっぱりひどい状態ですね。

これと、こちらのほうもありますけれども、ボランティアの方に聞きますと、もうほんとに袋何杯でもあって、トラック１台で乗り切れんようなときもあったということでございます。佐須奈の大地トンネルと２号トンネルの間の、旧国道沿いの傾斜のところにも物すごい投棄ごみがあって、ボランティアの方でそれを全部回収して、やっていただいたそうでございます。物すごい、やっぱり投棄ごみがあっておりました。

これを本当に何とかしなければならないと思っておりますが、最後にもう一回、市長のほうから御答弁お願いします。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　毎年、ボランティア活動で清掃活動をしてくださる市民の方々に、心から感謝を申し上げたいというふうに思っております。

市といたしましても、先ほども答弁いたしましたように、何らかの対策が見いだせないか、今後また検討を重ねてまいりたいと思います。

以上です。

○議長（小川　廣康君）　１番、坂本充弘君。

○議員（１番　坂本　充弘君）　ありがとうございます。これで、私の質問は終了させていただきます。

ありがとうございました。

○議長（小川　廣康君）　これで坂本充弘君の質問は終わりました。

○議長（小川　廣康君）　昼食休憩とします。再開を１時ちょうどからといたします。

午後０時01分休憩

午後０時59分再開

○議長（小川　廣康君）　再開します。

報告します。御手洗監査事務局長から早退の申出があっております。

午前に引き続き、市政一般質問を行います。

２番、伊原徹君。

○議員（２番　伊原　　徹君）　２番議員、伊原でございます。

初めに、午前にもお話がございましたが、東日本大震災から、明日で１０年目を迎えます。

ふるさとに帰ることなく仮設住宅でお住まいの方々の一日も早い平穏な生活を迎えられますよう、心より念じています。

さて、本市から直線距離で約９７０キロ離れた東京を中心にオリンピック・パラリンピック開催に向けて準備が進められています。

コロナ禍により１年延期になりましたが、冬季開催を含め今世紀４回目のオリンピックに係る予算総額は、１兆６，４４０億円、九州のとある自治体の年間予算の２倍に相当する支出となる見込みです。

庶民感覚では計り知れない予算総額ですが、国の一般会計予算の不足分は、毎年、赤字国債発行によって賄われています。

増え続ける財政赤字予算枠の中で、新年度以降、本市を含めた自治体への交付税措置削減が求められるのではないかと危惧をしております。

本題に入ります。

本市は、古の時代から農林漁業などの第１次産業を中心に栄えてまいりました。近年の１次産業の従事人口は、２０％以下で推移し、加えて著しい高齢化、後継者不足に陥っています。

国境離島「つしま」の永続には、「しま」に住む人々が安心して生活できる基盤づくりには、従事人口の底上げ、加えて、若年層による働き手の確保が求められています。

本日は、私のこれからの取組に掲げています、活力ある島づくり、「地域」づくり、つまり、原点回帰を求めて、次の内容にて質問させていただきます。

１点目は、森・川・海・里の豊かな恵みへの再生、２点目は、人口増加のための移住・定住受入れ強化策、３点目は、学校統廃合計画の遷延と年少人口の底上げについて、サブタイトルといたしましては本市の現状と将来像の３点でございます。

どうぞよろしくお願いいたします。

１点目、森・川・海・里の豊かな恵みへの再生についてでございます。

本市は、古くから、農林漁業を柱とした集落が形成され、自然の恵みを享受しつつ、現代社会の基盤が確立されました。

自然豊かでありました森では、有害鳥獣によって固有の希少植物の食害、さらに、手入れの行き届いていない森と里の境界線の縮小によって、餌を求めて栽培農地や宅地まで進入し、地域によっては防護柵や防護ネットの中で生活を余儀なくされているのが現状でございます。

また、温暖化による地球環境の影響もありますが、海域では豊富な海藻類の恵みにより、その地域には潤いと活気をもたらしていましたが、近年、漁獲高の低迷により、自然の恵みが失われつつあります。

古きよき時代の「しま」の形成を未来へと継承するため、今、「しま」に生きる我々世代がこの役割を演じることは責務であると考えています。

それぞれの生態系との連環に特化した食の基盤づくりには、森・川・里・海の豊かな恵みへの再生が求められています。

本市のキャッチフレーズにございますが、自立と循環の宝の島として、これからのいかなる時代を迎えても、食の安定供給の基盤づくりが最も有効な手段だと考えております。

このことを確固たる状況に導くためには、農協、漁協、森林組合などの関係団体との強力な連携による農林漁業再生プロジェクト立ち上げが必要と感じていますが、御見解についてお尋ねいたします。

２点目でございます。

人口増加のための移住・定住受入れ強化策といたしまして、昨年６月定例会で人口問題に関して質問を行いました。質問から９か月が経過していますが、頂いた資料によりますと、昨年４月から本年１月までの人口移動は、転入者７４１名、転出者は８４３名で、１０か月間で１０２名の転出超過が報告されています。

転出超過の主な要因は、大学や専門学校への進学、就職、転勤など、やむを得ない事情もございますが、第二次対馬市総合計画では「本市ならではの移住・定住対策を充実することにより、人口減少対策に取り組むことが期待される」と明記されていますが、島の活性化・存続には転入超過による社会増が施策の最重要課題として捉えています。

移住・定住を導くための施策の一つに空き家バンク制度があり、直近の数値では１３件の登録のうち５件の成約が確認されています。

移住・定住には住まいの確保も重要でありますので、本市への移住や定住を希望される方々から電話やメールなどで問合せがあった場合、果たして担当窓口は兼任配置で十分な対応ができているのでしょうか、やや疑問を抱いています。

一人でも多く移住・定住増に携われるよう、専任職員、もしくは新規に担当課を設置するお考えはないでしょうか。御見解についてお尋ねいたします。

３点目でございます。

学校統合計画の遷延と年少人口の底上げについてでございます。

学校統廃合計画につきましては、一昨年の９月定例会で質問を行ったところです。

その時点で、昭和６２年から令和２年までの３３年間で、小学校２２校、中学校１７校が閉校となりました。

本市にとりましても、児童数の減少によって教育現場から子供の明るい声が地域にこだまることなく、たまらない寂寥感を抱いている一人でもあります。

しかし、本年３月号の広報つしまによりますと、豊玉町小綱小学校が１４７年間の歴史の幕を閉じることが掲載をされていました。

また、地域や保護者への説明は既に終えましたが、来年は、３３年間続いた厳原町佐須中学校が閉校になる予定でございます。

閉校となる過程に至るまでには、学校適正規模・適正配置等検討委員会での答申が行われた後に、それぞれの保護者をはじめ地域の方々の御理解により決定していますが、本市のみならず、国内の地方でも人口減少が加速し、やむなく統廃合が進められています。

このような、地域における閉塞感からの脱却には、教育行政と市長部局との連携による有効な子育て支援策が求められていると考えています。

地域に根差した幼児・教育施設の存続のためには、合計特殊出生率を高め、さらに、年少人口割合の底上げに向けた施策の取組が不可欠です。

このための進捗状況について、どのように取り組んであるのかお尋ねいたします。

以上３点について、よろしくお願いいたします。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　伊原議員の質問にお答えいたします。

初めに、森・川・海・里の豊かな恵みへの再生についてでございますけども、このことについての現状は、よく御承知のことと思いますので、時間の関係上、割愛させていただきます。

対馬市では森林づくり基本計画に基づき、森・川・里・海の循環の仕組みの構築を進めているところでありますが、森林の生態系の持つ役割は、森林内だけにとどまるものではなく、特に水の循環につきましては森林が大きな役割を担っております。

対馬市は森林から海までの距離が短いことから、森林での施業が直接、沿岸部の漁業に影響することが考えられるところであります。

これらを踏まえまして、生態系の連環に特化した対馬市の農林漁業再生に向けての取組としまして、今後さらなる有害鳥獣対策強化を行いながら、貴重な資源としてジビエの有効活用を拡充してまいります。

また、森林環境の回復を図り豊富な森林資源の活用を促進するとともに、シイタケ栽培の持続

継承も行ってまいります。併せまして、環境保全型農業の推進により水田、畑作の維持も継続してまいります。

また、水産業における取組としては、水産多面的機能発揮対策事業を活用した河川流域での植林事業についての地元要望が高まっておりますので、予算確保に向けて取り組むとともに、継続してモニタリング調査を行うことで藻場の現状把握や効果検証に努めてまいります。

これらの取組を通じて、生態系の循環を実現するために集落営農組織の充実強化を図るとともに、生産者団体の島内直売所の活用や未利用魚の有効活用に努め、安価で安定した学校給食や飲食店等への食材提供を充実させてまいります。

議員、御指摘の、農林漁業再生プロジェクトに代わる団体として対馬市異業種間連携・交流協議会などと連携し、地産・地消の推進に向けて協議を重ねながら、流通の核となる島内流通機能を有した組織の育成を図ることで、地元はもとより観光客の皆様にもしまの魅力を最大限発揮していただけるよう取り組んでまいります。

異業種間連携を強化することで、生態系の連環への意識醸成を図り、安心・安全で魅力ある食の基盤づくりに努めてまいります。

次に、人口増加のための移住・定住受入れ強化策についてでございますが、令和２年１月から１２月までの異動人口は、転出者が１，５４６人、転入者が１，１６３人であり、３８３人の社会減となっております。遡れば、平成３０年が１５４人の社会減、令和元年が３６０人の社会減となっており、年々、社会減が大きくなっている現状でございます。

人口動態の社会増減データを年齢、性別で分析したところ、２５歳から４９歳の女性の転入と転出の差が、平成３０年のプラス２５名から令和２年はマイナス６６名と減少に転じており、この要因は、転勤者の世帯状況による減少が主な要因ではないかと判断しているところであります。

また、６５歳老齢人口につきましても、若干ではございますけども年々減少しており、親の介護のための子供のＵターンよりも、親が子供の生活拠点に転出するケースが増えてきているのではないかと考えております。

このような中で、移住・定住推進における取組を充実していくため、平成２９年４月に「しまぐらし応援室」を設置し、移住者向けの専用窓口を設けております。

さらに移住施策専用の「しまぐらしポータルサイト」を開設し、空き家バンク制度の拡充などにも取り組んでおります。

また、平成３０年７月からは、移住者に向けた情報発信、移住後のアフターフォローなどの業務を担うため、しまぐらしコーディネーターとして、島おこし協働隊員を雇用し、空き家バンクの掘り起こし、移住者情報の収集など、これまでの移住・定住施策の評価と検証も含めて、移住・定住推進体制の整備を図ってきたところであります。

人口減少対策は、本市の取り組む重要施策であり、移住・定住の推進もその一つでございます。本市といたしましては、移住者の目線で移住・定住を支援するしまづくりコーディネーター及びコミュニティー支援員など、島おこし協働隊を専任職員として配置しており、その後の状況に応じ専任職員の配置も考えてまいりたいと思っております。

次に、年少人口割合の底上げについてでございますけども、本市の令和３年１月末現在の６歳から１４歳の年少人口割合は７．２％であり、２０２０年の全国平均１２．３％と比べましても低い状況で、少子化対策の取組は喫緊の課題であります。

本市の少子化対策としましては、令和２年度が初年度となります第２期対馬市まち・ひと・しごと創生総合戦略に基づいて、人口減少対策の中で各施策を推進しているところでございます。

この総合戦略では２つの重点目標を掲げており、その一つを、「２０２５年における年間出生数２００名を維持する。」としております。

重点目標を実現するための主要施策として島っこ留学推進事業や幼児教育・保育の無償化事業、地元事業者への働き方改革推進事業、縁結びプロジェクト事業を掲げて、各担当課において取組を進めているところでございます。

なお、新たに取組を始めました地元事業者への働き方改革推進事業は、出産、子育てがしやすい職場環境を民間企業にも一緒になって整備していけるよう、認定や表彰などの制度を構築するものであります。

また、総合戦略に掲げる重点目標達成のために取り組む主な子育て支援についてでございますが、保育行政関係につきましては、国の保育料無償化の対象外となる２歳以下園児に係る保育料につきまして、国の基準額に対し７割から９割の範囲で設定することによる負担軽減対策、そして、国の保育料の無償化に併せた市独自での副食費の無償化を継続して行っております。

なお、安心して子供を産み育てる居住環境の形成を促進するための事業である子育て応援住宅支援事業、子育て世代をサポートするための地域子育て支援拠点事業、放課後児童クラブなどにつきましても、子育て世代のニーズを捉えつつ事業の継続を行うとともに、令和３年度からの新たな子育て支援事業といたしまして、ファミリーサポートセンター事業を開始する予定としております。

さらに中対馬地区において、幼稚園教育の提供を行う環境づくり、並びに老朽化が進む現施設を集約し、安心・安全な保育環境づくりのため、豊玉地区において認定こども園の新設を予定しております。

今後も子供を生み育てる環境にある市民の皆様が安心して出産・育児ができるよう支援対策の拡充を含め、生活設計の安定化、若者の島外流出抑制のための取組など多方面での事業展開を図り、重点目標の達成と年少人口割合の引き上げに向けて取り組んでまいります。

以上でございます。

○議長（小川　廣康君）　２番、伊原徹君。

○議員（２番　伊原　　徹君）　ありがとうございました。

午前中も有害鳥獣対策について質問が上がったと思いますが、若干、質問が重複して市長お疲れと思いますので、やんわりと質問させていただきます。

参考によろしゅうございますか。

昨年１１月、イノシシの幼獣に遭遇いたしました。県道４４号線。イノシシは年１回に２頭から８頭が生まれるということで、年平均が４．５頭とのことでした。鹿については年１回ということでございます。

このとき７頭の固体が確認されております。番号振っていますけど、お分かりになりますかね。どうも、イノシシがこの対策について私に質問してほしいというような、そういったことじゃなかったかなというふうに考えております。

捕獲はしておりますけれども、絶滅にはやっぱ相当時間を要するのではないかと感じています。

幼獣もこの後、山の中に、どっかに消えていきましたが、この幼獣には必ず成獣がどっかで見ておりますので、登下校、教育委員会さんにはもう既に御相談申し上げておりますけど、登下校のときにこういった状況もございますので、十分また処理をぜひお願いしたいと思っております。

次は、鹿とイノシシの１０年間の捕獲数を担当部局より資料を頂きましたので、グラフ化しております。２０２０年のみ１２月までの捕獲数でございましたので、捕獲数を月平均に置き換え、その数値をグラフ化した資料でございます。左が２０１１年から鹿の月平均の捕獲数、右側がイノシシの捕獲数です。１０年間平均の捕獲数は、鹿月７４０頭、イノシシ４８０頭、これだけ捕獲しても市内各地で出没しているのが現状でございます。

地域に防護柵や防護ネットのない時代を迎えるには、有害鳥獣の確実な生息数、それから生息調査が必要と考えております。確認は、先ほど午前中もされてありましたけども、ある程度実態調査されていると、まあ、県も含めてですね、されていると思いますが、例えば、ドローンあたりで今後調査する必要があるんじゃなかろうかと思っておりますので、このことを念頭に、やはり、どの地域にどれだけ生息しているということをしっかりと把握されたほうが無難じゃないかと思っております。

先ほど言いましたように７頭の個体数、これがまた来年どっかで同じような状況でなると思いますので、増えると思いますので、このことをしっかり取り組んでいただきたいと思っております。

それから、第１次産業につきましても、午前中、取組について質問と、それから回答がございました。

特に農協、農業団体におきまして、いろんな形で農協さんに御相談申し上げている案件があるようでございますけれども、どうも温度差があって、あまりうまく進まないというジレンマがあるようでございますので、これ、担当部のほうと一度、中に入っていただいて、どういった問題点、課題があるのか、それを円滑にいくようにどうすべきかということを一度、できましたら、市の職員さん、担当部局の派遣をお願いできればなと思っております。

人口減少によって担い手不足ということも、これはもう重々承知しております。特に農業におきましては、大変やっぱりいろんな思いを、今もまだ思いをされているのが現状でございます。

自動運転の陸上の実験があっておりますけれども、これは以前は海のほうでモーターボートの自動運転も一度ございましたですね。農業について、やっぱこれからスマート農業、これを少し考えていく必要があるんじゃなかろうかと。

この自動運転も農地のほうは安全なとこでございますので、まあ、収穫まで含めたその状況下で、少しスマート農業の取り入れあたりも、先ほどのお話じゃございませんけれども、午前は坂本議員さんから漁協関係の話がございましたが、私は農業に関してのお願いというか、そのあたりも含めて、担当部局との調整をぜひ、是が非でもお願いをしたいというふうに考えております。

それから、漁協につきましても一本化のお話がございました。これは割愛させていただきます。私の専門する得意分野でございませんので。坂本議員さんがしっかりとそこはお話をされておりますので。

このような形で第１次産業のいろんな問題点がございますので、今後どうすべきかということも含めて、いろんな形でまた検証、研究を是が非でもしていただきたいというふうに考えております。よろしくお願いいたします。

それから、人口減少、そのための移住・定住受入れ強化策ということでございます。

この問題につきましては、地方のどの自治体も人口減少に歯止めがかからないということで、その対策に大変苦慮されております。

本市につきましては、１年以上前から、残念ながら３万人以下ということになってまいりました。

第２次総合計画では、４年後、２０２５年のお話も先ほどございましたが、３万人を目標に掲げてあります。

具体的には、出産、子育て、雇用対策、移住対策に取り組むことが明記されておりますが、担当窓口の兼任では目標達成に至らないのではないかというふうに考えています。

人口減少になりますと、当然、島の経済活動が成立しないと、そういうことが当然ございますので、担い手不足を補う上で何とか島の人口増加に向けた、しっかりとした取組が必要と思いますので、市長の心強い何か御回答ございましたらお願いをしたいと思います。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　移住・定住の担当の専任ということでありますけども、先ほどの答弁の中で若干申し上げましたけども、今現在、しまづくり推進部の中のしまの力創生課のほうで、この移住・定住、そしてＵ・Ｉターンに関する業務を行っているところであります。

ここで、今、その業務に関わっている職員が３人と、それと島おこし協働隊が４人、この移住・定住関係に関わっております。

特に、この正職員の３人も、これが専任でということになりますと、なかなか今度ほかの業務が補佐的にやりにくいもんですから、まず正を設けて、必ず副を設けてというような形で、いずれにせよ、この３人が、この移住・定住、そしてＵ・Ｉターン関係に関わっているということで御理解を頂ければというふうに思っております。

そして、島おこし協働隊のほうは、上・中・下という形でコミュニティー支援員を配置しておりますし、この令和２年の６月１日からは、もう１名専任で配置をしているところでございます。

そういう関係で、今後もいろいろと研究、そしてまた、工夫をしながら努めてまいりたいと思いますけども、もしどうしても、それでもなかなか移住定住が進展しないというようなことであれば、さらにまた、いろいろと対策等を考えてまいりたいと思っております。

以上です。

○議長（小川　廣康君）　２番、伊原徹君。

○議員（２番　伊原　　徹君）　まあ、担当課７名ほど今、担当される職員さん７名ほど配置されているということでございます。

当然、一体化した流れで進められているというふうに理解しておりますけれども、決して横断的にならないように、話が即できるような体制づくり、これが最も重要でございますので、このあたりをしっかりとまた取り組んでいただければと思っております。

それから、空き家バンクも少し軌道に乗ったような状況のように捉えております。まだまだ若干成約が少のうございますけれども、一番は、やっぱり職、それから住まい、住居だと思うんですね。移住・定住には。

きれいな住宅とそうでない住宅といろいろございましょうけど、当然、改修も行われてそれなりの予算もありますので。とにかく島外からお見えの方は、奥様がやっぱり水回りを一番懸念されるんですね。水回り、一番金のかかるところ。

トイレもそうでしょうし、それからキッチンもそうでしょうし、そのあたりもしっかり、私、写真で確認させていただいておりますけど、ある程度きれいな状況でございますけれども、その移住なされる方については、奥様の意見を重々吸い上げて、もしその予算で可能であれば、そのあたりをしっかりと改修のほうにしていただければなと、経験上お話をしておるわけです。是が

非でもお願いしたいというふうに思っております。

それから、次に入ります。

学校統廃合の計画ということで、子育て支援につきましては、６月補正予算でしたか、一般不妊治療費の助成金事業、それから不育用治療助成金事業等が盛り込まれて、子育て支援策の第一歩の事業として捉えております。

また、先ほどお話がございましたように、中地区に認定こども園の整備ということでも今年度の新年度予算で計上されております。

いずれにしましても、子育て世帯の心強い施策ということでございますので、子育て支援策としましては最高の取組であろうかと思っております。ただ、１０年前、２０年前このような状況下で取り組んでいただいていれば、まあ過去のことになりますけれども、少し遅かったような気がしております。

それから、今からちょうど７年前ですか、２０１４年九州管内の市区町村別特殊出生率の上位２５番の中で、本市は２．１８という高い数値で第５位でございましたですね。お隣の壱岐市は第９位で２．１４、第１位は鹿児島県の伊仙町、これが２．８１でございました。直近の年間出生数は２００人以下で推移をしておりますが、特に、若者世代が極端に少なくなっておりますので、当然、底上げは必要と思っております。

私自身、人口減少については、議員の一人として全て市へ問題提起をするのではなく、市と議会が一体となって、移住・定住、それから子育て支援促進を含めた強力な取組の一体化は不可欠と考えております。

余談でございますけれども、市長は岡山県の奈義町というところは御存じでしょうか、人口は６，０００人弱です。岡山県の奈義町です。はい。

農林業主体の自治体でございますけれども、ここの合計特殊出生率が、先ほどの鹿児島県伊仙町より高い２．９５という驚異的な数値でございます。

これは、どういった取組をしているのか、――当然ホームページもございますけれども、担当者の派遣とか、少し調査研究をなされたほうがよろしいんじゃないかというような、この町の取組を是が非でも一度、派遣をしていただければなと。いい状況下で毎年同じような数値でございますので、相当の取組をしておられるんじゃないかと考えております。

今後の市政運営の礎となるように参考にされたらいいと思っておりますので、是が非でもよろしくお願いいたします。

何度も午前もお話がございましたけれども、人口減少によって島の経済が停滞する、これが一番悲しい話でございます。このことは担当の方もしっかりと考えてはおられると思いますので、私たちが質問するだけじゃなくて、何らかの対策を講じる必要ということで議会のほうも少し、

このあたりの取組が必要かなと思っております。

担当委員会は総務のほうになるんですかね。そのあたりも少し、今度の新しいメンバー構成で、その辺の視察あたりも今後考えていただいて、少し、勉強、研究をしていただければなと思っております。

担当部のほうも、いろいろ、今回、問題提起いたしましたけれども、森・川・海・里づくりもそうです。それから、人口減少対策もそうです。それから、有害鳥獣もそうでしょうけれども、担当職員がいろいろな御苦労なさっているのを重々私も承知をしております。

山の中もお一人では当然危険性がございますので、何らかの対策、対応を進めながら、――今の状況は本当に悲惨な状況ですね。各地域では、森の再生ということで、植林とかをされている地域もございますけれども、これを少し全島に広げるような、市内に広げるような、拡充するようなことも、今後、当然考えていただきながら進めていただければなと思っております。

いろいろ大変な状況かと思っております。職員数も減少しつつ、これから十分な取組がまだまだできないというジレンマがあろうかと思っております。

私たちも質問する一方的な質問ではなくて、やっぱり何らかの形でいい方向にあれば、当然、もう少し勉強もしながら進めたいと思っておりますので、また、御提案等ございましたら、市長のほうからも何かございましたら是が非でも問題提起をしていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

以上で終わります。ありがとうございました。

○議長（小川　廣康君）　これで、伊原徹君の質問は終わりました。

○議長（小川　廣康君）　暫時休憩をします。再開は１時５５分からとします。

午後１時41分休憩

午後１時54分再開

○議長（小川　廣康君）　再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。

５番、小島徳重君。

○議員（５番　小島　徳重君）　皆さん、こんにちは。会派つしまの小島徳重でございます。本日最後の登壇となりました。市長さんをはじめ、皆さんお疲れのこととは思いますが、実りある御答弁をお願いしたいと思います。

それでは、通告に従い、３項目５点お尋ねいたします。

１項目め、観光振興の推進についてお尋ねします。

対馬を訪れる観光客の方々からよく聞く言葉は、「対馬の自然、歴史、文化は魅力的で、日本の原風景を見ることができる。住民も親切で、温かいもてなしを受けた」などのプラス面の評価がある一方、マイナス面として、トイレの少なさ、案内板・説明板の不備を指摘されることがあります。

そこで今回は、観光地等の案内板・説明板の整備に絞って質問します。

観光地、文化財の案内板・説明板の新設、改修を積極的に推進し、観光客がガイドなしでも周遊・観光できる観光の島づくりを目指し、コロナ後の観光客受入れに備えるべきではないでしょうか。市長の見解を伺います。

２項目め、子育て支援の充実についてお尋ねします。

まず１点目、雞知を中心に、美津島地区では、第１希望の雞知保育所に入所できず、やむを得ず厳原地区の保育施設に入所している状況が継続しています。女性の就業率が高まる中、保護者のニーズに応じた保育体制の整備が求められています。市長の見解を伺います。

２点目、雞知地区の放課後児童クラブ（学童）は、雞知保育所内から高齢者コミュニティセンター内に移転し、運営されていますが、室内のスペースは狭く、戸外の遊び場にも恵まれていません。場所の変更も含め、改善が必要ではないでしょうか。市長の見解を伺います。

３点目、豊玉町を中心とした中地区の保育体制の整備が求められています。３年度予算案に、こども園設置に係る調査費、設計費用が計上されていますが、今後の開設までの見通し、園の形態等についてお尋ねします。

大きな３項目め、美津島町の東地区の水道事業についてお尋ねします。

美津島町東地区の水道事情の改善については、平成３０年９月定例会において一般質問をいたしました。その際、市長からは改善に向けて指示をしたとの答弁がなされました。その後、どのような改善がなされたかお尋ねします。

任期中、最後の一般質問となりました。市民生活の課題解決、向上に一歩でも近づけるよう、簡潔明瞭な御答弁をお願いいたします。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　小島議員の質問にお答えいたします。

初めに、観光振興の推進についてでございますが、観光地・観光素材の案内板及び説明板につきましては、御存じのとおり、これまでも継続して整備を行っているところでございます。

近年は、神話の里、あそうベイパーク、鮎もどし公園など、写真つきの大きな案内板設置を実施しており、今年も鳴滝に設置をいたしました。

また、説明板につきましては、平成３０年度に、万松院、お船江、金田城、和多都美神社、異国の見える丘展望台、豊砲台跡などの、主要観光地の説明板の改修・整備を実施したほか、平成

３０年度から今年度にかけて、朝鮮通信使の案内板を、関係する場所に９か所設置しているところでございます。

よって、ここ３年間は、観光関係の案内板が１０か所、観光説明板は２５か所整備しております。

文化財関係の案内板・説明板につきましては、教育委員会において、随時改修を行っており、平成２９年度の文化財保護審議会において、案内板を含む周知・広報の整備についての助言を受け、平成３０年度に全体的な調査、状況把握を行い、整備の優先順位を協議しております。

令和元年度以降は、その優先順位に沿って、計画的に市内全域における文化財の説明板などの改修を行っており、昨年度から今年度にかけ６件改修しております。来年度は、大船越にある案内板を既存の観光案内板と同一デザインでの作成を計画しております。

一方、トレッキング関係では、トレッキングルートの矢印等を整備しているところでありますが、毎年数件は道迷いが発生しており、昨年は金田城登山の高齢者が警察署に救助を要請する事案が発生しております。

対馬市及び警察署、消防署、消防団、陸上自衛隊のトップをメンバーとした山岳救助ネットワーク協議会も発足しており、昨年１１月には南警察署のお声かけにより、振興局や森林組合、文化財課も加わった関係機関による山岳遭難・行方不明事案防止対策会議が開催され、連携を密にすることを確認したところであります。

また、本市では、登山用地図アプリ提供会社と提携し、対馬用にカスタマイズした登山道をダウンロードできるＱＲコードの専用ポスターをこの３月に、空港、厳原港、比田勝港に掲示し、ダウンロードを推奨するようにしております。これは、携帯の電波のない場所でもＧＰＳにより現在位置が把握でき、安全に登山できるサービスであります。対馬市や観光物産協会のホームページにも掲載する予定としております。

さらに、このようなＧＰＳなどを活用した観光ガイドシステムを導入したいと考えております。観光地等への誘導及び観光地での音声ガイドサービスなどを提供するもので、今年からその準備を行っているところでございます。

現在対馬は、話題の「ゴースト・オブ・ツシマ」をはじめ、年末から「世界ふしぎ発見」や「沸騰ワード１０」など、テレビでの露出も増え、非常に注目を集めているところであり、外国人の行ってみたい日本の観光地でのベストテンに入っているとのことでございます。

コロナ終息後は、日本国中のみならず、世界中から対馬へ観光客が押し寄せることを期待しております。一朝一夕にはまいりませんが、議員のおっしゃるとおり観光の島づくりを目指して、着実に各種コンテンツの整備をしていきたいと考えております。

次に、２点目の美津島地区における保護者のニーズに応じた保育体制の整備についてでござい

ますけども、美津島地区におきましては、雞知保育所、大船越へき地保育所、西へき地保育所とございます。その中で、雞知保育所につきましては、公立保育所の中で、施設規模、入所児童数ともに一番大きな施設であり、例年、約１３０名から１４０名前後の園児を受け入れており、他の保育所と比較いたしましても、入所者の大きな減少などもなく運営しております。

雞知保育所への入所希望者に対しましては、その要望にできる限りお応えするために、遊戯室の利用や各年齢層の園児数、各保育室の面積などを勘案しクラス配置を行うなど、一人でも多くの園児を受け入れるよう対応しているところでございます。

このような状況の中で、年度当初または年度途中の入所において、各年齢層の入所状況により、相談、調整の結果、厳原地区の保育所へ入所いただいた案件も数件ございます。

美津島地区、特に雞知地区につきましては、市内でも若い子育て世代が多く住む地区となっており、これからも子供たちが大きく減少することはないものと捉えております。つきましては、今後におきましても、子育て世代のニーズにお応えするため、現施設の改修・整備も含め、関連施設との総合的な利活用を図ってまいりたいと思っております。

次に、雞知地区の放課後児童クラブの施設についてでございますが、放課後児童クラブにつきましては、現在、市内において５事業者により６施設が運営されております。その中で、御質問の雞知地区における放課後児童クラブは、昨年度まで同事業者により雞知保育所内と高齢者コミュニティーセンター内の２か所で運営されておりましたが、保育所の保育室の利活用を図る上で事業者と協議の上、雞知保育所内で開設しておりました放課後児童クラブを、今年度から高齢者コミュニティーセンター内へ移動いただき、同施設１か所にて運営いただいております。

現在、高齢者コミュニティーセンター内で運営されているのは、「学童保育けいめい」でありますが、利用者は３４名となっております。

これらの放課後児童クラブの開設場所につきましては、基本的に事業者が施設を選定し、国の運営基準を満たした上で開所することとなりますので、市といたしましては事業者の運営計画等を確認し、適当であれば運営に対する助成を行うこととなります。

「学童保育けいめい」につきましても、これらの基準を満たした上での運営となっております。また、戸外の遊び場につきましては、施設に隣接する公園や広場があり、それらを活用いただいているところであります。

次に、豊玉地区における保育体制の整備についてでございますが、現在、豊玉地区には、豊玉南保育所、仁位へき地保育所があり、２保育所で８１名の園児が通園しております。御質問の豊玉地区における保育体制の整備につきましては、現在、豊玉南保育所と仁位へき地保育所を統合し、豊玉地区内での認定こども園建設に向けた取組を進めており、現在、建設予定地につきまして市有地を基本とし、選定を進めております。

この認定こども園の開園により、中対馬地区において、新たに幼稚園教育の提供を行うことができるようになり、また、老朽化した現施設の更新を行うことで、より安心・安全な保育環境の提供が図られるものと考えております。

また、今月開催予定の子ども子育て会議におきまして、その認定こども園開園を含めた今後の保育所配置計画につきまして御協議いただく予定でございますが、豊玉地区の認定こども園につきましては、現時点での計画で令和５年４月の開園を目指しております。

次に、３点目の美津島町東地区の水道事情についてでございますが、平成３０年第３回定例会における一般質問の際にも同様の質問がなされ、改善に向けた取組を実施するとの答弁を行っております。

改善に向けた取組内容でございますが、水道水の濁り等の改善のため、令和元年度に千馬浄水場の前処理ろ過機改修工事を、令和２年度への繰越事業として千馬浄水場の濁度計、次亜塩素注入ポンプの取替えを行っております。

また、水源不足を補うため、令和元年度に雞知地区簡易水道の一部の配水管と接続しております。

さらに、安定した水の供給を図るために、新たな水源の確保を目的とした地下水開発事業を令和２年度に施行中であり、電気探査等により可能性のある箇所を選定し掘削を行っておりますが、期待できる成果を得ることは難しい状況でございます。

次に、本年１月に起こった東地区簡易水道内の複数の地区の断水、濁りに対する原因でございますけども、昨年９月中旬以降まとまった雨が降らず、水源の確保が十分にできない状況に加え、１月６日から１０日にかけての強力な寒波の襲来により各家庭などの給水管の凍結、破損による漏水が多発したため配水量が急激に増加し、供給量が追いつかず、配水池が空の状態となったことにより断水となったものでございます。

水道水の濁りにつきましては、断水解消のための給水バルブの切替え作業により配水管を流れる水の速さなどが変わったことで、配管内のさびなどの汚れが剥離したことにより生じたものと考えております。

また、一度断水などのトラブルが発生しますと、給水エリアが大船越地区から濃部地区までの広範囲で配水管延長も長く、配水池も多数点在するため復旧に時間を要し、断水等となった地区の皆様には大変御迷惑をおかけいたしました。

今後につきましては、適正な施設管理や水質管理体制の一層の強化を図ることはもちろんでございますけども、今定例会で審議をお願いしております令和３年度当初予算においても、東地区簡易水道の改善のための経費を計上しているところであります。

今後も安全で安心できる良質な水道水の供給に努めてまいります。

以上でございます。

○議長（小川　廣康君）　５番、小島徳重君。

○議員（５番　小島　徳重君）　御答弁ありがとうございました。

まず、生活に直結する水道事業のほうからちょっと確認をして、お尋ねをしたいと思います。

市長答弁にあったように、１月初旬の寒波のときの状況については、市長あるいは水道局長はじめ役所の皆さんは、十分に把握をしてあると思いますので、ここでこう繰り返す必要はないと思うんですが。

市長、平成３０年のときの一般質問のときに申されたんですけども、東地区は、ずっとこう従来から水対策には頭を悩ましてあると、住民の方々もいろいろお困りの方が多いという現状があるんですが、そのときに断水の原因として市長が挙げられたのが、渇水による水不足や老朽管の破損、寒波による管の破裂、それからポンプ等機器の経年劣化等による故障が原因となっておりますというふうにお答えなられて、そして、もう既に指示をしましたという御答弁を頂いたところなんですが、今回の寒波による、いわゆる凍結、あるいは管の破裂等があったわけですけども、私、地区の方々から聞いた声の中に、なかなか復旧しないというのが市長おっしゃった理由であると思うんですが、それ以外で、本管が壊れたんだというふうに住民の方は聞いてある方がおられました。このことについて、私も水道のほうの担当には直接は確認をしてないんですが、そういう事実があったのかどうかということはいかがでしょうか。

どこか大きなところ――個別の各家庭の給水管じゃなくて。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　この本管、また、ほかの配管関係については担当部長のほうから答えていただきますけども、先ほど議員のほうからも御指摘がありましたように、この東地区の水道施設につきましては、何せ、水がちょっと心配だというようなことで電気探査を実施した結果、ちょっと有望な箇所があるということで、この令和２年度にちょっとボーリングをもうやろうということで１３０メーターほど、ちょっと掘り進めておりましたけども、実際は、ちょっと何か、水がいいところに当たらなかったということで、ちょっと残念な状況となっております。

そのほかの本管また配管関係の状況につきましては、担当部長のほうから答えていただきます。

○議長（小川　廣康君）　水道局長、立花大功君。

○水道局長（立花　大功君）　議員の質問にお答えいたします。

給水管は各地区でありまして、本管のほうが、ただいまこちらで聞いてるのは、大船越地区で本管のほうの破裂があったと聞いております。

以上です。

○議長（小川　廣康君）　５番、小島徳重君。

○議員（５番　小島　徳重君）　あの、末端の凍結とか、あるいはある程度のところは、凍結して破裂したりするというのは、対馬の中でもこの時期のときにはほかの地区もあったと思うんですよ。

ただ、この東地区については、市長おいおい説明されたようにいろんな事情でなかなか復旧しなかったということがありました。

それで、今新たな水源を求められたということも一応分かりました。

そして、管をはじめそのいろんなポンプ関係とかいろんな施設が古いということも、今回凍結あるいは破裂で長引いたということは理解できます。

それで、市長答弁もあったように、今年度の、いわゆる施設関係の整備に、３億円ぐらいですかね、全島の中で、たしか予算がそうあったと思うんですよ。やはり、この地区については、ここ数十年来のそういう課題があるわけですよね。ぜひ、やはり集中的に、夏場の渇水もそうですけど冬場の凍結についても大変な事情ですよ。そういったことですから、ぜひ、そういうところは重点的に取り組んでいただきたいということを、もう一度確認をしたいと思いますが、市長のほういかがですか。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　私も従前から申し上げておりますように、ここ東地区の水道施設については、いろいろと水事情関係で問題があるということでありますので、今後も最大限努力をしてまいりたいと思います。

○議長（小川　廣康君）　５番、小島徳重君。

○議員（５番　小島　徳重君）　ありがとうございました。ぜひそうしていただきたいと思います。

それで申し添えておきますけど、この時期、美津島地区の水道課の担当の方、それから本所のほうですか、水道局のほうの職員の方々、それから業者の方々、すごい苦労してありました。これは、もう日が暮れても寒い中で作業したりしてありまして、それは地区の方も分かってありますし、私も二、三回そういうことを見ましたし、車はしょっちゅう走り回ってありました。そういう努力はぜひ評価していただきたいと思うんです。

ただ、やはり、施設の古さとか、それは職員の努力では解決できない、カバーできない面があるというふうに今回感じています。そういうことで、住民の方々からもいろんな声を聞いていますので、市長のそういう答弁を期待をして、今後、これから先にこういうことが極力避けられるようにお願いをしておきたいと思います。

一応、このことは置きたいと思います。

それから次に、順番は、こう、逆になっていく感じなんですけども、豊玉地区の保育体制についても、このことについては、私、当初予算が出る前にこの質問の組立てをしていましたので、

当初予算説明で詳しく説明がありましたし、今市長からも答弁がありましたので、およそ事が理解できました。

豊玉地区の保育体制については、これ、今、美津島の東地区もこちらに通ってありますよね。そして、ゼロ・１・２歳は、いわゆる水崎地区まで行かなきゃいけないという現状があって、大変、美津島の東地区のゼロ・１・２歳を育ててある方々は困ってありますよね。結構な時間かかります。３歳以上は仁位に預けて、ゼロ・１・２歳は水崎まで行かなきゃいけないと、その御苦労があっていますので、豊玉地区に新しいこども園を設置するということで、それを幼稚園機能を持たせてこども園として発足するということは大変歓迎すべきことだと思っております。

それで、こども園型にする場合、どういうタイプを――４タイプありますけど、どういうタイプを想定してあるのかが、そのあたり、もし煮詰まっていたら御答弁ください。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　まだ、最終決定はしてないいうことなんですけど、今後、幼稚園型からいろいろ――たしか４通りほどありましたよね、そこら辺を含めて検討していきたいと思います。

○議長（小川　廣康君）　５番、小島徳重君。

○議員（５番　小島　徳重君）　今から進められていかれる中で、ぜひ地域の声、それから現在動いている比田勝こども園ですね、その現状、それから私立では厳原の親愛さんが動かしてありますよね。これあたりの現場の声をしっかりと把握していただいて、対馬市の、いわゆるこども園の態勢としてどういうタイプが一番好ましいかということを十分検討いただきたいなと思っております。

現場で私も声を聞いてみますと、やっぱり現場で保育あるいは教育に当たられる先生方の声、それから預ける保護者のほう、そのあたりのニーズは、やはりなかなか行政と、こう、つながりというんですかね、声がつながらない部分があるように、僕は感じました。それで、ぜひ、このあたりは、今から詰められる中で現場の声を聞いていただきたい。

同じことは、施設面についても――やはり公立では比田勝のこども園が動き出していますけど、そのあたりを、施設の運用等を、保育に大きく関わってくるわけですから、そのあたりは教育委員会、それから福祉部門の両方の連携を図っていただきたいと思いますが、そのあたり何か、教育長さん、ございますか。

○議長（小川　廣康君）　教育長、永留和博君。

○教育長（永留　和博君）　こども園は、幼稚園機能と保育園機能がありますので、当然、幼稚園機能に関しては、教育委員会も福祉と連携をしながら進めていきたいというふうに思います。

○議長（小川　廣康君）　５番、小島徳重君。

○議員（５番　小島　徳重君）　今、教育長から答弁があったように、私が耳にしている範囲では、

やはりなかなか、部署が違うから、細かい連携のことが、詰めが、今までも甘いところがあったんじゃないかなというふうに感じております。市長、首かしげてありますけど、それは、現場の方々の声を聞いていただければ分かると思います。はい。ぜひ、そのあたりの連携を十分取っていただきたいなということでお願いをしておきたいと思います。

それから、学童の件については、少し状況を知っていただきたいというか、対馬の学童の状況ということで、ここにパネル、一応用意していますけど、施設は、今、雞知の保育所から学童が２つとも外に出たんですね。これは、大いに、福祉のほうでそういう施策、展開をされたということは評価したいと思います。

それで、保育所のほうが手狭だったのが、学童が補助金の関係でもう年数が来たから外に出てもいいということなったから出たんですね。出て、保育所の中は広くなって使いやすくなった。これは大いに評価すべきなんですけど。

ところが、出ていった学童のほうは、一応公的な基準は、１人当たり１．６５平方メートルという基準があって、私もその基準を見させてもらったら、広さに合わせて定員を抑えてありますからクリアしていますよね。これ、部長御存じですけど。

ところが、行ってみますと、やっぱ初めからそういうふうに学童用に作った施設ではないし、それから遊び場も、近くに公園がありますとおっしゃるけど、そこから公園に行くには一旦県道に出なきゃいけないですよね、上見坂路線の。

そして、今度は、そこの出入り口は車も停めてあって狭いです。

そして、中のスペースの狭さ、遊び場の少なさ、そういうことからして、これは、あそこでずっと学童を続けるというのは、これはちょっといけないと思います。

そのあたり、市長、現場把握されておりますか。されてなければ、もし、部長でも結構ですけど。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　私も一度、ここのほうには出向いたことがありますけども、ただ、議員おっしゃられるように、確かに、その前の、すぐ前に公園がありますけども、その公園には、直接は行けんというのは、私は、そこは初めて今分かりました。一旦県道に出てからっていうんですかね、これ。そこは、また後で再度見させていただきたいなと思いますけども。

ただ、他のこの放課後児童クラブ関係で、要は、このように広い公園等がすぐ目の前にあるようなところは、厳原の放課後児童クラブを除いたらないのかなと、特に豊玉とか比田勝とか、あちらのほうはないのかなと思っておりますが、何せ一回、また再度そこら辺を頭に入れながら現場のほうにも行ってみたいと思います。

○議長（小川　廣康君）　５番、小島徳重君。

○議員（５番　小島　徳重君）　はい、ぜひ行ってみられてください。子供たちがおる時間帯にです。

そして、まあ、市長忙しい身ですから、そんなに長い時間おられないですから、担当の方でも結構です。迎えに行かれる時間帯とか、駐車スペースも狭くて、入り口狭いです。そこで対馬で一番子供が多い雞知地区の学童を続けるというのは、これ、いけないと思います。

私は、場所の変更も含めてということで言ったら、市長、なかなか場所ないですよと言われたですが、新子ども総合プランを目にされましたか、市長。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　そこのところは、正直、まだよく見てません。

○議長（小川　廣康君）　５番、小島徳重君。

○議員（５番　小島　徳重君）　それで、一応、私、資料をタブレットにも出してますけど、タブレット開いていただいてよろしいですか。

この１枚目のパネルですけど、場所、あるんです。ここに書いてあります「学校施設を徹底的に活用する」というのが、新子ども総合プランの国の方針です。その内容は、多分、福祉保険部長は御存じだと思います。

これは、何かやろうとしたときに、今までは、行政からの答えが来るときには、財政的に大変なんですよとかおっしゃるけど、財政的に何も――金要らないんですよ。自分たちが通ってる学校の施設をそのまま使いましょうというのが、国の方針です。

いかがですか。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　この件につきましては、以前も、私、見ておりましたけども、ただ、この、学校内にこれを移すということ、――たしか、空き教室とか、そういったところを活用するというようなことであったかなと思いますけど、ここら辺の、今、協議等がかなり必要になってくるのかなということで、ここの件については担当部長のほうに答えてもらいます。

○議長（小川　廣康君）　福祉保険部長、古里正人君。

○福祉保険部長（古里　正人君）　小島議員の御質問にお答えさせていただきます。

確かに、学校空き教室を使えるということは、国のほうから指針で早くから発せられておりましたけども、教育委員会部署との連携の中で、その管理は誰が一体するのかということが問題になってまいります。時間外になりますので、学校のほうでは管理が行き届かないということで、それでは、その施設を誰が管理をするのかというのが問題になって、今のところ計画が先に進んでないという状況でございます。

○議長（小川　廣康君）　５番、小島徳重君。

○議員（５番　小島　徳重君）　ああ、部長、そういう答弁なされました。はい。

あの、確かに以前なら、そういう御答弁で納得できるかも分かりません。

ただ、この新子ども総合プランが出たのは、平成３０年の９月１４日です。

これ、全国の自治体あるいは教育委員会には通知が行ってるんですけど、その中のことを読み上げてみます。「余裕教室の活用に加え、学校の特別教室や図書館、体育館、校庭など、けがが発生した場合の保健室を含むスペースや、既に学校の用途として活用されている余裕教室を、学校教育の目的には使用してない放課後等の時間帯について、放課後児童クラブ及び放課後子ども教室の実施場所として活用するなど」というふうな、国からの通知が行っています。これ、教育委員会は多分御存じだと思います。自分たちの所管する施設を使うわけです。

それで、今、部長が言われた管理がというのは、これは、確かに学校は、管理職は、勤務時間は４時半なりで終わりますよね。あるいは５時前で終わりますけども、その後は、施設使うのは、いわゆる施設を運営する法人なり団体が管理するわけです。そのための人的な措置もなされるわけですから。ぜひ、このことについては再度確認をしていただきたい。していただいて、こどもたちに、放課後思い切り活動ができて、放課後の生活が豊かになるような施策を打ち出していただきたいと。

これ、午前中、春田議員が言われた放課後子供教室という、――これは文部科学省主体で動いてますよね、生涯学習課の主体で、この事業と一体化してやってもいいとあります。それが、春田議員おっしゃったように、子供たちが学校で社会体育スポーツだけじゃなくて、地域の盆踊りなり、あるいはいろんな遊びなりもできるんです。

このことについて、今、市長、今私が読み上げたこと等を併せて、お考えがあればお聞かせください。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　ただ、ここで、私、気になりますのが、この放課後児童クラブの開設場所等につきましては、基本的には、その事業者が施設を選定するというところが記載されておりますので、ここのところが若干気になるところではあります。

そういう中で、確かに、空き教室がまずそこにあるのかというのも、私、まだ把握もしておりませんし、今後調べていきたいなと思います。

○議長（小川　廣康君）　５番、小島徳重君。

○議員（５番　小島　徳重君）　あのですね、市長、詳しく文面見てないから、よく後で見てください。

空き教室じゃなくてもいいんです。余裕教室じゃなくても、放課後使ってなかったら、図書室でも、家庭科室でも、体育館でも使っていいというのが、この政府の通知です。ね。これを十分、

また、教育委員会も総合教育会議など等で、市長部局等にもよく周知してください。

そして、今言ったように、予算は一切要らないわけです。場所を変えさえすればいいんです。

それで、もう少し具体的なことを申し上げておきます。

けいめいの学童の場合、今、一応、施設に合わせて定員も抑えていますけど、新年度は増えるということを聞いています。それから、鶏鳴小学校に肢体不自由の子供さんが入学すると聞いています。その肢体不自由の子供さんは、学童は厳原に預かってもらうというようなことで、今話が進んでいると聞いています。肢体不自由な子供さんを、雞知から厳原まで放課後通わせるというのは、不合理じゃないですか。雞知でもう少しスペースのあるところ、学校をそのまま使えばいいんですよ。保健室も空いてますよ、放課後ね。そして、そこで親が迎えに来るまで学童が世話をすると。市長、施設云々、運営も法人に任せるということですが、そうじゃないでしょうから、もう少し、よくそこらあたりを詰めてください。

時間が残り７分になりましたので、このことは、いわゆる再検討をしていただくということでお願いをしておきます。

そしてもう一つ、学童の場合は専用スペースというのも要ります。具合が悪くなった子供を休ませるスペースが要りますね。これ、部長は御存じです。

それから、小学校、今３年までで終わってますけど、４年以上の子供たちを学童で――募集、今してませんけど、募集すべきだと思います。４年以上の子供たちでも、家庭に帰らないで、学校で過ごしたほうが安全な子供たちがいるということを、もう一度確認をお願いします。

それから、あとは、観光案内板・観光説明板関係について、ちょっと触れさせていただきます。

私は、１月１９日だったと記憶してますが、金田城跡、城山に行きました。そのとき、行ったときの案内板等、これは、よく観光客を案内されるタクシーの運転手さんから聞いていたんです。駐車場問題、それから案内板関係が不安なので、初めて来られた方はなかなか城山を楽しむことができませんよということで。それで、早速、今年度は、いわゆるＡＲや、それからＶＲを、新しいものを作るということで、説明があってますので、大いに期待したいと思います。

ただ、機器を幾らうまく設備しても、それが現場で実際にうまく合致するかどうかという点で、少し説明をさせてもらいます。

ここ、入り口、道路標識ですか、案内の合図の際に分かりました。よく分かりました。

それから２番も、ここ、国の特別史跡だとよく分かりました。

ところが、それから先です。３番、ここの説明板は、もう何十年かたって、見えません。それから、これは説明板というより、どこが指定されているかということの指定区域を示したものです。

私、車で行ったんです。これ、車の中から、軽トラから撮った写真です。ここに、ボックスが

１つあります。それから、ここにちっちゃい案内板があります。これ、車の中からは見えません。ここまではみんな車で行くわけですからね。

そして、次、その説明板はこれです。用紙１枚に書いてあるから車の中からは見えません。それから、ここにボックスがあります。これは、私、行くときには気がつきませんでした。帰りに見てみたら、ここの中に注意書きと、それからリーフレットが入っていました。

で、車運転して行きよると、途中でちっちゃい貼り紙がありましたけど、これ、見えません、車の中からは。今度は、途中で車が逆方向に停めてありました、スペースがあって。これは、多分、行ってみて舗装が過ぎた後で不安になって、ここで停めてＵターンされた方です。

そうして行ってみますと、熊本から来られた方々と、私、お会いしました。そして、ここは駐車場です。そして、熊本から来た人方がおっしゃったこと、すばらしい景色でしたねって、すばらしいところですねっておっしゃいました。

それから、今度、途中、中にこういう説明板があるんですよ。この説明板が、本来なら入り口に誘導サインとしてなかったらいけないと思うんです。入り口にはなくて、中に、これはありました。

それから、今度は頂上に行くのに、また貼り紙、ちっちゃい専用シート、Ａ４の紙か何かの１枚で、これも頂上に行くのにはよく分かりません。

そういうことで、今度は頂上に行きました。頂上に行ったら、標識が飛んでいました。飛んでどこにあるかいうたら、この岩陰に置いてありました。

この状況を、やはり登る人、初めて来た人が見たら、とても不案内で、対馬のせっかくの第一の一級の観光地が、こういう状況です。

それで、こういう状況を改善するために３年度予算でも大きな予算を組まれましたから、大きな期待をしております。

で、やっぱ、これ、足りないのは何かということを私なりに考えたら、初めて来た人の目線、それから車で来る人の目線、それから歩き出してからのトレッキングする目線、つまり、利用する立場での目線が弱いと感じましたけど、市長、いかがでしょうか。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　今、ちょっと写真を見せていただきましたけど、ちょっとこちらのほうの配慮がもう少し足らなかったところが多々あるかなということで、この令和３年度も含めて、早いうちに改善をしたいというふうに思います。

○議長（小川　廣康君）　５番、小島徳重君。

○議員（５番　小島　徳重君）　そうですね。それと比べて、白嶽。白嶽は、ここに、いわゆる誘導の看板が２つ、駐車場にあります。そしてもう一つ、地図で詳しく説明板があります。

やはり、ここは、いわゆる一般の観光地ですから。今回の城山のほうは教育委員会が文化財として絡みますよね。そういう意味で、その連携という点で、やはり私は不十分じゃないかと思いますが、このことについては、市長、いかがでしょう。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　以前も文化財課関係の件で御質問を受けたところでありますけども、今後、さらに観光商工課関係と連携を密にしながら、対馬市の観光行政を前進させていきたいというふうに思います。

○議長（小川　廣康君）　はい。

これで、小島徳重君の質問は終わりました。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

○議長（小川　廣康君）　以上で、本日予定しておりました市政一般質問は終わります。

明日も引き続き、定刻から市政一般質問を行います。

本日はこれで散会とします。お疲れさまでした。

午後２時44分散会

令和３年　第１回　対　馬　市　議　会　定　例　会　会　議　録（第15日）

令和３年３月11日（木曜日）

議事日程（第４号）

令和３年３月11日　午前10時00分開議

日程第１　市政一般質問

本日の会議に付した事件

日程第１　市政一般質問

出席議員（19名）

１番　坂本　充弘君	２番　伊原　　徹君
３番　長郷　泰二君	４番　春田　新一君
５番　小島　徳重君	６番　吉見　優子君
７番　渕上　　清君	８番　黒田　昭雄君
９番　小田　昭人君	10番　山本　輝昭君
11番　波田　政和君	12番　小宮　教義君
13番　齋藤　久光君	14番　初村　久藏君
15番　大浦　孝司君	16番　大部　初幸君
17番　作元　義文君	18番　上野洋次郎君
19番　小川　廣康君	

欠席議員（なし）

欠　　員（なし）

事務局出席職員職氏名

局長	阿比留伊勢男君	次長	國分　幸和君
課長補佐	梅野　浩二君	課長補佐	柚谷　智之君

説明のため出席した者の職氏名

市長	比田勝尚喜君
副市長	俵　　輝孝君
教育長	永留　和博君
総務部長	有江　正光君
総務課長（選挙管理委員会事務局書記長）	桐谷　和孝君
しまづくり推進部長	武末　祥人君
観光交流商工部長	二宮　照幸君
市民生活部長	乙成　一也君
福祉保険部長	古里　正人君
健康づくり推進部長	松井　惠夫君
農林水産部長	佐々木雅仁君
建設部長	伊賀　敏治君
水道局長	立花　大功君
教育部長	阿比留裕史君
中対馬振興部長	波田　安徳君
上対馬振興部長	森山　忠昭君
美津島行政サービスセンター所長	瀧川　昌浩君
峰行政サービスセンター所長	扇　　明宏君
上県行政サービスセンター所長	原田　勝彦君
消防長	主藤　庄司君
会計管理者	阿比留　裕君
監査委員事務局長	御手洗逸男君
農業委員会事務局長	庄司　智文君

午前10時00分開議

○議長（小川　廣康君）　おはようございます。

報告します。大浦孝司君から午前中欠席の届け出があっております。

日程に入る前に小島德重君から昨日の一般質問について発言の申出があっておりますので、これを許します。小島德重君。

○議員（５番　小島　德重君）　おはようございます。

昨日の私の一般質問の中で、雞知地区の学童保育の質疑中、施設から公園への出入りについて道路を通行しなければならない旨の発言をいたしましたけども、施設の裏口から公園へ出入りで

きるとのことです。私の現場確認が不十分であったことをおわびして発言を訂正させていただきたいと思います。申し訳ありませんでした。

以上です。

○議長（小川　廣康君）　この際、議長から申し上げます。

今後におきましては、確かな情報を基に一般質問等をされるよう、よろしくお願いしておきたいと思います。

ただいまから議事日程第４号により、本日の会議を開きます。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第１．市政一般質問

○議長（小川　廣康君）　日程第１、市政一般質問を行います。本日の登壇者は４人を予定しております。

それでは、届出順に発言を許します。１２番、小宮教義君。

○議員（１２番　小宮　教義君）　おはようございます。１２番議員の小宮教義でございます。今日は、私がトップバッター、朝一番でございます。朝一番ですから眠とうございましょうけども、私の持ち時間はわずか５０分でございますので、御辛抱をお願いしたいと思います。

今日の、この３月の１１日、これは東日本大震災からちょうど今日で１０年目の節目の日でございます。ちょうど１０年前の今日、たしか午後３時頃に地震が発生をしまして、そして皆様もテレビで御覧になったと思いますが大きな漁船が津波にのまれて、こうなっておるんですね、そして、その津波が町全体を音を立てて破壊をするという本当に痛ましい災害でございました。そして、この災害で約１万５，０００人以上の方がお亡くなりになっておられます。そして、まだいまだ身元がわからない方、見つからない方が約２，５００人以上おいでございます。そして、避難をされ不自由な生活をされておられる方々が４万人以上という数でございます。本当に非常に日本の歴史に残る大災害でございました。亡くなられた方の御冥福とそして地域の一日も早い復興をお祈り申し上げたいと思います。

我が国の同盟国アメリカでございますが、バイデン政権になってやっとアメリカも本来の姿を取り戻すのではないかと思います。そして、国際秩序を早く取り戻していただきたいと思います。

それにしても、我が国の隣の中国、えらい元気が出とるところでございますけど、今、中国は新しい法律をたくさんつくっておりますが、この中で２つほどございます。

一つは、愛国心がなければ議員になれないというふうな法律もつくっておるようでございます。そしてもう一つは、大事なのは海警法の改正をされておられます。これは先月の２月の１日から施行されているのでございますが、この内容が武器の使用を含むあらゆる必要な措置を講ずることができる、どんなときでも武器を使えるという法律でございます。そして、先月、同じ月です

けども１５、１６日２日間にわたって我が日本国の尖閣諸島に海警局の公船――船が４隻侵入し、我が領海に――１２海里でございますが、そしてこともあろうに我が日本の漁船を追い回して出ていったということでございます。

それに対してこの日本の対応、これは海上保安部の対応でございますが巡視艇が対応しております。そして、その対応というのは、どうして武器を使うかということですけども、これについては警察法の第７条に準ずるという、ちょっとわけの分からないような対応を取っているそうでございます。

これでは日本の国は守れない。やはり確固たる領土を確保するためには、守るためには自衛隊法を改正して、そして自衛隊がその勤務に当たるべきだと思います。

では、さきに通告しておりました２点について市政一般質問をさせていただきます。

まず、１点の市の損害賠償について。

これは台風９号、１０号の小鹿漁村センターの件でございますが、これについては市が勝手に瑕疵を決めて国家賠償法で市が支払うという問題でございます。これについては、何回も質疑をされておられますので、次の２点に絞ってお尋ねをいたします。

第１点目が、国家賠償法の瑕疵は市が判断したとのことだが、その法的根拠は何なのかということでございます。ここでいう瑕疵とは屋根が飛んだということではなくて、以前確認をさせていただきました「瑕疵とは、通常有する安全性を欠くこと」ということでございます。この法的根拠をお示し願いたいと思います。

今までの見解の中では、これについては専門家の見解書によるということでございましたので、もし同じような答弁であれば、この壇上での回答はする必要はございません。

それと２点目でございますが、瑕疵があったときのために入っている全国町村会総合賠償の補償保険は対馬が瑕疵を認めたのだから、なぜ、賠償責任を負わないのかということでございます。これも何回も質疑等を重ねておりますので、内容としては自然災害による不可抗力ならば前回と同じような答弁でございますので、それであれば壇上での回答はする必要はございません。差し控えていただきたいと思います。

それと、２点目でございますが、これについては去年の６月の定例議会で副市長の二人制について問うたときに、市長は次のように答弁されておられます。「幅広い分野に目を向けて適切な人材を早い時期に議会に提案できるよう考えている所存でございます」との答弁でございましたが、あれから約１年近くなります。どのようになったのかについてお尋ねをいたします。

以上でございます。市長の答弁を求めます。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　おはようございます。小宮議員の質問にお答えします。

初めに、市の損害賠償についてでございますが、台風時における市の損害賠償の考え方は、市の所有、管理する施設の瑕疵によって、他人に損害を与えた場合に賠償責任を負うものでございます。

小鹿魚村センター屋根飛散による近隣住宅への損害賠償につきましては、議員全員協議会で御説明申し上げましたとおり、専門家の意見として、１級建築士から「飛散した木造勾配屋根の構造上、軒けたとたるきの固定方法は固定金具などを用いて固定することが一般的であるところ、くぎのみの固定であり、台風第１０号の暴風により風圧力に対する十分な耐力を有していなかったことが要因であると考えられます」との見解をいただいております。

市といたしましては、小鹿地区内で台風第１０号によって屋根瓦の一部が飛散した建物は数件確認されましたが、屋根全体が吹き上がり飛散した小鹿漁村センターのような大規模な被害はありませんでした。専門家による見解も踏まえ、小鹿漁村センターの屋根は台風第１０号の数日前に接近した第９号の暴風の影響により接合部の構造耐力が低下し、瑕疵判断となる通常有すべき安全性が欠け、第１０号の強風による風圧力に対する十分な耐力を有していなかったと判断するに至り、国家賠償法第２条第１項の規定の趣旨に鑑み、賠償責任を負おうとするものでございます。

具体的に瑕疵とは、最高裁判例においても公の営造物が通常有すべき安全性を欠き、他人に危害を及ぼす危険性がある状態をいい、係る瑕疵の存否については当該営造物の構造、用法、場所的環境及び利用状況など諸般の事情を総合考慮して具体的・個別的に判断すべきとしています。事故発生の回避可能性がない場合やその発生が予測できない場合には瑕疵はないとしております。

予測可能性については、台風９号通過後、漁村センターのスレート瓦が複数枚飛散していたことによる被害拡大のおそれ、台風１０号に関する気象庁からの台風情報から、そして回避可能性については台風９号通過後、台風１０号最接近時刻までの３日間という時間があったこと。

以上の点から、事故発生の予測及び回避可能性を否定することができないことから、管理に瑕疵があったと判断しております。

また、全国町村会総合賠償補償保険の引受保険会社である損保ジャパン株式会社からは「自然現象タイプの事故ではそのような危険を予測できたかどうかが問題となり、通常予測することができない自然力によって事故が発生した場合は不可抗力として賠償責任が発生しません。

なお、法令違反があった場合でも直ちに安全性を欠き、他人に危害を及ぼす危険性がある状態とはいえないため、御提出済みの見解書内容を踏まえても同様の回答となります」との回答を頂いているところでございます。

次に、２点目の副市長の二人体制についてでございますけども、議員から御提言を受け、適切な人材を模索してまいりましたが、本定例会まで上程に至っておりません。適切な人材を御提案

できるようになりましたら、改めてお願いすることといたします。当面の間、市民皆様の生活と福祉の向上のため、現副市長と市政運営に一生懸命努めてまいります。

以上でございます。

○議長（小川　廣康君）　１２番、小宮教義君。

○議員（１２番　小宮　教義君）　問題に入る前に３点ぐらい先に質問させていただきますが、まず第１点でございますが、この問題については昨年の１２月から問題になっておるんですが、昨年の１２月にこの記録を、議事録読んでみますと、これ、部長にお尋ねしますけども、私が千葉県のゴルフ場の支柱の倒れた分について話したときに理論的な検証も必要じゃないかという話を踏まえながらしたときに、部長は次のように話しております。「１点目の施設に瑕疵がなかったというような形になるだろうと思います」と、瑕疵がなかったんだという話をしております。そしてその要因としては、今回の台風は鰺浦の観測史上最大となる最大瞬間風速４８．９メートル記録したんだということです。そして、台風１０号の猛威に耐えることができずに飛んだからこれは瑕疵がなかったというふうな形になる、というふうな答弁をされておられます。その後、瑕疵があるというふうな話をされたわけでございますが、どうして取り下げた後に瑕疵というふうな話をされたのかということですね。

先にそれをお尋ねしたいと思います。

○議長（小川　廣康君）　上対馬振興部長、森山忠昭君。

○上対馬振興部長（森山　忠昭君）　小宮議員の質問にお答えいたします。

さきの１２月の議会の折に小宮議員からの質問で、私のほうで施設に瑕疵がなかったかというような形になろうかと思うのですけどということで発言をしております。これにつきましては、地上からの目視によって屋根を確認しておりますので屋根自体がどのようになっておったのか、そういうのが判断できませんでした。ただ、瓦が数枚飛散しておりましたので危ないということは認識しておりました。

そして、台風の強さですけど、これは、台風１０号は報道でもありましたように大変大きな台風だという報道があっておりました。そして記録的にも観測史上鰺浦では大きな台風だというような記録がありましたので、そのような発言をさせていただいております。

以上でございます。

○議長（小川　廣康君）　１２番、小宮教義君。

○議員（１２番　小宮　教義君）　その後、今後は市長のほうの答弁があるんですけども、ゴルフの関係をしたときに市長はこのように答弁しておるんですよ。「確かに最初は自然災害であって補償する必要はないようなことで進めておられたと思うけども、またそのオーナーが練習場の売却をしながら補償をしたというふうに私も感じております、そして、そういうこともありまして

確かに保険にかたっていると思うけれども、施設の屋根が飛んで飛来したと、そして受忍を、範囲を超えた被害が発生したと、そういうこともありまして、ということは自然災害であるけれども、受忍に堪えないような被害を被ったんだと、だから、ゴルフ場のオーナーの考えに沿ったようなことで補償をしたいんだ」ということを言っておられます。この補償というのは、国家賠償法ではなくて見舞金とかそういうふうな補償という意味ではなかったんですか。

それを問います。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　確かに私のほうが千葉県のゴルフ場の災害の件で答弁いたしました。このことにつきましては今現在、裁判外紛争解決手続ですかね、俗にＡＤＲと言われておりますけども、このことによって解決済みというような報道がなされているところでございます。

そういう中で、私が受忍の範囲を超えた被災だから、これは見舞金みたいなものじゃないかというような御質問でございますけども、あくまでも受忍の範囲はもちろん超えてはいると私自身も思ってはおりますけども、先ほども答弁いたしましたように、その危険性、予測性、回避性があったかどうかというような判断をしたときには、そこが瑕疵を認めざるを得ないというような判断に至ったということでございます。

こういうことも、私たちもいろいろと最高裁の判例とかいろんな資料を集めまして、総合的に判断をした結果ということで御理解をお願いしたいと思います。

○議長（小川　廣康君）　１２番、小宮教義君。

○議員（１２番　小宮　教義君）　あれですね、ちょっと論点を整理してさせていただきたいと思うのですが。

まず、論点の一つとして専門家による見解書の件です、この見解書の内容の確認について一つと。それと２番目が、市長が先月の２月２６日にこの議案を審議するときに民法７１７条の工作物の責任履行ということを挙げておられましたので、その２点についてちょっと論点を整理して話をさせていただきたいと思いますが。

まず、１点の見解書の内容の確認でございますが、この見解書ここにございますけども、これには専門家のことです、これを基に全てをやっておるということですから、この資料には、「小鹿漁村センター屋根飛散についての見解書」ということですよね。本来であると瑕疵を問うんだから、この瑕疵についての見解書ということではなかったんですか。その辺はどうなんですか。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　あくまでもこれは市の顧問弁護士さんのほうとも相談をさせていただいた上で、こういう状況のときには専門家の意見も聞いた上で適正な判断をすることが重要であるというような御助言もいただいておりましたので、そこで１級建築士を取得していらっしゃいま

す方にどのような見解となるのかというようなことでお願いをしたところであります。

○議長（小川　廣康君）　１２番、小宮教義君。

○議員（１２番　小宮　教義君）　確かに弁護士はそう言われたでしょう。ここの報告書がございますから。これによると、設置・管理に瑕疵があったとその弁護士が専門の業者に聞いてくださいよと、瑕疵についてですよ。瑕疵についての見解を求めておるのであって、先ほどの見解書というのは内容をよく見ればすぐわかると思いますが、これは瑕疵ではなくて建物がこの１０号で飛んだ原因について書いてあるんですよ。

だから、弁護士が問わんとする瑕疵については何ら調査はしていないんじゃないですか。そういうなのが弁護士の見解ですよ。どうなんですか。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　確かに、この１級建築士からの見解書の中は構造的な見解が主になっているものというふうに思います。１級建築士が裁判官ではありません、また弁護士でもありませんので、構造的な問題での見解は述べるにしても法的な瑕疵の判断までに至るとは考えられません。

そこで、先ほども申し上げましたように、市といたしましてもこれまでの最高裁の判例等を参考としながら、当初の答弁で申し上げましたように、その瑕疵の判断の基礎となる危険性、そして予測可能性、回避可能性、この３点を中心に総合的に検討をしながら判断をしたということでございます。

○議長（小川　廣康君）　１２番、小宮教義君。

○議員（１２番　小宮　教義君）　あのですね、顧問弁護士が言わんとするのは専門家に瑕疵の判断をしてくださいよと、そして、その瑕疵の判断が正しければ瑕疵に当たるんだと、そういう説明を弁護士顧問の意見として上がっておるじゃないですか。先ほど言うたように瑕疵というのは屋根が飛んだことじゃないんです。通常有する安全性を確保されているのかないのか、それが法的根拠の瑕疵なんです。だから、弁護士は言わんとする瑕疵というのは、この見解書にはないんじゃないですかということをお尋ねしているんです。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　先ほど言いましたように、法的な瑕疵の根拠と申しますか、構造的な瑕疵の根拠としてはこの見解書の中にも記載されてありますように、「一般的に木造の構造物の場合はたるきと軒けたを専用の固定金具などで固定する方法で施工することが一般的です」と。そういうことで、今回のこの台風によってたるきと軒けたが外れまして飛散していることから、この固定方法が十分な耐力を有していなかったと考えれるというようなことで、「台風１０号の暴風による風圧力に対する十分な耐力を有していなかったことが要因と考えられる」ということで

記載をしておりますし、我々もこのことを参考としながら、先ほど申しましたように、危険性、そして予測性、回避可能性のこの３点を中心に検討を重ねながら、今回の件につきましては市のほうに瑕疵があると判断せざるを得ないというようなこととしたわけでございます。

○議長（小川　廣康君）　１２番、小宮教義君。

○議員（１２番　小宮　教義君）　この報告書にも、私何度も言いますけども瑕疵という判断は何もないんです、見解書には。一言もないじゃないですか。これは何度も言うけども台風１０号で屋根が飛んだ原因を調べてあるんです。ならばお尋ねしますけども、その専門家のほうに瑕疵について問われたことがございますか。調査をしてどこが瑕疵があったのかと、そこが基本なんですけどね。専門家のほうに瑕疵について問われましたか。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　ここではあくまで屋根の飛散についての見解を求めておりますので、それが法的にどのことが瑕疵になるのかということまでは恐らく求めてはないんじゃないかなと思います。

　私のほうも専門家のほうにはそこは尋ねておりません。担当部長のほうからそのことについては答えさせます。

○議長（小川　廣康君）　上対馬振興部長。

○上対馬振興部長（森山　忠昭君）　先ほどの質問で、弁護士さんからの助言を頂きまして、この屋根の構造がどのようなものか、私たちも専門ではございませんので専門家の意見を聞きながら、まず構造自体がどのようなものなのか、それの見解を１級建築士さんにお願いして、１級建築士さんの見解は先ほど市長が申し上げましたように、くぎだけでやっぱり十分な耐力を有していないと、だから固定金具を用いてするのが理想です、一般的ですよという見解を頂いております。

　以上です。

○議長（小川　廣康君）　１２番、小宮教義君。

○議員（１２番　小宮　教義君）　あのですね、金物金物と言われるけども、私の資料の９ページをお願いしたいと思うのですけども、確かにこれは基準法でぴしゃと決まっているんです。でも、これ読んでもらうと分かると思うけども、この資料の９ページ、皆さんのタブレット見ればわかるんですけど、ここには金具なんていうのは書いていないんです、これが基準法なんです。これには金具をつけなさいとは書いていない。ただ今回のように軒の出が非常に少ないんです、６０センチぐらいのものについては、現在でもくぎで十分耐えれるんです。私も専門家ですから。じゃこれがどうして耐えれるかという計算書も以前お渡ししたと思いますけども、３の２、これにくぎ一本で耐えれると。耐えるということは通常有する安全性を確保しているんです、この３の２で。専門家が見ればすぐ分かると思います、この数値は。これで担保されているんです。

だから、構造的には何ら問題ない、数値的にも確保できているんです、これは。その辺の見解はどうなんですか、市長。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　確かにこの構造計算上ではもてるようになっているところでございますけども、ただ、確かにここ建設した当初においてはこのようなことであったんではないかなと思います。ただ、この建物も建てられてから１５年か１６年かぐらいの時間が経過しておりますので、その材料等の関係も幾らか出てくるんじゃないかと。それとまた、我々も調べたところで、ある大学の研究成果のほうでくぎというよりもそのたるきの割裂性というんですか、専門用語ではですね。割れることによって耐力が減少するというようなことも実証されておりますので、今後は、またこれについても十分な研究をするというようなことがある書物のほうにも書かれているということでございます。

○議長（小川　廣康君）　１２番、小宮教義君。

○議員（１２番　小宮　教義君）　くぎの話をされますけど、使う木材というのは含水率が決まっているんです。水分が多かったら先に傷むかもしれないが、基準に合った材料ほとんど使うんですから、２０年、３０年はこの被害の写真を見ても分かるようにくぎは十分耐力を保有しています。誰が見ても分かるわけですから。だから年数がたった問題についてはこの問題は発生しないんです。数値で示したその数値こそが安全性の担保なんです。それが数値的に確認をされたということは、安全性は確保されておるんです。誰が見ても分かるんです、そんなもん。いいですか。

それとその分について……いいです、じゃ次行きましょうか。

この報告書の中で一番最初に確認しなきゃいけなかったのがあるんですが、この最初の報告書の中でページ数が何枚かありますけども、この報告書の中で屋根の大きさ関係が書いてありますよ。屋根の長さが１５メーターとか書いてあるんですが、軒の長さが９０センチありというような表現もされておりますが、実際にこれは写真関係で照合したり衛星写真で見ると確実に違った数値です。軒の出が１５メーターということは建物は１２メーターなんだから、引いたら３メーター、半分が１．５メーターですよ、１．５メーターのひさしなら飛ぶかもしれない、数字的には。しかし実際は５０センチか６０センチしかないんですから、こういうふうなずさんな報告書もあるわけですよ。だから軒の出は５０か６０センチです。誰が見ても。その中においての安全性を確認したということです、数値的に。それが安全性の確保ということですよ。

それと、時間がないんですからね。それと２月の２６日のときに市長はこのようにも話しておられます。２月の２６日の質疑の中で「確かに設計以上の力が働いて建物は飛んだんだ」と、設計以上の力が働いたという回答をしていますよ。ということは設計では安定だったからこれは瑕疵には当たらないということを自分から認めておられるじゃないですか。これは読み上げるとこ

ういうふうに書いています。「設計以上の力がここに作用した関係でこの屋根は飛んだと推定をされます」と、そういうふうな発言もしておるんです。設計以上の力が働いたということは、これは自然災害なんです。市長自らそう認めておられますけど、それはどうなんですか。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　確かに対馬地区でのこのような建築設計の基準風速が３４メートルになっているところでありますが、この台風１０号のときは鰐浦地区の最大風速でもたしか２９メーターぐらいじゃなかったかなというふうに記憶をしております。２９メーターというのは基準風速以下であります。その基準風速以外の中で通常有すべき安全性が欠いていたと言えるのではないかと、この飛んだ事実です。ここが私がいつも言うところの、やはり基準の設計風速、基準３４メーター以下の風速で耐えることができなかった、そこには風速だけではなくて風向とか、また老朽化とかそういったことも若干出たということではないかというふうに思っております。

○議長（小川　廣康君）　１２番、小宮教義君。

○議員（１２番　小宮　教義君）　もう時間がありませんけど、市長が言われた民法７１７条の件でちょっとお尋ねしますけども、市長はこういうふうに言っておられます。２月２６日には、要約すると「台風が来たときにみんなが飛べば、それは不可抗力であってそれは自然災害だ」というふうな答弁しています。でね、台風９号が来たときには漁村センターもそうなんですが、周りの瓦も飛んでいるんです。台風９号も１０号も史上最大の瞬間最大風速を出しているんです。台風９号が来たときに漁村の屋根、そして周りの屋根も飛んだんですが、これは不可抗力ではないんですか。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　あの、私が再々申し上げますのは、民法７１７条の中で工作物責任という項目がございます。ここでは最高裁等の判例におきましても、先ほど議員おっしゃられたように、その地域辺りでそのような同一の被害がなくて、例えばその被害があったところだけにこのような被害が発生した場合においては、その所有者等に損害賠償の責任が発生するということが、これは判例としてもうたってあるということで私のほうは申し上げたところであります。

○議長（小川　廣康君）　１２番、小宮教義君。

○議員（１２番　小宮　教義君）　そうですよね、９号、１０号も大きい台風ですから、皆が飛べばそれは自然災害なんです。じゃ１０号はなぜ、同じように強い台風なのに自然災害じゃないんですか、同じ台風ですよ。ならば１０号も自然災害というのが一般的な考えです。いろいろ人の考えはあるかもしれないが、ただそこを大きく判断をできるのはやはり大きい組織の中、今回の対馬市が入っておる総合保険の分です、損保ジャパン。これは大きい会社です。その会社がこのような大きい台風については自然災害だから不可抗力であると、だからお金は払いませんよとい

う見解を出しておるわけです。それに対して市のほうというのは見解書を出して飛んだ原因だけを上げて、本来の瑕疵ではなくて飛んだ原因だけを上げてそれは瑕疵だと言う。それも総合的に損保ジャパンが審査をして、そしてそれは完全に最大の風が吹いたんだから自然災害じゃないかというふうな判断をしておるんですが、じゃ、損保ジャパンについてどうなんですか。そういうことはないと言い切れるんですか。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　別に私のほうが損保ジャパンの会社内のことをいろいろと言うことは差し控えたいとは思いますけども、あくまでこの保険会社としては対馬市から送られた情報関係を元手に、会社としてのそのような判断をなされたものというふうに私自身理解はしておりますけども。ただし、我々としてはあくまで損保ジャパンさんの考え方に同じにする必要もないと申しますか、弁護士の先生のほうからの助言の中でも、あくまで保険会社のほうが補償はしない場合でも、市としましてはその瑕疵を認めて、そしてまた議会の同意を得て損害賠償をすることについては差し支えないというようなことをいただいているところであります。

○議長（小川　廣康君）　１２番、小宮教義君。

○議員（１２番　小宮　教義君）　確かに弁護士の先生は言われたと思います。でもその弁護士のその見解が何度も言うようだけども、その前提としてこう言っているじゃないですか。「専門家に頼んで瑕疵を明らかにしてくれ」と、そうであればその瑕疵が認められたらそういう流れになると、弁護士もそう言っておるんですから。

瑕疵の判断もせずに自分たちで勝手に瑕疵だ、瑕疵だと言いながら、弁護士の言うようにすればさっきの流れになると思います。基本的におかしいと思います。

そして、今回のその向こうも保険が出るわけですから、７００万か８００万か出るでしょう、と思います。その保険で直していただいて、建物を。出るんだから。そして、先ほど言われるように非常に悲惨な状態だったんだと市長は見に行かれたんだから、そしてどうかしてやらんといかんと思うじゃないですか、それが人間ですよ。ならば、保険で直していただいてそれに代わるもの、代わる補償ですよ。補償というのは見舞金であったりとかそういう形での補助はいいけども、日本国憲法に違反するような、国のような国家賠償法というのは使ったらいけないと思います。まだ、時間もあるんだからほかの補償方法も考えて、そして見舞金でどうだろうかということであればそれでいいじゃないですか。皆さんほとんど自分の保険で直しておるんですから。でもそれ以上に悲惨だったんでしょう。ならば、そういうような形で見舞金なりその他のもので対応するというふうな方向転換も必要ですよ。税金ですからね、人のお金じゃないんですよ。税金で払うんですよ、人のお金と思って勘違いしてもらったら困ります。

最後に何か言ってください。寂しいけど。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　先ほど申されましたように、ただ、今この被害者の方のほうが（「まとめてください」と呼ぶ者あり）加入されてある保険については、もう御承知のように何かなかなか今はっきりして出せるというような状況ではないということは聞いております。

そういうことで、我々といたしましては何度も言いますけどもこの一級建築士の見解を得て、そしてまたこの瑕疵の判断となる危険性、そして予測可能性、回避可能性について総合的に判断して瑕疵と認めざるを得ないということで判断をしているということを申し上げます。

○議長（小川　廣康君）　これで、もう時間です。（発言する者あり）時間かかりますか。はい、じゃ特別に許可します。どうぞ。１２番、小宮教義君。

○議員（１２番　小宮　教義君）　すみません、最後に一つですね。

国家賠償法というのがございますけども、ただ瑕疵というのをはっきりと確認をしてくださいよ。瑕疵がもう法律で決まっとるんだから、これが瑕疵だというのは。この見解書はその瑕疵も何もうたっていない。これが瑕疵をうたっていればいいんですよ、これが瑕疵だということを。

そういうことで何度も言うけども、まず今の建物は保険で直してもらって、そして後はそういうような形での補償を考えていただきたいと思います。

これ以上言っても無駄でございます。

以上。

○議長（小川　廣康君）　これで、小宮教義君の質問は終わりました。

○議長（小川　廣康君）　暫時休憩します。再開を１１時１０分からといたします。

午前10時53分休憩

午前11時07分再開

○議長（小川　廣康君）　再開します。

引き続き市政一般質問を行います。１７番、作元義文君。

○議員（１７番　作元　義文君）　皆さん、おはようございます。

新政会１７番議員の作元でございます。実は、私は昨年の１２月の定例会でこの一般質問を通告しておりましたけども、自分の都合で登壇することができませんでしたので、今回改めて中身も若干ずれるところがあるかも分かりませんけれども、質問をしてみたいと思います。

さて、世界中で猛威を振るっております新型コロナウイルスの発生から１年が経過をいたしましたけれども、まだまだ終息の機会を迎えることができておりません。ワクチンの接種も始まり終息を迎えることに期待をしておきたいと思います。

通告をしておりました３点につきまして順にお尋ねをしてまいりたいと思います。

平成３０年６月定例会でもこの件につきましてお尋ねをしておったと思います。その件について質問をしていきたいと思います。

まず、対馬のこれからの観光対策について、特に今回は中対馬地区の現状と今後の取組についてお尋ねをいたします。

対馬の観光について語るとき、浅茅湾の周遊コース、浅茅湾観光が最重要施策ではないかと考えております。まず、和多都美神社、烏帽子岳のコース、今、和多都美神社の一番沖の大鳥居が昨年の台風９、１０号で倒壊をしております。宮司さんの話によりますと「９月の大祭までには建立をしたい」という話をされております。「全国からたくさんの御寄附も頂いております」ということであります。完成すれば全国各地から多数の参拝者が訪れることと思います。

次に、和多都美神社から濃部浅茅湾、そしてパールブリッジを通って万関橋方面に抜けるところに狭瀬戸があります。これも前回質問を市長にしておりましたけれども、浅茅湾周遊コースをつくり上げる中で重要なコースであります。前回の答弁でもいただいておりますけれども、かなりの予算が必要であるということは承知をしておりますけれども、どうしてもしけを乗り越えて浅茅湾をゆっくりと回るコースをつくるためには、この補助事業をいろいろ考えていただいてこの狭瀬戸の掘削をやっていただきたい。長さが約３００メートルか、幅が３０メートルのコースで、案外直線でつながっているところですから、ぜひもう一回この計画を作り上げていただきたいなというふうに思います。

次に、あそうベイパーク、ゲンカイツツジの森の関係で少しお尋ねをしておきたいと思います。

全体で６０ヘクタールを有する一大公園ができ上がりつつあります。１００名に近いボランティアの皆さん方の力添えがあってのことだというふうに思っております。散策道の整備、景観を阻害する大木の伐採、休憩ベンチ、展望所の設置など順次進めて誰もが一日楽しめるような公園に作り上げていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

次に、今よく話題に出てきております金田城の関係ですけれども、昨年のＧｏＴｏキャンペーン中には国内の観光客が数多く訪れていただき、全国に百名城の山城として知れわたるようになっております。新型コロナ終息が見えて、また旅キャンペーンが実施されるようになると、多くのファンの人たちが訪れてくれるようになるというふうに思われます。対馬市として、これからこの金田城をどのように生かしていくか、ＰＲ活動をされるのか、市長の話によりますとトイレカーの設置も予定されているようでございますけど、その駐車場の設定も、ぜひ進めてほしいということを申し上げておきたいと思います。

それから、２点目、藻場造成の件ですけれども、今現状と今後の取組についてということでお尋ねをします。

対馬でも各地でいろんな方策で、県の事業も併せて藻場造成が取り組まれておりますけれども、なかなかいい成果が上がっていないというふうに思っております。

御承知のとおり、対馬の山々は下草が枯れ、海へのプランクトンの流入が大幅に減少していると思います。海と山は一体の物であるというふうに認識をしております。今、豊玉町漁協管内でクヌギの植栽が行われました。８００本ぐらい植栽されたんじゃないかなというふうに思いますけれども、これは一回の植栽だけではだめですね。やはり長い年月をかけて山と海と一緒につくり上げるというふうな対策を、県と一緒に話をしながらぜひ進めてほしいと思いますが、いかがでしょうか。

次に、３点目ですけれども、教育長に１点お尋ねいたします。これは市長も少し関係あると思うのですけども。

公式のグラウンドゴルフ場の設定でございますけれども、今、高齢者あるいは若者もそうですけども、幅広い年齢層にグラウンドゴルフが普及しております。多くの人たちに愛されるスポーツになっているグラウンドゴルフ。

昨年は新型コロナの影響で大会も大分中止をされていたようですけれども、対馬で登録をされている人だけでも７００人、登録なしでいろんなイベントに参加してされる方を含めると１，０００人に近いグラウンドゴルフの人たちの人口が楽しんでおられます。これはゲートボールと違って一緒に和気あいあいの中で個人個人の点数を競いますから、健康の確認であるとか、元気だったかなとかいうような声かけが簡単にできる融和なスポーツであります。

全島に数多くある運動公園の見直しを一回されたらどうでしょうか。グラウンドゴルフ場を大きく３点、専門の会場を設定してほしいなという希望がたくさん出ておりますから、よろしくお願いをいたします。

以上、３点質問をいたしておきます。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　作元議員の御質問にお答えいたします。

初めに、中対馬地区の観光対策について。浅茅湾周遊コースの設定を見据えた狭瀬戸の掘削と拡幅についての御質問がありました。

浅茅湾はリアス式海岸の美しい景観から対馬の主要な観光地となっております。その中心に位置する狭瀬戸は名前のとおり、狭く浅い瀬戸のために真珠養殖漁船等の小型漁船とプレジャーボートは満潮時の航行に限定されかつ慎重な操船が必要とされております。平成２９年に作成しました中対馬未来づくりアクションプランの３０ある個別事業の中に、狭瀬戸海底掘削事業を渡海船うみさちひこの新たな観光航路として検討するための整備として計画をしているところであります。

狭瀬戸の掘削と拡幅を行うことにより潮の行き来が活性化することが見込まれ、真珠養殖漁場の環境改善にも期待できるものと考えられます。また、渡海船うみさちひこの航行が可能となれば、観光ルートの見直しにより西沿岸ルート、東沿岸ルート、浅茅湾ルートの組合せにより多様なラインナップが形成され、さらに以前より増して浅茅湾の春のゲンカイツツジや新緑、夏のハクウンキスゲ、秋の紅葉、冬の朝霧などの四季折々の景色を船窓やデッキから楽しむことが期待できます。

渡海船うみさちひこと連携した観光ルートの多様性が確保でき、観光客の増加が見込まれ、観光産業の振興につながるものと考えます。

しかしながら、狭瀬戸の掘削・拡幅事業には膨大な事業費が必要になると考えられます。国定公園第１種特別地域となるため、国や県との連携を図り離島振興法や地域創生をはじめとした関連する各種制度を活用しながら、中対馬未来づくりアクションプランを基に目標を立て整理しながら進めてまいりたいと考えております。

そして、あそうベイパークの散策道の話がございました。あそうベイパークにつきましてはちょうど今、ツツジが咲き誇っておりまして多くのお客様も集まっているところでございます。そういうことで、令和３年度の予算のほうに散策道の整備の予算を計上しておりますので、どうぞよろしくお願いをいたします。

次に、金田城の整備、ＰＲについてでございますけども、御存じのとおり金田城は一昨年９月にＮＨＫの最強の城スペシャルで最強の城に選ばれたこと、昨年夏からのゲーム、ゴースト・オブ・ツシマの大ヒット、そして１１月２１日に放映された世界ふしぎ発見、また１０月８日には作元議員も出演された沸騰ワード１０に取り上げられるなど、メディアを通して大きな注目を集めているところでございます。この流れを途切れさせることがないよう太く長くＰＲ活動を実施していかなければなりません。

金田城関係の取組としましては、現状のコロナ禍にあってはウェブ上での映像による発信が中心となります。ゴースト・オブ・ツシマの関係企業の御理解をいただきながら、関連する動画の作成や関東で開催されたお城エキスポへの出展、聖地巡礼といった海外も含めた旅行者向けの商品造成などを継続して行ってまいりたいと考えています。

また、トイレの整備も行わなければなりません。既に地方創生交付金事業により今年から整備事業を進めておりますが、特別史跡指定エリア内にはいろいろと制約が多いため、自動車トイレの導入で対応したいと考えています。さらに携帯やタブレットをかざすと往時の石塁の様子や各城戸の門がバーチャルに見ることのできるＡＲやＶＲ等復元事業を実施いたします。

対馬観光の売りは歴史と自然でございます。いろんな意味で注目を集めている今が絶好の機会であります。対馬の歴史や魅力をいろんな手法によりどんどん発信し、対馬に来ていただけるき

っかけづくりの取組を継続して行ってまいりたいと考えております。

次に、藻場造成の現状と今後の取組についてでございますが、対馬市の水産業において非常に重要な資源である藻場は一次生産の場、多種多様な生物の産卵場、稚魚の成育の場など、沿岸環境にとってなくてはならない重要な役割を担っております。

しかし、近年、対馬沿岸では藻場の衰退による磯焼けの進行が顕在化し、その対策が喫緊の課題となっております。磯焼けの原因は諸説ありますが、主なものとして、海況の変化、栄養塩の欠乏、淡水流入の影響、海水温上昇、植食性動物の食害、カキなど競合動物や堆積土による着定基質の占有、汚染などが考えられております。

磯焼け対策における基本方針といたしましては、対馬沿岸藻場再生計画において主要項目を掲げ取組を実行しているところでございます。

具体的な取組の令和元年度実績といたしまして、離島漁業再生支援交付金及び水産多面的機能発揮対策事業を活用し、魚類駆除２１組織、貝類駆除３２組織、藻類の種苗投入２５組織で活動を実施しております。あわせまして各集落において、先進的視察を行うことで仕切り網による母草の育成５集落、イスズミトラップの設置６集落につながっております。その成果につきましては、食害魚の駆除５，３２５匹、そのうち鮮度の良いものは食材への有効活用につながっております。その中でもイスズミ、アイゴ等の魚類については補助事業を活用した駆除にとどまらず、定置網で漁獲されるものについても今年度から流通実証実験を行っており、令和３年度をめどに一般鮮魚と同様の島内流通体制を確立し、安価で安定した原料確保により飲食店や学校給食への需要喚起を促します。なお、ウニ類につきましては、約５６万個の駆除実績となっており食害の抑制としての効果を発揮しております。また、藻類については仕切り網の中では成長が確認されており、海水温の上昇による影響が懸念される中、食害を抑制できれば生育可能な環境にあることが証明されております。

一方、研究機関による先端技術の導入にも取り組んでおり、環境ＤＮＡ調査では海水を採取し、水中に浮遊している生物の排せつ物等のＤＮＡの濃度から存在する魚類等の種類、密度等が推計可能であり、継続的な調査を実施することで季節的な変化を考慮した対馬沿岸域の生態系構造が明らかにになるものと期待しております。

藻場の再生は非常に難しい問題であり、即効性のある取組がなかなか見いだせない状況ではありますが、環境変化を注視しながら継続して事業に取り組み、状況に応じて対馬海域の海水温上昇等に即した南方系海藻種の導入や、現在一部地域で導入されている河川流域での植林の拡大等についても取組強化に努めてまいります。

加えまして、汚泥発酵肥料につきましても一部地域で利活用を実施しておりますので、現在の海水成分の状況や海域への有効性等を慎重に調査しながら活用してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（小川　廣康君）　教育長、永留和博君。

○教育長（永留　和博君）　作元議員の御質問にお答えします。

グラウンドゴルフ場の公式化についてでございますが、グラウンドゴルフは老若男女に関わらず気軽に自分のペースでできる競技として、市内各地で多くの市民の皆様がプレイを楽しんでいらっしゃいます。また、自らの趣味や健康づくりを兼ね合わせ積極的に取り組んでおられることは大変良いことだと感じております。

現在、大会は野球場や多目的広場などの広いスペースが確保できる会場で開催されておりますが、競技人口の増加に伴い、より快適な場所での大会開催を望まれる声が多いと思います。

議員も御承知のこととは存じますが、市内には旧町時代からの運動公園をはじめとする様々な体育施設が整備されていますが、老朽化が進み毎年多額の修繕費を費やしている状況です。また、施設の維持に係る経費についても多くの予算を要しております。

以上の状況を鑑み、教育委員会では、現在施設の適正配置や利活用についての総合的な方針の策定を目指しており、令和３年度に関係各方面の御意見を伺うための推進委員会を立ち上げることにしております。

今回のグラウンドゴルフ場の設定につきましても、その中で協議を行っていきたいと考えておりますので、御理解くださいますようお願いをいたします。

以上でございます。

○議長（小川　廣康君）　１７番、作元義文君。

○議員（１７番　作元　義文君）　ありがとうございました。中対馬の観光関係から若干お尋ねをしたいと思いますけれども、今市長が言われましたうみさちひこの利用、これが渡海船としての活用はもちろんですけれども、浅茅湾観光クルーズという形でぜひ使っていかなければいけないというふうに思っております。この、今私が言いました狭瀬戸の掘削、３００メーターと３０メーターの掘削がもしあればきれいなコースがつくり上げられると、これは市長も言われたとおりでございますから、ぜひいろんな施策を講じながら、考え合わせながら陳情もしながら、できるだけ早い時期にこの掘削をやってほしいというふうに思います。

また、真珠養殖の漁場も濃部浅茅のほう側と万関側の浅茅湾のほう側に２か所設定をされておりますので、そういった人たちとの話合いも必要かと思いますが、これは真珠が揚げられた時期がありますので、１、２月から３、４月までは使っていませんので、そういったところの協議もよくされながら、できるようになったは、真珠養殖の人たちがでけんちゅうたらこれだめになる可能性がありますので、幅広く意見を聞きながら、ぜひこれも進めてほしいなというふうに思います。

それから、あそうベイパークの件ですけれども、やはり大木が邪魔して視界を阻害している部分がまだあるんです。浅茅湾側に下りていくところに灯台があります。灯台周辺が山猫の生息地になっているそうなんです、あれがね。だから、美津島行政サービスセンターの所長ともちょっと話しましたけれども、見えるように外が。それぐらいの伐採はしてほしいと。そうしないとちょっと暗いんです、あそこ下がっていくのが。だからそこをして、もともとあったあそこに展望台とかアスレチックの簡単なやつがあったんですけど、それも撤去されておりますから、あそこにベンチとやっぱり簡単な展望台ぐらいはセットしてほしいなというふうに、これもお願いをしたいと思います。

そして、今ボランティアの方とよく話をしてみると、鹿が半島に入りだしたということで、鹿の糞がてんてんとやっぱりありますね、ゲンカイツツジのところに。だからあそこは半島になっておりますから、入り口をやはり金網で塞げば何とか鹿をあそこは防げるんじゃないかなというふうに思っているんですけど、これも検討してみてください。

それから、金田城の件ですけども、ぜひトイレカーの設置をうまく利用できるように、下側に駐車場みたいなごろごろ石のところがありますよね、あそこを少し整地して、やっぱり車が５、６台ぐらいは止めれるように自分たちですればいいんじゃないですか。そういったことはやはり臨機応変にやるべきだと思います。車止めるところがないんですよ、今からぜひ絶対ゴースト・オブ・ツシマの関係をＰＲに使うことはできませんけども、金田城には必ず人が今度は、コロナがなくなれば絶対また来ます。そして、国がＧｏＴｏキャンペーンをまたやりだすと必ずやって来ますよ。それで、ゴースト・オブ・ツシマで５００万、６００万の人たちがゲームを見た人は対馬に行ってみたいなというふうに思っていると思うんです。和多都美神社の寄附もそうですけども、この人たちが対馬に来るようになると、急いで整備をしていかないと間に合わないと僕は思います。だから、トイレカーとか駐車場とか道路の悪いところを削ってきれいにするとか、そして、一番上の展望所にはゲンカイツツジも１００本でも植えてもらうとか。今あるのはあるんですよ、ゲンカイツツジが。でも、ぱらぱらしかないですよ。そういったことの植栽もひとつ考えたらどうかなというふうに思います。そして、秋にはここにダンギクがいっぱい咲くんですね、あの石垣のところにね。これも鹿から食われんようにしっかり保存できるようにしてもらわないと。またキスゲみたいに一つもなくなりますよ、あれも。こういったところは手がけてほしいと思います。それで金田城の行ったあかしとして御城印というのがありますね。僕もずっとあっちこっち行くときに、御朱印帳を持っていくんですけど、これが金田城の御城印です。彦根城とかこれにいっぱい貼って持っているんですけど、こういったものを求めて来る人もおるんですよ。御朱印帳を抱えて。だから、行ったところのあかしとしてこういったものをもらいに来る人もおる、買いに来る人もおる、書いてもらう人もおる。これもやっぱり対馬のＰＲになります。

だから、１００名城のときにＮＨＫで取り上げた高橋英樹とか春風亭昇太とか、こういった人たちももしよければテレビ局と一緒に対馬で山城の大イベントを開いたらどうかな、これも頭に入れておいてほしいなというふうに思っております。

この御城印の話をちょっとしますけど、沖ノ島の宗像大社の今ＪＲが造ったクイーンビートル、あれを使って観光船に使っているみたいなんですよ、今ね。平戸とか、ああいったところをぐるっと回って沖ノ島も回るコースもあるみたいで。だから、沖ノ島コースを回っていったあかしとして、宗像大社の御朱印を乗船記念に渡しているみたいなんです。

だから、対馬も観光バスで行く人とか、こういった人には金田城の御城印を記念として渡したらどうでしょうか。これも提案をしたいと思います。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　かなり多くの御提言をいただきました。

まず、狭瀬戸の掘削につきましてはこちらのほうで事業費を算定いたしましたら、環境アセスメント等も含めますと約４億円ぐらいの事業費が必要になろうかということを試算しておりますので、今後またいろいろな補助事業を活用するために研究をしてまいりたいと思っております。

それから、ベイパークの関係で見通しが悪いということで樹木の伐採をもう少ししてくださいということであります。ここは、先ほども申しましたように、第１種特定地域になっておりますので、なかなかその許可を得るのが難しいところもございますが、県のほうと協議を重ねながらできる限り希望に沿うようにしていきたいと思います。

そして加えまして、鹿の被害対策で確かに入り口のほうを止めればある程度の鹿は止まるのかなという思いを持っていますが、ただ鹿はどうしても泳いで渡るというのがありますから、ここら辺は、ちょっとまた担当課のほうと研究をさせていただきたいと思っております。

それとまた、この次に金田城の整備に合わせていろいろな御提言もいただきましたし、何せ対馬のためにやれというような励ましのお言葉もいただきまして、大変感謝をしているところでございます。そういうことで、観光バス等で訪れたお客様に議員御提言のこの御城印等を何とか発行ができないかどうか、また協会のほうとも協議を重ねながら、ぜひこのことについては実行につなげてまいりたいというふうに思っておりますし、芸能人の高橋英樹さんの件につきましては、ここでは、向こうの都合もありますし、これからの事業として研究をさせていただければということで思っております。

以上でございます。

それと、申し訳ございません。私の当初の答弁中、沸騰ワード１０につきまして１０月８日ということで答弁いたしましたけども、ちょっと間違っておりまして１月の８日の放送でございますのでおわび申し上げます。

○議長（小川　廣康君）　１７番、作元義文君。

○議員（１７番　作元　義文君）　ぜひ対馬の将来展望ということを十分に考え合わせて計画を進めてほしいと、商工観光も含めてぜひ進めていただきたいというふうに思います。

それから、あそうベイパークの散策道、頂上につくテープが張ってありますよね、今。あれ予算が今度つけられております。通ればされるんでしょうけども、よくあそこの責任者の方と相談をしながらいつするのか、時期的に。今満開ですからされませんので、恐らく１１月ぐらいかなとは思いますけど、１００本ぐらいはやっぱり植栽をし直さなきゃいかんそうですよ、あれをつくるためにね。だから、そういったところもぜひ相談しながら進めていただきたいなというふうに思います。

はい、この件はもうこれでいいです。

それから、藻場の件ですけども、今非常に難しいんですってね、この藻場造成というのは。でも、やっぱり海と山ということを考えるときには、どうしてもやっぱり継続した施策をやっていかないとなかなか。１回肥料を海の海岸沿いにまいたことがありますよね、昔、昔というかいつか分かりませんが、それはすぐに流れ出てしまうので、これからは水産部とも話をしながら、海に流れ込んでいく川、河原周辺にああいったものを海から流れてくる栄養に見立てて置いていったらどうかなというふうに私は思っているんですよね。だから、この前クヌギのときにも、植栽のときにもそれ使わせてもらっているんですが、ぜひ余って余ってしょうがないものがあるから、あれを活用してほしいなと。それは、成分も市長が言われるようによく研究をされてね、やってください。そうすると、きっと流れ込んで来る海沿いには藻場が形成されてきやせんかなと思うんです。だから、今過去に囲ったところはきれいに伸びているんですよ。私たちのところでもやっていますけど、網の小さい目の中に入れているカジメはどんどん太っている。だから、外に置いたやつはもう締め出しを食う。何か方法を考えながらこの藻場造成も進めてほしいと思います。

藻場造成で何かあれば。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　この藻場造成につきましては、議員も今おっしゃられたように大変難しい事業であります。ましてやこの原因等が海水温の上昇とか食害魚が増えたとか、いろいろあるところでありますけども、ただ、この藻場というのが魚類を増やすためのナースステーションでありますので、何とかここを守っていきたいというふうに考えております。

そしてまた、今年度３地区で森・川・海の関係でクヌギ等を植栽をしていただきました。このことにつきましては本当に心よりお礼を申し上げたいと思います。そういう中で市といたしましても、今現在、少し余っております、余るといったらおかしいんですけど、ありねよし等の肥料を有効活用にするため、いろんな活用策を今後も検討してまいりますし、もし、御要望があれば

それにお応えしてまいりますので、どうぞ今後ともよろしくお願いをいたします。

以上です。

○議長（小川　廣康君）　１７番、作元義文君。

○議員（１７番　作元　義文君）　それでは、教育長に１点お尋ねをしておきたいと思いますが、グラウンドゴルフの関係で各地で今やっておられますよね、グラウンドゴルフ場。これは案外広いところじゃないとされんとですよね。５０メートル線が２本要ったり３０が２本要ったりするセットをしなくちゃいかん球場が要りますので。まあ今、適切な配置の見直しをすると、検討をするというような答弁をいただきましたので、ぜひ早いうちにこういったことは解決をしてほしいなと思います。そして、芝のあるところや芝のないところやいろいろあって、やっぱりできれば４面取りたいというところがあるんです、今年は壱岐対馬の大会も対馬でやられるそうですね。それで、大会が何か結構４０近くあるんじゃないでしょうか、大会が。いろんな会社が主催する大会もあるんです、農協とか漁協とか、あるいはそういったところが主催する大会がいっぱいあって、それに皆さんが集まって来て和気あいあいのうち、いい交友ができているんです。だから、こういう会場を早くセットしてほしいなというふうに思っております。

それから、豊玉の話をちょっとしますけども、こどもたちが日曜日に野球の練習をしています、あそこで。豊玉の運動公園、あれは野球場になっているのかな。だから、日曜日かな、やってきてしておりますので、大会をするときには僕は峰か美津島でしてもらうようにできるだけそういった配置の仕方をしてもらって。日にちが取りにくいらしいですよ、グラウンドゴルフも。雨が降ったらされんし、いろんなことがあって、こういう要望もたくさんいただいております。

だから、配置の仕方をよく考えられて、そしてひとつ豊玉の話をしてもらいますけども、中学校のソフトボールの練習をしている会場は豊玉高校の仁位の公民館側のあそこにマウンドもあるし、あそこでしてくられんとかなあと思うんですけど。その辺どうですかいね、されんとかね、練習場。

○議長（小川　廣康君）　教育長、永留和博君。

○教育長（永留　和博君）　豊玉小学校のソフトボールですか。

○議員（１７番　作元　義文君）　いやいや、豊玉中学校の、豊玉中学校かどこの中学校か分かりませんけども、中学校の生徒たちが野球の練習をしているんです、豊玉のグラウンドで。

○議長（小川　廣康君）　教育長、永留和博君。

○教育長（永留　和博君）　あれは社会体育で豊玉中だけではなくて近隣の中学校からこどもたちが集まってチームをつくってやっているわけですけれども、中心は豊玉でやっているみたいですけれども、重なったとき等は峰の野球場で練習をしております。今言われるグラウンドゴルフ場の公式化ということで、それぜひ以前の旧町時代の野球とかソフトの盛んだった頃、若者の多か

った頃つくられた施設が中心となっておりますので、今後の対馬の人口構成、高齢化を考えたときには、やはりそこらあたりをもうぜひ見直す時期、見直さなければならないというふうに考えておりますので、ぜひ来年度その方向性を見いだしたいなというふうに思っております。

○議長（小川　廣康君）　１７番、作元義文君。

○議員（１７番　作元　義文君）　ありがとうございます。

ますますこのグラウンドゴルフの人口というのは増えてくると今から思っておりますから、大会がなるだけ多くできるような会場をぜひセットしてほしいなというふうにお願いをしておきたいと思います。

それから最後になりますけれども、あそこの草刈りトラクターがもう壊れて、１０月か１１月にはもう壊れとったっじゃなかろうか。それで今予算を見てみますとちゃんとつけていただいて、予算が通れば執行していただくんでしょうけども、ぜひそういったところもお礼を申し上げておきたいなというふうに思います。やっぱり芝の状態をきれいにしておかないと、年寄りは、いいますからね、「これ、何か」と。そういったことがないように。刈る人がきれいにいつもあそこは刈ってくれていますから、ぜひそういったところもお願いをしておきたいなというふうに思います。

それから、もう時間がありませんけども、最後に市長に１点だけお願いをしておきます。

これは観光、まあ何ちゅうかな、国定公園の見直し、いつかも私は言ったと思うんですけど、昭和４３年に設定されておりますよ、この壱岐対馬の国定公園は。だから、もう５０年も６０年も木がそのまま伸び放題しとって、何かちゅう話をしてみませんか、県に行ってから。切られるところは切らしてくれんね、見直すところは見直してくれんか、いうふうに言ってください。そうせんと、開発もされん、観光の進め方も進まん、いうことになりますので、よく県のほうとも話をして、見直すところは見直してくれという話をしてください。

最後にお願いをして質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（小川　廣康君）　答弁はいいですかね。（「はい」という者あり）答弁いいですね。

これで、作元義文君の質問は終わりました。

○議長（小川　廣康君）　昼食休憩とします。

再開の時間ですが、本日３月１１日は東日本大震災から１０年を迎えます。市において大震災で犠牲になられた方々の御冥福をお祈りし追悼の意を表すため、大震災の発生時刻午後２時４６分からサイレンを１分間鳴らすことになっております。議会におきましてもサイレンに合わせて１分間の黙禱をささげたいと思います。

議事日程からしますと、午後からの一般質問時間内に当たりますので、開始時間を５分早めて

再開は午後零時５５分からしたいと思いますので、御了承願いたいと思います。これで休憩といたします。よろしくお願いします。

午前11時55分休憩

午後０時53分再開

○議長（小川　廣康君）　再開します。

報告します。大部初幸君並びに齋藤久光君から早退の届出があっております。

午前に引き続き、市政一般質問を行います。３番、長郷泰二君。

○議員（３番　長郷　泰二君）　創政の長郷です。

本日は、人口問題について、市長の見解を尋ねてみたいと思います。

この春１４７年の歴史に幕を閉じる小学校がございます。

そして、２０２０年総務省の住民基本台帳人口移動報告では、長崎市、佐世保市に次いで転出超過ランキングの３番目に対馬市があり、その数は３６２名となっております。

同じ離島であっても、五島市、小値賀町は、転入超過のランキングの上位にあります。

本市においては、就職相談の実施、住宅情報の提供、空き家バンクの拡大等々取り組まれておりますが、その成果をお尋ねいたします。

次に、人口問題については、どの自治体も悩んでおるところでございますが、Ｕ・Ｉターンを増やすには、住みよい場所、働きやすい場所ということを感じておるということを、市長は、前、発言をされていますが、その後、どのような対応を講じられておるのかお尋ねいたします。

次に、Ｕ・Ｉターンが２００７年９１名、２０１８年１１５名との報告を受けていますが、その後の動向をお伺いいたします。

また、Ｕ・Ｉターン者が地域になじみやすいため、どのような対応策を取られておるのかお伺いします。

こういったＵ・Ｉターン者が、本市にお見えになるとき、移住・定住支援関連の補助金が幾つかありますが、検証してみる結果、対象者の立場からすると煩雑な事務に見えてなりません。

そこで、事務の見直しというか、転入しやすい環境、これはホームページも含むことなんですが、そういったもので、外から見ても「あっ、この対馬市の手続簡単だよね」と分かるようなシステムの構築、そういったもののお考えがないかどうかお伺いいたします。

こういったふうにして、止まらない人口流出や、高齢化による労働力の不足、疲弊する地域経済危機に対する取組をどのように考えてあるかお伺いをいたしたいと思います。

以上です。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　長郷議員の質問にお答えいたします。

対馬市の人口は、令和２年３月には３万人を下回り、人口減少問題は、対馬市の大きな課題であると考えております。

平成３０年の社会減は１５４人の減、令和元年は３６０人の減、令和２年は３８３人の減と年々減少幅が大きくなっている現状であります。

その要因は、転出の増というよりも、転入者の減少幅が伸びており、職場の異動等に伴い、単身世帯が増えてきているのではないかと考えております。

そのような中で、移住・定住については、重要施策として位置づけておりますが、移住者の状況は、平成３０年度が１１５人、令和元年度が１３４人、令和２年度が２月末で１２２人と、ほぼ前年並みで推移しております。

まず、１点目の御質問であります就職相談会については、地元企業を中心に、定住に向けた島内相談会、移住に向けた島外相談会を実施しております。

就職相談については、移住者等の希望職種などのマッチングが非常に難しいことや、島外相談会においては、相談会実施の周知に苦慮しているところがあり、想定していた成果は出せていない状況であります。

今後は、今年度に取り組んだリモートでの開催や、新たな手法を検討しながら、相談会を継続的に実施してまいりたいと考えております。

住宅情報の提供については、空き家バンクの掘り起こしや、不動産事業者との連携により、しまぐらし応援サイトでの情報提供などを行っております。

空き家バンクについては、令和元年度から固定資産税納付書発付の際に、空き家バンク登録のパンフレットを同封しながら、年間１５件程度の登録を行っており、徐々にではありますが、成果が出てきているところであります。

今後は、島おこし協働隊として雇用しているしまぐらしコーディネーターやコミュニティー支援員などと連携し、地域に入りながら、空き家バンクの掘り起こしに取り組みたいと考えております。

次に、２つ目の御質問の住みやすく、働きやすい場所づくりについてでございますが、現在は、住居の確保や就業場所の確保、移住における支援策に取り組んでいるところであります。

住みやすい場所については、環境面もありますが、コミュニティーも含め、地域において理解のある移住が優先するのではないかと思っております。

そういった中では、移住を率先して受け入れていただける地区の選定や、地域の世話人制度などのサポート体制を、今後検討していかなければならないと考えております。

また、働きやすい場所については、就職相談会等や地元企業への呼びかけ等をしながら対応し

ているところでありますが、今後は、国の新たな施策である特定地域づくり事業協同組合を組織できないかと考えております。

この制度は、年間雇用ができない事業者等が出資及び国等の補助金を受けながら人材雇用を行い、事業者からのニーズがある業務について、期間や季節ごとに応じて派遣する新たな制度であります。

移住者の働く場所の受け皿としても、この制度が活用できないかと考えており、今後、産業界や事業所等とも協議・検討を行い、新たな雇用体系を構築していきたいと考えております。

次に、３点目の御質問については、Ｕ・Ｉターン者の状況は、冒頭説明させていただきましたので省略させていただきますが、Ｕ・Ｉターン者が、地域になじみやすくするための対応策については、現在は移住者の懇談会やアンケート調査を実施しながら、対馬での生活に対しての助言・サポートを行っている状況であります。

議員がおっしゃるように、地域になじむというのは、移住者にとっては、大変不安な部分であり、生活する中で、大きく悩むことも想定されます。

そういった意味からも、先ほど説明した移住者受入れ地区の選定や、移住者に対する地区世話人制度などを検討してまいりたいと考えております。

次に、４点目の御質問の移住・定住支援関連補助金の簡略化についてでございますけども、引っ越し経費、家賃経費、子育て支援、結婚支援、就職支援、奨学金返還支援など、その支援制度に応じた補助金を支給しているところであり、制度の適正な支給等を考えた場合、簡略化は難しいと考えておりますが、どのようなことを想定されているか、お聞かせ願えれば幸いというふうに考えております。

移住者に一律支給という考え方もあろうかとは思いますが、それを目的に移住する方も他の自治体には事例があり、また、転々と移住補助金を活用している方もいらっしゃると聞いております。

この補助金は、移住・定住の促進を図っていくために支援しておりますが、道半ばに転出し、平成２９年度制度発足時から１２件の補助金返還も発生しております。

そういったことを踏まえ、補助金事務の簡略化については考えておりませんが、要件である定住５年間を１年間に要件緩和し、急激な社会減が進んでいる対馬において、Ｕ・Ｉターン者を呼び込んでいきたいと考えておりますので、御理解をお願いいたします。

次に、５点目の人口流出、労働力不足、地域経済危機と範囲が幅広い質問でございますけども、根本は定住人口を増やし、人口減少を食い止めることが重要であり、特に若年層の定住政策に比重を置いていかなければならないと考えております。

大学等で都市部へ進学するのは、大学がない対馬においてやむを得ないと考えておりますが、

都市部で勉強し、将来、対馬に帰ってこられるような環境づくりが重要かと考えております。

Ｕ・Ｉターン者の支援策として、令和元年度からは、奨学金返還支援制度を設け、令和３年度からは、結婚新生活支援事業を、新たに設けたところであります。

また、若者定住には、働く場所の確保も重要になってくるかと思います。

これについては、地場産業の育成、企業誘致などを踏まえ、社会情勢に応じた対応をしていきたいと考えております。

労働者問題についても、雇用したくても雇用する者がいないという声を聞いております。

今後検討する特定地域づくり事業協同組合の創設や雇用者育成に向けた支援などを設けながら、労働力確保に向けて、取り組んでまいりたいと考えております。

さらに、外国人労働者の雇用も建設業、水産業などにおいて、進んでいると聞いております。

その方策についても、産業界、事業者、地域と協議しながら、新たな労働力の確保に向けて、検討してまいりたいと考えております。

地域産業が活性化していくことによって、おのずと地域経済は立て直せるのではないかと考えておりますので、十分に関係者と協議しながら、将来の対馬、持続できる対馬づくりに向けて対応してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（小川　廣康君）　３番、長郷泰二君。

○議員（３番　長郷　泰二君）　移住・定住補助金の件から、私の考えをということですので述べてみたいと思います。

確かにおっしゃるように、全部が全部一括になるとは考えにくいんで、私が考えるのは移住支援補助金てありますよね。

これは、東京を中心にした補助金制度ですね、東京からの移住を対象にしてのみの支援補助金があるんですよ。

そして、もう一つは同じような名前で、移住定住支援補助金てあるんですよね、これまた、別なんですけど。

これ、先ほど市長が説明されたように、もろもろの経費を面倒みましょうという話なんですね。

それはそれで、性格がちょっと違うんで、そこは一緒にならないと思うんですよね。

移住支援補助金、これは多分国が出した補助金をそのまま市がつくっているんじゃないかなあと思われる節があるんで、これについても多くを問いませんが、東京一極集中から地方にという発想の下でできた国の制度を利用されているなら、市がどうこう言えないけど、私とすれば、東京じゃなくて、福岡とか関東、関西、そこら辺の都市があってもいいという考え方を一つ持っています。

今、例規集見ますと東京と明記されております。それ以外は、駄目だという理解になるんで、できれば関西、福岡県、そこら辺も支援補助金の対象地区として市が認定できれば、少しは変わってくるんじゃないかなという気がしていますね。

そして、もう一つは、先ほど言った移住・定住支援補助金、これがなかなか厄介なところがあるんですけども、できればここら辺の補助金とか、家屋改修の補助金がありますよね。ここら辺を一つにしていただければ、利用する側からすると、移住してきましたよ、そこで定住先決めていますよ、そして入ってみたけど、外見と見たときと生活を始めたときのギャップが生まれる。ところが、うちの要綱からいくと、入ってしまったら空き家じゃないんですよね、考え方が。

だから、目的は移住者を受け入れるための家屋だから、それは、一般的補助金とちょっと考え方、考えて変えてほしいんですよね。

入ったら空き家じゃないという考え方じゃなくて、対象だったから入ったんですよ。だから、まだ永久とは言いません。期間が設定されてもいいと思うんです。

まず、移住してきました、１年のうちに。だったら適用しましょうと。先ほど５年を１年に変えられましたから、あえて１年と言いますけどね。そういった考え方があっていいんじゃないかと思うんですよね。

特に、対馬の場合は、合併浄化槽の普及があまりしてないんで、これが考え方なんですけど、例えば、移住してきました、住みました、そこはまだ簡易水洗程度か昔のやつでしたと。住む側か家主側かは別として、取りあえず浄化槽入れたいんですよねって話になったときに、浄化槽の補助金はもらえますね、当然ね。

ところが、移住者だったら、即、プラスアルファがないのかな。

例えば改修費、家屋改修費５０万円、上限５０万円補助金出すようにしていますよね、それが、セットで使えるかどうかちゅうのは、これは裁量の範囲になっているんですよ、今の段階では。

普通はもう、自分の家は改修して浄化槽をつけなさいちゅうのが普通ですけど、ここはあくまでも人口問題として受け入れた側だから、そこはちょっと改修費として見ていいんじゃないかな。

そういうものを市のホームページに明記しておけば、向こうから気持ちがある人が、そこら辺は、ちゃんと、いち早く理解できて、スムーズに移住して来られるということが考えられる。

もう１点は、空き家だから、水道、水回り関係、さびているとか、破損とかありますよね、止水栓止めているときいきなり開けると破裂しますよね、可能性あります。

そして、中さびているちゅうんで使えないという配管をやり替える必要があります。

しかし、下見に来たときは異常なかったんだけど、生活始めると、そういったものが見え始めてくる。その期間は、いつなんですかというのがないんですよね。

だから、そういったところをね、ささいなこと、みんな感じるんだけど、これ日常生活の毎日

使うもんだから、移住者にとっては、結構、神経使う分じゃないかなという、そういう意味で、さっき言ったような補助金の抱き合わせの中で、移住・定住支援補助金と空き家改修補助金等を一つにしていただければ、いいんじゃないかなという気がしております。

だから、家賃の初期設定費用とか、ここに来るための費用とか子育て費用とかは、もうこのままで十分だとは考えておりますが、要は、移住して来られる方が、来る前に、はっきりとそこが確認できる制度を、私が考えるには、対馬市移住・定住支援補助金を網羅したものを一つ立ち上げてもらいたい。

そこで、一目で見てよう分かる。

そんでもう、本当は担当課に聞かないと分からない部分がいっぱいあるんですけどね。

それは、例えば、ホームページでしまぐらし応援室、あるじゃないですか、今のホームページはね。

そこの中に、しっかりうたい込むとかすれば、外から見て、「あっ、この町は、この島は、こういったとこは適用できるなら少し考えようかな」という話なんですよ。

現に、１００名も毎年来ていただいているわけだから、そういった部分を、少しそのサイドに立って考えていっていただきたいというのが、私の考え方です。そこら、検討していただければいいと思います。

それで一つ確認ですけども、市の中にはいろいろな協議会、設けてありますよね。

例えば、人口減少対策本部、しまのみらいづくり懇話会、こういったものがあるんですけど、この活動状況を少しお聞かせ願いたいと思います。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　まず、１点目のこの移住・定住支援関係補助金につきまして、改善点ということで、議員のお考え方を聞かせていただいたんでございますけども、その前に、今、市のほうといたしましても、この４月の１日から、市のホームページのほうのリニューアルも予定をしているところでありまして、今、その準備も進めているところでございます。

そういうことでございますので、先ほど申されました、この移住・定住支援関係の補助金の洗い直しと申しましょうか、検討は、さらに進めて、今度の、しまぐらし応援室等の中に盛り込めればというふうに思います。

それと、２点目の件について、ちょっと私のほうも、よく把握をしておりませんので、これ、担当部長のほうから答えさせていただきます。

○議長（小川　廣康君）　しまづくり推進部長、武末祥人君。

○しまづくり推進部長（武末　祥人君）　長郷議員の質問にお答えいたします。

協議会の分で、人口減少対策協議会、それと、しまのみらいづくり懇話会、この２つについて

ですが、人口減少につきましては、振興局と一緒にＰＴを立ち上げて活動しておりますが、私の中でちょっと勉強不足で、この協議会がどういったものだったのか、よく理解をしていません。申し訳ございません。

また、みらいづくり懇話会についても、ただいま活動を今しておりません。申し訳ございません。

以上でございます。

○議長（小川　廣康君）　３番、長郷泰二君。

○議員（３番　長郷　泰二君）　せっかくつくっている移住、人口を増やそうということでつくられておるわけですから、そこら辺は自覚していただければと思います。

それはそれで、今後の活躍を期待しておりますが、そのほかに、例えば、漁業あととり育成事業とか、国境の島・海の魅力発信隊とか、いろいろあるんですよ。いっぱいつくっているんだけど、なかなか活動が見えない。その効果が見えない。

だからそこら辺は、今回改めて職員間、担当部の中で洗い直しをして、あれもこれもつくるんじゃなくて、一つ、一目で分かるように、変えていただきたいと思います。

先ほど、４月１日からホームページのリニューアルということで、２年目ですよね、私が言い出してから。昨年、できるという話を聞いたときの、まあそれはそれとして、やっとできるんですから、それはそれで、喜ばしいことですので、できれば、一目で分かる方法を構築していただければと思います。

それから、後継者の問題、いろいろ言われるんだけど、これなかなか難しい部分がありますよね。

もう一つだけ聞きたいのは、２親等という縛りがあるんですよね、跡取りの中で。とか、子弟とかいう言葉が出てくるんですよね。

今は、こどもとか、兄弟うちだとか、２親等とか言ってたら、跡取りは生まれない時代じゃないかと、私は考えております。

いとこであっても、親戚であっても、帰って来てやりたいという人、おられるわけです、現実的に。

ところが、市のこういった要綱等に当てはまらないんですよね。

だから、今回、あえて質問立たせてもらったのは、そういった部分について、跡取りがなかなか確保できない業種の方に、そういった光をちょっと当ててもらいたいんです。

第三者であっても、そこの経営者の方がちゃんと受け入れて、ちゃんとそこに住み込んで仕事をしますよということが証明できれば、この市の持っている要綱に合致しますよという、そういった理解できるような形にしていただきたいんですが、お考えを。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　漁業関係の漁業後継者支援事業、これについては、国・県の補助事業に準じながら、組み立ててきたわけでございますけども、ただ、これだけでは本当に、その対馬で父親の背中を見て漁業者になりたいというような方には、この支援は及びません。

そこで、そのような本当の跡取りを、これからも増やしていくために、また、その事業とは若干リニューアルして、月当たりの、たしかあれは若干下げましたけれども、本当のそこの後継者として、漁業者等を今後引き継いでいけるようなというようなことで、制度を設けております。

詳しいことは、ちょっとまた担当部長のほうから答えさせていただきます。

○議長（小川　廣康君）　農林水産部長、佐々木雅仁君。

○農林水産部長（佐々木雅仁君）　長郷議員の御質問にお答えいたします。

漁業関係の跡取りの事業の関係でございますけれども、現在、経営者育成コースとか従業者育成コースとか、それに加えて、先ほど長郷議員も言われました漁家子弟コースというのがございまして、漁家子弟コースについては２親等以内という条件がついております。

月当たり１０万円、２年目からは８万円というふうにずっと下がっていきますので、その辺については、また別に市の単独のあととり育成事業というのもございますので、そちらのほうと併せて、御利用していただきたいなあと。

それでまた、市のほうもどんどん勧めて、皆さんに分かりやすく説明をしていきたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（小川　廣康君）　３番、長郷泰二君。

○議員（３番　長郷　泰二君）　大まかにはそういうことだとは思うんですけども、その中で、さっき私がひっかかっておるのが、答えもらってないんだけど、２親等とか子弟とかという言葉がありますよね。

例えば、漁業あととり育成事業補助金交付要綱によると、対象者は漁家の子弟に対してと書いてあります。そして、事業主体は漁業協同組合ですね。ここは、しっかり言ってもらわないと、誤解が生まれるんです。漁協が対応しなければ、この事業は対応できないという話になるんですよね。

多分、国の制度を利用しているからこうなっているんだと思うんですけど、国の制度は制度でいいんですから、市の単独の制度、ここら辺で、市の中に、要綱の中に入れることは可能ですよね。

２つの道が、同じ事業で内容であっても２つある、単独分と補助事業の分、だからそれはつくっていただきたいと。

金額もさることながら、そういった縛りがあったら、さっき言った、いとこの子とか、そういったやつが来たくても来れない、対象にならない、来れないじゃなくて、対象にならない、それちょっと、あまりにもきついんじゃないかなあと。

子と弟に限定されるということと、漁業協同組合がやらないとできないということが、このあととり育成事業ですよね。

もう一つの、その次代を担う漁業後継の育成事業についても、さっき言ったように、２親等という縛りがありますよね。これはこれで、これも国の補助事業の流れだと思います。あまり中身的に、奨励金と生活費という部分が変わるだけなんですよ。

これだったらもう一括して、その縛りを解いて、さっき言ったような方法で再検討してもらいたいんですが、いかがでしょうか。

○議長（小川　廣康君）　農林水産部長、佐々木雅仁君。

○農林水産部長（佐々木雅仁君）　市の単独のあととり育成事業と市が事業主体であります漁業就業実践研修事業の件でございますけども、それを一緒にまとめたらどうかということでございますけれども、金額的にも違っていますので、市のあととり育成事業のほうを、もう少し検討が必要じゃないかなというふうには思っています。

今後、その内容について、また内部で検討したいと思います。

以上でございます。

○議長（小川　廣康君）　３番、長郷泰二君。

○議員（３番　長郷　泰二君）　それは、今から詰めていただければと思いますね。

特に、今の要綱で言っているだけであって、この要綱、一回ひもといてしまえば、一つになるはずです。

金額も改めて、国・県の補助金の分と市が単独で上乗せする分と２つあってもいいじゃないですか。

それ、相手方がどう受け取るかで変わってくるわけですから、条件も変わってきます。

だから、そこら辺は少し検討を加えていただきたいと思います。

それと、先ほど外国人労働の話が出ましたけれども、外国人労働は確かに必要な部分だと、私も思っております。

ただし、住所が特定できないと雇入れできないということであって、例えば、漁業者の方であったら、わざわざ職員の家を立てないといけないという条件があるんですよね。

住所地をはっきりさせる意味合いから、これは入管法の問題がありますので、就労させる場合は、居住地を明確にしなさいという一つの条件で、家を建てざるを得ない人もおられるし、市営住宅が近くにあれば、それを提供する方法もあるでしょうけども、そこら辺も含めて外国人労働

者というのは、いろいろ問題もあろうかと思いますが、ただ単に労働力を確保するという意味からすれば、有益な一つの手段だと考えますので、その対処方法を少し市のほうも研究して、その漁業者であったり、農業者であったり、そういったその必要とする部分の人たちと重ねられて受け入れる方向で、広く発信していくという方法を採られたらいかがと思いますが、いかがですか。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　先ほども、この外国人労働者につきましては、この産業界等と、新たな労働力の確保に向けて検討を重ねていきたいと答弁をしたところでございますが、特に内容といたしまして、特定技能１号、そしてまた、特定技能２号というような、在留期間がそれによって若干違ってくるような条件等がございますので、ここら辺も総合的に勘案しながら、産業界のほうと、再度また、いろいろと協議会等で詰めてまいりたいというふうに思います。

○議長（小川　廣康君）　３番、長郷泰二君。

○議員（３番　長郷　泰二君）　ぜひ、そこら辺は、早めに詰めていただければと思います。

それともう一点、先ほど市長もおっしゃられましたけれども、その移住者に対するサポートの問題ですね、島おこし協働隊を３名雇ってきていただいて、いろいろやっているとおっしゃるけど、私、意味合いがちょっと違うと思うんですよね。

私が考えるサポートというのは、地域の人たちがサポーターとしてなってくれないか、支援員としてなってくれないかという、私は考え方を持っているんです。

島おこし協力隊が駄目と言っているわけじゃないんですよ。

しかし、実際、そこに住み込むためには、その地域に精通した人たちがサポートしてあげないと、なかなか難しいんじゃないかなと思います。

島おこし協働隊、その後に、サポートしていくなら分かります。

島おこし協働隊の人たちも外から来ている人間ですから、その地域の実情は分かっていないんです。なかなかなじむのは難しいんだと思いますよ。

コミュニティーナースであったり、コミュニティーの支援員であったり、いろいろ来ていただいていますけども、私が考えるサポーターは、地域の住民です。

そこを市が、委嘱するなり、お願いするなり、方法はいろいろありますね。

先ほど、市長が言われましたように、地域を限定してみてみたいな話がありましたね。

そこを含めて、そういったサポーター制度を、地域の人たちにお願いしたい。

これは実例として、例えば、漁業で来た人が、漁業権を買うにはどうすればいいですかという相談がありますよね。しかし、協働隊については、そういったものは知識ないんで、それは無理ですよ。例えば、農地を買いたいんだけど、どうすればいいんですか。

だから、そこら辺のきめ細かいサポートができれば、移住されて来た方も安心して対馬で生活

できるんじゃないかと考えますが、地域サポーター制度、名前はいいんですけど、支援制度、どちらでも結構ですけど、そういったお考えはありませんか。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　このことは、冒頭のちょっと説明の中でも説明させていただきましたけれども、この移住者に対する地区世話人制度を、ここを今後、検討していきたいということでありまして、これが、意味は議員おっしゃるサポーター制度と同じような制度になろうかと思いますので、ここは、今後、進めていこうということで動いております。

それと、やはり魅力ある生活を求められると思います。私も、これまでも、魅力ある生活がないと移住者は増えないという思い持っておりますので、今、ここは、特に対馬の振興局のほうが主になってやっていただいております。

例えば、農業関係では、農地、そしてその住む家、それから、それに付随する機械等をそろえた就農パッケージみたいなことで、移住を進めようということも、実際に動いておりますし、このようなことも参考にしながら、今後、進めていきたいというふうに考えているところであります。

○議長（小川　廣康君）　３番、長郷泰二君。

○議員（３番　長郷　泰二君）　分かりました。

ぜひ、そのようにして、フォローしていっていただきたいと思います。

それで確認ですが、これを令和元年の６月定例会で答弁いただいている、移住者のネットワークをつくりますという話をされているんですが、移住者の方々、来られて、移住者同士のつながり、ここら辺をコーディネートする場はできているのか、できていないか、私は把握していませんけども、これを部長が答えているんです。市長じゃないです。

多分、当時の部長は覚えていると思うんだけど、そういうネットワークを構築して、それぞれの悩みなり、付き合いを広げていく仕組みなりあれば、さっき言った住みやすい島、移住しやすい島という一つのカテゴリーにもなるのかなという気がしているんですが、その後、そういった話って、どの辺まで進んでいますか。

○議長（小川　廣康君）　しまづくり推進部長、武末祥人君。

○しまづくり推進部長（武末　祥人君）　今、長郷議員からの移住者のネットワークの件なんですが、今現在、島ぐらしコーディネーターとして６月１日から協働隊が着任しているんですが、御存じのように、なかなかコロナ禍で動けていないというのが実情でございます。

そういった中で、ネットによるいろんな情報配信を今しておりますので、移住者への取材であるとか、そういったネットワークにまだなっていませんけども、そういったもので、つながりは、今、つくっております。

この年度末、３月２７日に、移住者交流会を予定をしております。

ただこれ、まだコロナ禍なんですので、取りあえず定員１０名ということで、皆さんからいろんな意見を聞きたいと思っております。

そういった中で、先ほども出ました住宅でのいろんな移住者目線での住宅の問題であるとか、そういったものも含めて、お聞きしたいなあと思っております。

以上でございます。

○議長（小川　廣康君）　３番、長郷泰二君。

○議員（３番　長郷　泰二君）　コロナ禍を理由にされて困るんだけど、令和元年だから。

まあ、それはそれとしていいですが、ネット使えるわけだから、そこら辺を、移住して来た人の台帳は手元にあるはずですから、そういった人に、いち早く発信して、それで、この中でということであれば、その希望を担当課のほうで、いち早く把握されて、それぞれの方々に情報として流す、インターネット上でそれは十分できることですから、そこら辺は、今の時代だったら、取り急ぎやるべきじゃないかなという気がしますので、それは期待しておきます。

それで、最後の質問にしますが、先ほどから出ています特定地域づくり事業協同組合の話なんですが、昨日も話が出ておりました。

昨年、説明会をしたというお話が、昨日ありましたが、どういう団体とどういうぐらいの回数で行われて、それが実らなかった原因は何なのか、もし把握してあれば、お聞きしたいと思います。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　実は、令和２年の１１月の１８日に、国境離島新法協議会の中に、各産業団体等の代表者がいらっしゃいますので、この中、例えば、商工会、観光物産協会、農協、漁協、森林組合、建設業協会、こういった団体の皆さんに説明をしております。

説明をしておりますけれども、ちょっと、まだ、私ももちろん行きましたけれども、その時点では、なかなか皆さん、まだ本当の興味を示していただけなかったということで、こちらの説明が、まだまだ不足しているのかなという思いを持っております。

ちなみに、五島市のほうでは、商工会が主になって、この事業を構築しようということで動かれたというような情報は聞いております。

それでまた、私たち市のほうも、この事業につきましては、一つの季節労働者的な派遣ができますので、例えば、冬場だけの人夫さんがいる真珠事業組合とか、例えば、春だけシイタケの駒打ちに必要とか、そういった事例もありますので、ぜひ、この特定地域づくり事業組合につきましては、この令和３年度で、実現に向けて、力を入れて動いてまいりたいと思っております。

○議長（小川　廣康君）　３番、長郷泰二君。

○議員（３番　長郷　泰二君）　３年実現に向けてという力強い発言をいただきましたので、矛を収めたいという気がしますが、この事業は、本市にとっては、高齢化する中で、最重要事業だと、私は認識をしております。

新聞等によると、高齢化の労働力が、７０歳以上、増えていますよね。

本市もそうなんだけど、例えば、今、市では、林業の伐採がどんどん進んでいます。しかし、本当は労働力足りていないんですよね。

だから、こういった特定事業の組合があれば、そこに供給することができる。

先ほど市長も言われたように、別に、農業、林業、水産業に関わる観光業も使える、ホテル業の方も使える。

だから、さっき説明されたのが、国境離島の関係の協議会の中でと。構成の中にも、多分そういう方々おられますけども、これは意味合いは、私、ちょっと違うと思います。

真に必要とする団体のトップまたは次のナンバー２ぐらいの人たちに、中身をもっと説明をしてやらないと理解は進まないと思います。

そして、今年、説明をして何とか立ち上げようという御発言をいただきましたが、実態をまず把握できていないと、この事業の運営は難しいです。

簡単に、国が運営補助金を出すからといって、簡単にできるものではありません。

事務をコーディネートする人が、絶対必要ですし、実態把握ができていないと、設立したは、動かないは、出資金はどうなったのということで、大変な結末も想定できます。

だから、私として希望したいのは、市のほうで、職員は少なくなっているかもしれませんけども、この特定事業協同組合に関して、一人ぐらい張りつけてもいいと思ってんですよ。市になるか、商工会になるか分かりませんよ。しかし、ほかの団体のことは言えませんから。

あえて市と言いますけども、五島市は商工会が先導になって、商工会議所ですか、先導になってやりましたけれども、対馬の場合は、そこ、なかなか難しいみたいですから、現実的には。

市の担当者をここに張りつけて、全て勉強させて、設立した後の運営までを勉強しないと、実際は、設立には至らないと思うんです。

そこら辺は、お考え、お聞かせ願えれば助かりますが。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　まだ、具体的なことは、そこまで考えてはおりませんけども、ただ、今後、特定地域づくり事業協同組合を設立するためには、議員も先ほどおっしゃられたように、なかなか、その団体の代表者だけでは分からないというようなことで、今後、個別的な説明会、そしてまた、個別的な団体の説明会が必要ではなかろうかということで、そこも視野に入れて、今年度は動いていこうということを、今、申し合わせておりますし、担当者の件については、また、

今後の検討課題ということでさせていただきたいと思います。

○議長（小川　廣康君）　３番、長郷泰二君。

○議員（３番　長郷　泰二君）　ぜひ、この組合の設立に向けて、春の異動時期でもございますので、内示があったどうか分かりませんが、人事異動の中で考慮していただければと思います。

終わります。

○議長（小川　廣康君）　これで、長郷泰二君の質問は終わりました。

○議長（小川　廣康君）　暫時休憩をします。再開を先ほど申しましたように、時間がちょっと短いですけど、１時５５分からといたします。

午後１時43分休憩

午後１時54分再開

○議長（小川　廣康君）　再開します。

引き続き市政一般質問を行います。１５番、大浦孝司君。

○議員（１５番　大浦　孝司君）　１５番、清風会の大浦でございます。本日最後でございます。そして、３月の定例会で一般質問も終わりでございます。そのような中で、私、今回の一般質問においては、少し何といいますか、行政の基本的な在り方に非常に、対馬市、また旧町、対応がまずいんじゃなかろうかと。かような課題を、私今回受けております。その１点は、美津島町加志の簡易水道、これの管理運営について取り上げております。

実はこの施設は、旧町時代、昭和５６年度に施設が完了し美津島町時代で２４年ほど管理されて、対馬市においては約１５年前後、これらの長き間にこういう問題が発生しております。

水源に関係があるんでしょうが、大雨時になると必ず水道水が濁る、これはこの程度が問題なんです。私、住民の方にそのことを尋ねましたら、例えば風呂場にその水道水を入れ込むと風呂の底に泥が沈殿するというありさまでございます。聞いたことありますか、こんな話。そして、飲み水がコップに入れたら褐色の色になると。この人口全部に同じようなことかどうか知りません。上のほうから下までの距離がありますから、その辺につきましては、いろいろ異なるとは思いますが、このような程度で、旧町からこの市の合併の間に、お願いをし再三申し上げたが、一つもこれが改善するような対応がなかった、このような訴えでございます。私は、戦後の話として、そういう水を飲むことについてはあったかもしれませんが、この現代に、この文明の発達した現代にこのようなことがあるのかと私は耳を疑いました。実際に、部落の方と会って話したらそういうふうなことが、行政不信の思いを持っておられました。

私は今回、来年の予算で対馬市がこの対応する予算をやっと組んだことについて、それは当た

り前と思いますが、なぜ対応が遅れたか、このことについて市長の率直な捉え方をじかに聞いてみたい、かように思っております。

もう１点、昨年発生した台風９号、これがよりによってその前の年度、当年度、年度からいえば令和２年の３月の２６日に完成した防風ネットが、その９月には漁協のほうから向かって左側７メートルのスパンで被害を被っております。結局、私もちょっと現場を見に行ったんですが、防波堤の上部工――パラペットという言葉でありますが、ここが浮いた状態です。浮いて、そのレベルの位置から５センチメートルほど浮き上がっておりました。現在も浮き上がったままです。

このような状況で、１２０メートルの延長に、これがただの災害復旧でなるのか、かように思っております。今後の方針について、市の考え方について、私は聞いてみたい、かように思っております。

○議長（小川　廣康君）　大浦議員に申し上げます。先ほど質問の中で、部落という不適切な言葉遣いをされましたので、今後注意をしていただきたいと思います。

○議員（１５番　大浦　孝司君）　了解しました。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　大浦議員の質問にお答えいたします。

初めに、加志地区簡易水道の管理運営についてでございますが、加志地区に給水する中西部地区簡易水道は、昭和４３年に供用開始がなされ、箕形地区を新たに給水するための増補改良を昭和５５年度に行っております。中西部地区簡易水道の浄水施設は１か所で、加志地区、箕形地区にそれぞれ配水池が設置され、河川沿いに取水用の水源ポンプ所がございます。この水源は、浅井戸として河川の伏流水を取水しているため、近年伐採等による河川流域の治水力が弱まり、強い雨が降り続いた際などに取水の濁りがひどくなっている状況ということを聞いております。

その際の対応としましては、取水を停止し、配水池にたまっている水量分で給水を行っておりますが、加志地区におきましては地区内で漏水箇所があるため、配水池の水位の低下が早く、断水を回避するために河川濁度が低下していない状況で取水を行った場合に、ろ過機能が十分作用しなかったことにより水道水の濁りが発生している状況でございます。

地区内の漏水については、以前からの漏水調査では場所の特定に至っておりませんでしたけども、この２月初旬にやっと漏水箇所が確認できましたので早急に修理を実施しております。また、箕形地区におきましては、地区内の漏水がほとんどないため、配水池の水位を一定時間保つことが可能であり、水道水の濁りの頻度は少ないものと考えております。

次に、なぜ早急な対応ができなかったかとの質問でございますが、中西部地区簡易水道は昭和５５年度に増補改良を実施してから令和２年度末で４０年を経過することとなります。整備のためには多額の経費を要することから、補助事業での施工を計画しており、採択要件の一つである

４０年以上を経過していることとの条件に適合しなかったことが大きな理由でありますけども、加えまして他の簡易水道施設においても老朽化等による様々な課題を抱えていたため、単独事業による施工もかなわず、対応が遅れることとなったことに対しまして、地区の皆様には大変深くおわびを申し上げたいと思います。

今後の対応といたしましては、新たな良質な水源を確保するための水源開発調査委託を令和３年２月１５日に契約、締結したところでありまして、今定例会で審議をお願いしております令和３年度水道事業会計当初予算において、水源開発のための経費を計上し、水道水の濁りの解消に努めてまいります。

次に、昨年９月に襲来した台風９号により被災した高浜漁港の防風柵についてでございますが、本施設は漁獲物の陸揚げ作業や準備作業時の効率性、安全性向上を図るために設置したものでございます。被災状況は、大型で非常に強い台風の襲来により、防波堤、堤体と防風柵の基礎部となる上部胸壁、俗にパラペットと呼ばれておりますけども、このコンクリートが９メートル区間にわたり剥離するような形で被災したものでございます。

また、台風９号襲来直後に１０号が接近していたため、隣接する家屋に防風柵が倒壊するおそれがあったことから、応急工事として被災部分の防風柵からパネルを取り外し倒壊防止を図ったところでございます。

復旧工事の内容でございますけども、防風柵の支柱を取り外した後に、剥離している上部胸壁コンクリートを取り壊し、その後、既存の防波堤、堤体にアンカー筋を設置し、上部胸壁コンクリート打設いたします。最後に取り外した防風柵の支柱及びパネルを再利用して復旧を行う計画であります。完成は、繰越し承認後の６月末頃の予定としております。

以上でございます。

○議長（小川　廣康君）　１５番、大浦孝司君。

○議員（１５番　大浦　孝司君）　簡易水道の件から再度お尋ねします。

先ほどの答弁では、施設の、いわゆる手を加える改良については、４０年の歳月の中で、要は手をつけられない、よって遅くなったという言い方がありましたね。私はそれでいいのかなと思っております。と申しますのが、その浄化槽、もしくは配水池で、今回この問題を市長は直接言葉で出されたわけですが、あなたの理事者になって、あるいは副市長時代、市長時代含めて、この問題に耳を、情報が入ったのは一番新しい中でいつ頃ですか。ちょっと聞かせてください。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　たしか、私、市長に就任する前に、副市長のちょっと事情あって退任してからこの加志のほうに訪れたときに、一部の人からこの加志の水道はちょっと雨が降ったら濁りが多くなるという話を聞きましたので、市長に就任した平成２８年３月末から就任しまして、

その後、水道局のほうに、加志地区のほうの水道が濁るということでその対応策を取るようにというようなことで指示をいたしました。その後また、平成２９年６月に加志地区の陳情、要望があって、その改善策を検討してきたというところでございます。

そういう中で、ずっと職員といたしましては、その間漏水調査をかなりあちらこちらでやって、そのたびにまた修理もしてきたんですけど、先ほど申しましたように、この２月に発見した漏水箇所といいますか、大きなところがなかったものというふうに私自身思っております。

○議長（小川　廣康君）　１５番、大浦孝司君。

○議員（１５番　大浦　孝司君）　私も区のほうに過去の要望、もしくは支所段階での改善要求を幾つか聞きました。その中で、最も加志の人の中で、市に対して、支所、それから水道局長、抗議をされた方がおります、どういうことかと。こういうふうなことが済ませるかというふうなことであったろうと思うんですが、それが平成２５年そこら前だと思います。この方はれっきとした国家公務員の方でありまして、今おりません、出て行かれましたけども、非常に憤慨したことで、こういうことが自治体の水の管理で許されるのかというふうなことの内容でありました。ですから、ちょうど市長が副市長時代でなかろうかと思うんです、２５年前後だとそういうことになるでしょうか、おおむね。ただ、その水道局長が上にその問題を上げなかったか知りませんけども、抗議するということは、その集落の区の対応に不満を持たれて独自でも動き、体張って訴えたいという意味でございました、内容は。それを、私は受けておらない、その市の、いわゆる部長クラスの、局長ですかね、そこらにもう少し、あなたに、もしくは市長に、当時、私は進言することを怠ったばいなと、かように思っていますが、市長はそのころに耳にしたことはございませんか。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　今、議員のおっしゃられるのは平成２５年以前ということであります。私が当時副市長に就任したのが、たしか平成２５年の８月からではなかったかなと、自分今はっきり覚えていませんけども、そういうことであったのじゃないかと記憶しております。しかしながら、加志地区の方からそのような抗議を受けたというようなことは私のところにまでは伝わってきておりません。

○議長（小川　廣康君）　１５番、大浦孝司君。

○議員（１５番　大浦　孝司君）　私は、市を背負う水道事業の要である水道局長、私は当然、上司にそういうことがありますということを報告するのは当たり前だと、私は議員として思いますが、なかったということは非常に残念です。そのことについて、過去の話ですからこれで止めますけども、今の件だけは、ほかにちょっと尋ねたいことがございます。

この問題をよく話を聞いてみると、水源の位置が河川の横にあります。私も見に行きました。

僅かな深さで、水深といいますか、地下に４メートルほどであとはそういうふとんかごの中で給水をやっているんでしょうが、それがあだになっておるということです、浅いがために。漏水問題もございますけども、まず水源を下げれば、私は早うから解決しとった問題であろうし、その施設を壊してするんじゃなくて、補助的にこの水源の工事をされたはずなんですよ。だから、４０年せんと会計検査の一つの国の補助金を頂いた中で扱うことができない、そのことじゃなくて、水源の深さを下げて、どんな雨が降ろうとも、上流水については濁っても、例えば仮に１０メートル前後になればほとんど濁りがないという状況が他の地区ではあっとるわけですから、ここのところがなぜ踏み込まんやったかというふうなことを個人的には思っております。

今、先ほど言いました漏水があるから濁った状況は、改善が問題があるという問題もありますが、水源さえきちんと対応すれば私は何のことないと思いますが、市長はこの問題のポイントをどう見ますか。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　確かに、この水源の関係がそのような形で早くできればもちろんよかったんですけども、要は、この水源、そして配水管等を含めて補助事業で再構築しましょうというようなことに計画ではなっていたということを聞いております。

そしてまた、この令和３年度に、このような形で水源のボーリング等を実施する予定としておりますので、今後はそこら辺が改善はされるのではないかと思いますけども、この水源の件に関しましては、私よりも担当水道局長のほうから詳しいことは説明をさせたいと思いますので、よろしくお願いします。

○議長（小川　廣康君）　水道局長、立花大功君。

○水道局長（立花　大功君）　失礼します。大浦議員の御質問に対して御説明申し上げます。

平成２９年度に地区要望がありまして、その際にこの水質改善を目的にいたしまして、２９年度に改善分で１０７万７，０００円で加志浄水場導水管の修理を２件、加志浄水場の施設修理を２件、加志水源施設の修理を１件、加志送水管の修理を２件行っております。翌３０年度に、改善費として８５万８，０００円、加志水源及び浄水場の引込盤の修理、加志地区の漏水管の修理を３件、令和元年度に改善分として８７万６，０００円で、加志送水管の修理と地区内の漏水管の修理を２件行っております。それと、箕形地区の送水管の修理を行っております。

令和２年度になりますが、本年度ですが、改善費として３５４万４，０００円でありまして、加志の送水管の修理、水源の修理、それと仕切弁の修理等を行っております。

それと本年度に対して、水源開発事業といたしまして、地下水の水源調査委託を現在実施しているところであります。これに基づきまして、（発言する者あり）（「そのことはもういいですよ。漏水関係の対応ばっかり言っていますが、私は……」と呼ぶ者あり）水源につきまして

は……

○議長（小川　廣康君）　水道局長座ってください。１５番、大浦孝司君。

○議員（１５番　大浦　孝司君）　漏水の問題は、水源の、いわゆる問題が解決すれば全く問題外でございます。

それで、市長もう一つ問題がございます。先ほど、少し悪く言った水道局のほうも、何とかしなならんという機運になって、ここ私もそれでいいと思うんですが、浅藻に、厳原町浅藻簡易水道、ここに水源のポンプから揚水されて、浄化槽ですか、ちょっとすみません、浄水場に砂のある、あるいは塩素処理をする浄水場、ここに上げてくるわけですが、加志の場合、非常に汚れ水が多くてその浄水機能が十分できなかった、弱かったという結果が出とるわけで、その対応に前処理機、要は浄水場に入れる前に濁りきった水を排除する機械があるそうで、その機械が浅藻地区の簡易水道の中で使わなくなったという中で、これを加志に移動しようというふうなことを計画したそうです。これは、関わった方の過去の、市役所におられた方の話でございますが、これをやる気でありながら、事業課として、しかし財政の対応の、できないということで断念をせざるを得なかったというふうなことを聞いて、そのときに私は、ねえ市長、よう聞いてください、そういう濁った水を、１年間のうち大雨が降ればしょっちゅうそういう目に遭っている方のことを思っておらんなと思いますよ、私は。ここが、この行政の一番ポイントだと思うんですよ。私は、これになぜ走らんかと、なぜそういう、失礼ですが、濁り水という言葉ですが、どうかすれば泥水に近い状態の言葉も聞きましたよ。ここは、一つの市の行政レベルの問題だと思うんですよ、捉え方は。私は、過去の話ずっと聞いとった中で、早ようからすればいいのにそれをせんとかそうじゃないという、４０年の問題も、ポンプを下に１０メートル打つだけで変わるんですよ。それをなぜせんやったかというのが私の思いです。そして、水道局長、１立米幾ら取っているんですかね、今、公共料金は。

○議長（小川　廣康君）　立米単価すぐ分かりませんか。

質問続けてください。

○議員（１５番　大浦　孝司君）　市長、公共料金とは通常の他の地区と同じような状況で納めるお金ですよ。無色透明の水が出なくて、私はそういうことではないと思う。ここが基本ですよ。ですから、過去のことは今から変えることはできませんので、例えば大雨が、年にそういうふうな調査すれば出ますが、私は濁った水の金まで普通料金で取ること自体の在り方というのは、私は大きく反省していただきたい、こういうふうなことがあったことの検討委員会でもつくりまして、来年ぴしゃっといくから皆ゼロじゃなくて、今後のためにも、私はしっかりこのレベルの維持を、一つでも落ちるようなことがあれば上げにゃいかんと思うんですよ、レベルを、無色透明の水を。だって、学校教育のこどもさんやら幼児にはどう説明しますか。私は、その辺を軽く見

ているんじゃないかなと思いますがいかがですか、市長。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　軽く見ているんじゃないかということでございますけども、決してそういうことではありません。実は、先ほど議員おっしゃられたように、水道の濁りを取り除くその前処理機を浅藻のほうから加志のほうに移設させるということで、財政のほうからその予算を切られたということでございますけども、ちょっと私のほうにはそのことまだ伝わってきておりませんで、これがいつのことかもちょっとまだ私もはっきりは聞いておりません。そういうことで、今後はこのようなことがないように対処してまいりたいと思っておりますし、この令和３年度の予算の中でこの水源地のほうをボーリングいたしますので、今後はこのような濁り水がまず発生することはないだろうというふうに思っております。あわせまして、今後、そのことにつきましても十分気をつけてまいりたいというふうに思っております。

○議長（小川　廣康君）　１５番、大浦孝司君。

○議員（１５番　大浦　孝司君）　水道問題はもう１点で最後にいたします。

集落の皆さんの、雨が降るたびに、心が、やはり水道施設の対応をされる職員さんにそういう目が向いたと思います。そして、配水池の漏水を何とか、要は食い止めて、新しい水を配水池に入れてでもというふうなことを私は耳にしておりました。そういうことは苦肉の策でありまして、操法を精査するために夜中まで働いて、そして過労のためダウンされたことも聞いております、その担当者の方が。そのことについては敬意を表しまして、私は今回のことは大いに反省でありまして、旧町時代、私は旧町美津島町の時点で、何らかの処理をするべきと思っていました。そのことを聞いたら、口頭では何とかしますということを上部の方は申し上げたらしいですが、全くやっておらないというのは大いに反省でありますよ。そういうふうな４０年に近い間そういう目に遭った皆様の思いを、ひとつ、身に持って受けてほしいと思います。

それと、その汚れた水を使った水道料金なんて、私は、今まで正規のお金を払った方々に、私は１年間の大雨のチェックをした中で、少し考え直していいんじゃないかと、払った料金の、その辺について、私はそういうふうな検討委員会でもつくられてやっていただきたい、かように思います。

水道の問題についてはこれで変わりますが、先ほどの高浜地区防波堤のことを、ちょっと市長の答弁と私の質問がダブることがあるかもしれませんが、ちょっと確認をいたします。

正式には、高浜漁港水産生産基盤整備工事（２工区）延長１２０メートル、総工費が約１億４，１２８万2，０００円と聞いております。フェンスの高さが１１メートルから１２メートル、これ恐らく対馬では最も高いほうの工事だと思います。それと、防波堤の、要は下部、元の防波堤の工事は昭和３５年から４０年、５５年前に施工されております。その防波堤の向かって左側

のほうに、沖側のほうにパラペット工事としてかさ上げですが、昭和５８年度にこの工事をしたというふうに聞いております。

それから台風９号によって、９月２日の、これで倒れたということを申し上げましたが、市長、この設計書は何メートルの風速に耐えれるか、これをちょっと報告願います。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　設計の諸元ということでございますけども、設計風速につきましては、これ漁港ごとに定められておりますけども、高浜漁港の場合、３０年確率の風で西南西の風毎秒３９メートルということになっております。そして、この防風柵の部材に関しましては、この設計風速の安全率を見込んで１．５倍で、約５８メートルに耐えるというような諸元となっております。

○議長（小川　廣康君）　１５番、大浦孝司君。

○議員（１５番　大浦　孝司君）　被害を受けた９月２日、台風９号、対馬空港観測地最大瞬間風速４２．７メートル、南東の風夜の１１時２５分、それと最大風速は３０．１メートル、同じく南東の風１１時３３分、この状態で被災をしたわけです。被災というのは、私呼ばれて、何人の方が集まっとったんですよ。それ記憶があるんですが、鮮明に。ここの中で私が見た光景は、沖に向かって左側端のワンスパン７メートル、要は上部工が浮き上がっとたんですよ。行ったら分かります。裏のコンクリートのちょうど各コートの隙間が５センチメートルほど空いてました。中はコンクリートが破砕した状態で、ほぞか知りませんけども、上に上がって下りたちゅう感じですよ。ですからほぞというのは横には動かんけども上には弱いと思いますが、例えばその際に金属か鉄骨か入るようなことがあれば私は問題ないと思いますが、それは今回の状態を見れば、確認せねば分からんという見解でいいでしょうか。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　漁港とか港湾の防波堤の場合、議員おっしゃられるように、特にこの上部工の打ち継ぎはほぞをつくって、その上に打ったり、または継ぎ筋で鉄筋を差してする場合とございます。そういう中で、今回の災害においては、この上部のパラペットの施工、打ち継ぎは、この災害、今度の災害で、復旧のほうにおいては差し筋で一つの躯体となるように、Ｄ１６の鉄筋を千鳥状に配置しながらパラペットコンクリートを打つというようなことを聞いているところでございますし、そのほかの被災を受けていないところにつきましても、今後その状況等で、また確認しながら対応策を検討してまいりたいというようなことを担当部のほうより聞いております。

○議長（小川　廣康君）　１５番、大浦孝司君。

○議員（１５番　大浦　孝司君）　今の発言の中で、令和元年度の１０月から着工ということは、

予算からいったら前年度に設計が組まれたと思います。設計会社の名前とそれとこの上部工、パラペットと下部工の、要は継ぎ手にどのような構造であったかというふうなことは設計会社から説明があったかどうか、これをちょっと確認しますが。もし市長が存じてなければ担当部のほうからでも結構です。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　ちょっと私のほうでは分かりかねますので、担当部長のほうに答えてもらいます。

○議長（小川　廣康君）　農林水産部長、佐々木雅仁君。

○農林水産部長（佐々木雅仁君）　大浦議員の質問にお答えをいたします。

今回の防風柵の設計に当たりましては、設計会社のほうが現地を確認をしまして調査もいたしておりますが、その状況でコンクリートにも問題はないということと、あと打ち継ぎの分の差し筋、あるいはほぞについては、昔の図面、施工の写真とかその辺が残っておりませんでしたので、その辺は当然、施工時に差し筋あるいはほぞが施工してあるものということで、上部工とパラペットは一体となっているということで計算はしているというふうに聞いております。

○議長（小川　廣康君）　１５番、大浦孝司君。

○議員（１５番　大浦　孝司君）　私は今の話は危ない話と思いますよ。なっているものというふうなことは、観測の３０メートルですよ、最大風速は、瞬間は４２やけども。それで浮いたんですよ、ですからそういうふうなことを見込んでした図面の控えがないからというふうなことじゃなくて、私は今回被災したスパン７メートルの判断を、破砕されて中身をチェックする、もしもそうでなかったら私は大ごとになると思うんですよ。その辺のことは私もこの場で止めますが、それ以上は。ただそこらが大きな重大な問題になってくると思います。どうでしょうか、市長。その辺のことが、私は今後心配することではなかろうかとかように思って、これ以上のことは言いませんが、設計会社も具体的な確認をするようなデータの持ち合わせがなかったということでありますから、この中でのことが被害を被ったわけですから、これは今後の対応を十分にチェックする必要があろうかと思います。その辺の答えだけでいいです、はい。もう先は私も言うべきじゃないと思いますから、はい。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　先ほど部長も答弁いたしましたように、この防波堤を築造したときの図面等が残っていないということで、今回被災した箇所の復旧を行うときに、上部コンクリート、要するにパラペットを取り壊しますので、その際に、果たしてその継ぎ鉄筋が施工されているのかほぞでいっているのかを確認した後、これが両方施工されていないとなれば、今回被災をしていない区間についても、その防風柵の補強についてはちょっと検討をしなければならないのかな

というふうに考えております。

以上です。

○議長（小川　廣康君）　１５番、大浦孝司君。

○議員（１５番　大浦　孝司君）　今の答弁で十分私は納得いたしますが、ひとつ慎重に取り扱っていただきたい。倒れることがないようにしないと、１回そういうことがあっていますから、これを無視はできない、いろいろ言っても、そのことだけは思われてことに対応すれば、私は今の答弁であれば、先々もやるというふうなことであれば十分であります。

以上で質問を終わります。

○議長（小川　廣康君）　これで大浦孝司君の質問は終わりましたが、管理職の皆様にお願いいたします。一般質問は限られた時間内の質問でございます。議会に臨まれる場合は万端の準備をされて臨んでいただきますように議長から強くお願いをしておきます。指摘をしておきます。

午後２時４６分からですが、あと３分、４分ありますが、一応これで暫時休憩をして４６分には席のほうにお戻りいただきたいと思います。休憩します。

午後２時41分休憩

午後２時45分再開

○議長（小川　廣康君）　座ってください。

震災で亡くなられました方々の御冥福を心よりお祈り申し上げますとともに、被災された全ての方々に心よりお見舞いを申し上げます。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

○議長（小川　廣康君）　本日はこれで散会とします。お疲れさまでした。

午後２時47分散会

令和３年　第１回　対　馬　市　議　会　定　例　会　会　議　録（第20日）

令和３年３月16日（火曜日）

議事日程（第５号）

令和３年３月16日　午前10時00分開議

日程第１　議案第６号　令和３年度対馬市一般会計予算
日程第２　議案第３号　令和２年度対馬市一般会計補正予算（第１５号）
日程第３　議案第７号　令和３年度対馬市診療所特別会計予算
日程第４　議案第８号　令和３年度対馬市国民健康保険特別会計予算
日程第５　議案第９号　令和３年度対馬市後期高齢者医療特別会計予算
日程第６　議案第10号　令和３年度対馬市介護保険特別会計予算
日程第７　議案第11号　令和３年度対馬市旅客定期航路事業特別会計予算
日程第８　議案第12号　令和３年度対馬市集落排水処理施設特別会計予算
日程第９　議案第13号　令和３年度対馬市水道事業会計予算
日程第10　議案第25号　第２次対馬市総合計画（後期計画）について
日程第11　議案第30号　損害賠償の額の決定について
日程第12　議案第31号　権利の放棄について
日程第13　議案第32号　令和３年度対馬市一般会計補正予算（第１号）
日程第14　発委第１号　対馬市議会会議規則の一部を改正する規則

本日の会議に付した事件

日程第１　議案第６号　令和３年度対馬市一般会計予算
日程第２　議案第３号　令和２年度対馬市一般会計補正予算（第１５号）
日程第３　議案第７号　令和３年度対馬市診療所特別会計予算
日程第４　議案第８号　令和３年度対馬市国民健康保険特別会計予算
日程第５　議案第９号　令和３年度対馬市後期高齢者医療特別会計予算
日程第６　議案第10号　令和３年度対馬市介護保険特別会計予算
日程第７　議案第11号　令和３年度対馬市旅客定期航路事業特別会計予算
日程第８　議案第12号　令和３年度対馬市集落排水処理施設特別会計予算
日程第９　議案第13号　令和３年度対馬市水道事業会計予算
日程第10　議案第25号　第２次対馬市総合計画（後期計画）について

日程第11　議案第30号　損害賠償の額の決定について

日程第12　議案第31号　権利の放棄について

日程第13　議案第32号　令和３年度対馬市一般会計補正予算（第１号）

日程第14　発委第１号　対馬市議会会議規則の一部を改正する規則

出席議員（19名）

１番　坂本　充弘君	２番　伊原　　徹君
３番　長郷　泰二君	４番　春田　新一君
５番　小島　徳重君	６番　吉見　優子君
７番　渕上　　清君	８番　黒田　昭雄君
９番　小田　昭人君	10番　山本　輝昭君
11番　波田　政和君	12番　小宮　教義君
13番　齋藤　久光君	14番　初村　久藏君
15番　大浦　孝司君	16番　大部　初幸君
17番　作元　義文君	18番　上野洋次郎君
19番　小川　廣康君	

欠席議員（なし）

欠　　員（なし）

事務局出席職員職氏名

局長	阿比留伊勢男君	次長	國分　幸和君
課長補佐	梅野　浩二君	課長補佐	柚谷　智之君

説明のため出席した者の職氏名

市長	比田勝尚喜君
副市長	俵　　輝孝君
教育長	永留　和博君
総務部長	有江　正光君
総務課長（選挙管理委員会事務局書記長）	桐谷　和孝君
しまづくり推進部長	武末　祥人君

観光交流商工部長 …… 二宮　照幸君
市民生活部長 …… 乙成　一也君
福祉保険部長 …… 古里　正人君
健康づくり推進部長 …… 松井　惠夫君
農林水産部長 …… 佐々木雅仁君
建設部長 …… 伊賀　敏治君
水道局長 …… 立花　大功君
教育部長 …… 阿比留裕史君
中対馬振興部長 …… 波田　安徳君
上対馬振興部長 …… 森山　忠昭君
美津島行政サービスセンター所長 …… 瀧川　昌浩君
峰行政サービスセンター所長 …… 扇　　明宏君
上県行政サービスセンター所長 …… 原田　勝彦君
消防長 …… 主藤　庄司君
会計管理者 …… 阿比留　裕君
監査委員事務局長 …… 御手洗逸男君
農業委員会事務局長 …… 庄司　智文君

午前10時00分開議

○議長（小川　廣康君）　おはようございます。

これから、議事日程第５号により、本日の会議を開きます。

日程第１．議案第６号

○議長（小川　廣康君）　日程第１、議案第６号、令和３年度対馬市一般会計予算を議題とします。

本件は、予算審査特別委員会に付託をしておりましたので、委員会の審査報告を求めます。

委員長、大部初幸君。

○議員（１６番　大部　初幸君）　おはようございます。

令和３年第１回対馬市議会定例会において、会議規則第３７条第１項の規定により本委員会に付託されました議案第６号、令和３年度対馬市一般会計予算について、審査の経過と結果を、同規則第１１０条の規定により、次のとおり報告いたします。

本委員会は、令和３年３月１日から４日までの４日間、対馬市議会議場において、担当部長等関係職員の出席を求め、細部にわたり説明を受け審査を行いました。

また、４日の最終日には市長の出席を求め、総括質疑を行いました。

以下、審査の概要について報告いたします。

令和３年度の一般会計歳入歳出予算の総額は、令和２年度予算と比較いたしまして０．８％増の３０７億８，８００万円となっています。なお、令和２年度予算は、当初予算が骨格予算として編成されていますので、６月の肉づけ予算後の予算のうち、新型コロナウイルス感染症対策事業費として計上した部分を控除した額を令和３年度当初予算との比較対象としています。

歳入予算につきましては、市税は、新型コロナウイルス感染症の影響等により、対前年度比マイナス５．４％で計上されています。

地方交付税は、令和３年度分の配分・算定方法が未確定であることを考慮して、対前年度比プラス０．７％で計上されています。

そのほかの主な歳入として、財政調整基金、減債基金、合併振興基金などから約２２億６，０００万円を繰り入れるほか、財源補塡がある辺地対策事業債、過疎対策事業債、臨時財政対策債など約３３億１，０００万円の市債が計上されております。

歳出予算につきましては、人件費は対前年度比マイナス０．３％、約１，３００万円減の約４７億８，０００万円が計上されています。

物件費は、新型コロナウイルスワクチン接種に係る経費のほか、令和３年度執行予定の市議会議員選挙、県知事選挙、衆議院議員総選挙に係る経費、観光客誘客のための事業や小学校におけるタブレット端末導入拡大による通信運搬費の増等により、対前年度比プラス８．８％、約４億６，４００万円増の５７億６，０００万円が計上されています。

維持補修費では、市民の要望に対し機動的に対応できるよう、市道、農林道、河川などの補修工事費等、約２億２，０００万円が計上されています。

公債費では、元利償還金合計で約４７億１，０００万円が計上されています。

普通建設事業費では、市道及び漁港・漁場整備など約４６億８，０００万円が計上されています。

また、近年多発する大規模な自然災害の復旧などに即時対応できるよう、予備費として６，０００万円が計上をされております。

以上、本委員会に付託されました議案第６号、令和３年度対馬市一般会計予算については、審査の結果、賛成多数により原案のとおり可決すべきものと決定をいたしました。

最後に、予算審査においての指摘事項や意見等については、各部署で十分検討され、市民の所得向上と福祉の充実のため、速やかに予算執行に当たられますよう強く要望をいたします。

以上で、予算審査特別委員会の審査報告といたします。

○議長（小川　廣康君）　報告が終わりました。

これから、委員長報告に対する質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　討論なしと認め、採決します。

この採決は起立によって行います。本件に対する委員長の審査報告は可決であります。

議案第６号は委員長報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（小川　廣康君）　ありがとうございます。起立多数です。本件は委員長報告のとおり可決されました。

お諮りします。予算審査特別委員会は、本日をもって終結したいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　異議なしと認めます。予算審査特別委員会は本日をもって終結することに決定をいたしました。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第２．議案第３号

日程第３．議案第７号

日程第４．議案第８号

日程第５．議案第９号

日程第６．議案第１０号

日程第７．議案第１１号

日程第８．議案第１２号

日程第９．議案第１３号

日程第１０．議案第２５号

日程第１１．議案第３０号

日程第１２．議案第３１号

○議長（小川　廣康君）　日程第２、議案第３号、令和２年度対馬市一般会計補正予算（第１５号）から日程第１２、議案第３１号、権利の放棄についてまでの１１件を一括議題とします。

議案第３号は各常任委員会に分割付託、議案第１１号並びに議案第２５号及び議案第３０号の３件は総務文教常任委員会に、議案第７号から議案第１０号までの４件は厚生常任委員会に、議

案第１２号、議案第１３号及び議案第３１号の３件は産業建設常任委員会にそれぞれ付託しておりましたので、各常任委員会の審査報告を求めます。

総務文教常任委員長、坂本充弘君。

○議員（１番　坂本　充弘君）　おはようございます。それでは、総務文教常任委員会の審査報告を行います。

令和３年第１回対馬市議会定例会において、会議規則第３７条第１項の規定により本委員会に付託されました案件は、議案第３号、議案第１１号、議案第２５号及び議案第３０号の４件であります。その審査の経過と結果を、同規則第１１０条の規定により、次のとおり報告いたします。

本委員会は、３月５日、対馬市役所豊玉庁舎３階大会議室において、担当部長及び担当課長等の出席を求め、慎重に審査いたしました。

議案第３号、令和２年度対馬市一般会計補正予算（第１５号）のうち、本委員会に係る歳入は、１１款地方交付税で、普通交付税の追加、１９款繰入金で、財政調整基金繰入金及びがんばれ国境の島対馬ふるさと応援基金繰入金の減、２１款諸収入で、退職手当旧負担金制度差額調整金の追加、２２款市債で、消防防災等施設整備事業債の減、小中学校トイレ洋式化工事及び遊具改修工事のための教育施設改修事業債の追加、減収補塡債の増が主な補正であります。

歳出は、２款総務費で、創業等支援事業補助金の減、離島航路・航空路緊急支援負担金の計上、９款消防費で消防団拠点施設建設工事費の減、１０款教育費で、教育施設整備基金積立金及び小中学校トイレ洋式化工事のための工事請負費の追加、１２款公債費で、償還金利子の減が主な補正であります。

次に、議案第１１号、令和３年度対馬市旅客定期航路事業特別会計予算について、歳入歳出予算の総額は４，０９７万９，０００円で、歳入は、１款事業収入で、旅客運賃と貨物運賃、２款国庫支出金及び３款県支出金の航路事業補助金で、赤字航路事業に対する国及び県の補助金、４款繰入金で、赤字補塡分の一般会計からの繰入金が主なものであります。

歳出は、１款総務費で、職員、船員等の人件費、旅費及び日本旅客船協会等への負担金、２款施設費で、渡海船運航に必要な燃料費、修繕料及び渡海船利用者陸上交通運行委託料、３款公債費で、船舶建造と待合所建築の償還金元金及び償還金利子が主なものであります。

次に、議案第２５号、第２次対馬市総合計画（後期計画）について報告します。

本計画は、第２次対馬市総合計画が策定されてから計画期間の半分が経過しますので、令和３年度から７年度の後期５年間に向けて必要な見直しを行うものです。この後期計画は、前期５年間の進捗等について市役所担当課による内部評価と総合計画等審議会における評価を行うとともに、市民や民間団体等へのヒアリングを実施し、社会の動向等を踏まえた上で見直しが進められています。当初の計画では、同じ施策や取組が複数のページに重複して掲載されているもの

があり、施策の区分も３６と多かったことから、後期計画では２４の区分に再整理するとともに、分野横断的に取り組むテーマが新たに設けられております。

また、ＳＤＧｓやＳｏｃｉｅｔｙ５．０、働き方改革等の新たな考えも計画に反映されています。

次に、議案第３０号、損害賠償の額の決定について報告します。

本件は、令和２年９月７日の早朝に接近した台風１０号の強風により、小鹿漁村センターの屋根全体が隣接する住宅に飛散し、甚大な損害を与えたため、その損害を賠償するものです。

飛散した屋根は、昭和５６年に竣工した鉄筋コンクリート造り、陸屋根２階建ての施設に、平成１６年頃、雨漏り対策として、その屋上に木造スレートぶきの屋根を増設したものです。屋根ぶき材が軽量であるにもかかわらず、屋根の軒先部分はくぎだけで接合されていたため、台風１０号の強風による風圧力に対する十分な耐力を有していなかったと考えられること、また、台風１０号による小鹿地区の被害状況は、瓦の一部が飛散した建物は数件見受けられましたが、屋根全体が飛散したのは小鹿漁村センターのみであることから、小鹿漁村センターの屋根の設置、管理について瑕疵があり、当該建物が通常有すべき安全性が欠けていたため、強風に耐えられる強度がなかったと市が判断しています。

したがって、国家賠償法第２条第１項の規定に基づき、損害賠償義務を負うというものです。

相手方の保険金については、市に瑕疵があり、市が査定した賠償額全額を相手方に支払った場合、相手方の保険会社は損害額を支払わないことが確認されています。

当委員会において、瑕疵の判断、賠償額の算定、保険金について審査した結果、市が瑕疵を認めていることから、本件については妥当であり、一日も早い市の対応が必要であるとの結論に達しました。

以上、本委員会に付託されました議案第３号、議案第１１号、議案第２５号及び議案第３０号の４件につきましては、慎重に審査し、採決した結果、いずれも賛成多数により原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

以上で、総務文教常任委員会の審査報告といたします。

○議長（小川　廣康君）　厚生常任委員長、伊原徹君。

○議員（２番　伊原　　徹君）　それでは、厚生常任委員会の審査報告を行います。

令和３年第１回対馬市議会定例会において、会議規則第３７条第１項の規定により本委員会に付託されました案件は、議案第３号及び議案第７号から議案第１０号までの５件であります。その審査の経過と結果を、同規則第１１０条の規定により、次のとおり報告いたします。

本委員会は、３月８日、対馬市役所豊玉庁舎３階大会議室において、担当部長及び担当課長等の出席を求め、慎重に審査いたしました。

議案第３号、令和２年度対馬市一般会計補正予算（第１５号）のうち、本委員会に係る歳入は、１５款国庫支出金で、障害者支援に係る障害児通所給付費負担金及び保育園等の運営費に係る施設型給付費負担金の追加、１６款県支出金で、新生児に対し１人１０万円の給付を行う妊婦応援新生児特別定額給付金事業補助金の計上、２１款諸収入で、病院企業団への負担金過払いに伴う長崎県病院企業団返還金の計上が主なものであります。

歳出は、２款総務費で、個人番号カード事務負担金の減額、３款民生費で、令和２年度の支出見込額を踏まえ、障害福祉サービス等に係る自立支援給付費、障害者医療費、障害児通所給付費の追加、子ども夢づくり基金積立金の追加、児童手当及び児童扶養手当の支給見込額による減、４款衛生費で、補助金額の決定に伴う海岸漂着物等地域対策推進業務委託料の減、北部中継所及び中部中継所から対馬クリーンセンターへのごみ積替輸送委託料の追加が今回の補正の主な内容であります。

なお、海岸漂着物対策につきましては、その多くが外国からの漂着ごみであり、景観汚染及び回収負担が大きな課題であることから、今後は韓国や中国など諸外国と連携を図り、プラスチックごみの再資源化など海洋環境問題として対策を講じていく必要があるとの意見がありました。

議案第７号、令和３年度対馬市診療所特別会計予算について、歳入歳出予算の総額は、それぞれ４億５，７３１万９，０００円であります。

歳出の１款総務費では、職員及び会計年度任用職員、医師の人件費、対馬病院及び上対馬病院から出張診療所への医師派遣等委託料並びに公設民営診療所への運営費等補助金の計上が主なものであり、２款医業費では、医業用器具使用料、衛生用消耗品等医業用消耗器材費及び医療品等医業用衛生材料費が計上されております。

議案第８号、令和３年度対馬市国民健康保険特別会計予算について、歳入歳出予算の総額は、それぞれ４５億１，９００万円であります。

歳出の１款総務費、医療費適正化特別対策事業は、レセプト点検事務に従事する会計年度任用職員の人件費や医療費通知に係る経費が計上されており、２款保険給付費、出産育児一時金は５０人を見込み計上されております。５款保健事業費は、主なものとして、特定健康診査委託料、特定保健指導に要する経費、人間ドック補助金が計上されております。

議案第９号、令和３年度対馬市後期高齢者医療特別会計予算について、歳入歳出予算の総額は、それぞれ３億９，８１３万４，０００円であります。

歳出の１款総務費では、広域連合事務費負担金や被保険者証郵送料等の通信運搬費の計上が主なものであり、２款後期高齢者医療広域連合納付金では、低所得者の保険料軽減分を公費において補填する保険基盤安定負担金及び保険料納付金が計上されております。

議案第１０号、令和３年度対馬市介護保険特別会計予算について、歳入歳出予算の総額は、そ

れぞれ４０億３，２８６万６，０００円であります。

歳出の１款総務費では、認定調査費に従事する会計年度任用職員の人件費、保険料納付書郵送料等に係る通信運搬費、認定調査員用の庁用車購入費の計上、２款保険給付費では、通所介護、施設入所利用等の増を見込んで、居宅介護サービス給付費負担金が計上されております。８款地域支援事業費では、要支援者の訪問型サービスと通所型サービス等の保険給付費に係る介護予防・生活支援サービス事業負担金の計上、地域が主体となって行う助け合い活動や、支え合いの仕組みづくりの支援に伴う生活支援コーディネーターの配置等に係る委託料の計上が主なものであります。

以上、本委員会に付託されました議案第３号及び議案第７号から議案第１０号までの５件につきましては、慎重に審査し、採決した結果、いずれも賛成多数により原案のとおり可決すべきものと決定をいたしました。

以上で、厚生常任委員会の診査報告といたします。

○議長（小川　廣康君）　産業建設常任委員長、長郷泰二君。

○議員（３番　長郷　泰二君）　報告いたします。

令和３年第１回対馬市議会定例会において、会議規則第３７条第１項の規定により本委員会に付託されました案件は、議案第３号、議案第１２号、議案第１３号及び議案第３１号の４件であります。その審査の経過と結果を、同規則第１１０条の規定により、次のとおり報告いたします。

本委員会は、３月９日、対馬市役所豊玉庁舎３階大会議室において、担当部長及び担当課長等の出席を求め、慎重に審査いたしました。

議案第３号、令和２年度対馬市一般会計補正予算（第１５号）のうち、本委員会に係る歳入は、１３款分担金及び負担金で、国の追加補正による漁港整備事業負担金の追加、１４款使用料及び手数料で、国際航路運休に伴うターミナル使用料の皆減、１５款国庫支出金で、道路災害復旧事業負担金の減額、漁港整備事業補助金及び社会資本整備総合交付金の追加、１６款県支出金で、漁港整備事業補助金の追加、新規就農総合支援事業補助金、離島漁業再生支援交付金及び農地農用施設災害復旧事業補助金の減額、２２款市債で、水産業債、道路橋りょう債の追加、港湾債、都市計画債及び農林水産施設災害復旧債の減額が主なものであります。

歳出は、第６款農林水産業費で、農業次世代人材投資資金、森林環境譲与税活用事業補助金及び活魚・鮮魚等輸送コスト助成事業補助金の減額、国の追加補正による漁港整備事業費の追加、７款商工費で、観光業新型コロナ対策協力金、島民クーポン券事業委託料、対馬市中小企業制度融資資金貸付金及び観光施設整備工事費の減額、８款土木費で、国の第３次補正に伴う道路改良工事、トンネルの長寿命化工事及び橋りょう整備工事の追加、国内及び国際ターミナル建設事業の精算による減額、１１款災害復旧費で、事業費精算や災害査定結果に伴う工事請負費の減額が

主な補正であります。

議案第１２号、令和３年度対馬市集落排水処理施設特別会計予算については、歳入は、下水道使用料、一般会計繰入金が主なものであります。

歳出は、１款下水道事業費で、下水道料金徴収業務委託料及び集落排水処理施設の維持管理に要する経費、２款公債費で、下水道事業債償還金の元金及び利子が主なものであります。

議案第１３号、令和３年度対馬市水道事業会計予算については、収益的収入は、給水収益、他会計負担金、長期前受金戻入、資本費繰入収益が主なものであります。

収益的支出は、職員の人件費、検針業務や料金徴収業務の委託料、水質検査手数料、修繕費、電気料金等の水道施設維持管理費、水道料金納付書等の印刷費、また水道法の改正による水道施設台帳の作成が義務化されましたので、その業務委託料等が主なものであります。

資本的収入は、企業債、簡易水道国庫補助金、他会計負担金が主なものであります。

資本的支出は、各種ポンプ等の機械及び装置費、水道施設整備費、簡易水道整備工事費（中央地区及び三根地区簡易水道基幹改良事業）に要する経費、企業債償還金の元金償還金が主なものであります。

なお、令和３年度末の未償還残高は３３億５８２万1，０００円となる見込みであります。

議案第３１号、権利の放棄については、旧峰町農林漁業振興資金貸付金債権であります。

債務者は遅れながらも返済をされていましたが、平成１２年に死去され、その後は相続人、連帯保証人に対し償還されるよう促してきましたが、未償還のまま現在に至っています。関係者の収入を含め生活状況を調査した結果、日々の生活に困窮され、支払い能力がないものと判断したとの説明を受けました。

本委員会としましては、改正前民法第１６７条第１項の適用は妥当なものであると判断いたしました。

以上、本委員会に付託されました議案第３号、議案第１２号、議案第１３号及び議案第３１号の４件につきましては、慎重に審査し、採決した結果、いずれも賛成多数により原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

以上で、産業建設常任委員会の審査報告を終わります。

○議長（小川　廣康君）　各常任委員会の審査報告が終わりました。

これから委員長報告に対する質疑を行います。

まず、総務文教常任委員長報告に対する質疑はありませんか。１１番、波田政和君。

○議員（１１番　波田　政和君）　おはようございます。総務委員長にお尋ねします。

報告がありましたとおり、付託案件３０号について、よろしいですか、この議案は、さきの議会で上程がなされ取り下げられた経緯があることから、委員会で慎重に審議はなされたとは思っ

ておりますが、再上程での部局の説明では、建築士の意見書を基に、市が瑕疵があると判断したとの説明がありました。幸いにも我が議会のメンバーの中にも同じ資格と経験がある者の説明では判断基準が曖昧であることから、専門家に依頼して正しい判断をなすべきとの説明が何回もあっておりましたが、認識しておられますかね。そのようなことからも、本委員会に付託されたとはいえ、我々素人が軽々に判断すべきものではないと私は思います。そのような重大案件と私は思っておりますが、専門家を交えて知見を参考にしながら判断がなされ、委員会での採決がされたのかをお伺いします。

また、併せて委員長の見識についてお伺いしますが、仮に専門家を交えた検討がなされていなかったとするならば、なぜされなかったのか。私は、公平公正が求められる議会として慎重かつ公平な判断が必要と感じますが、もし専門家を交えた検討がなされていなかったら、なぜか、理由をお伺いしたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（小川　廣康君）　総務文教常任委員長、坂本充弘君。

○議員（１番　坂本　充弘君）　当委員会としては、議員全員協議会及びその後の小宮議員の市政一般質問、この中においても理事者側からの説明があったとおり、内容については当委員会にあった説明と同じであります。

この委員会で審査いたしました内容について、理事者側の意見としましては、顧問弁護士の意見を聞いて、そして専門家の意見も聞かれております。小宮議員のほうも、一級建築士というすばらしいものを持っておられますけれども、顧問弁護士の言われたとおりに、こちらも一級建築士の意見を求めて判断をされております。そういうことで、この委員会に付託されました案件としては、その内容のとおり説明を聞きまして、その審査をしたわけでございます。

以上でございます。

○議長（小川　廣康君）　１１番、波田政和君。

○議員（１１番　波田　政和君）　ありがとうございます。

先ほど、見識の話をしましたが、市が判断したからそのまま認めるということは、委員会としては機能を果たしていないじゃないですか。我々はチェック機能におるんですよ。だから、そういうふうな形で違う意見があったとするならば、そういう処置をしていただきたかったなと私は思っているだけでございます。

委員長報告として、文書にもありますが、市が査定した金額を支払ったら、個人が入っている保険会社、支払わないと、明確に書いてありますよね。逆を返せば、市が払わなかったら個人の保険会社が払うちゅうこと書いてある。そうでしょ、この報告書を見ますとそのとおりですね。

決して委員長にとやかく言うことはないんですけども、流れとしたら、自分の財産、生命は自分が守らないかんわけですから、そういったことを軸にして、まずは個人と保険会社と話をして

いただいてから、そして、その後の対応が、なぜなされなかったのかをしっかり判断していただきたかったということをお願いしたいんですよ。私は、委員長に対してはそうなんですが、そういうことで議長に一言お話ししていいですか。

○議長（小川　廣康君）　はい。

○議員（１１番　波田　政和君）　今、委員長も、議長が指名して委員会としてやったわけですよね。あなたの命令下でやったわけですよ、審査を。そういうことを考えたとき、主催者として、果たしてこういう判断がですね、通常の委員会ならそうやったかもしれません。ただ、上程がなされ取り下げして、また上がってきて、何となく複雑化しとるじゃないですか。そういう中で、やっぱり主催者として口述どおりじゃなくて、ある程度のものをしっかり指導していただきたかったなと私は思っております。

だから、委員会が云々じゃなくて、我々議会としたら、市が瑕疵があると判断したということで、我々は行政が言うとおりの話を丸のみする必要は何も要りませんので、先ほどからも言うように疑義があるから議会ってあるわけですからね。そのへんをもう一回、しっかりお互いが認識し合ってやっていけたらなと思っておりますので、またそういった指導をお願いしまして、私は今、議長に対しても委員長に対しても、在り方について、少しこれからの課題にしたいなと思っておりますので発言させてもらいましたので、よろしくお願いします。

以上です。

○議長（小川　廣康君）　ほかに、委員長報告に対する質疑は。１２番、小宮教義君。

○議員（１２番　小宮　教義君）　委員長にお尋ねをいたします。

先ほどの説明では、顧問弁護士さんの意見に沿った考えで行ったというお話でございますよね。それで、顧問弁護士さんの意見というのは、私ども全協で資料いただいていますけれども、この中には、このように書いてございます。顧問弁護士の見解ということで、平成１６年度頃に施工された屋根の設置工事、管理等に瑕疵があったかどうかを専門家に依頼して明らかにしてくださいよという、これが顧問弁護士の意見でございます。よろしいですか、瑕疵があったかどうかを専門家に依頼をして判断をしてくださいということなんですよ。私、この瑕疵については判例も含めてお話をしたと思いますが、瑕疵というのは屋根が飛散したそのものではなくて、判例にもあるように通常有する安全性を欠いたときなんですよ。それが本来の瑕疵であり、判例に基づいて現在までその流れになっております。

では、お尋ねいたしますけれども、先ほど申しました、この弁護士に沿った瑕疵についての整理といいますか、お話はございませんでしたでしょうか。

○議長（小川　廣康君）　総務文教常任委員長、坂本充弘君。

○議員（１番　坂本　充弘君）　これは、先ほども申しましたように、当委員会に付託されてきた

審議内容というのは、もう説明どおりに、再三再四、もう小宮議員のほうも理解されておられると思います。もうそのとおりで、この委員会にそういう説明があって審査をしてきたわけですが、瑕疵があるということで判断をされて委員会のほうに来たわけですよ。それで委員の皆様に御意見を求めたところ、全員異議なく賛成するということで判断をされて当委員会の可決ということになったわけです。

以上です。

○議長（小川　廣康君）　１２番、小宮教義君。

○議員（１２番　小宮　教義君）　もう最初から、市のほうで瑕疵だということでの回答があり、それを審議されたという話ですかね。

いろいろと捉え方がございましょうけれども、何度も申しますけれども、これは国家賠償法という、憲法でいうと日本国憲法第１７条によるものなんですよ。その中で、その瑕疵というのが明らかであるという場合のみが、この国家賠償法２条１項の分なんですね。そういうところを、やはり法的な位置づけが、これだという説明がないと、このように約３，７００万、これが瑕疵であれば、本来であれば瑕疵の保険に入っている、その総合保険で払うんですよ。でも、それが払えない、それは瑕疵がないからということで、損保のほうからも十分説明を受けておるわけですよね。そういうところの審議をしていただきたかったと思います。

以上です。答弁要りません。

○議長（小川　廣康君）　ほかにありませんか。５番、小島徳重君。

○議員（５番　小島　徳重君）　まず、この件については、一度取り下げがあった。それから、全員協議会でも協議がありました。それからまた、再提案のときに質疑もありました。その中の１点だけ確認をしたいと思います、委員長に。

市のほうが、損保ジャパンのほうと総合共済保険という名称は正確には、今ちょっと資料はありませんが保険に入っていましたね、市のほうが。その損保ジャパンのほうの問い合わせ、市長名で問い合わせたことに対して、損保ジャパンは福岡支店の課長代理名で、そして私印で回答の文書が来ましたね。今、小宮議員が言われたように、自然災害だから保険の対象にならないという文書が来たということでした。

そこで私は、この文書については損保ジャパンのほうの代表権なり執行権のある責任ある立場の人の会社印、いわゆる会社の組織としての判断となる文書が必要ではないかということでお尋ねしたら、市長のほうは、その旨、損保会社に確認をして文書を提出したい旨の回答をされました。

それで、委員長のほうにお尋ねしますが、委員会のほうにその文書が、いわゆる課長代理名ではない、会社の公印を使った文書の報告がなされたかどうか確認をしたいと思います。

○議長（小川　廣康君）　総務文教常任委員長、坂本充弘君。

○議員（１番　坂本　充弘君）　ちょっと今の、よく内容が聞き取れなかったので、すみません、もう一度お願いします。

○議長（小川　廣康君）　５番、小島徳重君。

○議員（５番　小島　徳重君）　資料提出が市のほうからあった中で、市が入っている保険の支払いについて、できますかということを市が問い合わせたら、その保険会社、損保ジャパンは課長代理名での文書で、そして課長代理の私印での文書回答しかなかったから、会社のきちんと組織の上で検討された回答だったかどうかということは、代表権なり執行権のある会社組織の返答があるべきじゃないかとそう言ったら、市長は「はい、そのような準備をするつもりです」という返答があっていました。だから、その資料が総務文教委員会に提出されたかどうかということの確認です。

○議長（小川　廣康君）　総務文教常任委員長、坂本充弘君。

○議員（１番　坂本　充弘君）　委員会には、そういう資料は提出されておりません。

○議長（小川　廣康君）　５番、小島徳重君。

○議員（５番　小島　徳重君）　そのことで、やはり市長が公言されたことですから、当然、委員会としては市のほうにその文書の提出ができないのかどうかということを確認して審査を進めるべきではなかったかと。これは、波田議員が言われた全体的な進行、そして書類の整備、提出資料の不備がなかったかどうかということを委員会としては確認すべきだったというふうに思っています。

以上です。

○議長（小川　廣康君）　ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　質疑なしと認めます。

次に、厚生常任委員長報告に対する質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　質疑なしと認めます。

次に、産業建設常任委員長報告に対する質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから、討論、採決を行います。

まず、議案第３号、令和２年度対馬市一般会計補正予算（第１５号）について討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　討論なしと認め、採決します。

この採決は起立によって行います。本件に対する各常任委員長の審査報告は、いずれも可決であります。

議案第３号、令和２年度対馬市一般会計補正予算（第１５号）は、委員長報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（小川　廣康君）　ありがとうございます。起立多数です。本件は委員長報告のとおり可決されました。

次に、議案第７号から議案第１３号までの７件は令和３年度の特別会計予算であります。

まず、議案第７号から議案第１０号までの４件について討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　討論なしと認め、採決します。

４件に対する委員長の審査報告は、いずれも可決であります。

お諮りします。議案第７号、令和３年度対馬市診療所特別会計予算、議案第８号、令和３年度対馬市国民健康保険特別会計予算、議案第９号、令和３年度対馬市後期高齢者医療特別会計予算、議案第１０号、令和３年度対馬市介護保険特別会計予算の４件は、委員長報告のとおり決定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　異議なしと認めます。４件は委員長報告のとおり可決されました。

議案第１１号、令和３年度対馬市旅客定期航路事業特別会計予算について討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　討論なしと認め、採決します。

本件に対する委員長の審査報告は可決であります。委員長報告のとおり決定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　異議なしと認めます。本件は委員長報告のとおり可決されました。

次に、議案第１２号及び議案第１３号の２件について討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　討論なしと認め、採決します。

議案第１２号、令和３年度対馬市集落排水処理施設特別会計予算、議案第１３号、令和３年度対馬市水道事業会計予算の２件に対する委員長の審査報告は、いずれも可決であります。

お諮りします。２件は委員長報告のとおり決定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　異議なしと認めます。２件は委員長報告のとおり可決されました。

次に、議案第２５号、第２次対馬市総合計画（後期計画）について討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　討論なしと認め、これから採決します。

本件に対する委員の審査報告は可決であります。委員長報告のとおり決定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　異議なしと認めます。本件は委員長報告のとおり可決されました。

暫時休憩します。再開を１１時１０分からといたします。

午前10時52分休憩

午前11時07分再開

○議長（小川　廣康君）　再開します。

次に、議案第３０号、損害賠償の額の決定について討論はありませんか。１２番、小宮教義君。

○議員（１２番　小宮　教義君）　反対であります、反対討論をさせていただきます。

○議長（小川　廣康君）　反対討論です。

○議員（１２番　小宮　教義君）　私は、本議案、第３０号に反対でありますので、反対の立場で討論をさせていただきます。

本議案は、地方自治法９６条１項１３号「法律上その義務に属する損害賠償の額を定めること。」によるものであり、文中の法律上の義務に国家賠償法を適用したものであります。

なぜ、ほかの保障などで補償しないのか。その理由は3，７６４万5，０００円の金額にあります。一般的に、自然災害によるこの建物の規模の災害補償金額は約７００万程度と考えられます。約3，０００万円の差額があります。この大きな差額3，０００万円を提示するためには、国家賠償法による算定でなければ導き出すことができないためであります。

この国家賠償法というのは、憲法１７条にうたう賠償法であり、国家賠償法として確立をされております。国家賠償法とは6条よりなり、今回の賠償は同２条によるものであります。同２条には、「設置または管理に瑕疵があったために他人に損害を生じたときは、国または公共団体は、これを賠償する」とあり、瑕疵があったときと規定をしております。

まず、瑕疵とは何か。その定義は昭和４５年の判例、瑕疵とは通常を有する安全性を欠くことが基準とされており、屋根の飛散がすぐに瑕疵につながるというものではなく、上記のごとく通

常有する安全性を欠いたときであります。

今回の小鹿漁村センター被害の概要は、昨年の９月の台風９号・１０号によるものであり、鰐浦の観測史上最大の瞬間風速４４．８メーターと４８．９メーターを記録する猛烈な台風で屋根が飛散をして隣の家に被害を与えたものであります。

本案件で、市が瑕疵があったと認める主な要因は、大きく２点であります。１点、専門家による見解書。２点、不可抗力による責任。

１点の専門家による見解書は3ページによる報告書であり、記載の内容は台風１０号の暴風雨による屋根の飛散原因のみの見解であります。瑕疵、つまり通常有する安全性を欠くことについては、１文字の記載もなされていない。この見解書だけで、どうして市が瑕疵の判断ができるのか。判断を行う資料もない中で判断ができないことは当然であり、判断基準が完全に間違っているということであります。

瑕疵の確認について、対馬市の顧問弁護士の見解は、市の協議会資料に屋根の設置、管理に瑕疵があったかどうかを専門家に依頼して明らかにしてはどうかと明記されており、弁護士の瑕疵の判断を専門家に委ねるべき指摘もしております。弁護士の発言に沿った対応はなされていない、法の番人たる弁護士の考えすら無視した市の一方的な判断では絶句に堪えない、当然違法と言えるものであります。

また、専門家の意見書による建設省告示１０９号に、たるきの金物使用の施工がされていないので構造上の瑕疵に当たると市は判断をしていますが、告示１０９号には金物の使用の規定はなく、使用しなくても問題はない。今回のように軒の出が５０センチ程度の一般的な建物は、従来どおりくぎによる施工が一般的であり、くぎで十分耐力は確保できる。私が資料として提出させていただいた３の２のページでの計算式においても、くぎ１本の保有力計算で十分な保持力は確保されており、問題とする通常有する安全性は十分に確保されており、構造耐力上の瑕疵には当たらない。市の判断は告示１０９号を逸脱した判断である。

２、不可抗力による責任でございます。市長は本案質疑で、民法７１７条、工作物の責任の条項を引き合いに出し、台風１０号で屋根が飛散したのは漁民センターだけであり、周囲の建物の屋根も同じように飛散をしたら不可抗力による自然災害と言えるが、飛散したのが漁村センターだけで不可効力とは言えないので管理責任が発生し賠償責任がある、瑕疵があるとの判断。では、台風９号のときにはどうか。小鹿漁村センターのコロニアルぶきの一部、周囲の建物の屋根の一部も同様に飛散をしている。当然、自然災害による不可抗力であり、瑕疵がなかったと判断ができるのは当然である。

１０号は９号より大きい台風であり、それによる被害は誰しもが自然災害と考えているのではないか、なぜ台風１０号のときだけが屋根が飛散をしたのか。市長は本議案提出時の質疑でも答

弁されたように、予想以上の力で、設計以上の力が働き、屋根が飛散をしたと答弁されたように、予想以上の暴風雨によるものであります。

なぜ、予想以上の力が働いたのか。それは地区の地形にあります。建物のすぐ横には山の峰が走り、隣り合わせに海岸線が入り込んでいます。複雑な地形が複雑な風を発生させ、予想以上の暴風雨で漁民センターの屋根が飛散したと考えるのが一般的常識と言える。市長の答弁どおり、予想以上の暴風雨が原因であり、自然災害での不可抗力と判断すべきである。対馬市が加入している全国町村会総合賠償補償保険の損保ジャパンは、本案件の瑕疵について、市から専門家の意見書の提示を受け回答、損害賠償の適用はない理由を次にように説明をしておられます。内容でございます。

自然現象のタイプの事故は、そのような危険な予測ができたかどうかが問題であり、通常予測することができない自然災害によって発生した場合は、不可抗力として賠償責任は発生しないと断言をしている。保険会社が瑕疵がないので支払えないといっているのにもかかわらず、なぜ市が市民の血税で支払わなければならないのか。市も保険会社の意見を真摯に受け止めるべきである。

今回の補償は相手加入の保険金で建物を修復していただき、市としてできることは見舞金などの対応が本来の台風などの対策ではないのか。国家賠償法にうたう瑕疵が担保されていない補償は違法的行為であること、日本国憲法第１７条に反する。私ども議会は、市民から負託を受けております。行政のチェック機関であります。追認機関ではございません。市民の負託を受けた者としてチェック機能を果たすのが議会の責務であります。

以上、反対討論とさせていただきました。

○議長（小川　廣康君）　次に、賛成討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　ほかに討論はありませんか。賛成、反対ですか、反対討論。１１番、波田政和君。

○議員（１１番　波田　政和君）　私は、議案第３０号、小鹿建物被害の損害賠償について、次の理由によりまして、反対の立場での討論をさせていただきます。

まずもって、私は、このたび本市に多くの被害をもたらした台風９号・１０号により被害に遭われました全ての市民の皆様に対し、この場をお借りし、改めて深くお見舞いを申し上げます。

また、今回上程されています小鹿漁民センター屋根飛散災害により被害を受けられました住民の方に対しましては、私の個人的な感情や差別的な考えではなく、あくまでも法律の平等性・公平性から発言することを最初に申し上げた上で討論をさせていただきます。

このたびの台風９号及び１０号の影響により、被害については河川の氾濫や大雨による家屋・

水田等の水没、強風による破損、農作物の災害など、島内各地において多大なる被害が発生しており、被害に遭われた住民のほとんどは自力による再建に奮闘され、今日まで苦しんでこられたことと存じます。

そのような背景の中、今回私は、この予算案で示されております小鹿建物被害の損害賠償について、次のとおり問題点を３つ上げ、反対の立場から討論をさせていただきます。

まず１点目は、客観的な法律の考え方でありますが、本市が、先ほども説明があっておりました全国町村会総合賠償補償保険について保険の査定官、――担当した人のことですね、――回答によると、自然現象のタイプの事故では今回のような危険を予測できたかどうかが問題となり、通常予測することができない自然力によって事故が発生した場合は、不可抗力として損害賠償が発生しない。なお、法律事案があった場合でも、直ちに安全性を欠き、他人に害を及ぼす危険性がある状態とは言えないとされております。

このような公の機関からの回答がなされているにもかかわらず、本市が独断で過失を認め、賠償に応じることは、本当に妥当な判断であるか。また、今回の報告書には上級官庁である国や県の機関への相談の有無、また、その結果はどうなったのかなど、全く示されておりません。

また、全国的に、今回の事案のように同種の国家賠償をした事例があるかなど報告がなされておらず、これで市民の皆様に納得していただけるかどうかが疑問に思うところであります。今回お話しさせていただきたいのは、参考事例なんかを出して、皆さんに、もう少し分かりやすく説明してほしかったということでございます。

次に２点目でありますが、今後同様の事案が発生した場合、本市の対応であります。皆さんも御承知のとおりでありますが、民法第７１７条、――先ほどの説明に重複します。――「被害に対してその損害を賠償する責任を負う」と、先ほどの説明と重複しますから省略します。「ただし、占有者が損害の発生を防止するのに必要な注意をしたときは、所有者がその損害を賠償しなければならない」とあります。この法律では、土地の工作物、すなわち建物などの設置または保存に瑕疵があった場合に損害賠償を負うものとしています。

ここでいう瑕疵とは、通常備えるべき性質や設備が欠けていることを言います。つまり安全性に問題があるような状況のことでございます。また重複しましたけど。しかしながら、この地区において、過去幾つかの台風に見舞われましたが、今回のような事案は発生しておらず、そのことから行政も今回の被害を予見できなかったわけですから不可抗力とも考えられます。仮に、被害者側が漁村センターの存在に瑕疵があったという場合は、被害者が過失を立証する責任があります。

しかしながら、本市は、今後このような自然災害で発生した被害に対して、個別の事案ごとに本市の負担で調査を行い、瑕疵があれば全て補償できるのか、また、今回の事案の結果次第では、

将来本市は財政に多大なる影響を与えかねません。

それと今回、本市が対馬市側に過失があったと、被害が生じたと報告されていますが、もしそうであれば、行政側は誰が責任を取るのでしょうか、責任の所在さえ明らかにされておりません。私は、今回のように責任の所在を明らかにしない限り、今後同じことが繰り返されることを懸念しております。これ以上、市民に御負担をおかけすることができない、また、このような事案が二度と発生しないようにするためにも早急に対策を打ち出すべきであると強く要望しておきます。

次に３点目でありますが、平等性、公平性の観点から考えた場合であります。

今回、本市が調査を依頼しました小鹿漁民センター屋根飛散調査についてでありますが、平等性の観点から考えても、１業者のみならず多くの専門家へ調査依頼を行い、様々な角度から見解を出していただくことが重要ではなかったのか。また、本市単独の判断ではなく、被害発生後すぐにでも専門的分野による第三者委員会などを設置し、幅広く活発な意見交換を経た上で結論を出すことができなかったのか。

以上のことから、今回の本市の動きを見ますとあまりにも先走ったのではないのかと私は言わざるを得ません。市民の貴重な財源を投入する重大な事案であり、平等性、公平性の担保が必要とされる観点からも幅広く専門家へ再調査を依頼し、第三者委員会の設置を行い、今回の事案に対する再検証を行うべきであると考えております。

最後になりますが、この台風９号・１０号による被害では多くの対馬市民の皆様が御苦労され、自力での再建を余儀なくされております。一般論として、台風による災害を受けた場合、誰からも補償してもらえないことから、災害時に備え、自分の身は自分で守る保険の基本理念から、自身が所有する不動産や動産に保険を掛けることが一般的な考え方であり、また同時に多くの市民もそのように感じていると思います。

また同時に、今回の事案に対して公の機関である全国町村会総合賠償保険が今回の被害に対する補償は応じられないと結論を出しているさなか、それも対馬市が自身で瑕疵を認め補償に踏み切ることとするならば、この補償に対して疑念を持たれている多くの市民の皆様の感情を払拭していただけるか、もう少し説明や根拠が必要であると考えております。

また、我々議会人としても、今後、市民の皆様から今回の事案に対する御指摘や御指導を受ける立場にありますが、そのようなことからも私は今回の事案に関して慎重かつ幅広く議論をすべきであると考えます。

最後に、まとめとしまして、この案件は後世に残る問題であることから、素人判断ではリスクが高いことから、専門家での第三者委員会を立ち上げ、公正公平な判断をいただき対処していただけることを申し添え、今回は誠に残念でございますが、本議案第３０号に同意できないことを申し上げ、反対討論とするとともに、議員各位、公正公平な御判断と多くの市民の皆様の御理解

いただけますようお願い申し上げ、私の反対討論とさせていただきます。

○議長（小川　廣康君）　ほかに討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　討論なしと認め、これで討論を終結します。

これから採決します。この採決は起立によって行います。

本件に対する委員長の審査報告は可決であります。

議案第３０号、損害賠償の額の決定について、委員長報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（小川　廣康君）　起立多数です。本件は委員長報告のとおり可決されました。

次に、議案第３１号権利の放棄について、討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　討論なしと認め、これから採決します。

本件に対する委員長の審査報告は可決であります。委員長報告のとおり決定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　異議なしと認めます。本件は、委員長報告のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第１３．議案第３２号

○議長（小川　廣康君）　日程第１３、議案第３２号、令和３年度対馬市一般会計補正予算（第１号）を議題とします。

提案理由の説明を求めます。総務部長、有江正光君。

○総務部長（有江　正光君）　ただいま議題となりました議案第３２号、令和３年度対馬市一般会計補正予算（第１号）について、その提案理由と内容を御説明申し上げます。

このたびの補正は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、県下全域に特別警戒警報が発令されたことに伴って、事業活動に大きな影響を受けた市内事業者等に対する一時支援金を計上するものでございます。

予算書３ページをお願いいたします。

令和３年度対馬市一般会計補正予算（第１号）は、次に定めるところによることを規定し、第１条第１項、歳入歳出予算の補正は、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ２億３２０万７，０００円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ３０９億９，１２０万７，０００円とするものでございます。

第２項、歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、４ページから５ページにかけての「第１表歳入歳出予算補正」によるとするものでございます。

次に、歳入歳出補正予算の内容について御説明いたします。

８ページをお願いいたします。

まず、歳入でございますが、１５款国庫支出金２項国庫補助金は、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を総額で１億３，１１４万２，０００円計上しております。

１６款県支出金２項県補助金は、事業継続支援給付事業補助金を総額７，２０６万５，０００円計上しております。

続きまして、歳出について御説明いたします。

１０ページをお願いいたします。

６款農林水産業費でございますが、１項農業費は、農業者への支援とその給付に係る事務費を合わせまして５３０万円を、２項林業費は、林業者への支援とその給付に係る事務費を合わせまして９３８万４，０００円を、３項水産業費は、水産業者への支援金とその給付に係る事務費を合わせまして１億７３３万４，０００円を計上しております。

１２ページをお願いいたします。

商工業者等への支援金とその給付に係る事務費及び雇用調整助成金の申請などに係る雇用維持アドバイザー事業費を合わせまして８，１１８万９，０００円を計上しております。

なお、事業の内容につきましては、タブレットに掲載しております別途参考資料により、この後、担当部長から説明を行います。

また、１４ページ、１５ページに補正予算給与費明細書を添えてございますので、御参照方よろしくお願いします。

以上、簡単ではございますが、提案理由の説明を終わります。御審議の上、御決定賜りますようお願いいたします。

○議長（小川　廣康君）　観光交流商工部長、二宮照幸君。

○観光交流商工部長（二宮　照幸君）　ただいま総務部長から提案説明がありました議案第３２号、対馬市一般会計補正予算（第１号）のうち、観光交流商工部関係予算について、その内容を御説明申し上げます。

参考資料の１ページを御参照ください。

農林水産・商工業者等一時支援金給付事業につきましては、第３波の新型コロナウイルス感染症拡大を防止するために行った県下全域への特別警戒警報発令に伴い、１月２０日から２月７日までの間、営業時間短縮要請に応じた飲食店等と直接・間接の取引があり影響を受けている事業

者様あるいは不要不急の外出・移動自粛により直接的に影響を受けている事業者様に対し、要件に応じて１０万円または２０万円の支援、さらに業種による追加支援をしようとするものでございます。

まず初めに、骨格となる部分について御説明申し上げます。

参考資料、対象者の項の要件A及び支援金額の項、要件Aの②を御参照ください。対象となる事業者の要件としましては、先ほど申しました時短要請や外出・移動自粛により影響を受けた事業者のうち、令和３年１月または２月の売上高が対前年比５０％以上減少しており、営業時間短縮協力金を受給していない等の要件を設けており、一時支援金として１事業者当たり２０万円を支給しようとするものでございます。この部分が骨格となる部分で、長崎県の事業継続支援給付事業補助金、補助率２分の１の支援を頂き実施しようとするものでございます。

しかしながら、特別警戒宣言を受け、市内事業者への影響は大きなものであるにもかかわらず、県の指定した条件である対前年比、あるいは対前々年比減少率が５０％に満たない事業者は対象外となりますので、市の独自での支援策として支援対象事業者を拡大し、資料の支援金額要件A①記載のとおり、減少率２０％から５０％未満の事業者につきましては、１事業者当たり１０万円を支給しようとするものでございます。

さらに、資料の要件B記載部分になりますが、ＧｏＴｏトラベルやしま旅促進事業の一時休止等により、宿泊及び交通関係事業者への影響が大きいため、さらなる追加支援として、宿泊事業者においては客室１部屋当たり３万円を、レンタカー、タクシー、貸切りバスなどの交通事業者においては１台当たり２万円を支給しようとするものでございます。

追加支援金の要件につきましては、県との連携事業である時短要請協力金と一時支援金については重複しての受給はできないこととなっていますので、全ての要件に該当したとしても、受給した、あるいは受給する金額を差し引いて計算することとしております。

また、商工事業者等の要件として令和２年１０月から１２月の平均売上げが１０万円以上のものとしておりますが、この事業はいわゆる第３波の感染拡大により時短要請や緊急事態宣言発令等による外出・移動自粛により大きな影響を受けた事業者に対し減収分の一部を支援するものであるため、影響が出る前の一定以上の売上額を条件にさせていただいております。

予算額の積上げにつきましては、これまでに実施してきた商工業者等緊急支援補助金及び観光業新型コロナ対策協力金等の実績から推測し、支援金対象者３０４事業者、宿泊交通事業者への加算１０５事業者を見込んでおり、支給総額を７，８５５万円計上させていただいております。

なお、議案可決後、事業者等に対する周知を市報、ケーブルテレビ、文書等で行う予定で、申請期間を令和３年４月１日以降から５月末日までを予定しているところでございます。

続きまして、参考資料２ページを御参照ください。

雇用維持アドバイザー事業につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、雇用調整助成金や休業支援金給付金の申請を検討されている事業所等に申請手続の助言を行うアドバイザーとして社会保険労務士を市の委託事業として派遣し、申請に必要な書類整備や作成に関するアドバイスをし、制度の活用を推進しようとするものでございます。

雇用調整助成金や休業支援金給付金の申請には、労使間の協定等に関する書類の整備や制度の理解不足等により、申請に戸惑っておられる事業者もいらっしゃることから、派遣の要望がある事業者に対し、１事業所３回までを限度として無料で派遣するものです。支援期間は令和３年４月から９月を予定をしております。

以上で、観光交流商工部関係の説明を終わります。

○議長（小川　廣康君）　農林水産部長、佐々木雅仁君。

○農林水産部長（佐々木雅仁君）　引き続き、農林水産・商工業者等一時支援金給付事業の農林水産部関係予算について、その内容を御説明申し上げます。

補正予算参考資料の１ページをお願いいたします。

事業の目的につきましては、ただいま観光交流商工部長が説明いたしましたので、省略させていただきます。

本支援金の農林水産業関係の対象者につきましては、令和２年１月または２月の売上高、漁獲高が１０万円以上で、令和３年１月または２月の売上高、漁獲高が前年同月と比較して減少率が２０％以上５０％未満の者に対し１０万円、減少率が５０％以上の者に対し２０万円を支給しようとするものでございます。

次に、業種ごとの内容ついて御説明いたします。

農業者関係につきましては、体験民宿等１３件分と認定農業者１４名分、林業者関係については木材業・製材業登録事業者４６件分、水産業関係につきましては漁協正組合員・準組合員及び真珠組合員合わせて６３３名分を見込んでおります。

以上で、農林水産部関係の説明を終わります。

○議長（小川　廣康君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

本件は委員会への付託を省略したいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　異議なしと認めます。本件は委員会への付託を省略することに決定しました。

これから、討論、採決を行います。

議案第３２号、令和３年度対馬市一般会計補正予算（第１号）について討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　討論なしと認め、採決します。

本件は原案のとおり決定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　異議なしと認めます。本件は原案のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第１４．発委第１号

○議長（小川　廣康君）　日程第１４、発委第１号、対馬市議会会議規則の一部を改正する規則についてを議題とします。

提出者の趣旨説明を求めます。議会運営委員長、春田新一君。

○議員（４番　春田　新一君）　ただいま議題となりました発委第１号、対馬市議会会議規則の一部を改正する規則について提案理由を説明いたします。

本案は、女性をはじめとする多様な人材の市議会への参画を促進する環境整備を図る観点から、住民が議員として活動するに当たっての制約要因の解消に資するため、本会議や委員会への欠席事由として育児・看護・介護等を明文化するとともに、出産について産前・産後期間にも配慮した規定の整備を図ったほか、行政手続等において原則として押印を廃止する政府の政策動向を踏まえ、市議会に対する請願に係る署名、押印の見直しを行った標準市議会会議規則の一部改正に伴い、対馬市議会会議規則中、第２条、会議への欠席に関する規定、第９１条、委員会への欠席に関する規定及び第１３９条、請願書の記載事項等に関する規定の改正を行おうとするものであります。

改正部分につきましては、配付の新旧対照表を御参照ください。

なお、附則で、この規則は、公布の日から施行すると定めております。

以上が発委第１号の提案理由の説明でございます。御審議の上、御決定いただきますようよろしくお願いをいたします。

○議長（小川　廣康君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

お諮りします。本件は委員会への付託を省略したいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　異議なしと認めます。本件は委員会への付託を省略することに決定いたしました。

これから、発委第１号、対馬市議会会議規則の一部を改正する規則について討論、採決を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　討論なしと認め、採決します。本件は原案のとおり決定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　異議なしと認めます。本件は原案のとおり可決されました。

お諮りします。若干１２時を過ぎますけど、このまま続行してよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　それからもう一件、全協を予定しておりますけど、報告だけですので、時間があまりかからないと思いますが、引き続き全協も続行したいと思いますが、よろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　お諮りします。本会議における議決の結果、条項、字句、数字、その他において整理を要するものがある場合、その整理権を会議規則第４３条の規定によって、議長に委任願います。御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小川　廣康君）　異議なしと認めます。したがって、整理権は議長に委任することに決定しました。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

○議長（小川　廣康君）　以上で、本日の議事日程は全て終了しました。

市長から挨拶の申出があっておりますので、これを受けます。市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　第１回対馬市議会定例会の閉会に当たり、一言御挨拶申し上げます。

今定例会の行政報告で御説明しておりました新型コロナウイルスワクチン接種についてでございます。

本市におけるワクチン接種体制につきましては、対馬病院、上対馬病院、民間医院及び市営診療所などの医療機関での個別接種を基本とし、高齢者施設等に入所されている方には巡回接種を、また、医療機関までの移動手段をお持ちでない方には集団接種という３つの接種方法を予定しております。巡回接種、集団接種については、入所施設や各地域まで医師、看護師が出向き対応いたします。

接種を希望される市民の皆様に迅速かつ適切に実施できるよう、現在６５歳以上の高齢者の皆様への意向調査を実施しており、この調査結果を基に接種会場及び規模等の調整を進めてまいります。

なお、６５歳以上の高齢者の皆様への接種開始は５月以降になる見込みでございます。

次に、延期しております令和３年対馬市成人式でございますが、５月２日の開催に向けて、現在、準備作業を進めているところでございます。議員の皆様には御多忙のこととは存じますが、御出席いただき、新成人の門出をお祝いいただきますようお願いいたします。

次に、市営林の計画的な整備や、市営林と周辺の民有林を集約化し、効率的な整備を行うことを目的として、対馬森林組合と市営林の森林経営委託について協議を進めております。これにより市営林の整備が促進され、木材の安定供給、持続可能な森林経営、資源活用及び雇用の拡大を推進してまいります。

なお、詳細につきましては、本定例会終了後、時間をいただき、担当部から御説明いたします。

本定例会におきましては、２月２５日から２０日間にわたり慎重に御審議いただき、御提案申し上げました全ての議案について御決定賜り、厚くお礼申し上げます。本定例会で議決いただきました案件につきましては、市民皆様の生活と福祉の向上ため、適正な事務処理に努め、速やかに対処してまいりたいと存じます。

さて、議員皆様の任期も残すところ２か月余りとなり、市議会議員選挙日程も過日の選挙管理委員会におきまして、５月１６日と決定されております。今任期を最後に御勇退される議員におかれましては、対馬市の振興に御尽力賜り、誠にありがとうございました。今後におかれましても、健康に十分留意され、今まで同様、対馬市の発展のため、御指導御鞭撻賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、議員皆様をはじめ、市民皆様方の御健勝とますますの御活躍を祈念申し上げまして、閉会の挨拶といたします。ありがとうございました。

○議長（小川　廣康君）　閉会に当たり、一言御挨拶申し上げます。

令和３年第１回定例会は、議案全般にわたり熱心に御審議いただきまして、ここに滞りなく閉会の運びとなりました。議員各位はもとより、市長以下、市幹部の方々の協力に対し、心からお礼を申し上げます。審議の中で出ました貴重な意見や指摘事項等につきましては、今後の行政運営に生かされることを期待いたします。

また、この３月で退職される職員の皆さん、長い間、市行政に貢献いただき、心から感謝申し上げます。なお、退職後も市政運営に御協力いただきますようよろしくお願いを申し上げる次第でございます。我々議員も５月いっぱいが任期となっておりますが、残り２か月間、しっかり頑張ってまいりたいと思っております。

最後になりましたが、皆様方の御健勝と御多幸を祈念し、閉会の挨拶といたします。

会議を閉じます。これをもちまして、令和３年第１回対馬市議会定例会を閉会いたします。お疲れさまでした。

午後０時00分閉会

会議の経過を記載して、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

議　　長　小川　廣康

署名議員　齋藤　久光

署名議員　初村　久藏